

横浜市高齢者実態調査

報告書

平成 29 年 3 月



横浜市健康福祉局

はじめに

横浜市では、高齢者に関する保健福祉事業や介護保険制度の円滑な実施に関する総合的な計画として、平成 27 年 3 月に「第 6 期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（計画期間：平成 27 年度～29 年度）」を策定し、高齢者の保健福祉等の充実に取り組んでいます。この計画は 3 年ごとに見直すこととされているため、平成 29 年度に振り返りを行い、平成 30 年度から 32 年度を計画期間とする第 7 期計画を策定します。

そこで、計画の見直しにあたり、高齢者の生活実態や、介護サービス利用者の利用状況・利用意向、介護サービス事業所・介護施設等の運営状況、介護従事者の現状や意識など、次期計画を策定するための基礎的な資料を得るために、平成 28 年度に「横浜市高齢者実態調査」を実施しました。

この報告書は、「横浜市高齢者実態調査」のうち、調査の単純集計の結果、前回調査（平成 25 年度実施）との比較や、各種調査のクロス集計結果等をまとめたものです。今後、この調査結果を踏まえ、第 7 期計画の策定に向けて、本市の高齢者福祉の課題を解決するための施策を検討します。

最後になりましたが、今回の調査の実施にご協力いただきました市民の皆様をはじめ、介護事業所及び介護従事者の皆様に心から感謝を申し上げます。

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査の種類及び対象者数	1
4. 調査の実施状況	2
II. 調査結果の概要	9
1. 回答者の属性について	9
(1) 年齢構成	9
(2) 世帯構成	11
(3) 対象者の所在（居住区）	14
(4) 健康状態、要介護度	15
(5) 区内居住年数	17
(6) 事業所の提供サービスの種類	18
(7) 事業所の担い手の職種	20
2. 介護	21
(1) 要介護状態の原因	21
(2) 要介護高齢者の利用サービス	23
① サービス利用状況	23
② 要介護者が利用できなかった介護サービス	25
(3) 24時間対応型の介護サービスの提供	27
① 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	27
② 小規模多機能型居宅介護	40
③ 看護小規模多機能型居宅介護	49
④ 居宅介護支援事業所	52
(4) 介護者による介護	53
① 主な介護者	53
② 介護者の年齢・健康状態	54
③ 一日当たりの介護時間	60
(5) 介護負担	62
① 介護負担感	62
② 不安に感じる介護	66
(6) 仕事と介護の両立	69
① 主に介護をしている人の就労状況	69
② 主に介護をしている人の働き方の調整	71
③ 勤務先からの支援	72
④ 介護継続の見込み	73
⑤ 介護離職・転職の状況	74
(7) 軽度者への在宅サービス提供	75

(8) 介護サービス未利用者の状況（平成 28 年 8 月にサービス利用がない方）	78
① 未利用者の状況と理由	78
② 不安に感じること・介護負担感	80
(9) 介護保険料の負担感、介護保険サービスと保険料の関係	82
① 介護保険料の負担感	82
② 介護サービスと保険料の関係について	83
(10) 介護従事者の確保と担い手の育成	85
① 職場の取組状況・評価	85
② 処遇改善加算状況	87
③ 待遇面の要望	90
④ 賃金・労働時間・やりがい	92
(11) 事業所の状況	95
① 介護サービス事業所	95
② 居宅介護支援事業所	96
③ 他の介護サービス事業所との連携状況	98
④ 地域ケアプラザ等	99
(12) 従事者（ケアマネジャー）の状況	102
3. 医療	104
(1) 医療ニーズへの対応	104
① 通院・往診状況	104
② 通院の診療科目	104
③ 往診の内容	105
(2) 医療と介護の連携	106
① 医療機関等からの情報収集	106
② 医療機関との連携で困ること	107
③ 在宅医療連携拠点の認知・利用状況	108
④ 介護サービス事業所と医療機関の連携状況	111
(3) 在宅での延命・看取りについて	112
(4) 医療系サービス利用	114
4. 介護予防	115
(1) 積極的な取組の意識について	115
① 介護予防への取組状況	115
② 介護予防分布	116
③ 健康・介護予防の取組	119
(2) 介護予防必要者層の生活実態	125
① 介護予防必要者層の普段の過ごし方	125
② 介護予防必要者層の近所づきあい	126
③ 介護予防必要者層の外出実態	128

④ 介護予防必要者層の主観的健康観	131
5. 生活支援	132
(1) 日常生活支援の必要性	132
① 要支援者の世帯状況と本人の年齢	132
② 要介護者の世帯状況と本人の年齢	132
(2) ちょっとした困りごとへの簡易なサポート	133
(3) 介護保険以外のサービス	138
① 介護保険以外に必要な活動やサービス（利用者）	138
② 介護保険以外に必要な活動やサービス（事業所）	142
③ 保険外サービスのケアプランへの組み込み状況	144
④ 情報収集の状況	145
6. 施設・住まい	146
(1) 介護サービスの利用と住まいについて	146
① 介護サービスの利用と住まい	146
② 在宅生活維持のために必要なサービス	153
③ 施設利用について	155
(2) 特養申込者の状況	156
① 申し込み理由	156
② 入所希望時期とその理由	157
③ 他施設の利用意向	162
④ 特養に代わるものとならない理由	165
(3) 医療処置について	168
① 医療処置人数	168
② 特別養護老人ホームにおける医療処置必要者受け入れについて	170
③ 介護老人保健施設における医療処置必要者受け入れについて	171
④ 居住系事業所における医療処置必要者受け入れについて	172
(4) サービスの質の向上	176
① 事業所における取組	176
② 介護事業所との連携状況	177
③ 看取りについて	178
(5) その他	180
① 在宅復帰・在宅支援促進の取組	180
② サービス付き高齢者向け住宅	182
7. 認知症等	184
(1) 予防の普及啓発	184
① 認知症への関心	184
② 事業所等における認知症ケアの取組	195
(2) 認知症の医療介護連携	196

(3) 認知機能障害区分	197
(4) 不安を感じる介護	198
(5) 認知症の方の心配事・悩み	201
(6) 権利擁護（成年後見制度）について	204
8. 高齢者の社会参加	208
(1) 地域活動への参加	208
① 近所や町内会における行動	208
② 地域活動への参加状況	210
③ 地域にあるとよい活動・機会	214
(2) 就労について	219
① 就労の希望	219
② 働く上で重視すること	221

I. 調査の概要

1. 調査目的

本市では、高齢者に関する保健福祉事業や介護保険制度の円滑な実施に関する総合的な計画として、平成27年3月に「第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（計画期間：平成27年度～29年度）」を策定し、高齢者の保健福祉等の充実に取り組んでいます。この計画は3年ごとに見直すこととされているため、平成29年度に振り返りを行い、平成30年度から32年度を計画期間とする第7期計画を策定します。

計画の見直しにあたり、高齢者の生活実態や、介護サービス利用者の利用状況・利用意向、介護サービス事業所・介護施設等の運営状況、介護従事者の現状や意識など、次期計画を策定するための基礎的な資料を得るために、高齢者実態調査を実施しました。

2. 調査期間

平成28年11月～平成28年12月

3. 調査の種類及び対象者数

調査分類	対象者数	調査票分類	回収状況
市民向け調査	19,142人	1 高齢者一般調査(65歳以上) 2 一般調査(55歳以上64歳以下) 3 介護保険在宅サービス利用者調査(要支援) 4 介護保険在宅サービス利用者調査(要介護) 5 介護保険サービス未利用者調査(要支援・要介護) 6 小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護利用者調査 7 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 利用者調査 8 特別養護老人ホーム入所申込者調査	9,524人 (回収率) 49.8%
事業所向け調査	5,170か所	9 特別養護老人ホーム調査 10 介護老人保健施設調査 11 介護サービス事業所(居住系)調査 (特定施設、認知症高齢者グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム) 12 介護サービス事業所調査 ※居住系サービス除く (訪問介護事業所調査、通所介護事業所調査含む) 13 居宅介護支援事業所調査 14 地域ケアプラザ等調査	3,183か所 (回収率) 61.6%
従事者向け調査	5,998人	15 ケアマネジャー調査 16 訪問介護員(ヘルパー)調査 17 施設介護職員(ケアワーカー)調査	3,700人 (回収率) 61.7%

4. 調査の実施状況

【市民向け調査】

調査の種類	調査対象	調査目的	回収状況	調査時期	調査内容
1 健康や介護 についての アンケート (高齢者一 般調査) 【標本調査】	65歳以上 の市民 (4,000人)	第7期計画の基本 資料として、平成25 年度に実施した高齢 者一般調査を基本 に経年変化を調査す るとともに、新たな課 題を踏まえた新規項 目を追加し、本市高 齢者の全体像を把 握する。	2,216人 (回収率) 55.4%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本属性 ・ 住まいの状況 ・ 日常生活、身体の状況 ・ 健康づくり、介護予防の状況 ・ 社会参加、就労等の状況 ・ 地域活動の状況 ・ 終末期に関する意識 ・ 介護保険に対する意識 ・ 介護保険料 等
2 健康や介護 についての アンケート (一般調査) 【標本調査】	55～64歳 の市民 (3,000人)		1,362人 (回収率) 45.4%	28年 11月	
3 介護保険在 宅サービス 利用者調査 (要支援) 【標本調査】	介護予防サ ービス・地 域密着型介 護予防サー ビス利用者 (1,000人)	要支援認定者を 対象に、介護予防サ ービス(地域密着型 介護予防サー ビスを含む。)の利用状 況、利用意向等を把 握し、今後の介護予 防サービスのサー ビス利用量の推計に 活用する。	577人 (回収率) 57.7%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本属性 ・ 住まいの状況 ・ 身体状況 ・ 日中・夜間の介護状況 ・ 介護者の状況 ・ 介護予防サービスの利用 状況、課題 ・ 介護(予防)サービスの利用 意向 ・ 介護保険以外のサービス の利用状況 ・ 主な介護者による介護状況 (頻度、介護の内容) ・ 主な介護者の状況(介護離職 者の有無、勤務形態、勤務制 度の利用状況、仕事と介護の 両立に効果的な支援策、仕事 と両立する意欲、相談相手 等) ・ 介護保険に対する意識 ・ 介護保険料 等

調査の種類	調査対象	調査目的	回収状況	調査時期	調査内容
4 介護保険在宅サービス利用者調査(要介護) 【標本調査】	在宅サービス・地域密着型サービス利用者 (4,000人)	要介護認定者を対象に、在宅系サービスの利用状況・意向等を把握し、今後の在宅系サービス利用量の推計に活用する。	1,934人 (回収率) 48.4%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいの状況 ・身体状況 ・日中・夜間の介護状況 ・介護者の状況 ・介護サービスの利用状況、課題 ・介護サービスの利用意向 ・介護保険以外のサービスの利用状況 ・主な介護者による介護状況(頻度、介護の内容) ・主な介護者の状況(介護離職者の有無、勤務形態、勤務制度の利用状況、仕事と介護の両立に効果的な支援策、仕事と両立する意欲、相談相手等) ・介護保険に対する意識 ・介護保険料 等
5 介護保険サービス未利用者調査 【標本調査】	要介護(要支援)認定者で介護保険サービスを全く利用していない方 (2,000人)	介護サービスを利用しない理由を把握し、今後の介護サービス利用の意向等を見込む。	981人 (回収率) 49.1%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいの状況 ・身体状況 ・日中・夜間の介護状況 ・介護者の状況 ・介護サービス利用上の課題 ・介護サービスの利用意向 ・介護保険以外のサービスの利用状況 ・主な介護者による介護状況(頻度、介護の内容) ・主な介護者の状況(介護離職者の有無、勤務形態、勤務制度の利用状況、仕事と介護の両立に効果的な支援策、仕事と両立する意欲、相談相手等) ・介護保険に対する意識 ・介護保険料 等

調査の種類	調査対象	調査目的	回収状況	調査時期	調査内容
6 小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護利用者調査 【標本調査】	小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護の利用者 (1,100人)	小規模多機能型居宅介護及び看護小規模多機能型居宅介護(以下、小規模多機能等という。)を利用して、小規模多機能等の利用状況・意向等を把握し、今後の小規模多機能等の利用量の推計に活用する。	496人 (回収率) 45.1%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・以前利用していた介護保険サービス ・小規模多機能等の利用のきっかけ、良い点 ・小規模多機能等の利用状況 ・小規模多機能等の利用意向 ・サービス利用料に対する意識 ・主な介護者による介護状況 ・主な介護者の状況 等
7 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所利用者調査 【全数調査】	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の利用者 (542人)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所を利用している方について、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの利用状況・意向等を把握し、今後の定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス利用量の推計に活用する。	205人 (回収率) 37.8%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・以前利用していた介護サービス ・定期巡回の利用のきっかけ、良い点 ・定期巡回の利用状況 ・定期巡回の利用意向 ・サービス利用料に対する意識 ・主な介護者による介護状況 ・主な介護者の状況 等
8 特別養護老人ホーム入所申込者調査 【標本調査】	特別養護老人ホーム入所申込者 (3,500人)	特別養護老人ホームに入所申込みをしている方について、心身の状況や介護力、入所希望理由等を把握し、今後の特別養護老人ホーム整備の必要量を見込む上での参考とする。	1,753人 (回収率) 50.1%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・住まいの状況 ・身体状況 ・日中・夜間の介護状況 ・介護者の状況 ・入所申込の理由 ・入退所指針への評価 ・高齢者施設・住まいの相談センターの利用意向 ・在宅生活や他のサービスでの代替性 ・介護サービスの利用状況、課題 ・主な介護者による介護状況 ・主な介護者の状況 ・介護保険制度に対する意識 ・介護保険料 等

【事業所向け調査】

調査の種類	調査対象	調査目的	回収状況	調査時期	調査内容
9 特別養護老人ホーム調査 【全数調査】	特別養護老人ホーム (148か所)	介護保険施設の運営状況を調査し、入所者の状況や在宅復帰の可能性、サービスの質の確保・評価、人材確保等について現状を把握し、施設間の機能分担のあるべき姿と現実のギャップ、利用者が求めるサービス等について検討する。	120か所 (回収率) 81.1%	28年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・事業者の概要 ・入所者の状況 ・退所者の状況 ・医療的ケアの必要な人への対応状況 ・入退所指針見直しの効果 ・利用者からの要望への対応サービスの質の向上のための取組状況 ・職員の採用状況（人材派遣会社等の利用実態） ・福祉・保健・医療との連携関係 ・人材の定着促進のために実施している方策 ・介護職員処遇改善加算の届出状況 ・施設整備の方向性 等
10 介護老人保健施設調査 【全数調査】	介護老人保健施設 (83か所)	介護老人保健施設（有料老人ホーム、ケアハウス）及び認知症高齢者グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅の運営状況を調査し、入居者の状況、サービスの質の確保・評価、人材確保等についての現状を把握し、利用者が求めるサービス等について検討する。	61か所 (回収率) 73.5%	28年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・事業者の概要 ・入居者の状況 ・退居者の状況 ・医療的ケアの必要な人への対応状況 ・利用者からの要望への対応サービスの質の向上のための取組状況 ・職員の採用状況（人材派遣会社等の利用実態） ・福祉・保健・医療との連携関係 ・人材の定着促進のために実施している方策 ・介護職員処遇改善加算の届出状況 ・施設整備の方向性 等
11 介護サービス事業所（居住系）調査 【全数調査】	特定施設 (158か所) 認知症高齢者グループホーム (301か所) サービス付き高齢者向け住宅 (83か所) 有料老人ホーム (住宅型 82か所)	特定施設（有料老人ホーム、ケアハウス）及び認知症高齢者グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅の運営状況を調査し、入居者の状況、サービスの質の確保・評価、人材確保等についての現状を把握し、利用者が求めるサービス等について検討する。 併せて、療養病床転換に伴い退院を余儀なくされる医療区分の低い利用者の受入可能性も調査する。	468か所 (回収率) 75.0%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・事業者の概要 ・入居者の状況 ・退居者の状況 ・医療的ケアの必要な人への対応状況 ・利用者からの要望への対応サービスの質の向上のための取組状況 ・職員の採用状況（人材派遣会社等の利用実態） ・福祉・保健・医療との連携関係 ・人材の定着促進のために実施している方策 ・介護職員処遇改善加算の届出状況 等

調査の種類	調査対象	調査目的	回収状況	調査時期	調査内容
12 介護サービス事業所調査 【全数調査】 ※居住系サービス除く	在宅サービス事業所 (3,239か所) ※居宅療養管理指導、福祉用具貸与、福祉用具販売単独事業所を除く。	在宅サービス事業所の運営状況を調査し、利用者の状況、サービスの質の確保・評価、人材確保等について現状を把握し、今後の在宅サービス供給量を推計する上で参考とする。	1,700か所 (回収率) 52.5%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の概要 ・サービスの質向上のための取組状況 ・介護保険以外のサービスの実施意向 ・人材の定着促進のために実施している方策 ・福祉・保健・医療との連携関係 ・介護職員処遇改善加算の届出状況 ・総合事業の実態把握（サービス提供時間、職員数、今後の提供サービスの意向、給与 等）等
13 居宅介護支援事業所調査 【全数調査】	居宅介護支援事業所 (937か所)	要介護者の在宅サービス利用調整状況を調査し、利用者の状況、サービスの質の確保・評価、各種サービス利用についての考え方等現状を把握し、質の高いケアマネジメントを実現する上での参考とする。	713か所 (回収率) 76.1%	28年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所（者）の概要 ・利用者の状況 ・苦情対応、サービスの質の向上のための取組状況 ・今後の取組の方向性 ・各種サービス利用 等
14 地域ケアプラザ等調査 【全数調査】	地域ケアプラザ等 (139か所)	地域包括ケアプラザの運営状況及び専門3職種の業務実態を調査し、包括的・継続的ケアマネジメント支援や生活支援体制整備を進めるための課題等現状を把握し、地域包括ケアシステムを構築する上での参考とする。	121か所 (回収率) 87.1%	28年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの概要 ・福祉・保健・医療との連携関係 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援の課題 ・地域包括ケアシステム構築に関する課題 ・地域ケア会議に関する課題 ・生活支援体制整備事業の状況・課題 ・認知症に関する取組 等

【従事者向け調査】

調査の種類	調査対象	調査目的	回収状況	調査時期	調査内容
15 ケアマネジャー調査 【全数調査】	市内の居宅介護支援事業所で就労しているケアマネジャー (2,898人)	ケアマネジャーの業務実態、仕事ぶりの変化、ケアマネジメント業務実施上の課題等について、現場の第一線でサービス調査に従事するケアマネジャーの意識と現状を把握し、質の高いケアマネジメントを実現する上での参考とする。	1,929人 (回収率) 66.6%	28年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・所属する居宅介護支援事業所の状況 ・労働条件・労働環境への悩みや不満 ・他の福祉職場からの転職理由、今後の転職の意向とその理由 ・利用者の状況 ・担当地区でのサービス状況 ・福祉・保健・医療との連携関係 ・サービス担当者会議の状況 ・ケアマネジャー業務遂行上の課題 ・地域ケア会議についての意識 ・介護予防ケアマネジメントに資する支援 等
16 訪問介護員（ヘルパー）調査 【標本調査】	ホームヘルパー (1,620人)	介護分野における人材不足が深刻化していることから、介護現場で働いているホームヘルパー・ケアワーカー等の介護サービス従事者の意識を調査し、勤労意欲の継続、定着率の向上に向けた効果的な対策を検討するための参考とする。	826人 (回収率) 51.0%	28年 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・基本属性 ・所属する施設・事業所の状況 ・労働条件・労働環境への悩みや不満 ・他の福祉職場からの転職理由、今後の転職の意向とその理由 ・利用者の状況
17 施設介護職員（ケアワーカー）調査 【標本調査】	特別養護老人ホームに従事するケアワーカー (1,480人)		945人 (回収率) 63.9%	28年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・取得資格 ・働きがいについての意識 ・研修受講機会の状況 ・勤続する上での望ましいと思う待遇 ・介護職員処遇改善加算の実施状況 ・利用者及びその家族についての悩み・不安・不満 等

【調査結果の見方】

- 本調査報告書では、17種類の調査結果を、地域包括ケアシステムのテーマ（介護・医療・介護予防・生活支援・住まい等）に沿った構成でまとめている。
- 図表中の「n」、「サンプル数」は、設問への回答者数を表す。
- 図表中の数値は、特に断りのある場合を除き、いずれも回答率（%）を表示している。
- 回答率（%）は、すべて小数点以下第二位を四捨五入し、小数第一位までを表示している。したがって、その合計値が100.0%にならない場合がある。
- 回答には、単数回答「（○はひとつ）」と複数回答「（○は2つまで）（あてはまるものすべてに○）」の2種類がある。複数回答の場合、その回答率（%）の合計が100.0%を超える場合がある。
- クロス集計では、内容により適宜、分析軸の「その他」や「無回答」等を省略している場合があり、分析軸のnの合計値と「TOTAL」が一致しない場合がある。
- 属性別の回答者数が傾向を分析する上で十分とは言えない50サンプル未満の結果も含まれるが、参考値として掲載している。
- 図表の間のタイトル及び回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。
- 調査票及び単純集計表は、別途まとめている資料編に掲載している。
- II章では、以下の調査結果（図表、文章）において略称を用いている。

〔 調査票の表題 〕

【 表記（略称） 】

「健康や介護についてのアンケート（高齢者一般調査）」	⇒ 高齢者一般
「健康や介護についてのアンケート（一般調査）」	⇒ 一般55～64歳
「介護保険在宅サービス利用者調査（要支援）」	⇒ 要支援
「介護保険在宅サービス利用者調査（要介護）」	⇒ 要介護
「介護保険サービス未利用者調査」	⇒ 未利用
「小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護 利用者調査」	⇒ 小規模・看多機
「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 利用者調査」	⇒ 定期巡回
「特別養護老人ホーム入所申込者調査」	⇒ 特養申込者
「特別養護老人ホーム調査」	⇒ 特養
「介護老人保健施設調査」	⇒ 老健
「介護サービス事業所（居住系）調査」	⇒ 居住系
「介護サービス事業所調査」	⇒ 介護事業所
「居宅介護支援事業所調査」	⇒ 居宅介護支援
「地域ケアプラザ等調査」	⇒ ケアプラ
「ケアマネジャー調査」	⇒ ケアマネジャー
「訪問介護員（ヘルパー）調査」	⇒ ヘルパー
「施設介護職員（ケアワーカー）調査」	⇒ ケアワーカー

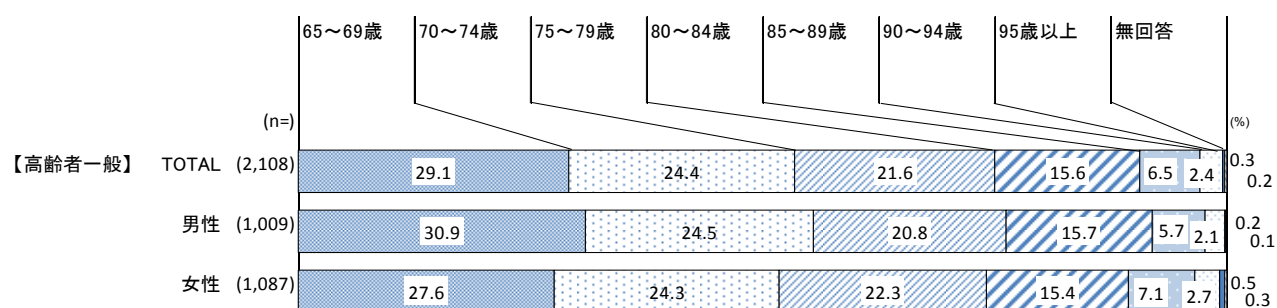
II. 調査結果の概要

1. 回答者の属性について

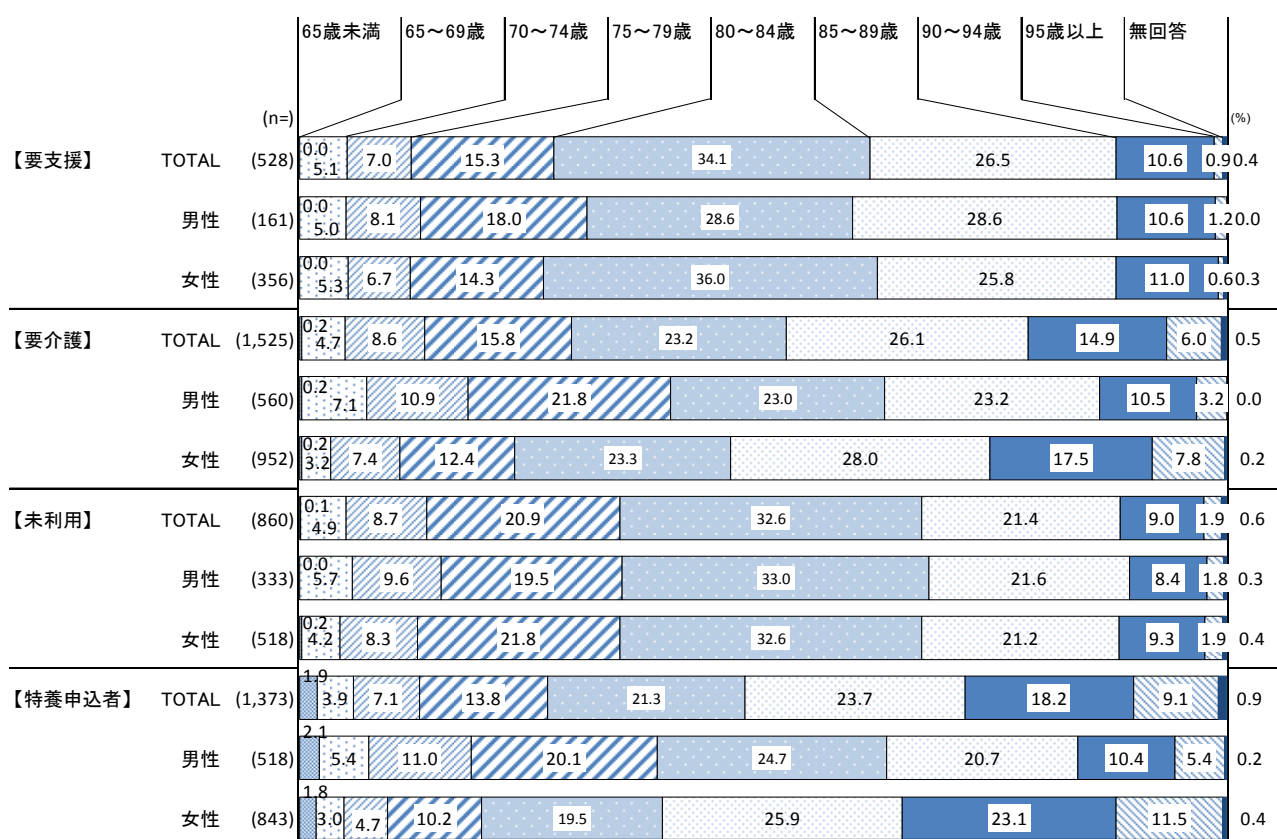
(1) 年齢構成

回答者の年齢構成について、後期高齢者（75歳以上）の占める割合は、要支援で87.4%と最も多く、次いで特養申込者86.1%、要介護86.0%、未利用85.8%となっている。高齢者一般では、46.4%と調査対象により年齢構成が異なっている。

図表 1 (1) 年齢

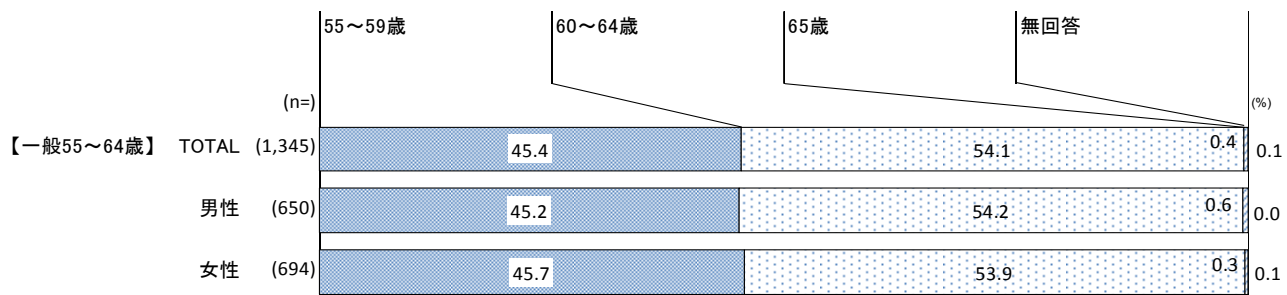


(無回答n=12は非表示)



(無回答、要支援 n=11、要介護 n=13、未利用 n=9、特養申込者 n=12 は非表示)

II 調査結果の概要 1. 回答者の属性について



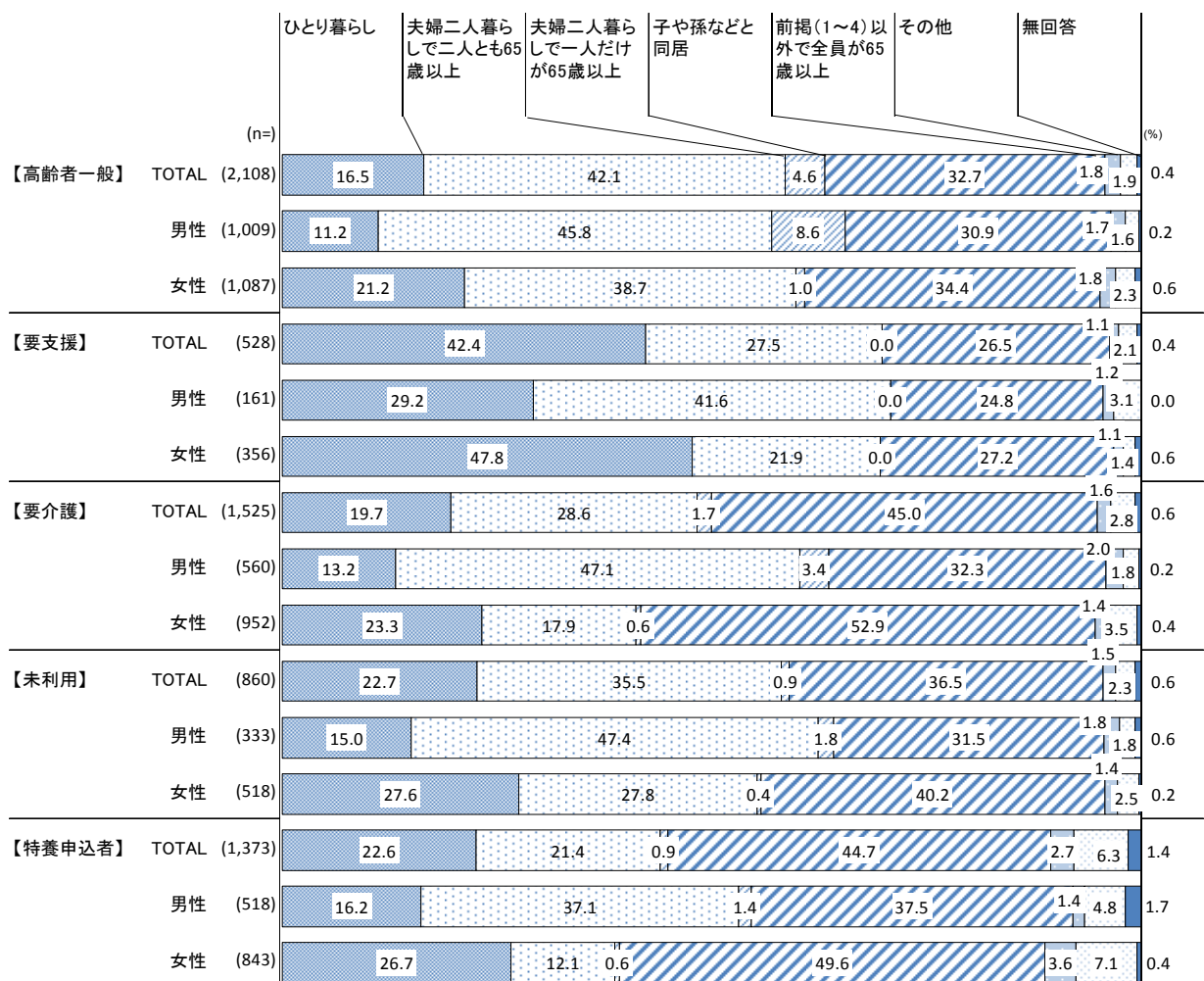
(無回答 n=1 は非表示)

(2) 世帯構成

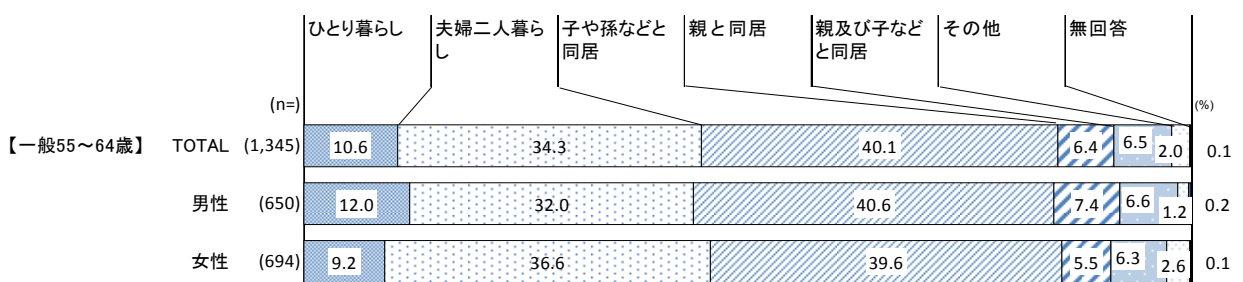
回答者の世帯構成は、「ひとり暮らし」、「夫婦二人暮らし（「二人とも65歳以上」及び「一人だけが65歳以上」の合計）」を合わせた割合は、要支援で最も多く、69.9%となっている。次いで高齢者一般63.2%、未利用59.1%、要介護50.0%となっている。

一方、一般55～64歳では、「ひとり暮らし」、「夫婦二人暮らし」の割合は44.9%となっている。また、要支援の女性で「ひとり暮らし」が多く、47.8%と約半数にのぼる。

図表 1 (2)-1 世帯構成



(無回答等、高齢者一般 n=12、要支援 n=11、要介護 n=13、未利用 n=9、特養申込者 n=12 は非表示)



(無回答 n=1 は非表示)

また、前々回（平成 22 年度）から今回にかけて、対象者ごとの構成比に変化が現れている。高齢者一般（65 歳以上）、未利用では、「ひとり暮らし」及び「夫婦二人暮らし（「二人とも 65 歳以上」及び「一人だけが 65 歳以上」の合計）」が増加した。

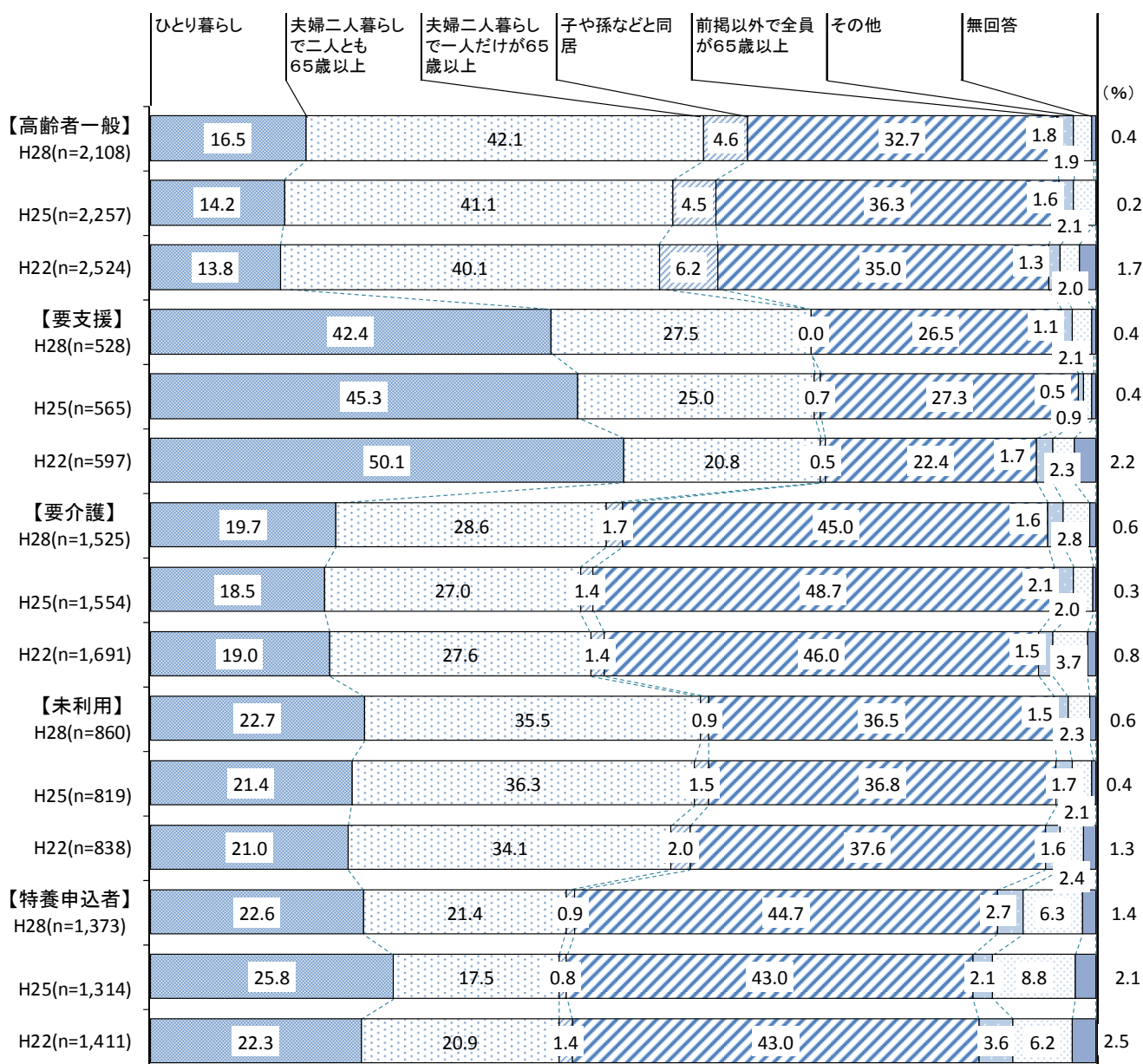
要支援では、「ひとり暮らし」の割合が前々回（平成 22 年）に比べ減少する一方、「夫婦二人暮らし（「二人とも 65 歳以上」及び「一人だけが 65 歳以上」の合計）」の割合が増加している。

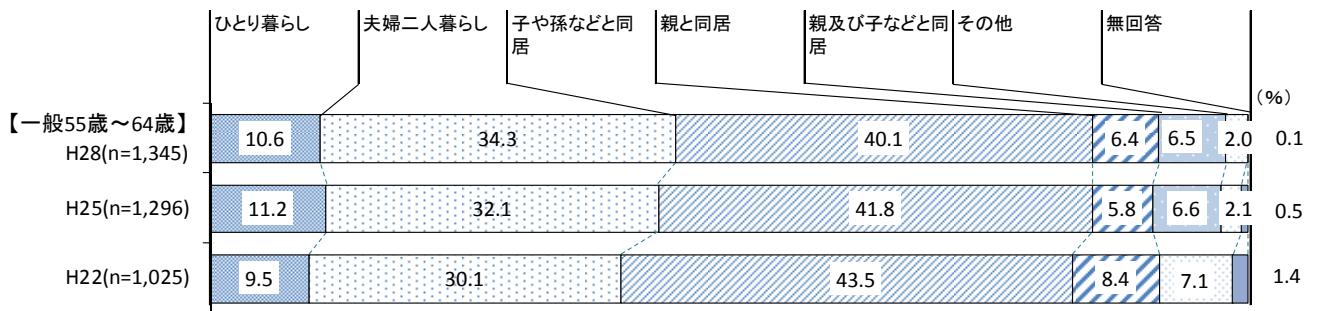
要介護では、世帯構成に大きな変化はみられないものの、「夫婦二人暮らし（一人だけが 65 歳以上を含む）」が微増傾向となっている。

特養申込者では、「夫婦二人暮らし（「二人とも 65 歳以上」及び「一人だけが 65 歳以上」の合計）」及び「子や孫など同居」の割合は同程度で推移している。

一般 55～64 歳では、「夫婦二人暮らし」の割合が微増傾向にある。

図表 1 (2)-2 世帯構成（時系列）





(H22年度は「親及び子など同居」の選択肢は なし)

(3) 対象者の所在（居住区）

回答者の所在（居住区）で最も多いのは、高齢者一般では「旭区」と「戸塚区」が8.3%、要支援では「港北区」が9.1%、要介護では「港北区」が8.3%、未利用では「旭区」が8.4%、特養申込者では「南区」が9.0%、一般55～64歳では「港北区」が9.4%となっている。

図表 1 (3) 対象者の所在（居住区）

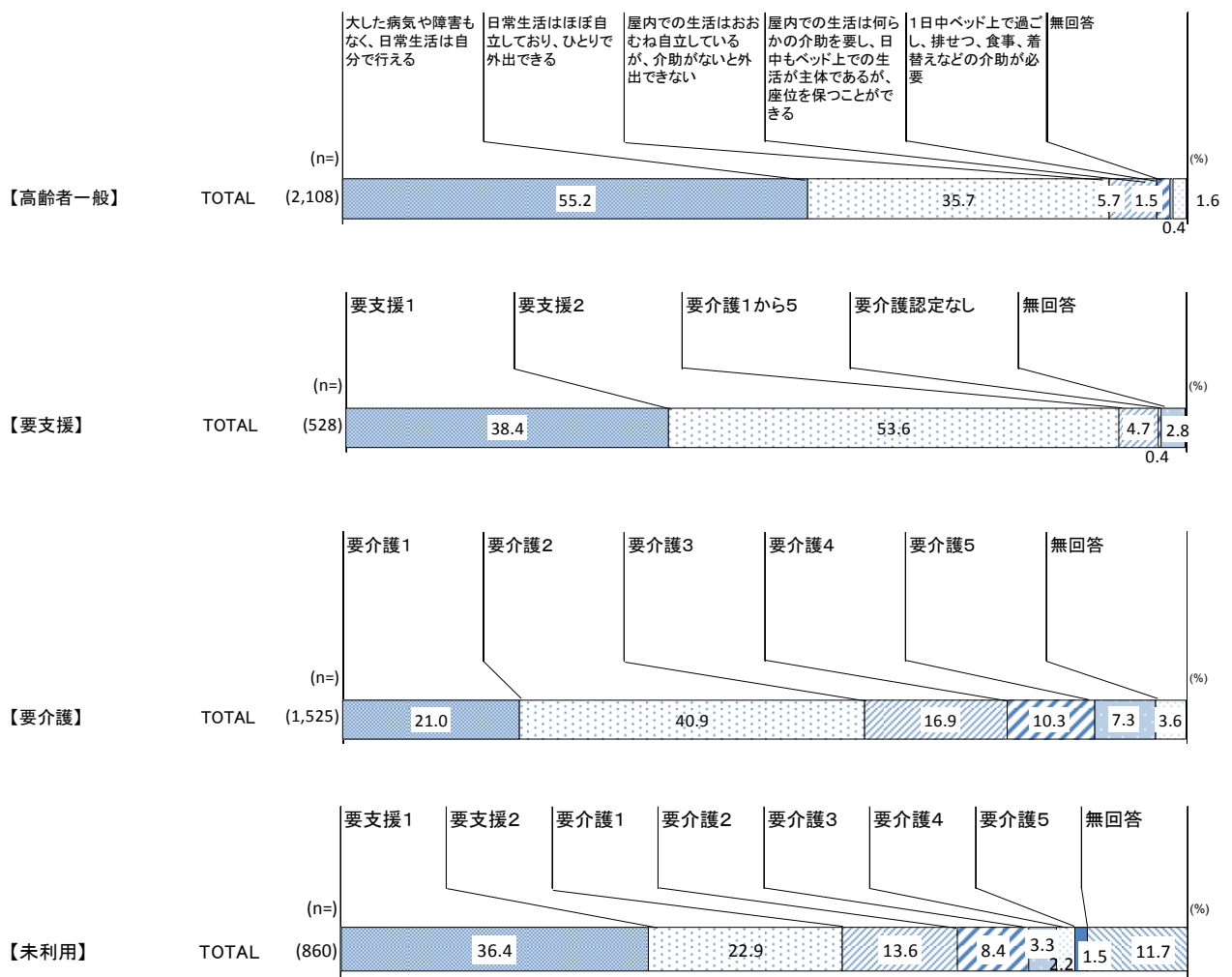
上段: 回答者(n)数・人 下段: 構成比・%	TOTAL	青葉区	旭区	泉区	磯子区	神奈川区	金沢区	港南区	港北区	栄区	瀬谷区
高齢者一般	2,108 100.0	142 6.7	174 8.3	106 5.0	103 4.9	129 6.1	144 6.8	149 7.1	154 7.3	103 4.9	67 3.2
要支援	528 100.0	33 6.3	44 8.3	21 4.0	34 6.4	39 7.4	33 6.3	40 7.6	48 9.1	26 4.9	6 1.1
要介護	1,525 100.0	83 5.4	117 7.7	70 4.6	69 4.5	100 6.6	100 6.6	100 6.6	127 8.3	42 2.8	49 3.2
未利用	860 100.0	46 5.3	72 8.4	40 4.7	51 5.9	48 5.6	56 6.5	63 7.3	71 8.3	35 4.1	31 3.6
特養申込者	1,373 100.0	67 4.9	95 6.9	69 5.0	99 7.2	72 5.2	90 6.6	101 7.4	78 5.7	46 3.4	43 3.1
一般55～64歳	1,345 100.0	110 8.2	89 6.6	64 4.8	57 4.2	85 6.3	94 7.0	80 5.9	127 9.4	39 2.9	41 3.0

上段: 回答者(n)数・人 下段: 構成比・%	TOTAL	都筑区	鶴見区	戸塚区	中区	西区	保土ヶ谷区	緑区	南区	無回答
高齢者一般	2,108 100.0	79 3.7	124 5.9	174 8.3	66 3.1	43 2.0	126 6.0	105 5.0	119 5.6	1 0.0
要支援	528 100.0	18 3.4	27 5.1	33 6.3	17 3.2	14 2.7	30 5.7	24 4.5	39 7.4	2 0.4
要介護	1,525 100.0	52 3.4	119 7.8	98 6.4	65 4.3	43 2.8	89 5.8	73 4.8	121 7.9	8 0.5
未利用	860 100.0	31 3.6	56 6.5	60 7.0	34 4.0	19 2.2	53 6.2	36 4.2	56 6.5	2 0.2
特養申込者	1,373 100.0	41 3.0	120 8.7	87 6.3	50 3.6	43 3.1	96 7.0	41 3.0	123 9.0	12 0.9
一般55～64歳	1,345 100.0	82 6.1	98 7.3	110 8.2	39 2.9	20 1.5	70 5.2	60 4.5	80 5.9	0 0.0

(4) 健康状態、要介護度

回答者の健康状態、要介護度は、要支援では「要支援2」が53.6%となっている。要介護では、要介護1・2のいわゆる軽度が61.9%、要介護3・4・5の中・重度が34.5%となっている。また、未利用では、要支援1・2が59.3%、要介護1～5が29.0%となっている。高齢者一般では、「大した病気や障害もなく、日常生活は自分でできる」(55.2%)、「日常生活はほぼ自立しており、ひとりで外出できる」(35.7%)を合わせた「健康・自立」している割合は90.9%となっている。これに対し、「屋内での生活はおおむね自立しているが、介助がないと外出できない」(5.7%)など、何らかの介助・介護を必要とする割合は7.6%となっている。

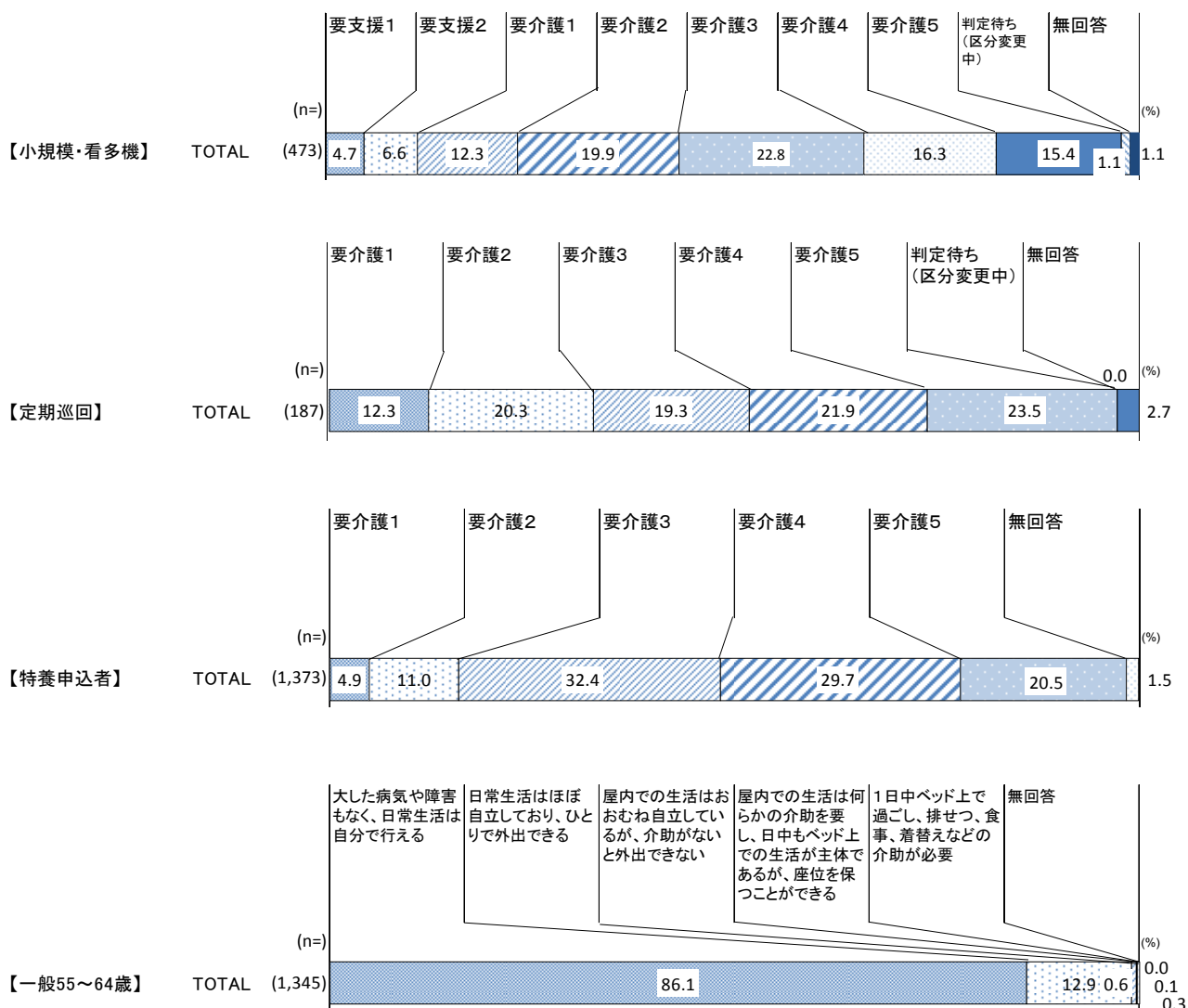
図表 1 (4)-1 健康状態、要介護度



小規模多機能型居宅介護サービス、看護小規模多機能型居宅介護（「小規模・看多機」と表記）、定期巡回・随時対応型訪問介護看護（「定期巡回」と表記）、特養申込者の介護度については、小規模・看多機は要支援1～要介護5までを含むが、要支援が11.3%、要介護1・2が32.2%、要介護3・4・5が54.5%と、中・重度者が半数を占める。

定期巡回、特養申込者では、要介護3・4・5の中・重度者割合はさらに高く、それぞれ64.7%、82.6%となっている。

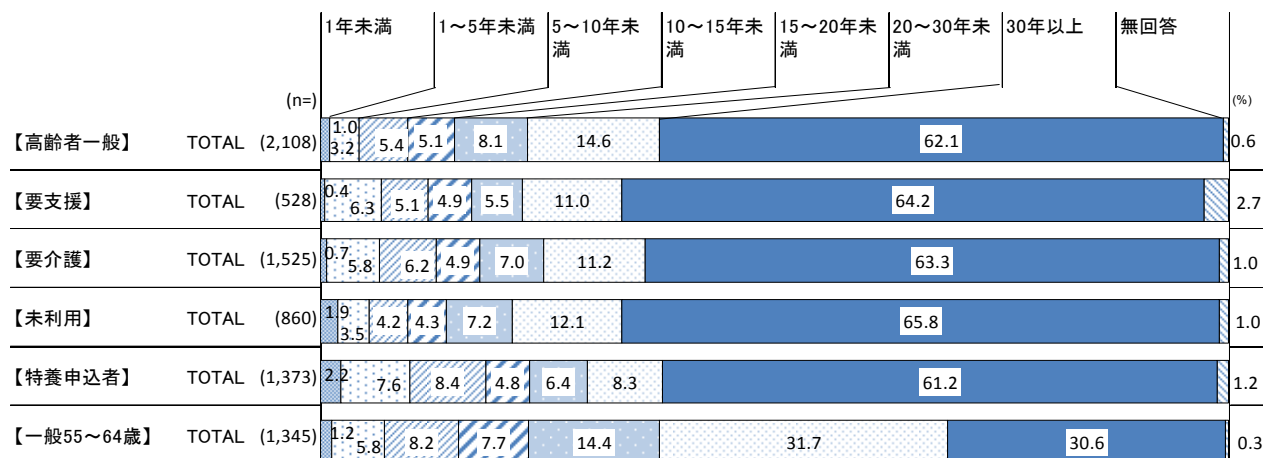
図表 1 (4)-2 健康状態、要介護度



(5) 区内居住年数

回答者の区内居住年数は、一般 55～64 歳を除き、いずれの対象者も「30 年以上」が 6 割を超えており、未利用 (65.8%)、要支援 (64.2%)、要介護 (63.3%)、高齢者一般 (62.1%)、特養申込者 (61.2%) となっている。

図表 1 (5) 区内居住年数



(6) 事業所の提供サービスの種類

介護保険施設（特別養護老人ホーム・介護老人保健施設）及び居住系サービス事業所（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等）が提供（併設）するサービスの種類で多いものは、特別養護老人ホームでは「通所介護（地域密着型通所介護を含む）」（39.2%）や「居宅介護支援、介護予防支援」（34.2%）、介護老人保健施設では「通所リハビリテーション」（90.2%）や「介護予防通所リハビリテーション」（68.9%）、介護サービス事業所（居住系）では「認知症対応型共同生活介護」（40.8%）や「訪問介護」（17.5%）となっている。

図表 1 (6)-1 事業所の提供サービスの種類(複数回答)

	特養		老健		居住系	
	(%)	(数)	(%)	(数)	(%)	(数)
0 TOTAL	100.0	120	100.0	61	100.0	468
1 訪問介護	8.3	10	0.0	0	17.5	82
2 横浜市訪問介護相当サービス	1.7	2	0.0	0	3.8	18
3 横浜市訪問型生活援助サービス	0.0	0	0.0	0	1.3	6
4 訪問入浴介護	0.8	1	0.0	0	0.2	1
5 介護予防訪問入浴介護	0.8	1	0.0	0	0.0	0
6 訪問看護	1.7	2	11.5	7	6.0	28
7 介護予防訪問看護	0.8	1	4.9	3	1.7	8
8 訪問リハビリテーション	0.0	0	24.6	15	1.1	5
9 介護予防訪問リハビリテーション	0.0	0	19.7	12	0.4	2
10 通所介護(地域密着型通所介護を含む)	39.2	47	1.6	1	12.0	56
11 横浜市通所介護相当サービス	14.2	17	0.0	0	1.7	8
12 通所リハビリテーション	0.0	0	90.2	55	1.1	5
13 介護予防通所リハビリテーション	0.0	0	68.9	42	0.4	2
14 福祉用具貸与	0.0	0	0.0	0	2.4	11
15 特定福祉用具販売	0.0	0	0.0	0	1.9	9
16 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1.7	2	0.0	0	0.4	2
17 夜間対応型訪問介護	1.7	2	0.0	0	0.2	1
18 認知症対応型通所介護	2.5	3	0.0	0	3.4	16
19 介護予防認知症対応型通所介護	0.0	0	0.0	0	1.3	6
20 小規模多機能型居宅介護	0.8	1	0.0	0	6.2	29
21 介護予防小規模多機能型居宅介護	0.0	0	0.0	0	2.1	10
22 認知症対応型共同生活介護	0.8	1	6.6	4	40.8	191
23 看護小規模多機能型居宅介護	0.0	0	0.0	0	0.6	3
24 居宅介護支援、介護予防支援	34.2	41	34.4	21	10.7	50
25 前掲のサービスは行っていない	43.3	52	8.2	5	28.4	133
26 無回答	9.2	11	1.6	1	6.8	32

介護サービス事業所では「訪問介護」(29.1%)や「通所介護」(25.6%)、「居宅介護支援」(23.2%)、居宅介護支援事業所では「訪問介護」(41.2%)や「通所介護」(22.3%)が多くなっている。

図表 1 (6)-2 事業所の提供サービスの種類 (複数回答)

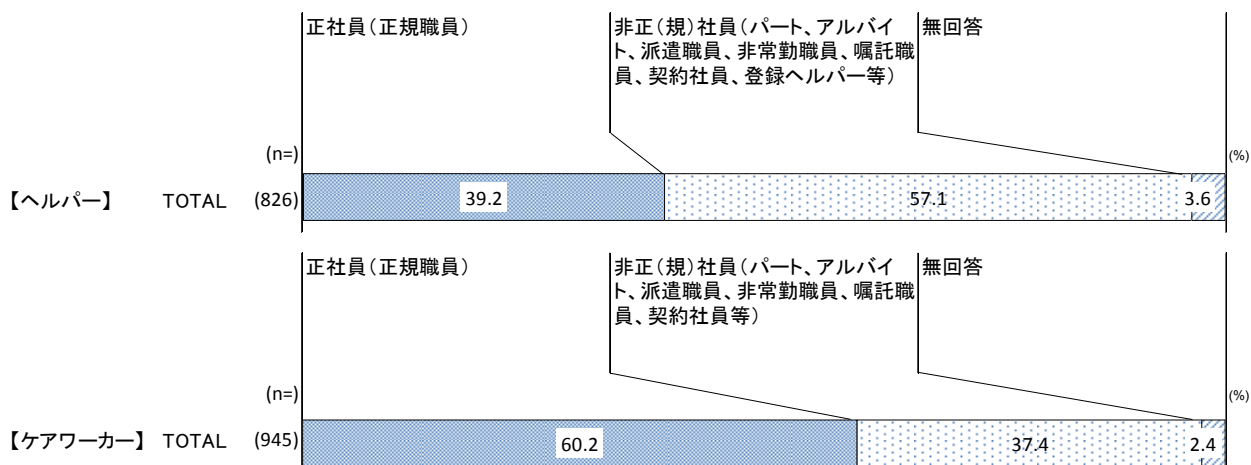
介護事業所	(%)	(件)	居宅介護支援	(%)	(件)
0 TOTAL	100.0	1700	0 TOTAL	100.0	713
1 居宅介護支援	23.2	394	1 訪問介護	41.2	294
2 介護予防支援	19.5	332	2 横浜市訪問介護相当サービス	18.2	130
3 訪問介護	29.1	494	3 横浜市訪問型生活援助サービス	8.1	58
4 横浜市訪問介護相当サービス	16.6	282	4 訪問入浴介護	2.7	19
5 横浜市訪問型生活援助サービス	7.8	133	5 介護予防訪問入浴介護	2.2	16
6 訪問入浴介護	1.6	27	6 訪問看護	16.7	119
7 介護予防訪問入浴介護	1.2	20	7 介護予防訪問看護	7.4	53
8 訪問看護	13.5	230	8 訪問リハビリテーション	2.9	21
9 介護予防訪問看護	8.9	152	9 介護予防訪問リハビリテーション	2.0	14
10 訪問リハビリテーション	3.6	61	10 居宅療養管理指導	2.9	21
11 介護予防訪問リハビリテーション	2.5	43	11 介護予防居宅療養管理指導	1.4	10
12 居宅療養管理指導	4.3	73	12 通所介護	22.3	159
13 介護予防居宅療養管理指導	1.9	33	13 横浜市通所介護相当サービス	14.9	106
14 通所介護	25.6	435	14 通所リハビリテーション	5.8	41
15 横浜市通所介護相当サービス	19.4	330	15 介護予防通所リハビリテーション	3.6	26
16 通所リハビリテーション	5.4	91	16 短期入所生活介護	5.6	40
17 介護予防通所リハビリテーション	4.8	81	17 介護予防短期入所生活介護	4.3	31
18 短期入所生活介護	8.0	136	18 短期入所療養介護	3.6	26
19 介護予防短期入所生活介護	6.1	104	19 介護予防短期入所療養介護	2.4	17
20 短期入所療養介護	3.2	54	20 福祉用具貸与	5.9	42
21 介護予防短期入所療養介護	2.8	47	21 介護予防福祉用具貸与	5.2	37
22 住宅改修	0.4	7	22 特定福祉用具販売	5.3	38
23 福祉用具貸与	2.1	36	23 特定介護予防福祉用具販売	4.9	35
24 介護予防福祉用具貸与	2.0	34	24 住宅改修	2.9	21
25 特定福祉用具販売	1.8	30	25 特定施設入居者生活介護	0.8	6
26 特定介護予防福祉用具販売	1.6	27	26 介護予防特定施設入居者生活介護	0.3	2
27 特定施設入居者生活介護	0.5	8	27 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3.8	27
28 介護予防特定施設入居者生活介護	0.2	3	28 地域密着型通所介護	6.2	44
29 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2.2	38	29 夜間対応型訪問介護	2.9	21
30 地域密着型通所介護	16.7	284	30 認知症対応型通所介護	7.0	50
31 夜間対応型訪問介護	1.7	29	31 介護予防認知症対応型通所介護	2.1	15
32 認知症対応型通所介護	5.0	85	32 小規模多機能型居宅介護	1.3	9
33 介護予防認知症対応型通所介護	2.2	37	33 介護予防小規模多機能型居宅介護	0.4	3
34 小規模多機能型居宅介護	6.1	104	34 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1.8	13
35 介護予防小規模多機能型居宅介護	2.7	46	35 介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0.8	6
36 看護小規模多機能型居宅介護	0.8	14	36 地域密着型特定施設入居者生活介護	0.0	0
37 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	2.9	50	37 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.1	1
38 介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1.6	28	38 看護小規模多機能型居宅介護	0.1	1
39 地域密着型特定施設入居者生活介護	0.0	0	39 介護老人福祉施設	5.6	40
40 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.2	3	40 介護老人保健施設	3.6	26
41 介護老人福祉施設	7.1	121	41 介護療養型医療施設	0.0	0
42 介護老人保健施設	3.4	57	42 病院	1.4	10
43 介護療養型医療施設	0.2	4	43 診療所	3.1	22
44 無回答	1.9	32	44 薬局	1.1	8
			45 有料老人ホーム・軽費老人ホーム・養護老人ホームなど(介護保険外)	2.0	14
			46 配食(食事)サービス	2.2	16
			47 送迎(移送)サービス	2.9	21
			48 介護保険外の宿泊サービス	0.4	3
			49 その他	7.3	52
			50 前掲の事業は行っていない	14.3	102
			51 無回答	3.1	22

(7) 事業所の担い手の職種

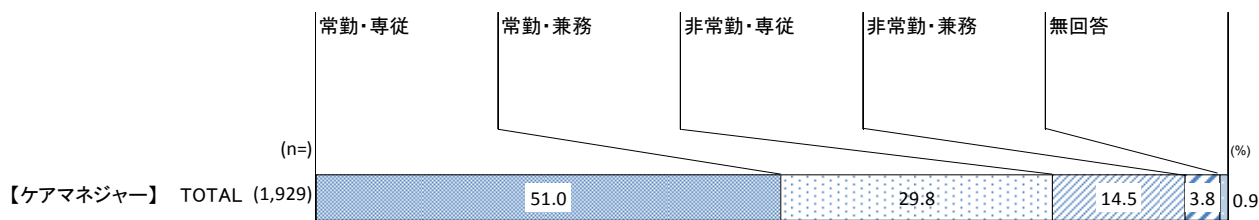
介護サービスの担い手の就業形態は、ヘルパーでは「非正（規）社員」が57.1%、ケアワーカー（特養勤務の介護職員）では「正社員（正規職員）」が60.2%となっている。

また、勤務形態は、ケアマネジャーでは「常勤・専従」が約半数で51.0%、ヘルパーでは「非常勤（非定型的）」が48.1%、ケアワーカーでは「非常勤（定型的）」が56.1%となっている。

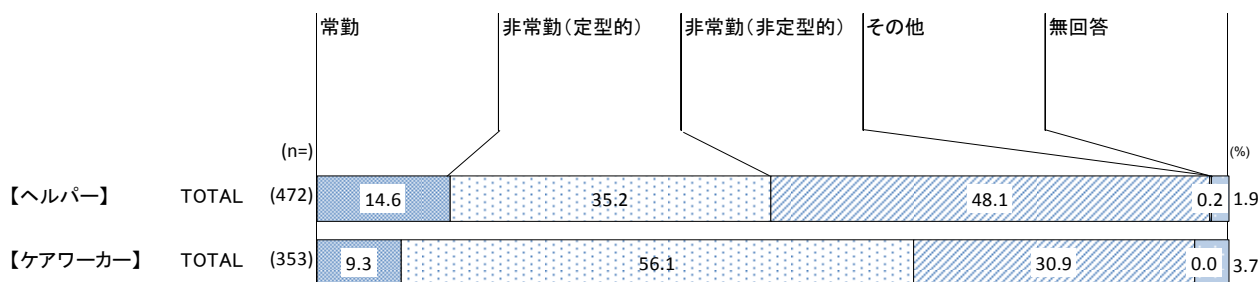
図表 1 (7)-1 事業所の担い手の就業形態



図表 1 (7)-2 事業所の担い手の勤務形態



図表 1 (7)-3 事業所の担い手の勤務形態（非正規）



2. 介護

(1) 要介護状態の原因

介護が必要となった主な原因は、要支援では「骨折・転倒」(20.5%)が最も多く、次いで「関節疾患(膝・股関節など)」(14.2%)、「高齢による衰弱」(11.9%)となっている。

要支援者全体を年齢別で見ると、65～69歳では「脳血管疾患(脳出血、脳梗塞など)」が22.2%と最も高いのに対し、70歳以上では「骨折・転倒」が最も多くなっている(サンプル少数のため参考値)。

図表2(1)-1 要支援となった原因(要支援・問24)

【要介護度別・年齢別】

		(%)	(n=)	脳血管疾患 (脳出血、脳梗塞など)	骨折・転倒	高齢による衰弱	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器疾患 (肺気腫、肺炎等)	関節疾患 (膝・股関節など)	リウマチ	認知症	糖尿病	視覚・聴覚障害	脊髄損傷	パーキンソン病	その他	無回答
TOTAL	TOTAL	528	7.6	20.5	11.9	8.3	4.7	1.9	14.2	1.5	0.8	1.9	2.7	3.8	1.9	10.8	7.6	
	65～69歳	27	22.2	11.1	3.7	3.7	3.7	0.0	7.4	0.0	0.0	3.7	0.0	3.7	3.7	37.0	0.0	
	70～74歳	37	13.5	16.2	0.0	16.2	10.8	2.7	13.5	5.4	0.0	2.7	0.0	2.7	8.1	5.4	2.7	
	75～79歳	81	7.4	17.3	6.2	6.2	4.9	3.7	11.1	2.5	0.0	2.5	2.5	6.2	4.9	17.3	7.4	
	80～84歳	180	9.4	21.7	8.3	7.8	6.1	1.7	16.7	2.2	0.6	1.7	1.7	3.9	1.1	7.2	10.0	
	85歳以上	201	3.0	22.4	20.9	9.0	2.5	1.5	14.4	0.0	1.5	1.5	4.5	2.5	0.0	9.0	7.5	
要支援1	要支援1 TOTAL	203	5.9	19.7	11.8	8.9	6.4	1.5	16.7	1.0	2.0	2.5	2.0	3.4	2.0	8.4	7.9	
	65～69歳	7	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	
	70～74歳	11	0.0	18.2	0.0	9.1	18.2	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	9.1	
	75～79歳	32	9.4	18.8	3.1	6.3	6.3	3.1	12.5	3.1	0.0	3.1	3.1	3.1	3.1	18.8	6.3	
	80～84歳	79	7.6	21.5	11.4	7.6	10.1	1.3	15.2	0.0	1.3	2.5	1.3	3.8	1.3	3.8	11.4	
	85歳以上	74	2.7	20.3	18.9	12.2	0.0	1.4	20.3	0.0	4.1	1.4	2.7	2.7	0.0	8.1	5.4	
要支援2	要支援2 TOTAL	283	8.5	21.6	12.4	8.1	3.9	2.1	13.1	1.8	0.0	1.4	2.8	3.5	2.1	13.1	5.7	
	65～69歳	18	22.2	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
	70～74歳	24	20.8	16.7	0.0	20.8	8.3	4.2	8.3	0.0	0.0	4.2	0.0	4.2	8.3	4.2	0.0	
	75～79歳	40	5.0	17.5	7.5	7.5	5.0	2.5	7.5	2.5	0.0	2.5	2.5	7.5	7.5	20.0	5.0	
	80～84歳	92	10.9	19.6	6.5	8.7	3.3	2.2	18.5	4.3	0.0	1.1	2.2	4.3	1.1	9.8	7.6	
	85歳以上	108	2.8	25.9	23.1	6.5	3.7	1.9	13.0	0.0	0.0	0.9	4.6	1.9	0.0	9.3	6.5	

(年齢無回答 n=2 は非表示)

介護が必要となった主な原因は、要介護では「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞など）」（17.4%）が最も多く、次いで「骨折・転倒」、「認知症」（ともに 17.2%）となっている。要介護1・2の軽度では「骨折・転倒」（18.2%）、要介護3・4・5の中・重度では「認知症」（21.1%）や「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞など）」（20.9%）が多くなっている。

要介護者全体を年齢別でみると、85歳未満では「脳血管疾患（脳出血、脳梗塞など）」が最も多いが、年齢が上昇するにつれ割合が減少し、85歳以上では「骨折・転倒」（21.8%）が最も多くなっている。

図表 2 (1)-2 要介護となった原因（要介護・問17）

【要介護度別・年齢別】

		(%)	(n=)	脳血管疾患 (脳出血、脳梗塞など)	骨折・転倒	高齢による衰弱	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器疾患 (肺炎腫、肺炎等)	関節疾患 (膝・股関節等)	リウマチ	認知症	糖尿病	視覚・聴覚障害	脊髄損傷	パーキンソン病	その他
TOTAL	TOTAL	17.4	1,525	17.4	17.2	9.3	4.5	2.5	2.4	6.6	1.6	17.2	1.9	0.9	2.8	2.6	10.0
	65歳未満	66.7	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	43.7	71	43.7	14.1	0.0	2.8	4.2	0.0	0.0	2.8	7.0	1.4	2.8	2.8	2.8	15.5
	70～74歳	33.6	131	33.6	7.6	0.8	3.1	5.3	3.1	3.1	2.3	9.9	5.3	0.8	3.1	2.3	18.3
	75～79歳	24.5	241	24.5	11.2	2.1	6.2	5.0	2.1	4.1	2.1	17.4	2.1	0.0	4.6	3.7	12.9
	80～84歳	18.9	354	18.9	16.9	5.4	3.1	2.3	3.7	8.2	2.8	17.8	0.8	1.4	1.7	3.7	8.5
85歳以上	8.6	717	8.6	21.8	16.3	5.0	1.1	2.0	7.7	0.7	19.4	1.8	0.7	2.6	1.7	7.7	
要介護1・2	要介護1・2 TOTAL	15.9	944	15.9	18.2	11.2	5.7	2.4	2.6	7.9	2.1	15.9	2.3	0.6	2.4	2.0	9.0
	65～69歳	40.0	40	40.0	12.5	0.0	5.0	2.5	0.0	0.0	2.5	7.5	2.5	2.5	2.5	2.5	20.0
	70～74歳	32.9	73	32.9	9.6	0.0	4.1	2.7	1.4	5.5	1.4	9.6	9.6	1.4	2.7	2.7	15.1
	75～79歳	24.3	140	24.3	11.4	2.9	6.4	5.7	1.4	5.0	3.6	17.9	3.6	0.0	2.9	3.6	10.7
	80～84歳	16.7	227	16.7	20.3	7.5	4.0	2.6	4.0	10.1	4.0	16.3	0.4	0.9	1.8	3.1	7.0
85歳以上	8.1	459	8.1	21.4	18.5	6.8	1.3	2.6	8.7	0.9	16.8	1.7	0.4	2.6	0.9	7.4	
要介護3・4・5	要介護3・4・5 TOTAL	20.9	526	20.9	16.3	6.5	2.3	2.9	2.3	4.0	1.0	21.1	1.1	1.3	3.6	4.0	11.8
	65歳未満	66.7	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	65～69歳	46.7	30	46.7	16.7	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	3.3	6.7	0.0	3.3	3.3	3.3	10.0
	70～74歳	33.3	54	33.3	5.6	0.0	1.9	9.3	5.6	0.0	3.7	11.1	0.0	0.0	3.7	1.9	22.2
	75～79歳	26.1	92	26.1	10.9	1.1	5.4	4.3	3.3	2.2	0.0	17.4	0.0	0.0	7.6	4.3	17.4
	80～84歳	27.2	103	27.2	11.7	1.9	1.9	1.9	3.9	3.9	1.0	24.3	1.0	2.9	1.9	5.8	8.7
85歳以上	10.0	241	10.0	23.2	12.9	1.7	0.8	0.8	5.8	0.4	25.7	2.1	0.8	2.9	3.3	8.7	

(年齢無回答 n=8 は非表示)

(2) 要介護高齢者の利用サービス

① サービス利用状況

要支援者（要支援1・2）が現在（平成28年11月時点）利用しているサービスは、「介護予防訪問介護又は横浜市訪問介護相当サービス（ホームヘルプ）」（34.8%）、や「介護予防通所介護又は横浜市通所介護相当サービス（デイサービス）」（28.0%）が多くなっている。

図表2(2)①-1 利用サービス（平成28年11月時点）（複数回答、要支援・問26）

【要介護度別】

(%)	TOTAL (n=528)	要介護度別(無回答等n=42非表示)	
		要支援1 (n=203)	要支援2 (n=283)
介護予防訪問介護又は横浜市訪問介護相当サービス(ホームヘルプ)	34.8	38.9	31.4
横浜市訪問型生活援助サービス	15.7	16.7	15.2
介護予防訪問入浴介護	1.5	0.5	2.5
介護予防訪問看護	4.7	3.4	4.9
介護予防訪問リハビリ	5.9	2.5	7.8
介護予防居宅療養管理指導	2.3	3.0	1.8
介護予防通所介護又は横浜市通所介護相当サービス(デイサービス)	28.0	25.6	30.0
介護予防通所リハビリ(デイケア)	22.7	22.2	24.4
介護予防短期入所生活介護(福祉施設のショートステイ)	0.8	0.0	1.4
介護予防短期入所療養介護(医療施設等のショートステイ)	0.8	0.5	1.1
介護予防特定施設入居者生活介護	0.4	0.0	0.7
介護予防福祉用具貸与	23.3	16.7	25.8
介護予防福祉用具購入	8.0	6.4	9.2
介護予防住宅改修費	7.0	6.9	7.4
介護予防認知症対応型通所介護	0.0	0.0	0.0
介護予防小規模多機能型居宅介護(1か所で通い、訪問、泊まりの各サービスを提供)	0.6	0.5	0.7
介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0.2	0.5	0.0
利用していない	7.8	7.4	7.8
無回答	7.4	5.9	7.1

要介護者（要介護1～5）が現在（平成28年11月時点）利用しているサービスは、「福祉用具貸与」（49.7%）や「通所介護」（47.1%）が多くなっている。

要介護3・4・5の中・重度では、全体傾向と同じく、「福祉用具貸与」（65.0%）、「通所介護」（49.0%）が多いが、軽度者と比べ、「訪問看護」（31.2%）や「訪問介護」（31.0%）、「訪問リハビリテーション」（22.8%）、「訪問入浴介護」（19.2%）等の訪問系サービスの利用が多くなっている。

図表2(2)①-2 利用サービス（平成28年11月時点）（複数回答、要介護・問33）

【要介護度別】

	TOTAL (n=1525)	要介護度別(無回答n=55非表示)				
		要介護1 (n=320)	要介護2 (n=624)	要介護3 (n=258)	要介護4 (n=157)	要介護5 (n=111)
訪問介護	27.0	24.7	25.3	20.2	33.1	53.2
訪問入浴介護	12.3	6.6	10.1	9.7	15.3	46.8
訪問看護	19.1	10.0	14.6	18.6	31.8	59.5
訪問リハビリテーション	14.9	7.5	12.7	18.2	20.4	36.9
居宅療養管理指導	3.1	2.2	2.4	1.9	5.7	9.0
通所介護	47.1	45.6	47.3	51.2	52.9	38.7
通所リハビリテーション	20.7	23.8	22.3	19.4	19.1	12.6
短期入所生活介護	14.0	7.2	9.3	25.2	22.9	24.3
短期入所療養介護	1.5	0.3	0.6	2.7	3.2	4.5
福祉用具貸与	49.7	32.2	47.8	53.9	72.0	81.1
福祉用具購入	13.8	9.7	11.2	16.7	20.4	26.1
住宅改修	9.4	9.1	10.3	8.9	12.1	7.2
特定施設入居者生活介護	0.9	0.6	0.5	1.9	1.9	0.9
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1.8	1.6	1.6	1.9	3.2	1.8
夜間対応型訪問介護	0.9	0.6	0.3	0.4	3.8	2.7
認知症対応型通所介護	1.6	0.6	0.6	2.3	4.5	5.4
小規模多機能型居宅介護	2.3	0.6	1.6	2.7	6.4	4.5
看護小規模多機能型居宅介護	0.4	0.6	0.2	0.4	0.0	1.8
認知症対応型共同生活介護	0.5	0.3	0.3	1.2	0.6	0.0
地域密着型通所介護	2.2	1.6	2.7	1.9	3.2	0.9
地域密着型特定施設入居者生活介護	0.4	0.3	0.3	0.4	0.6	0.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.2	0.0	0.2	0.8	0.0	0.0
あてはまるものはない	3.1	3.8	3.5	1.9	0.6	0.9
無回答	6.6	9.1	5.9	7.0	1.9	1.8

【要介護度別】

	TOTAL (n=1525)	要介護度別(無回答n=55非表示)	
		要介護1・2 (n=944)	要介護3・4・5 (n=526)
訪問介護	27.0	25.1	31.0
訪問入浴介護	12.3	8.9	19.2
訪問看護	19.1	13.0	31.2
訪問リハビリテーション	14.9	10.9	22.8
居宅療養管理指導	3.1	2.3	4.6
通所介護	47.1	46.7	49.0
通所リハビリテーション	20.7	22.8	17.9
短期入所生活介護	14.0	8.6	24.3
短期入所療養介護	1.5	0.5	3.2
福祉用具貸与	49.7	42.5	65.0
福祉用具購入	13.8	10.7	19.8
住宅改修	9.4	9.9	9.5
特定施設入居者生活介護	0.9	0.5	1.7
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1.8	1.6	2.3
夜間対応型訪問介護	0.9	0.4	1.9
認知症対応型通所介護	1.6	0.6	3.6
小規模多機能型居宅介護	2.3	1.3	4.2
看護小規模多機能型居宅介護	0.4	0.3	0.6
認知症対応型共同生活介護	0.5	0.3	0.8
地域密着型通所介護	2.2	2.3	2.1
地域密着型特定施設入居者生活介護	0.4	0.3	0.4
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.2	0.1	0.4
あてはまるものはない	3.1	3.6	1.3
無回答	6.6	7.0	4.4

② 要介護者が利用できなかった介護サービス

要支援者が、事業所が近くにない、利用したいが予約がいっぱいで利用できないなど、事業者側の都合で利用できなかったサービスは、「利用していない」が17.6%で最も高いほか、サービス別では、「介護予防通所介護又は横浜市通所介護相当サービス（デイサービス）」(8.0%)、「介護予防訪問介護又は横浜市訪問介護相当サービス（ホームヘルプ）」(6.6%)、「介護予防福祉用具貸与」(6.6%)がやや多くなっている。

図表2(2)②-1 利用できない・利用できなかったサービス（複数回答、要支援・問28）

【要介護度別】

	TOTAL (n=528)	要介護度別(無回答n=42非表示)	
		要支援1 (n=203)	要支援2 (n=283)
(%)			
介護予防訪問介護又は横浜市訪問介護相当サービス(ホームヘルプ)	6.6	10.3	3.5
横浜市訪問型生活援助サービス	4.4	4.9	3.9
介護予防訪問入浴介護	0.6	0.0	1.1
介護予防訪問看護	0.4	0.5	0.4
介護予防訪問リハビリ	1.1	0.5	1.8
介護予防居宅療養管理指導	0.4	0.5	0.4
介護予防通所介護又は横浜市通所介護相当サービス(デイサービス)	8.0	5.9	9.5
介護予防通所リハビリ(デイケア)	5.7	5.4	6.0
介護予防短期入所生活介護(福祉施設のショートステイ)	0.2	0.0	0.4
介護予防短期入所療養介護(医療施設等のショートステイ)	0.2	0.5	0.0
介護予防特定施設入居者生活介護	0.2	0.0	0.4
介護予防福祉用具貸与	6.6	5.9	6.0
介護予防福祉用具購入	1.7	1.0	1.8
介護予防住宅改修費	0.8	0.5	1.1
介護予防認知症対応型通所介護	0.0	0.0	0.0
介護予防小規模多機能型居宅介護(1か所で通い、訪問、泊まりの各サービスを提供)	0.0	0.0	0.0
介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0.0	0.0	0.0
利用していない	17.6	19.2	15.9
無回答	55.5	53.2	58.3

要介護者が、事業所が近くにない、利用したいが予約がいっぱいで利用できないなど、事業者側の都合で利用できなかったサービスは、「あてはまるものはない」が 45.8%で最も高いほか、サービス別では、「通所介護」(4.9%)、「短期入所生活介護」(4.3%)、「通所リハビリテーション」(3.7%)となっている。

要介護1・2の軽度者では「通所介護」、要介護3・4・5の中・重度者では「短期入所生活介護」が比較的高くなっている。

図表2(2)②-2 利用できない・利用できなかったサービス（複数回答、要介護・問35）

【要介護度別】

	TOTAL (n=1525) (%)	要介護度別(無回答n=55非表示)				
		要介護1 (n=320)	要介護2 (n=624)	要介護3 (n=258)	要介護4 (n=157)	要介護5 (n=111)
訪問介護	3.4	1.9	4.3	3.1	1.9	4.5
訪問入浴介護	1.6	0.3	1.8	2.7	1.9	1.8
訪問看護	1.8	0.0	2.2	2.3	2.5	2.7
訪問リハビリテーション	2.1	0.6	2.6	2.7	1.9	3.6
居宅療養管理指導	0.3	0.0	0.2	0.8	0.0	0.9
通所介護	4.9	6.9	4.8	5.8	2.5	2.7
通所リハビリテーション	3.7	3.1	4.2	5.0	3.2	0.0
短期入所生活介護	4.3	3.8	3.2	7.4	3.8	6.3
短期入所療養介護	1.3	0.9	1.0	1.2	2.5	3.6
福祉用具貸与	3.0	3.1	2.7	3.1	2.5	2.7
福祉用具購入	1.1	0.6	1.0	1.2	1.9	0.9
住宅改修	1.2	1.3	1.3	1.2	1.9	0.9
特定施設入居者生活介護	1.7	0.6	0.8	4.3	2.5	3.6
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0.7	0.6	0.6	0.8	1.9	0.0
夜間対応型訪問介護	0.3	0.0	0.0	0.4	1.9	0.9
認知症対応型通所介護	0.7	0.3	0.5	1.9	0.6	0.0
小規模多機能型居宅介護	0.7	0.0	0.6	1.6	0.6	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	0.2	0.3	0.2	0.0	0.0	0.9
認知症対応型共同生活介護	0.4	0.3	0.2	1.2	0.6	0.0
地域密着型通所介護	0.4	0.3	0.5	0.4	0.6	0.0
地域密着型特定施設入居者生活介護	0.3	0.0	0.2	0.4	1.9	0.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1.1	0.3	0.8	1.9	2.5	0.9
あてはまるものはない	45.8	47.8	46.5	42.6	52.9	43.2
無回答	35.1	35.3	35.4	34.1	26.1	36.9

(3) 24時間対応型の介護サービスの提供

① 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス（「定期巡回サービス」と表記）利用以前の介護サービス利用状況については、「訪問介護」（42.2%）、「通所介護（デイサービス）」（39.6%）、「福祉用具貸与（レンタル）」（36.9%）が3～4割となっている。要介護度別では、要介護3・4・5では、「訪問介護」、「福祉用具貸与（レンタル）」（ともに43.8%）、「通所介護」（42.1%）となっている。

図表2(3)①-1 利用前の介護サービス（複数回答、定期巡回・問8）

【要介護度別】

介護サービス	TOTAL (n=187)	要介護度別（無回答n=5非表示）	
		要介護1・2 (n=61)	要介護3・4・5 (n=121)
訪問介護	42.2	41.0	43.8
訪問入浴介護	13.9	6.6	18.2
訪問看護	23.0	19.7	24.8
訪問リハビリ	7.0	8.2	6.6
通所介護（デイサービス）	39.6	36.1	42.1
通所リハビリ	5.3	9.8	3.3
短期入所生活介護（ショートステイ）	11.2	3.3	15.7
福祉用具貸与（レンタル）	36.9	24.6	43.8
夜間対応型訪問介護	10.2	6.6	12.4
認知症対応型通所介護（認知症デイ）	2.1	0.0	3.3
その他	2.1	0.0	3.3
利用していない	26.7	29.5	25.6
無回答	3.2	1.6	1.7

【利用期間別】

介護サービス	TOTAL (n=187)	利用期間別（無回答n=6非表示）		
		半年未満 (n=36)	半年以上～ 1年未満 (n=42)	1年以上 (n=103)
訪問介護	42.2	41.7	28.6	48.5
訪問入浴介護	13.9	19.4	19.0	9.7
訪問看護	23.0	19.4	14.3	28.2
訪問リハビリ	7.0	5.6	2.4	9.7
通所介護（デイサービス）	39.6	38.9	40.5	39.8
通所リハビリ	5.3	8.3	0.0	6.8
短期入所生活介護（ショートステイ）	11.2	8.3	7.1	13.6
福祉用具貸与（レンタル）	36.9	30.6	26.2	44.7
夜間対応型訪問介護	10.2	11.1	2.4	13.6
認知症対応型通所介護（認知症デイ）	2.1	2.8	2.4	1.9
その他	2.1	5.6	0.0	1.9
利用していない	26.7	19.4	33.3	28.2
無回答	3.2	2.8	2.4	0.0

定期巡回サービスの利用種類別では、一体型サービス、連携型サービスそれぞれの利用者ともに「訪問介護」が4割（一体型44.2%、連携型42.2%）となっている。連携型サービス利用者は一体型サービス利用者比べて、「通所介護（デイサービス）」（55.6%）、「訪問看護」（28.9%）、「短期入所生活介護（ショートステイ）」（20.0%）、「夜間対応型訪問介護」（15.6%）等の利用割合が高くなっている。

図表 2 (3)①-2 利用前の介護サービス（複数回答、定期巡回・問8）

【利用種類別】

利用種類別 (%)	TOTAL (n=187)	利用種類別（無回答n=8非表示）		
		一体型 (n=104)	連携型 (n=45)	わからない (n=30)
訪問介護	42.2	44.2	42.2	46.7
訪問入浴介護	13.9	13.5	13.3	20.0
訪問看護	23.0	22.1	28.9	23.3
訪問リハビリ	7.0	4.8	8.9	13.3
通所介護（デイサービス）	39.6	34.6	55.6	33.3
通所リハビリ	5.3	3.8	6.7	10.0
短期入所生活介護（ショートステイ）	11.2	8.7	20.0	10.0
福祉用具貸与（レンタル）	36.9	39.4	44.4	26.7
夜間対応型訪問介護	10.2	8.7	15.6	10.0
認知症対応型通所介護（認知症デイ）	2.1	1.9	4.4	0.0
その他	2.1	1.9	2.2	3.3
利用していない	26.7	29.8	15.6	33.3
無回答	3.2	2.9	0.0	0.0

定期巡回サービス利用に至るきっかけについては、「ケアマネジャーから勧められて」(64.2%)、「自宅で生活したかったから」(49.2%)が多い。要介護度別では、要介護3・4・5では、「ケアマネジャーから勧められて」(70.2%)、「自宅で生活したかったから」(53.7%)と、要介護1・2より割合がそれぞれ高くなっている。

定期巡回サービスの利用期間別では、利用期間の長い1年以上で「ケアマネジャーから勧められて」(66.0%)、「自宅で生活したかったから」(57.3%)がともに5割を超えている。また「料金が月額定額だったから」が17.5%となっており、利用期間1年未満の利用者よりも高い。

利用種類別では、連携型は一体型に比べて「ケアマネジャーから勧められて」(75.6%)、「自宅で生活したかったから」(62.2%)等が多く、一体型では「退院したばかりで在宅生活に慣れるため」が16.3%と連携型より多くなっている。

図表2(3)①-3 利用のきっかけ(複数回答、定期巡回・問9)

【要介護度別】

(%)	TOTAL (n=187)	要介護度別(無回答n=5非表示)	
		要介護1・2 (n=61)	要介護3・4・5 (n=121)
ケアマネジャーから勧められて	64.2	55.7	70.2
自宅で生活したかったから	49.2	42.6	53.7
料金が月額定額だったから	14.4	14.8	14.9
ご家族・友人から勧められて	10.7	14.8	9.1
退院したばかりで在宅生活に慣れるため	10.7	13.1	9.9
医療ソーシャルワーカーから勧められて	7.0	3.3	9.1
以前利用していた事業所と同じ法人が運営している事業所だったから	3.2	4.9	2.5
以前のサービスが馴染まなかったから	3.2	4.9	2.5
他のサービスでは支給限度額を超えてしまうから	2.7	1.6	3.3
新聞・雑誌・広報紙等を見て	0.5	0.0	0.8
事業者のホームページを見て	0.5	1.6	0.0
施設への入所待ちだから	0.5	0.0	0.8
その他	9.1	8.2	9.9
無回答	3.7	4.9	0.8

【利用期間別】

(%)	TOTAL (n=187)	利用期間別(無回答n=6非表示)		
		半年未満 (n=36)	半年以上～ 1年未満 (n=42)	1年以上 (n=103)
ケアマネジャーから勧められて	64.2	66.7	59.5	66.0
自宅で生活したかったから	49.2	41.7	40.5	57.3
料金が月額定額だったから	14.4	11.1	11.9	17.5
ご家族・友人から勧められて	10.7	8.3	14.3	10.7
退院したばかりで在宅生活に慣れるため	10.7	13.9	2.4	13.6
医療ソーシャルワーカーから勧められて	7.0	11.1	4.8	6.8
以前利用していた事業所と同じ法人が運営している事業所だったから	3.2	2.8	2.4	3.9
以前のサービスが馴染まなかったから	3.2	8.3	4.8	1.0
他のサービスでは支給限度額を超えてしまうから	2.7	5.6	0.0	2.9
新聞・雑誌・広報紙等を見て	0.5	0.0	0.0	1.0
事業者のホームページを見て	0.5	0.0	2.4	0.0
施設への入所待ちだから	0.5	0.0	0.0	1.0
その他	9.1	13.9	4.8	9.7
無回答	3.7	8.3	0.0	1.0

【利用種別】

	TOTAL (n=187)	利用種別(無回答n=8非表示)		
		一体型 (n=104)	携帯型 (n=45)	わからない (n=30)
ケアマネジャーから勧められて	64.2	64.4	75.6	53.3
自宅で生活したかったから	49.2	50.0	62.2	36.7
料金が月額定額だったから	14.4	16.3	15.6	10.0
ご家族・友人から勧められて	10.7	12.5	6.7	10.0
退院したばかりで在宅生活に慣れるため	10.7	16.3	2.2	6.7
医療ソーシャルワーカーから勧められて	7.0	7.7	6.7	6.7
以前利用していた事業所と同じ法人が運営している事業所だったから	3.2	4.8	2.2	0.0
以前のサービスが馴染まなかったから	3.2	2.9	2.2	6.7
他のサービスでは支給限度額を超えてしまうから	2.7	2.9	4.4	0.0
新聞・雑誌・広報紙等を見て	0.5	0.0	2.2	0.0
事業者のホームページを見て	0.5	1.0	0.0	0.0
施設への入所待ちだから	0.5	1.0	0.0	0.0
その他	9.1	7.7	13.3	6.7
無回答	3.7	1.9	2.2	3.3

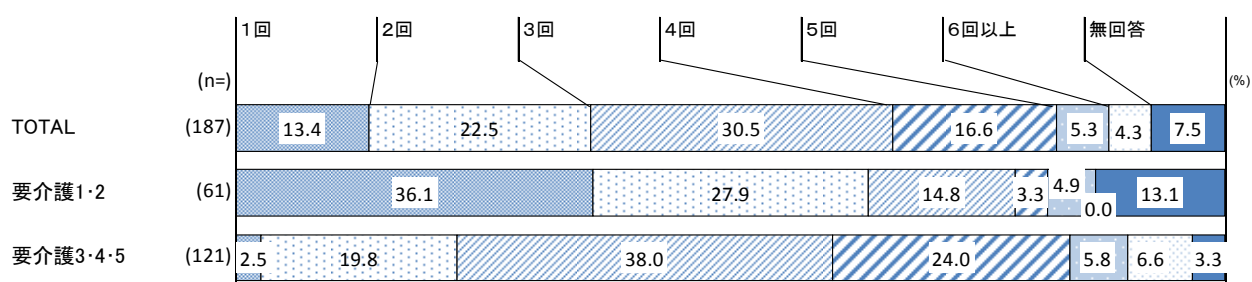
定期巡回サービスの1日当たりの利用回数については、3回以上が56.7%と利用者の半数を超えている。

要介護度別では、要介護1・2では「2回」以下が64.0%に対し、要介護3・4・5では「3回」以上が74.4%となっており、中・重度者の利用頻度が高いことがわかる。利用期間別では、1年以上利用者では「3回」以上が63.2%となっている。

利用種類別では、連携型利用者は一体型利用者より利用頻度が多く、連携型利用者では3回以上の割合が66.6%と、一体型利用者の3回以上の58.7%を上回っている。

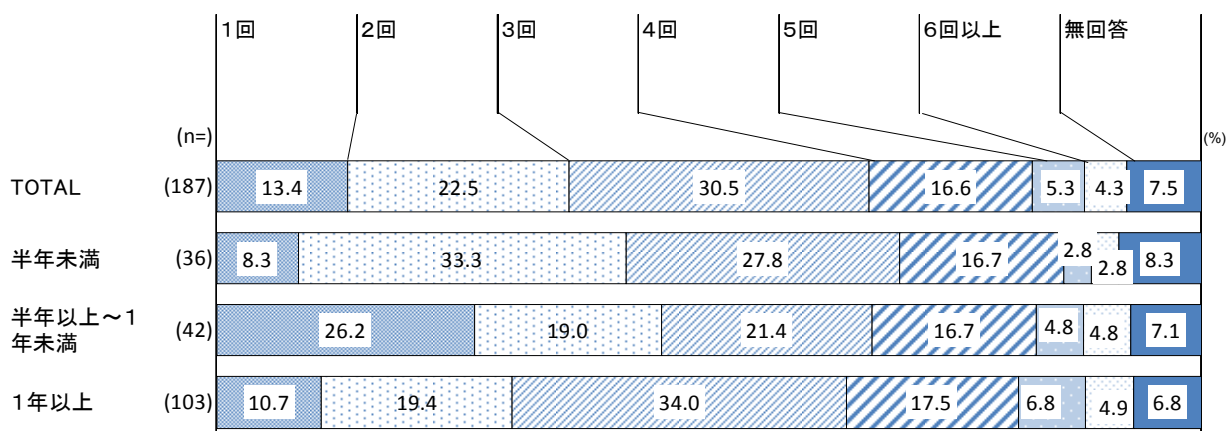
図表2 (3)①-4 定期巡回サービス・1日当たりの利用回数（定期巡回・問11）

【要介護度別】



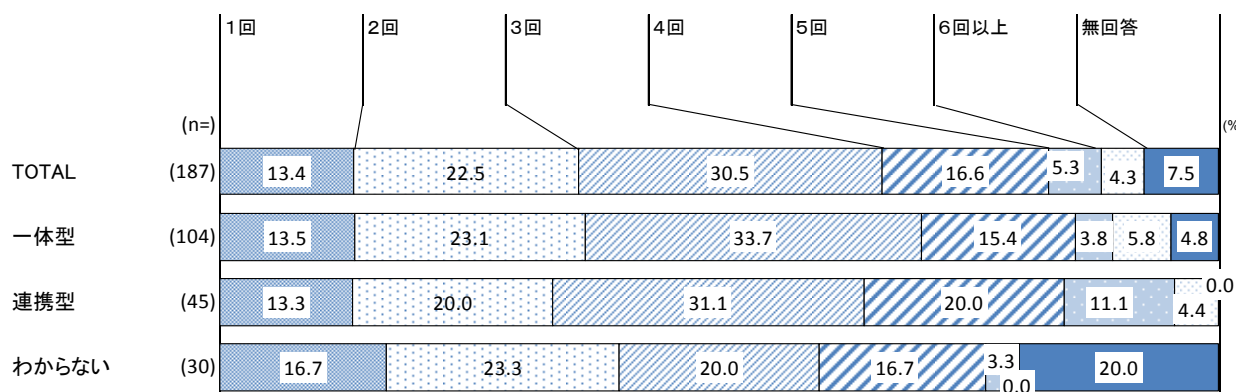
(無回答 n=5 は非表示)

【利用期間別】



(無回答 n=6 は非表示)

【利用種類別】

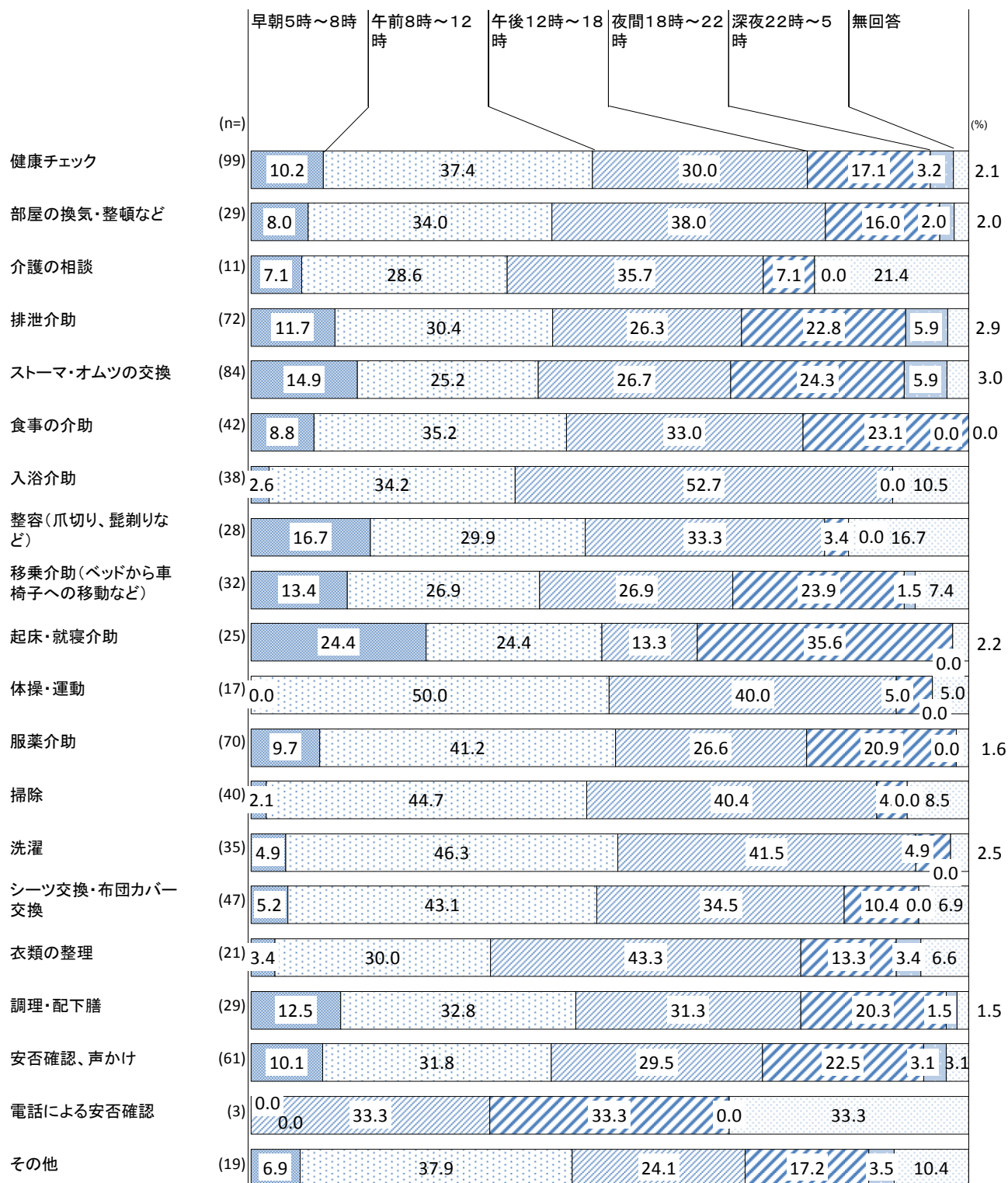


(無回答 n=8 は非表示)

定期巡回サービスの種類別の利用時間帯については、排泄介助、ストーマ・オムツの交換、移乗介助（ベッドから車椅子への移動など）、服薬介助は、「早朝5時～8時」や「夜間18時～22時」に集中する傾向がある（「起床・就寝介助」、「調理・配下膳」を除く）。排泄介助及びストーマ・おむつの交換は、「夜間18時～22時」にそれぞれ2割（排泄介助22.8%、ストーマ・オムツの交換24.3%）と集中している。

図表2(3)①-5 定期巡回サービス・利用時間帯（複数回答、定期巡回・問12）

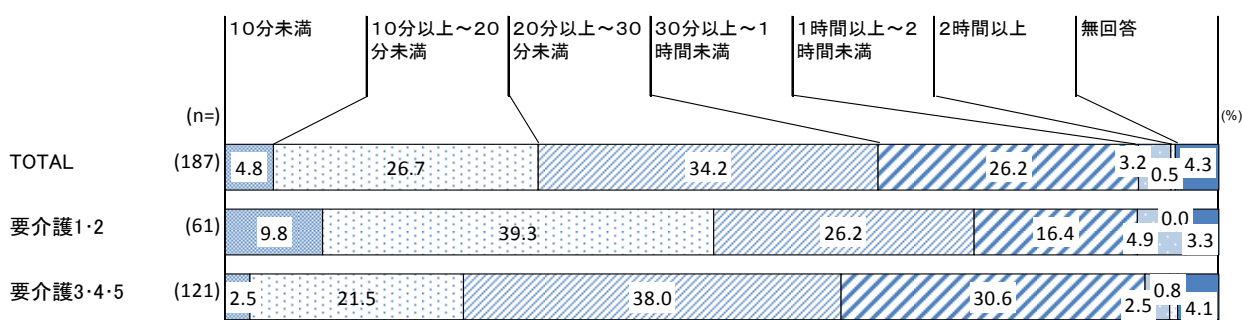
（複数回答の総数を母数(100)として再集計し、各時間帯の割合を表示している。）



定期巡回サービスの1回当たりの利用時間については、「30分未満」が65.7%、「30分以上」が29.9%となっている。要介護度別では、要介護1・2では「30分未満」が75.3%、「30分以上」が21.3%であるのに対し、要介護3・4・5では「30分未満」が62.0%、「30分以上」が33.9%と中・重度の利用者では利用時間が長くなる傾向がある。利用期間別では、1年以上の利用者の4.9%は「1時間以上2時間未満」となっている。利用種類別では、携帯型の利用者は「30分以上～1時間未満」が33.3%、「1時間以上～2時間未満」が6.7%となっており、一体型に比べてやや利用時間が長い傾向がある。

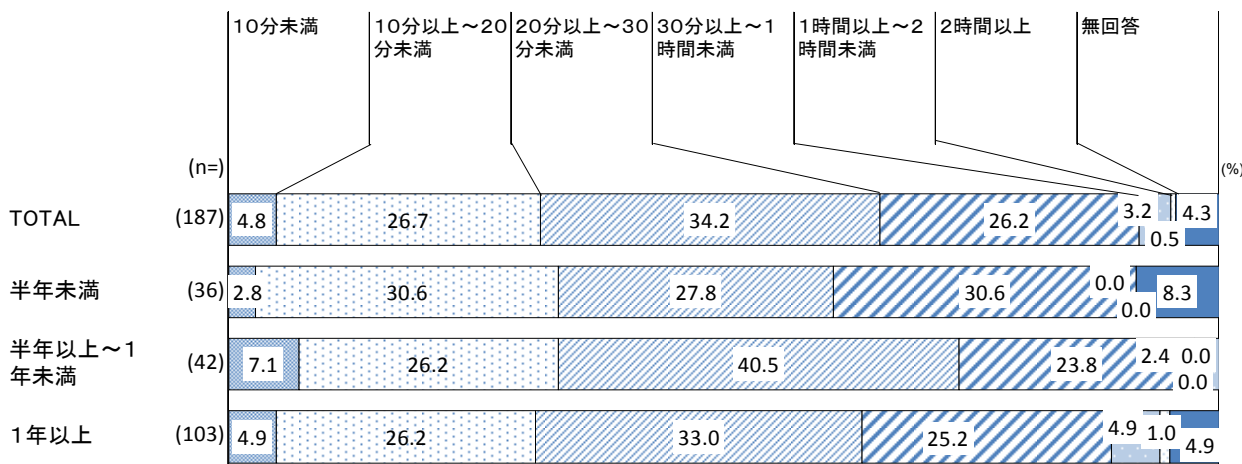
図表2(3)①-6 定期巡回サービス・1回当たりの利用時間(定期巡回・問13)

【要介護度別】



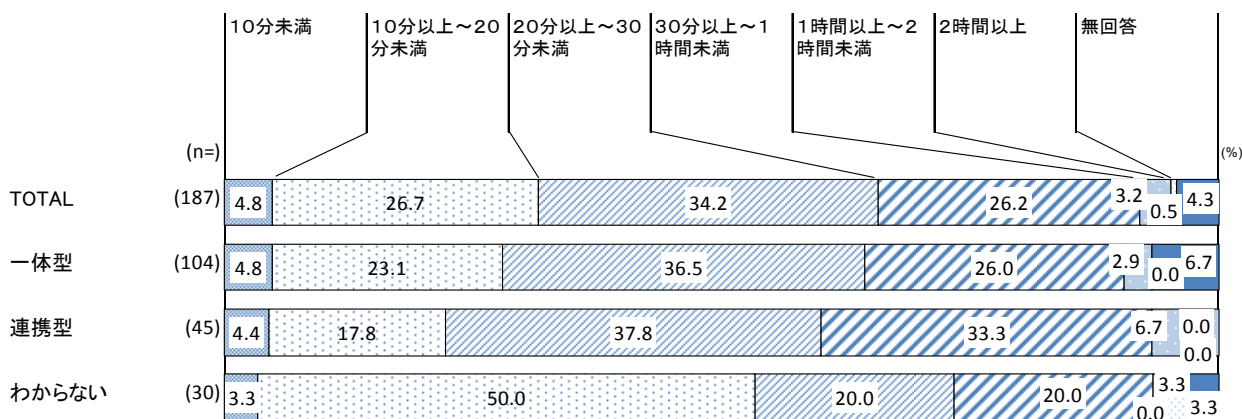
(無回答n=5は非表示)

【利用期間別】



(無回答n=6は非表示)

【利用種類別】

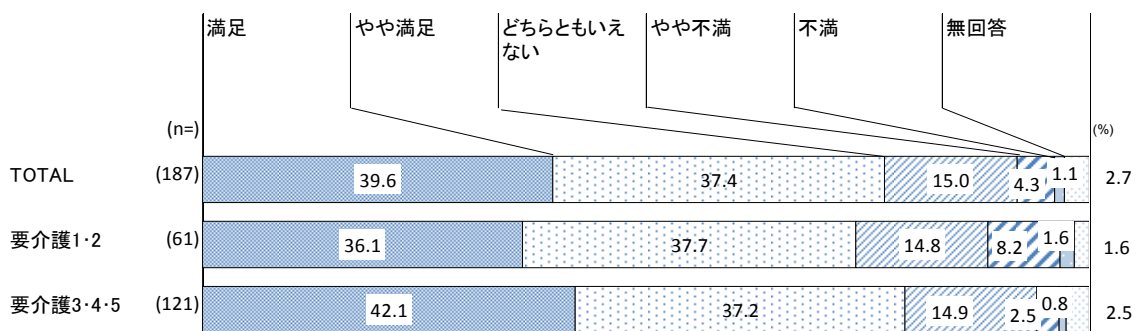


(無回答n=8は非表示)

定期巡回サービスの利用満足度については、『満足（「満足」及び「やや満足」の合計）』とする割合は77.0%と8割近い。要介護度別では、『満足』とする割合は要介護1・2、要介護3・4・5ともに7割台である一方、要介護1・2では8.2%が「不満」となっている。利用期間別では、各利用期間で『満足』とする割合が7割台である一方、1年以上利用者で『不満（「やや不満」及び「不満」の合計）』が6.8%となっている。利用種別では、連携型利用者の51.1%は「満足」としており、「やや満足」を合わせた『満足』とする割合は84.4%と8割を超えている。

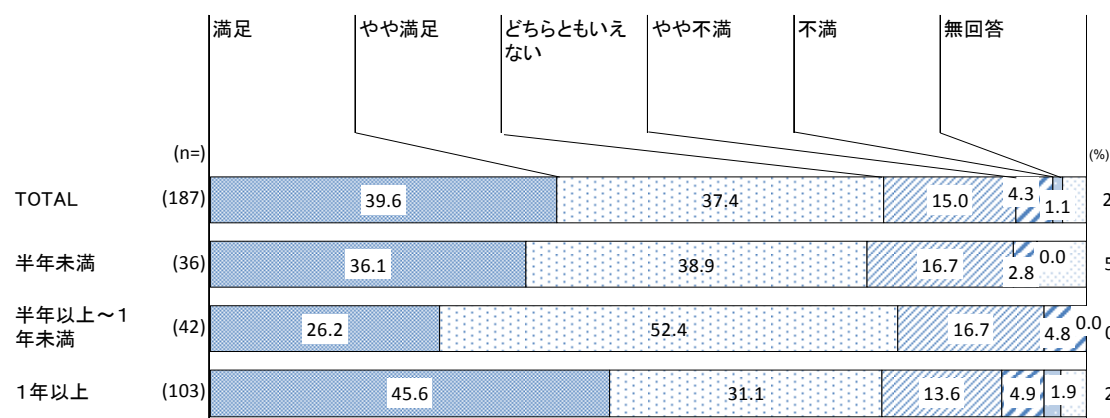
図表2(3)①-7 定期巡回サービス・利用満足度（定期巡回・問14）

【要介護度別】



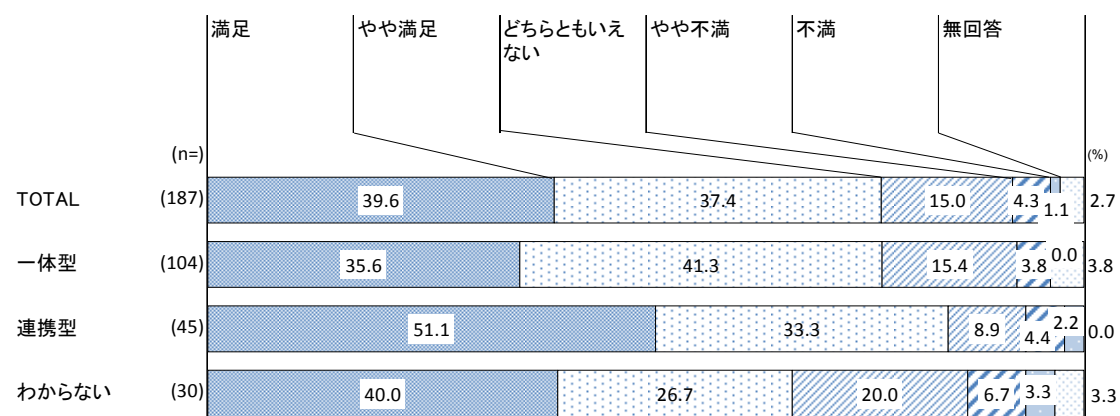
(無回答n=5は非表示)

【利用期間別】



(無回答n=6は非表示)

【利用種別】



(無回答n=8は非表示)

定期巡回サービスの良いと感じるところについては、「緊急コールですぐに駆けつけてくれる」(50.8%) が最も多く、次いで「看護職員が定期的に訪問(アセスメント含む)してくれる」が41.2%、「料金が定額である」、「独居、高齢者世帯でも在宅生活ができる」(ともに34.8%)となっている。

図表 2 (3) ①-8 定期巡回サービス・良いと感じるところ(複数回答、定期巡回・問10)

【要介護度別】

(%)	TOTAL (n=187)	要介護度別 (無回答n=5非表示)	
		要介護1・2 (n=61)	要介護3・4・5 (n=121)
緊急コールですぐに駆けつけてくれる	50.8	39.3	58.7
看護職員が定期的に訪問(アセスメント含む)してくれる	41.2	34.4	46.3
料金が定額である	34.8	27.9	38.8
独居、高齢者世帯でも在宅生活ができる	34.8	45.9	29.8
入院したり、施設に入所せず自宅で暮らせる	34.2	31.1	36.4
看護サービスが利用できる	28.9	24.6	32.2
24時間切れ目のないサービス	26.7	14.8	33.9
ケアマネジャーが変わらない	24.1	21.3	25.6
柔軟なプランでサービスを受けられる	22.5	31.1	19.0
定期巡回サービスだけで生活できる	12.3	18.0	9.9
入退院を繰り返していても在宅生活ができる	9.1	8.2	9.1
その他	2.1	1.6	1.7
無回答	3.2	3.3	1.7

【利用期間別】

(%)	TOTAL (n=187)	利用期間別 (無回答n=6非表示)		
		半年未満 (n=36)	半年以上～ 1年未満 (n=42)	1年以上 (n=103)
緊急コールですぐに駆けつけてくれる	50.8	47.2	42.9	58.3
看護職員が定期的に訪問(アセスメント含む)してくれる	41.2	44.4	42.9	40.8
料金が定額である	34.8	25.0	28.6	42.7
独居、高齢者世帯でも在宅生活ができる	34.8	27.8	35.7	36.9
入院したり、施設に入所せず自宅で暮らせる	34.2	30.6	23.8	41.7
看護サービスが利用できる	28.9	16.7	14.3	40.8
24時間切れ目のないサービス	26.7	22.2	28.6	29.1
ケアマネジャーが変わらない	24.1	30.6	21.4	23.3
柔軟なプランでサービスを受けられる	22.5	22.2	28.6	21.4
定期巡回サービスだけで生活できる	12.3	11.1	7.1	15.5
入退院を繰り返していても在宅生活ができる	9.1	13.9	4.8	8.7
その他	2.1	2.8	2.4	1.0
無回答	3.2	8.3	0.0	1.0

利用種類別では、一体型と比べて連携型で「緊急コールですぐに駆けつけてくれる」(66.7%)、「独居、高齢者世帯でも在宅生活ができる」(46.7%)、「柔軟なプランでサービスを受けられる」(40.0%)が高くなっている。一方、連携型と比べて一体型は「料金が定額である」(42.3%)が高くなっている。

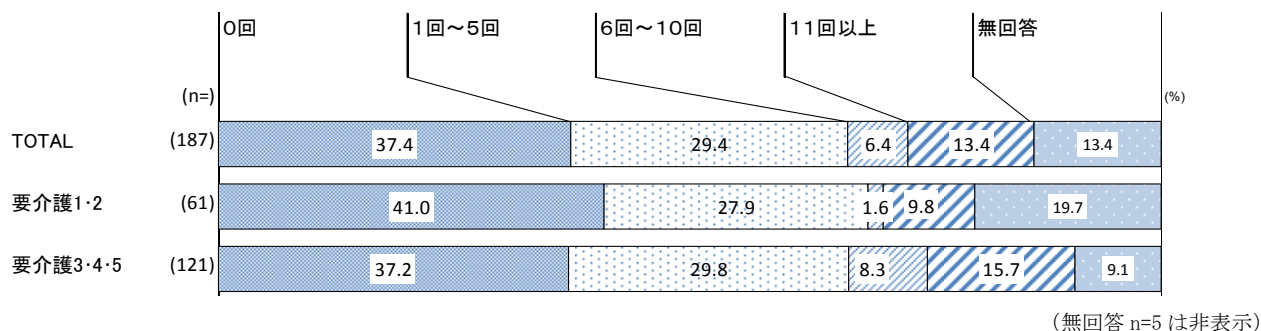
図表 2 (3) ①-9 定期巡回サービス・良いと感じるところ (複数回答、定期巡回・問 10)
【利用種類別】

利用種類別 (n=187)	TOTAL (n=187)	利用種類別 (無回答n=8非表示)		
		一体型 (n=104)	連携型 (n=45)	わからない (n=30)
緊急コールですぐに駆けつけてくれる	50.8	49.0	66.7	43.3
看護職員が定期的に訪問(アセスメント含む)してくれる	41.2	46.2	42.2	26.7
料金が定額である	34.8	42.3	24.4	30.0
独居、高齢者世帯でも在宅生活ができる	34.8	34.6	46.7	20.0
入院したり、施設に入所せず自宅で暮らせる	34.2	33.7	37.8	40.0
看護サービスが利用できる	28.9	32.7	26.7	20.0
24時間切れ目のないサービス	26.7	27.9	26.7	26.7
ケアマネジャーが変わらない	24.1	25.0	24.4	23.3
柔軟なプランでサービスを受けられる	22.5	16.3	40.0	20.0
定期巡回サービスだけで生活できる	12.3	14.4	11.1	3.3
入退院を繰り返していても在宅生活ができる	9.1	11.5	8.9	3.3
その他	2.1	1.9	2.2	0.0
無回答	3.2	1.9	0.0	6.7

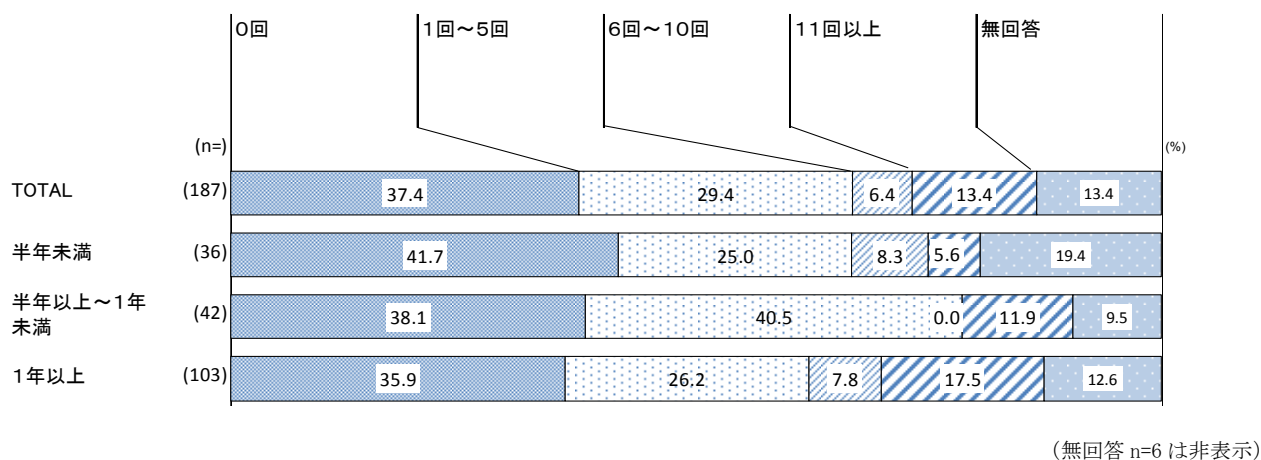
定期巡回サービスの「随時対応」、「随時訪問」の利用分布については、「0回」(37.4%)を除き、「1回～5回」が29.4%で最も多く、「11回以上」が13.4%と次いで多い。要介護度別では、要介護3・4・5で「11回以上」が15.7%と、要介護1・2の「11回以上」9.8%を上回っている。利用期間別では、1年以上利用者で「11回以上」が17.5%となっている。利用種類別では、連携型利用者で「11回以上」が22.2%となっている。

図表 2 (3)①-10 随時対応及び随時訪問・利用回数 (定期巡回・問16)

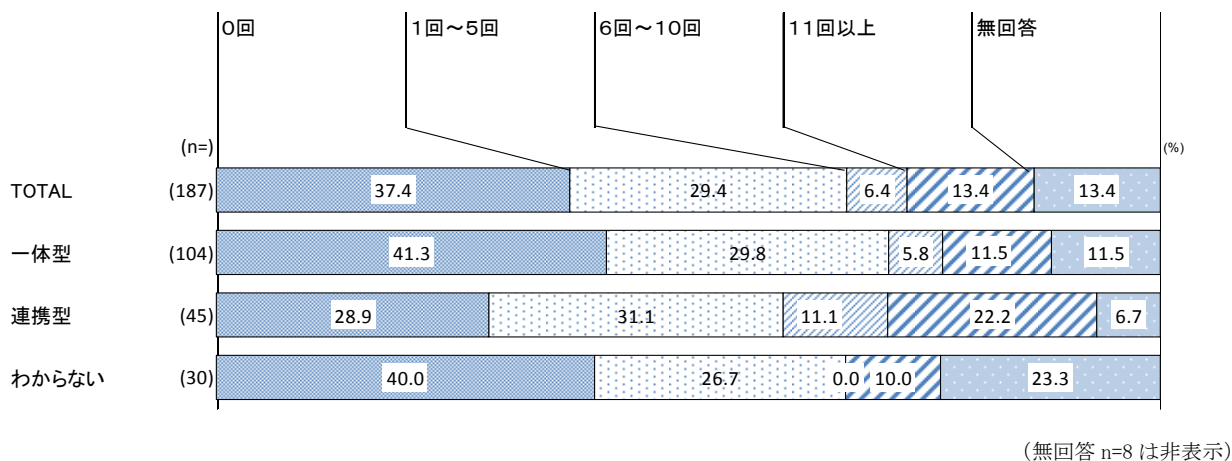
【要介護度別】



【利用期間別】



【利用種類別】

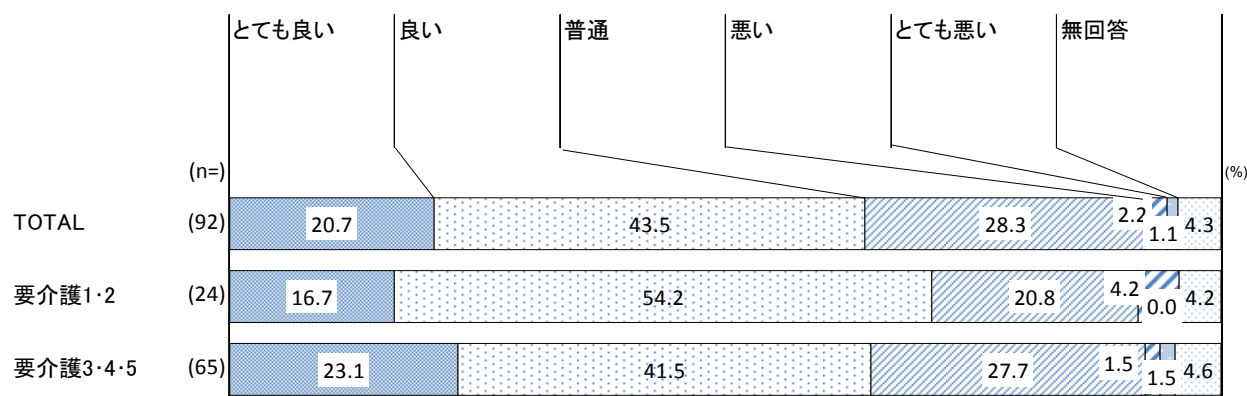


定期巡回サービスの「随時対応」、「随時訪問」のオペレーター対応については、『良い（「とても良い」及び「良い」の合計）』とする割合は64.2%、「普通」は28.3%となっている。

要介護度別では、要介護1・2では『良い』とする割合は、70.9%と要介護3・4・5（64.6%）を上回っている。利用期間別では、1年以上で『良い』とする割合は、69.8%となっている（サンプル少数のため参考値）。

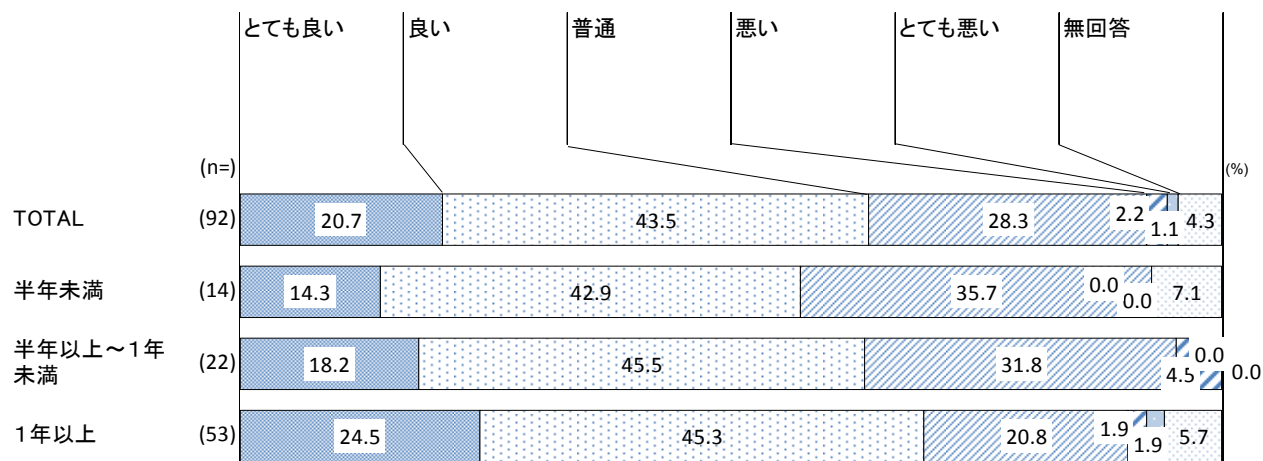
図表 2 (3)①-11 随時対応訪問・オペレーター対応（定期巡回・問18）

【要介護度別】



(無回答 n=3 は非表示)

【利用期間別】



(無回答 n=3 は非表示)

定期巡回サービスを利用する介護者の介護負担感については、「精神的なストレスがたまっている」が44.4%と最も多く、次いで「自分の用事・都合をすませることができない」、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」（ともに28.9%）となっている。

図表2 (3) ①-12 定期巡回サービス利用介護者の介護負担感（複数回答、定期巡回・問26）
【要介護度別】

		TOTAL (n=187)	要介護度別(無回答n=5非表示)	
(%)			要介護1・2 (n=61)	要介護3・4・5 (n=121)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	25.1	19.7	28.1
	本人に現在の状況を理解してもらえないのが難しい	27.8	26.2	28.9
	本人の言動が理解できないことがある	19.8	11.5	24.8
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	4.8	3.3	5.8
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	16.0	18.0	15.7
	症状への対応がわからない	12.3	8.2	14.9
	徘徊するため目が離せない	3.2	0.0	5.0
	他の家族等に介護を協力してもらえない	9.1	6.6	10.7
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	2.7	1.6	3.3
	日中、家を空けるのを不安に感じる	28.3	8.2	39.7
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	6.4	1.6	9.1
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	5.3	4.9	5.8
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	12.8	13.1	13.2
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	2.7	3.3	2.5
	サービス事業者との関係がうまくいかない	4.3	1.6	5.8
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.7	0.0	4.1
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	28.9	9.8	38.8
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	28.9	11.5	35.5
	精神的なストレスがたまっている	44.4	26.2	53.7
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	19.8	8.2	25.6
	自分の自由になる時間が持てない	27.3	9.8	36.4
	先々のことを考える余裕がない	16.6	9.8	19.8
	経済的につらいと感じるときがある	19.3	8.2	25.6
	仕事と介護の両立が困難	17.6	14.8	19.8
	家事と介護の両立が困難	15.5	13.1	17.4
	その他	1.6	0.0	2.5
特に困っていることはない	5.9	11.5	3.3	
無回答	21.9	34.4	15.7	

② 小規模多機能型居宅介護

利用前の介護サービスについては、「通所介護（デイサービス）」（39.5%）が最も多くなっている。一方、「利用していない」と回答した割合も36.4%となっている。

要介護度別では、「通所介護（デイサービス）」を利用していた人の割合は、要介護1～5は42.2%と要支援1・2の24.5%に比べて高くなっている。

図表2 (3)②-1 利用前の介護サービス（複数回答、小規模・看多機・問7）

【要介護度別】

介護サービス	TOTAL (n=473)	要介護度別（無回答等n=10非表示）	
		要支援1・2 (n=53)	要介護1～5 (n=410)
訪問介護	12.7	7.5	13.7
訪問入浴介護	3.6	0.0	4.1
訪問看護	6.6	0.0	7.6
訪問リハビリ	5.1	0.0	5.9
通所介護（デイサービス）	39.5	24.5	42.2
通所リハビリ	5.3	1.9	5.4
短期入所生活介護（ショートステイ）	13.3	9.4	13.9
福祉用具貸与（レンタル）	18.8	9.4	20.2
夜間対応型訪問介護	0.8	0.0	1.0
認知症対応型通所介護（認知症デイ）	5.1	0.0	5.9
その他	5.9	7.5	5.4
利用していない	36.4	49.1	34.9
無回答	2.5	3.8	1.7

【利用期間別】

介護サービス	TOTAL (n=473)	利用期間別（無回答n=10非表示）				
		半年未満 (n=43)	半年以上～ 1年未満 (n=75)	1年以上～ 1年半未満 (n=51)	1年半以上～ 2年未満 (n=65)	2年以上 (n=229)
訪問介護	12.7	16.3	21.3	9.8	4.6	12.2
訪問入浴介護	3.6	2.3	4.0	3.9	1.5	4.4
訪問看護	6.6	14.0	9.3	3.9	9.2	4.4
訪問リハビリ	5.1	9.3	12.0	3.9	3.1	3.1
通所介護（デイサービス）	39.5	51.2	37.3	29.4	43.1	39.7
通所リハビリ	5.3	7.0	4.0	3.9	4.6	5.7
短期入所生活介護（ショートステイ）	13.3	18.6	14.7	13.7	13.8	11.4
福祉用具貸与（レンタル）	18.8	37.2	28.0	5.9	15.4	16.6
夜間対応型訪問介護	0.8	0.0	2.7	2.0	0.0	0.4
認知症対応型通所介護（認知症デイ）	5.1	7.0	5.3	5.9	3.1	5.2
その他	5.9	9.3	5.3	5.9	3.1	6.6
利用していない	36.4	25.6	28.0	45.1	40.0	38.9
無回答	2.5	4.7	1.3	2.0	3.1	1.3

利用のきっかけについては、「ケアマネジャーから勧められて」(28.1%)が最も多く、次いで「サービス内容があっていたから」(26.6%)、「自宅のそばにあったから」(26.2%)となっている。

小規模多機能等の利用期間別でみると、2年以上の利用者は「自宅のそばにあったから」(28.8%)、「サービス内容があっていたから」(27.5%)が上位となっている。

図表 2 (3)②-2 利用のきっかけ（複数回答、小規模・看多機・問8）

【要介護度別】

利用のきっかけ (%)	TOTAL (n=473)	要介護度別(無回答等n=10非表示)	
		要支援1・2 (n=53)	要介護1～5 (n=410)
ケアマネジャーから勧められて	28.1	13.2	30.2
サービス内容があっていたから	26.6	17.0	28.5
自宅のそばにあったから	26.2	15.1	27.6
地域ケアプラザ・地域包括支援センターで勧められて	23.7	20.8	23.9
退院後の生活に不安があったから	18.6	17.0	19.0
見学をしてみても気に入ったから	18.6	15.1	19.5
医師・病院から勧められて	18.2	13.2	19.0
ご家族・友人から勧められて	14.0	24.5	12.9
以前のサービスが馴染まなかったから	4.0	5.7	3.9
以前利用していた事業所と同じ法人が運営している事業所だったから	4.0	1.9	4.4
利用していた事業所が小規模多機能等にサービスを転換したから	3.6	1.9	3.9
施設への入所待ちのため	1.9	0.0	2.2
ショートステイの空きがなかったから	0.4	0.0	0.5
その他	13.1	17.0	12.7
無回答	2.1	1.9	1.5

【利用期間別】

利用のきっかけ (%)	TOTAL (n=473)	利用期間別(無回答n=10非表示)				
		半年未満 (n=43)	半年以上～ 1年未満 (n=75)	1年以上～ 1年半未満 (n=51)	1年半以上～ 2年未満 (n=65)	2年以上 (n=229)
ケアマネジャーから勧められて	28.1	37.2	34.7	19.6	30.8	26.2
サービス内容があっていたから	26.6	20.9	26.7	21.6	33.8	27.5
自宅のそばにあったから	26.2	23.3	22.7	21.6	24.6	28.8
地域ケアプラザ・地域包括支援センターで勧められて	23.7	23.3	20.0	29.4	21.5	24.5
退院後の生活に不安があったから	18.6	16.3	26.7	19.6	20.0	16.6
見学をしてみても気に入ったから	18.6	18.6	20.0	23.5	23.1	16.6
医師・病院から勧められて	18.2	18.6	25.3	21.6	16.9	16.2
ご家族・友人から勧められて	14.0	9.3	13.3	19.6	12.3	14.0
以前のサービスが馴染まなかったから	4.0	9.3	4.0	2.0	1.5	3.9
以前利用していた事業所と同じ法人が運営している事業所だったから	4.0	4.7	4.0	0.0	6.2	4.4
利用していた事業所が小規模多機能等にサービスを転換したから	3.6	0.0	2.7	3.9	4.6	3.9
施設への入所待ちのため	1.9	7.0	0.0	0.0	3.1	1.3
ショートステイの空きがなかったから	0.4	2.3	0.0	0.0	0.0	0.4
その他	13.1	16.3	21.3	19.6	10.8	9.6
無回答	2.1	4.7	0.0	0.0	1.5	1.7

小規模多機能等の利用サービスについては、「通いサービス」が 84.4%と最も多く、次いで「宿泊サービス」(59.2%)、「訪問サービス」(34.2%)の順となっている。

小規模多機能等の利用期間別では、2年以上の利用者で「通いサービス」が 90.4%、「宿泊サービス」が 59.8%となっている。

図表 2 (3)②-3 利用サービス（複数回答、小規模・看多機・問10）

【要介護度別】

	TOTAL (n=473)	要介護度別(無回答等n=10非表示)	
		要支援1・2 (n=53)	要介護1~5 (n=410)
通いサービス	84.4	84.9	84.9
訪問サービス	34.2	45.3	32.9
宿泊サービス	59.2	39.6	62.0
看護サービス	26.8	22.6	27.6
無回答	1.1	3.8	0.5

【利用期間別】

	TOTAL (n=473)	利用期間別(無回答n=10非表示)				
		半年未満 (n=43)	半年以上~ 1年未満 (n=75)	1年以上~ 1年半未満 (n=51)	1年半以上~ 2年未満 (n=65)	2年以上 (n=229)
通いサービス	84.4	74.4	74.7	86.3	83.1	90.4
訪問サービス	34.2	41.9	30.7	27.5	24.6	37.1
宿泊サービス	59.2	65.1	61.3	58.8	55.4	59.8
看護サービス	26.8	30.2	24.0	29.4	27.7	26.2
無回答	1.1	2.3	1.3	0.0	1.5	0.0

小規模多機能等の今後の利用希望種類については、「通いサービス」が 55.2%と最も多く、次いで「宿泊サービス」(50.3%)、「訪問サービス」(33.2%)となっている。

利用期間別では、2年以上の利用者で「通いサービス」が 60.3%、「宿泊サービス」が 49.8%となっている。

図表 2 (3)②-4 小規模多機能等の今後の利用希望種類 (小規模・看多機・問11)

【要介護度別】

	TOTAL (n=473)	要介護度別(無回答等n=10非表示)	
		要支援1・2 (n=53)	要介護1~5 (n=410)
通いサービス	55.2	60.4	55.4
訪問サービス	33.2	37.7	33.2
宿泊サービス	50.3	32.1	53.4
看護サービス	32.3	17.0	35.1
無回答	14.8	15.1	13.7

【利用期間別】

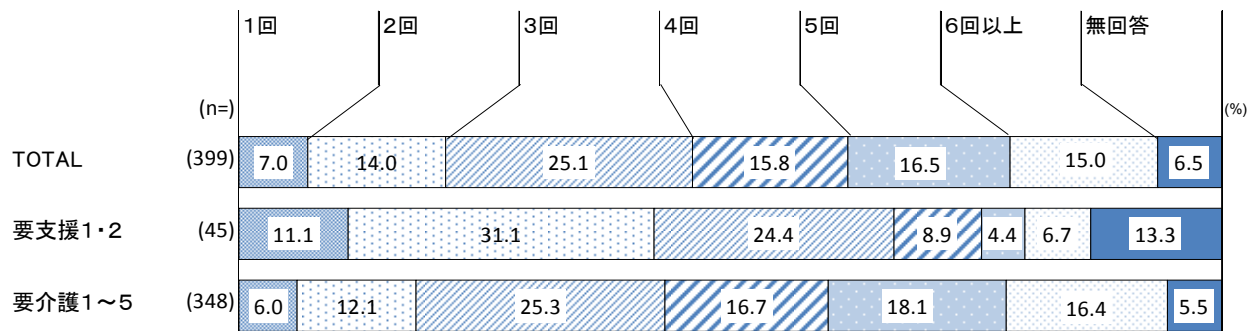
	TOTAL (n=473)	利用期間別(無回答n=10非表示)				
		半年未満 (n=43)	半年以上~ 1年未満 (n=75)	1年以上~ 1年半未満 (n=51)	1年半以上~ 2年未満 (n=65)	2年以上 (n=229)
通いサービス	55.2	48.8	46.7	58.8	49.2	60.3
訪問サービス	33.2	37.2	32.0	23.5	27.7	35.8
宿泊サービス	50.3	58.1	48.0	54.9	50.8	49.8
看護サービス	32.3	30.2	30.7	31.4	30.8	34.5
無回答	14.8	11.6	22.7	5.9	21.5	12.2

通いサービスの週当たりの利用回数については、「3回」が25.1%と最も多くなっている。次いで、「5回」が16.5%となっている。

要介護度別では、要介護1～5で週4回以上の利用が51.2%となっている。

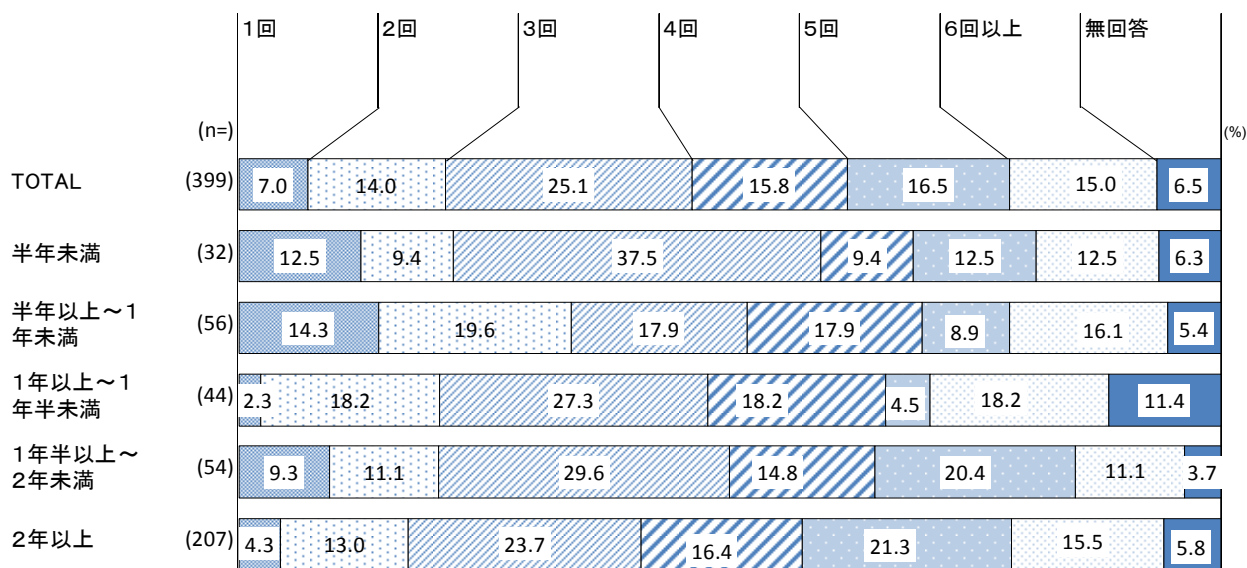
図表 2 (3) ②-5 通いサービス・週当たりの利用回数（小規模・看多機・問12）

【要介護度別】



(無回答等 n=6 は非表示)

【利用期間別】



(無回答 n=6 は非表示)

通いサービスの良いと感じることについては、「入浴できる」が 67.2%と最も多く、次いで「同じスタッフによる3つ（通い・訪問・宿泊）のサービスが利用できる」（55.9%）、「宿泊できる」（54.6%）の順となっている。

要介護度別では、要支援1・2と比べて要介護1～5で「入浴できる」（69.8%）や「同じスタッフによる3つ（通い・訪問・宿泊）のサービスが利用できる」（58.0%）、「宿泊できる」（57.2%）、「施設に入所せず自宅で暮らせる」（43.4%）、「複数のサービスが利用できる」（40.5%）が特に高くなっている。

利用期間別では、2年以上の利用者で「施設に入所せず自宅で暮らせる」が 47.8%と多くなっている。

図表 2 (3) ②-6 通いサービス・良いと感じること（複数回答、小規模・看多機・問9）

【要介護度別】

項目 (%)	TOTAL (n=399)	要介護度別(無回答等n=6非表示)	
		要支援1・2 (n=45)	要介護1～5 (n=348)
入浴できる	67.2	51.1	69.8
同じスタッフによる3つ(通い・訪問・宿泊)のサービスが利用できる	55.9	44.4	58.0
宿泊できる	54.6	37.8	57.2
雰囲気が家庭的である	45.4	46.7	45.7
施設に入所せず自宅で暮らせる	42.1	31.1	43.4
複数のサービスが利用できる	38.8	26.7	40.5
料金が定額である	30.3	24.4	31.3
好きな時に通いサービスを利用できる	22.6	22.2	22.7
時間に拘束されずに通いサービスを利用できる	21.6	22.2	21.3
随時自宅に訪問してもらえる	18.3	17.8	18.7
地域の人との交流が持てる	13.0	13.3	13.2
その他	6.5	0.0	7.5
無回答	2.5	4.4	1.7

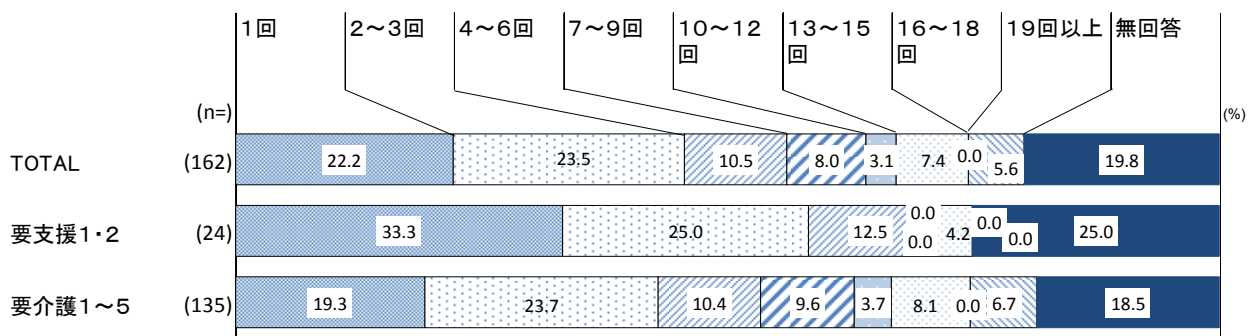
【利用期間別】

項目 (%)	TOTAL (n=399)	利用期間別(無回答n=6非表示)				
		半年未満 (n=32)	半年以上～ 1年未満 (n=56)	1年以上～ 1年半未満 (n=44)	1年半以上～ 2年未満 (n=54)	2年以上 (n=207)
入浴できる	67.2	68.8	67.9	75.0	64.8	66.7
同じスタッフによる3つ(通い・訪問・宿泊)のサービスが利用できる	55.9	62.5	55.4	54.5	57.4	56.0
宿泊できる	54.6	59.4	51.8	50.0	51.9	57.5
雰囲気が家庭的である	45.4	53.1	46.4	50.0	48.1	42.5
施設に入所せず自宅で暮らせる	42.1	43.8	30.4	40.9	35.2	47.8
複数のサービスが利用できる	38.8	34.4	39.3	38.6	38.9	39.6
料金が定額である	30.3	31.3	17.9	43.2	24.1	33.3
好きな時に通いサービスを利用できる	22.6	28.1	25.0	20.5	25.9	20.8
時間に拘束されずに通いサービスを利用できる	21.6	21.9	23.2	15.9	20.4	23.2
随時自宅に訪問してもらえる	18.3	18.8	12.5	31.8	18.5	16.9
地域の人との交流が持てる	13.0	12.5	7.1	4.5	7.4	17.9
その他	6.5	6.3	10.7	13.6	5.6	3.9
無回答	2.5	0.0	3.6	2.3	0.0	2.4

訪問サービスの週当たりの利用回数については、「2～3回」(23.5%)が最も多く、次いで「1回」(22.2%)、「4～6回」が10.5%となっている。

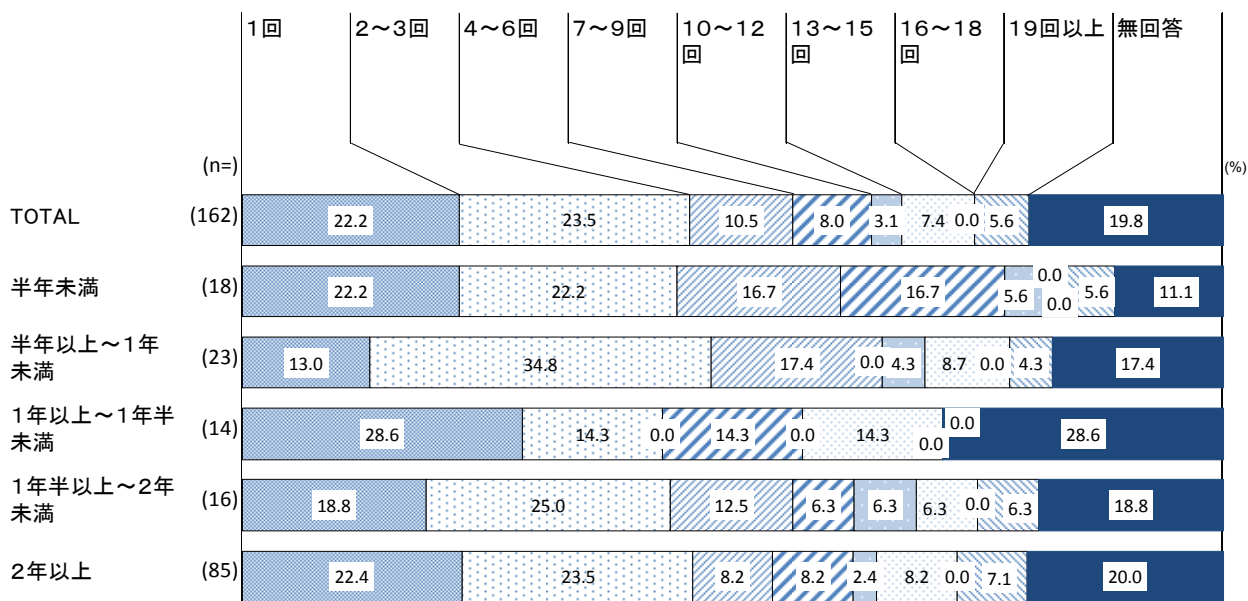
図表 2 (3) ②-7 訪問サービス・週当たりの利用回数 (小規模・看多機・問 16)

【要介護度別】



(無回答等n=3は非表示)

【利用期間別】

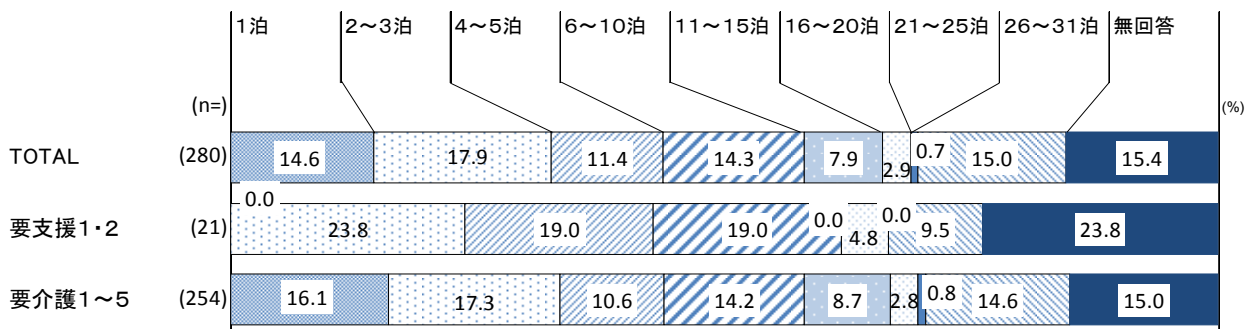


(無回答n=6は非表示)

宿泊サービスの月当たりの利用宿泊数については、「2～3泊」が17.9%と最も多く、次いで、「26～31泊」(15.0%)、「1泊」(14.6%)となっている。

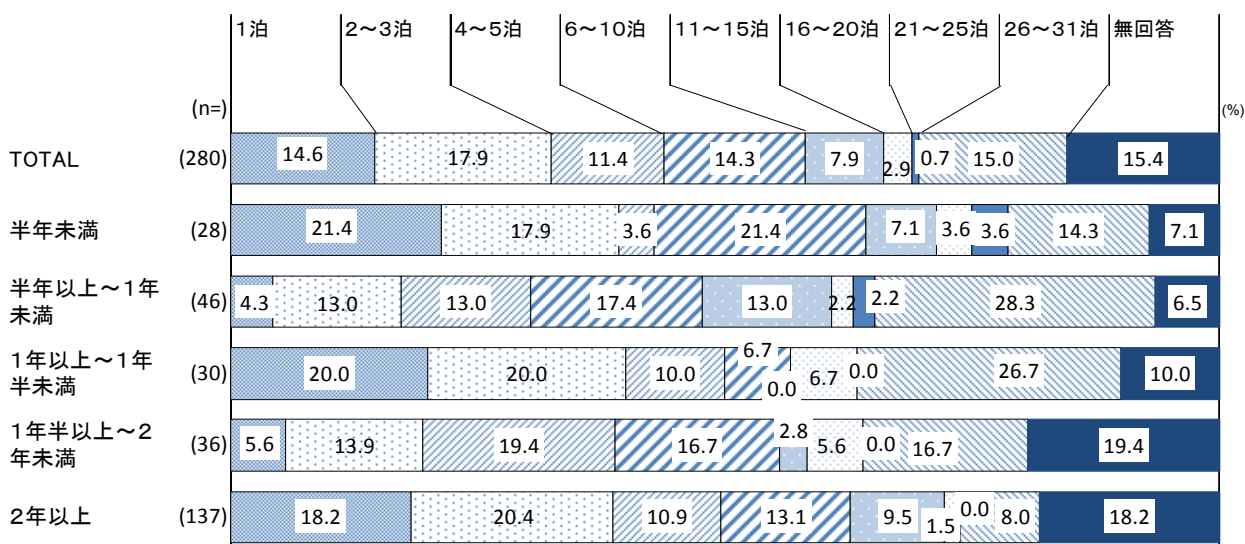
図表 2 (3)②-8 宿泊サービス・月当たりの利用宿泊数 (小規模・看多機・問 19)

【要介護度別】



(無回答等n=5は非表示)

【利用期間別】



(無回答n=3は非表示)

小規模多機能等を利用している介護者の介護負担感については、「精神的なストレスがたまっている」が 46.2%と最も多く、次いで「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」(41.6%)、「日中、家を空けるのを不安に感じる」(35.4%)となっている。

要介護度別では、要介護1～5では「精神的なストレスがたまっている」が 47.7%、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」が 43.8%、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 36.3%、「自分の用事・都合をすませることができない」が 35.8%、「本人の言動が理解できない」が 35.0%となっており、要支援1・2の割合をそれぞれ大きく上回っている。

図表 2 (3)②-9 小規模多機能等利用介護者の介護負担感（複数回答、小規模・看多機・問 31）

【要介護度別】

		TOTAL (n=418)	要介護度別(無回答等n=6非表示)	
			要支援1・2 (n=35)	要介護1～5 (n=377)
	(%)			
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	30.4	25.7	30.8
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	41.6	22.9	43.8
	本人の言動が理解できないことがある	32.8	11.4	35.0
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	4.5	5.7	4.2
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	19.1	11.4	19.9
	症状への対応がわからない	14.8	5.7	15.6
	徘徊するため目が離せない	11.2	5.7	11.9
	他の家族等に介護を協力してもらえない	17.2	14.3	17.8
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	5.5	0.0	5.8
	日中、家を空けるのを不安に感じる	35.4	25.7	36.3
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	10.0	2.9	10.6
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	1.4	0.0	1.6
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	11.2	8.6	11.4
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	5.5	5.7	5.6
	サービス事業者との関係がうまくいかない	1.9	5.7	1.6
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	3.1	2.9	3.2
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	34.2	20.0	35.8
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	32.8	22.9	34.0
	精神的なストレスがたまっている	46.2	31.4	47.7
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	23.2	17.1	23.9
	自分の自由になる時間が持てない	31.8	28.6	32.4
	先々のことを考える余裕がない	23.7	11.4	24.9
	経済的につらいと感じるときがある	17.2	11.4	17.2
	仕事と介護の両立が困難	23.0	17.1	23.6
	家事と介護の両立が困難	13.6	8.6	14.3
	その他	4.5	2.9	4.5
特に困っていることはない	6.2	11.4	5.8	
無回答	12.2	28.6	10.6	

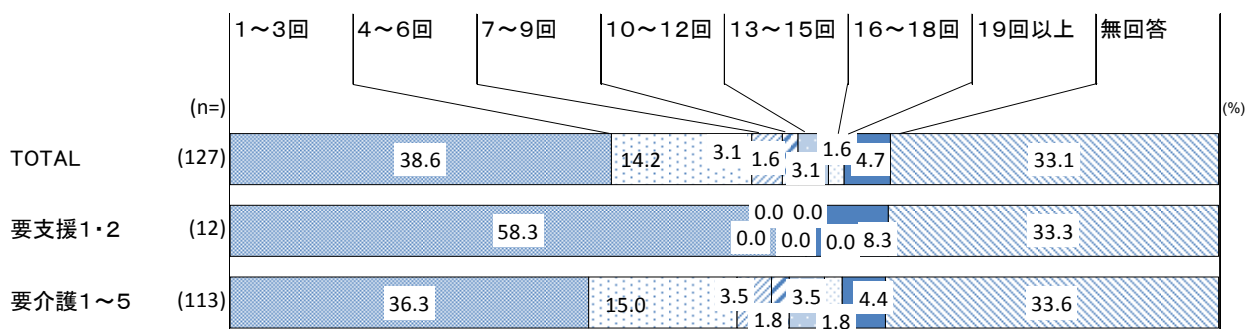
③ 看護小規模多機能型居宅介護

看護サービスの週当たりの利用回数は、要介護1～5では、「1～3回」が36.3%と最も多く、次いで「4～6回」が15.0%となっている。サンプル数が少数であるが、要支援1・2では「1～3回」が58.3%と半数を超えている。

利用期間別では、2年以上では「1～3回」が30.0%と最も多く、次いで「4～6回」が21.7%となっている。

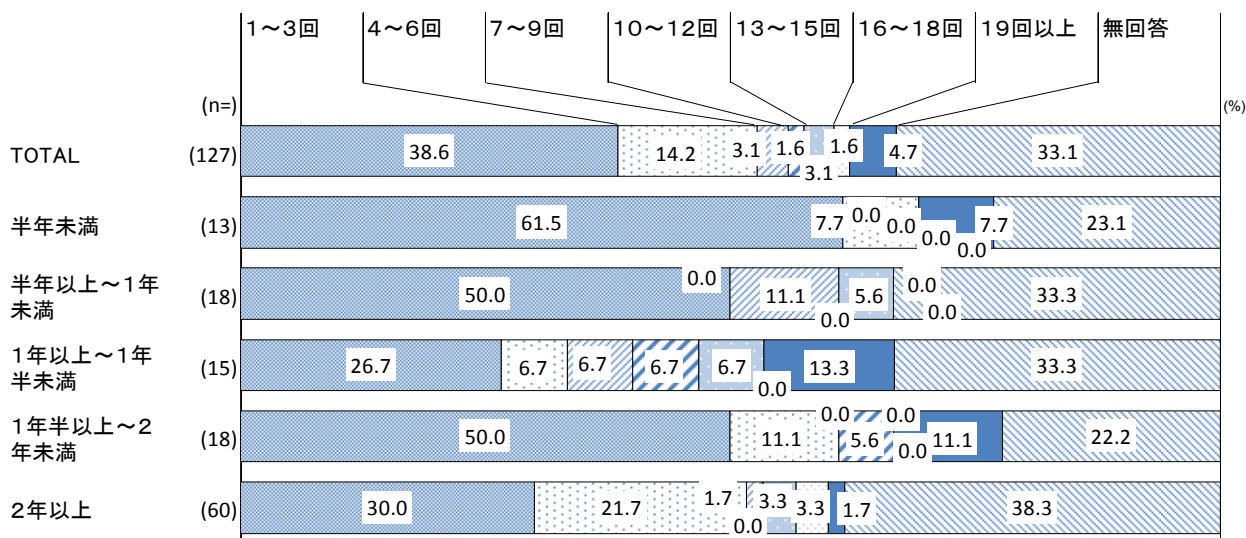
図表2(3)③-1 看護サービス・週当たりの利用回数（小規模・看多機・問24）

【要介護度別】



(無回答等n=2は非表示)

【利用期間別】



(無回答n=3は非表示)

看護サービスの利用種類については、「日常の健康管理（脈拍・血圧測定・検温など）」（74.0%）が最も多く、次いで「服薬管理・介助」（44.1%）、「日常の保健指導（熱中症対策・インフルエンザ予防など）」（34.6%）となっている。

図表 2 (3) ③-2 看護サービス・利用種類（複数回答、小規模・看多機・問 25）

【要介護度別】

	TOTAL (n=127)	要介護度別（無回答等n=2非表示）	
		要支援1・2 (n=12)	要介護1～5 (n=113)
日常の健康管理（脈拍・血圧測定・検温など）	74.0	50.0	76.1
服薬管理・介助	44.1	25.0	46.9
日常の保健指導（熱中症対策・インフルエンザ予防など）	34.6	25.0	36.3
その他かかりつけ医の指示に基づく医療処置	22.8	33.3	22.1
認知症への対応	22.0	0.0	24.8
経管栄養管理	11.0	0.0	12.4
褥瘡の処置	10.2	0.0	11.5
在宅でのリハビリテーション（拘縮予防・機能回復・嚥下機能訓練など）	7.9	0.0	8.8
ターミナルケア	3.1	0.0	3.5
在宅酸素療法	2.4	0.0	2.7
人工肛門または人口膀胱の処置	2.4	0.0	2.7
人工呼吸器管理	0.0	0.0	0.0
その他	7.9	0.0	8.8
無回答	11.8	25.0	10.6

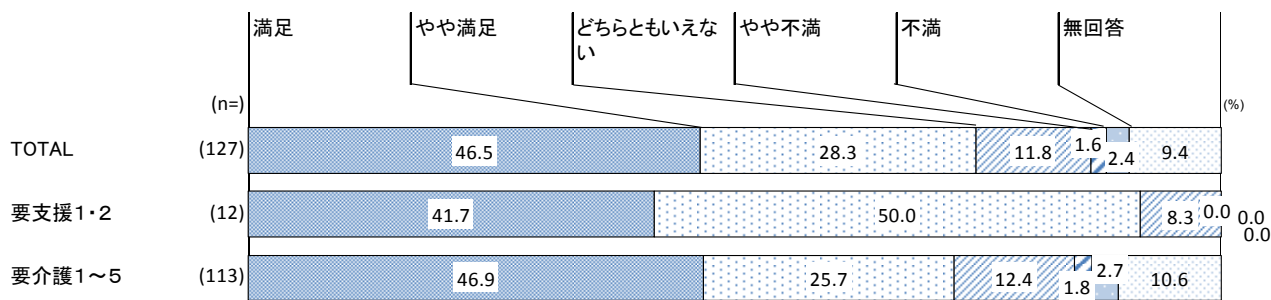
【利用期間別】

	TOTAL (n=127)	要介護度別（無回答n=3非表示）				
		半年未満 (n=13)	半年以上～ 1年未満 (n=18)	1年以上～1年半 未満 (n=15)	1年半以上～ 2年未満 (n=18)	2年以上 (n=60)
日常の健康管理（脈拍・血圧測定・検温など）	74.0	84.6	88.9	66.7	61.1	73.3
服薬管理・介助	44.1	38.5	50.0	53.3	27.8	45.0
日常の保健指導（熱中症対策・インフルエンザ予防など）	34.6	69.2	50.0	26.7	22.2	26.7
その他かかりつけ医の指示に基づく医療処置	22.8	15.4	44.4	20.0	11.1	21.7
認知症への対応	22.0	30.8	22.2	6.7	16.7	25.0
経管栄養管理	11.0	23.1	5.6	20.0	0.0	10.0
褥瘡の処置	10.2	7.7	5.6	13.3	5.6	13.3
在宅でのリハビリテーション（拘縮予防・機能回復・嚥下機能訓練など）	7.9	7.7	11.1	6.7	11.1	5.0
ターミナルケア	3.1	7.7	5.6	0.0	0.0	3.3
在宅酸素療法	2.4	15.4	5.6	0.0	0.0	0.0
人工肛門または人口膀胱の処置	2.4	0.0	11.1	0.0	5.6	0.0
人工呼吸器管理	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.9	15.4	11.1	6.7	5.6	6.7
無回答	11.8	0.0	5.6	20.0	5.6	15.0

看護サービスの利用満足度は、『満足（「満足」と「やや満足」の合計）』は、74.8%となっている。
 利用期間別では、2年以上では『満足』は、70.0%となっている。

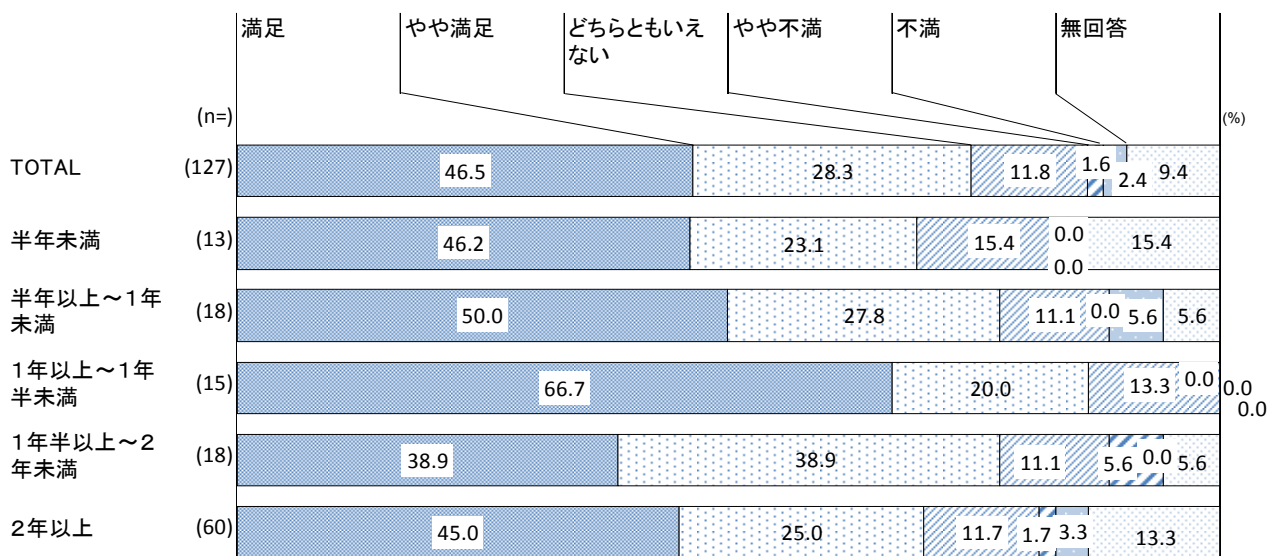
図表 2 (3) ③-3 看護サービス・利用満足度（小規模・看多機・問 26）

【要介護度別】



(無回答等 n=2 は非表示)

【利用期間別】



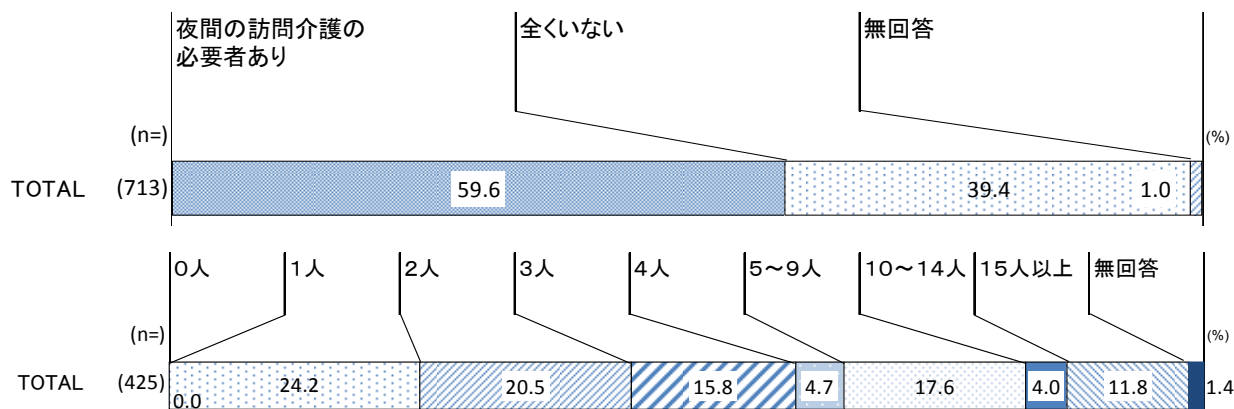
(無回答 n=3 は非表示)

④ 居宅介護支援事業所

居宅介護支援事業所の利用者のうち、夜間の訪問介護利用が必要と思われる要介護者の利用状況については、「夜間の訪問介護の利用の必要あり」が59.6%、「全くいない」が39.4%となっている。

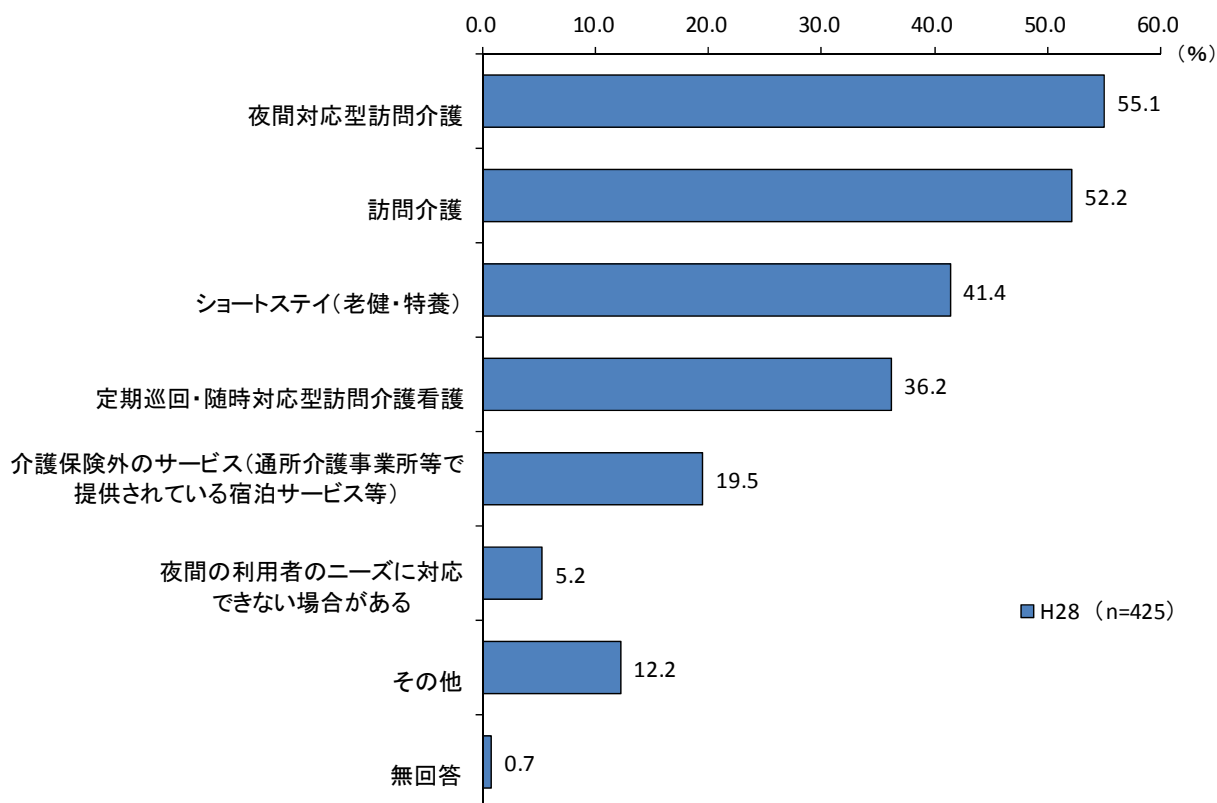
また、居宅介護支援事業所あたりの利用者数は、「1人」が24.2%、「2人」が20.5%、「5～9人」が17.6%となっている。

図表 2 (3) ④-1 夜間訪問介護必要者の利用状況と人数 (居宅介護支援・問 14)



現在のサービス利用状況については、「夜間対応型訪問介護」が55.1%と最も多く、次いで「訪問介護」(52.2%)、「ショートステイ(老健・特養)」(41.4%)となっている。

図表 2 (3) ④-2 現在のサービス利用状況 (複数回答、居宅介護支援・問 14-1)



(4) 介護者による介護

① 主な介護者

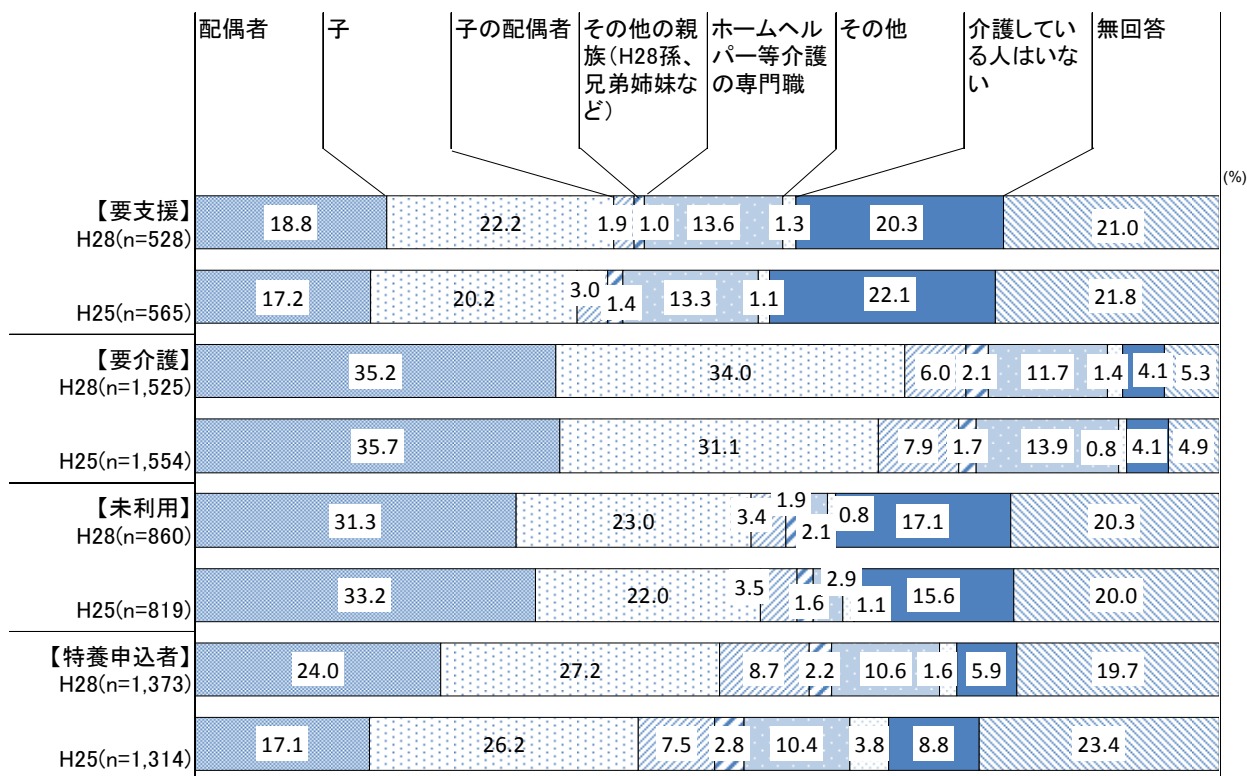
主に介護をしている人について、要支援では「子」(22.2%)、「配偶者」(18.8%)と合わせて約4割となっている。一方、「介護している人はいない」(20.3%)、「無回答」(21.0%)等の主に介護をしている人がいないと思われる方も合わせて4割にのぼっている。

要介護では、「子」(34.0%)、「配偶者」(35.2%)と両者計で約7割となっており、前回(平成25年)に比べて「子」の割合が若干高くなっている(前回31.1%)。

未利用では、「子」に比べて「配偶者」の割合が高く、「配偶者」が31.3%、「子」が23.0%となっている。また、「介護している人はいない」も17.1%となっている。

特養申込者では、「子」が27.2%、「配偶者」が24.0%となっているほか、「子の配偶者」も8.7%となっている。

図表2(4)① 主に介護をしている人(時系列)



② 介護者の年齢・健康状態

要支援者を主に介護している人の年齢構成については、「50 歳代」が最も多く、22.3%となっている。また、75 歳以上の後期高齢者は 31.9%となっている。

図表 2 (4)②-1 主に介護をしている人の年齢（要支援・問 45-1）

【要介護度別】

		主に介護をしている人の年齢									
		(n=)	50歳未満	50歳代	60歳	65歳	70歳	75歳	80歳	85歳以上	無回答
要介護度別	TOTAL	238	9.7	22.3	9.2	9.7	10.9	10.9	11.8	9.2	6.3
	要支援1	83	9.6	16.9	7.2	12.0	10.8	12.0	12.0	13.3	6.0
	要支援2	129	10.9	23.3	10.9	7.8	12.4	10.9	10.9	7.0	6.2

(無回答等n=26は非表示)

要介護者を主に介護している人の年齢構成については、「50 歳代」が最も多く、19.9%となっている。また、75 歳以上の後期高齢者は 32.2%となっている。

75～79 歳の要介護者を主に介護している人の年齢構成については、後期高齢者(75 歳以上)は 44.1%、80～84 歳を主に介護している人の年齢構成については、後期高齢者 (75 歳以上) は 49.4%となっている。

図表 2 (4)②-2 主に介護をしている人の年齢 (要介護・問 21-1)

【要介護度別】

		主に介護をしている人の年齢									
		(n=)	50歳未満	50歳代	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳以上	無回答
要介護度別	(%) TOTAL	1,202	5.8	19.9	12.8	15.9	11.5	10.7	13.6	7.9	1.9
	要介護1	242	6.6	25.2	9.1	10.7	9.9	8.7	17.8	11.6	0.4
	要介護2	479	5.4	19.6	14.2	15.9	10.9	10.9	12.3	8.1	2.7
	要介護3	221	6.8	17.2	14.5	17.2	12.2	8.1	15.4	6.3	2.3
	要介護4	132	3.8	16.7	15.2	19.7	13.6	16.7	7.6	6.1	0.8
	要介護5	102	5.9	19.6	8.8	20.6	15.7	13.7	11.8	3.9	0.0

(無回答 n=26 は非表示)

【要介護者の年齢別】

		主に介護をしている人の年齢									
		(n=)	50歳未満	50歳代	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳以上	無回答
要介護者の年齢別	(%) TOTAL	1,202	5.8	19.9	12.8	15.9	11.5	10.7	13.6	7.9	1.9
	70歳未満	59	11.9	5.1	28.8	42.4	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	70～74歳	103	10.7	2.9	1.9	25.2	32.0	16.5	8.7	1.0	1.0
	75～79歳	186	10.8	10.2	1.6	7.0	25.3	31.2	11.3	1.6	1.1
	80～84歳	261	5.0	30.7	5.4	1.1	5.0	13.8	29.1	6.5	3.4
	85歳以上	585	3.1	22.6	20.0	21.2	6.5	3.1	9.2	12.5	1.9

(無回答 n=8 は非表示)

未利用者を主に介護している人の年齢構成については、「50 歳代」が最も多く、21.0%となっている。また、75 歳以上の後期高齢者は 36.5%となっている。

要介護度別では、要支援 1・2、要介護 1・2 とも、「50 歳代」が最も多く、22.1%、23.9%である。75 歳以上の割合は、要支援 1・2 で 37.9%、要介護 1・2 で 32.0%である。

要介護 3・4・5 では、「50 歳代」は 14.0%で 1 割台に対し、75 歳以上の割合が 38.0%となっている。

図表 2 (4)②-3 主に介護をしている人の年齢（未利用・問 21-1）

【要介護度別】

		主に介護をしている人の年齢									
		(%)	(n=)	50歳未満	50歳代	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳以上
要介護度別	TOTAL	520	8.7	21.0	9.4	9.0	10.8	14.6	14.8	7.1	4.6
	要支援1・2	272	8.8	22.1	8.1	7.4	9.9	16.2	15.4	6.3	5.9
	要介護1・2	159	7.5	23.9	14.5	8.8	11.9	9.4	15.7	6.9	1.3
	要介護3・4・5	50	10.0	14.0	6.0	16.0	10.0	24.0	6.0	8.0	6.0

(無回答 n=39 は非表示)

特養申込者を主に介護している人の年齢構成については、「50 歳代」が最も多く、19.3%となっている。また、75 歳以上の後期高齢者は 29.2%となっている。

要介護度別では、要介護 2 で「65～69 歳」が最も多く、24.4%である。要介護 3 以上は「50 歳代」が最も多く、2 割前後となっている。

図表 2 (4)②-4 主に介護をしている人の年齢（特養申込者・問 15-1）

【要介護度別】

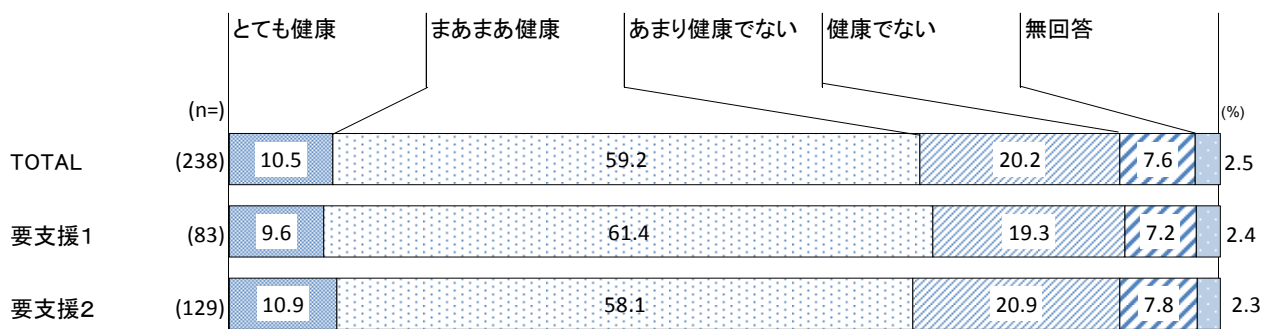
		主に介護をしている人の年齢									
		(%)	(n=)	50歳未満	50歳代	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳以上
要介護度別	TOTAL	876	6.5	19.3	15.2	17.9	9.9	12.0	11.0	6.2	2.1
	要介護1	36	8.3	19.4	16.7	11.1	5.6	13.9	19.4	0.0	5.6
	要介護2	82	3.7	12.2	13.4	24.4	11.0	11.0	9.8	12.2	2.4
	要介護3	291	6.2	19.9	15.8	19.2	9.3	11.0	11.7	5.8	1.0
	要介護4	281	7.1	20.3	17.4	16.0	9.3	11.4	10.7	5.7	2.1
	要介護5	178	6.7	20.2	11.8	16.9	11.8	15.2	9.0	5.6	2.8

(無回答 n=8 は非表示)

要支援者を主に介護している人の健康状態については、「まあまあ健康」が 59.2%と最も多く、次いで「あまり健康でない」が 20.2%となっている。『健康（「とても健康」及び「まあまあ健康」の合計）』との回答は 69.7%、『健康でない（「あまり健康でない」及び「健康でない」の合計）』との回答は 27.8%となっている。

図表 2 (4)②-5 主に介護をしている人の健康状態（要支援・問 48）

【要介護度別】



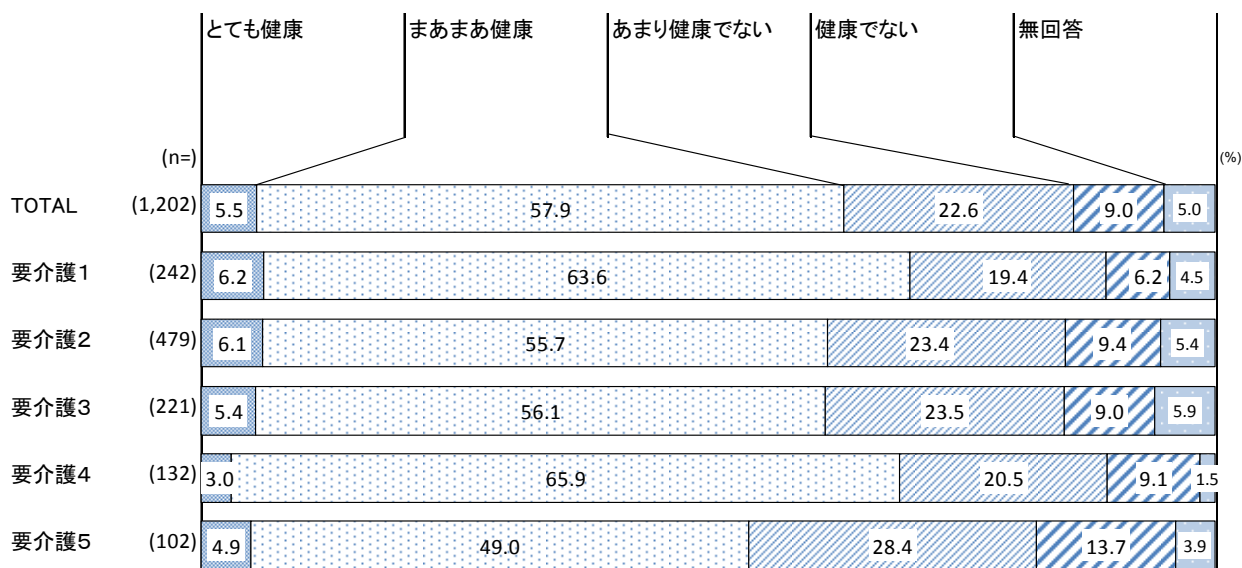
(無回答等 n=26 は非表示)

要介護者を主に介護している人の健康状態については、「まあまあ健康」が 57.9%と最も多く、次いで「あまり健康でない」が 22.6%となっている。『健康（「とても健康」及び「まあまあ健康」の合計）』との回答は 63.4%、『健康でない（「あまり健康でない」及び「健康でない」の合計）』との回答は 31.6%となっている。

要介護5の人を主に介護している人では、『健康』であるのは 53.9%にとどまり、『健康でない』が 42.1%となっている。

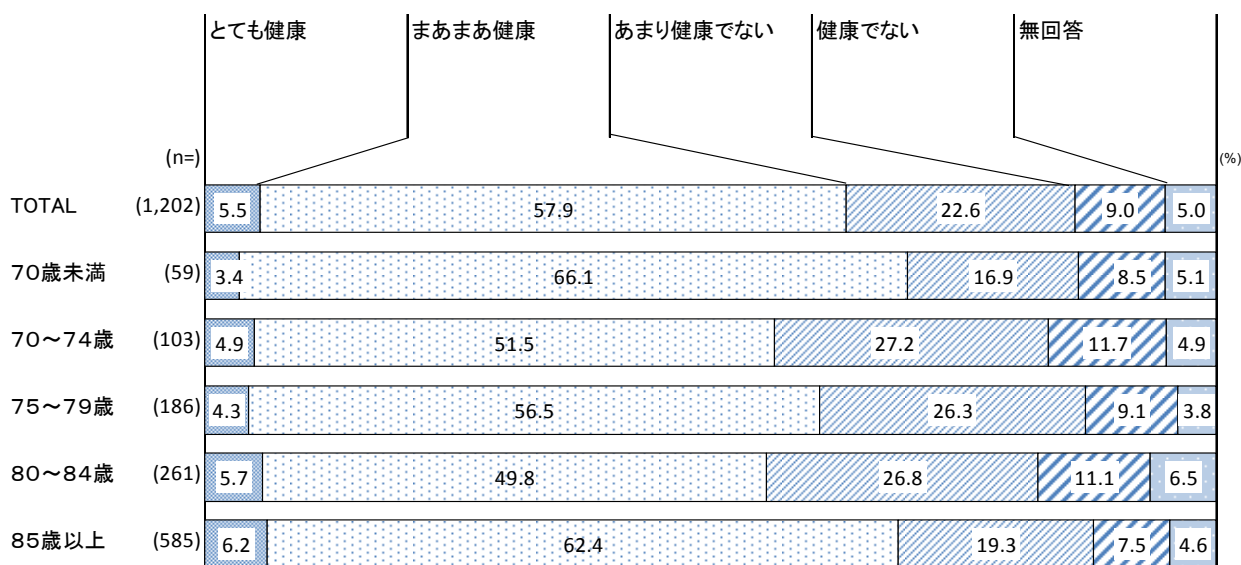
図表 2 (4)②-6 主に介護をしている人の健康状態（要介護・問 29）

【要介護度別】



(無回答 n=26 は非表示)

【要介護者の年齢別】

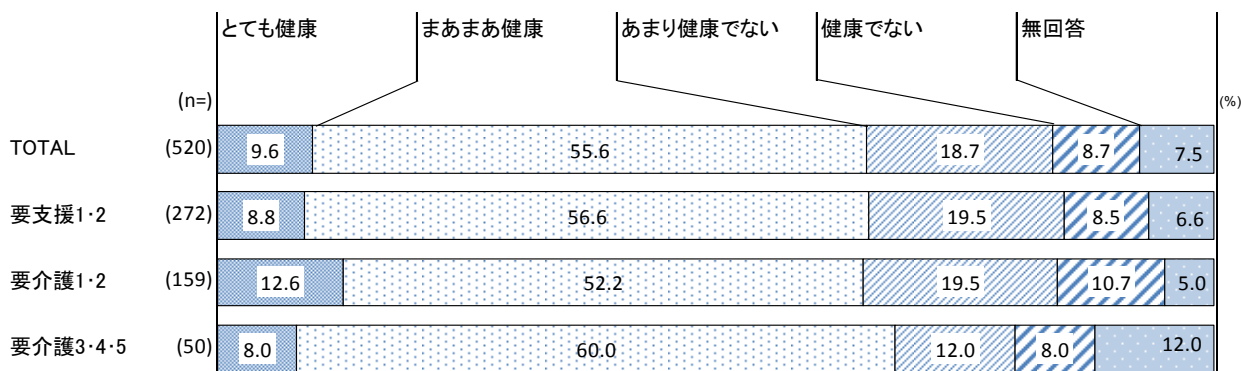


(無回答 n=8 は非表示)

未利用者を主に介護している人の健康状態については、『健康（「とても健康」及び「まあまあ健康」の合計）』との回答は65.2%、『健康でない（「あまり健康でない」及び「健康でない」の合計）』との回答は27.4%となっている。要介護度別では、『健康でない』が要介護1・2の人を主に介護している人で30.2%、要支援1・2で28.0%となっている。

図表 2 (4)②-7 主に介護をしている人の健康状態（未利用・問 29）

【要介護度別】



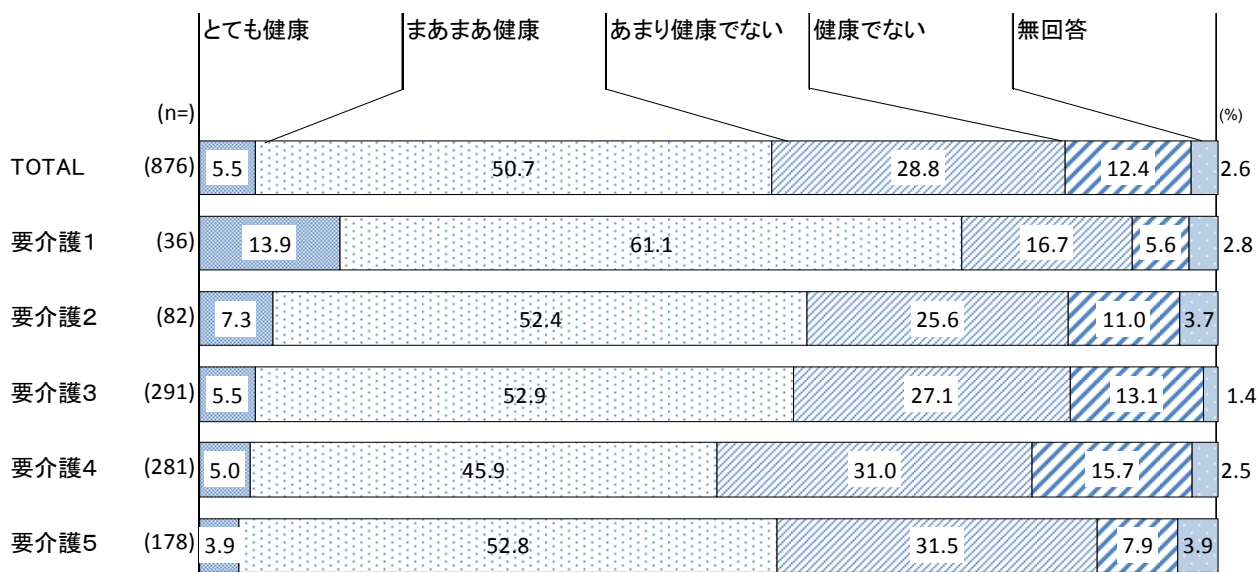
(無回答 n=39 は非表示)

特養申込者を主に介護している人の健康状態については、『健康（「とても健康」及び「まあまあ健康」の合計）』との回答は56.2%、『健康でない（「あまり健康でない」及び「健康でない」の合計）』との回答は41.2%となっている。

要介護度別では、要介護4を主に介護している人では、『健康』は50.9%に対し、『健康でない』は46.7%と、健康でないとする割合が4割を超えている。

図表 2 (4)②-8 主に介護をしている人の健康状態（特養申込者・問 22）

【要介護度別】



(無回答 n=8 は非表示)

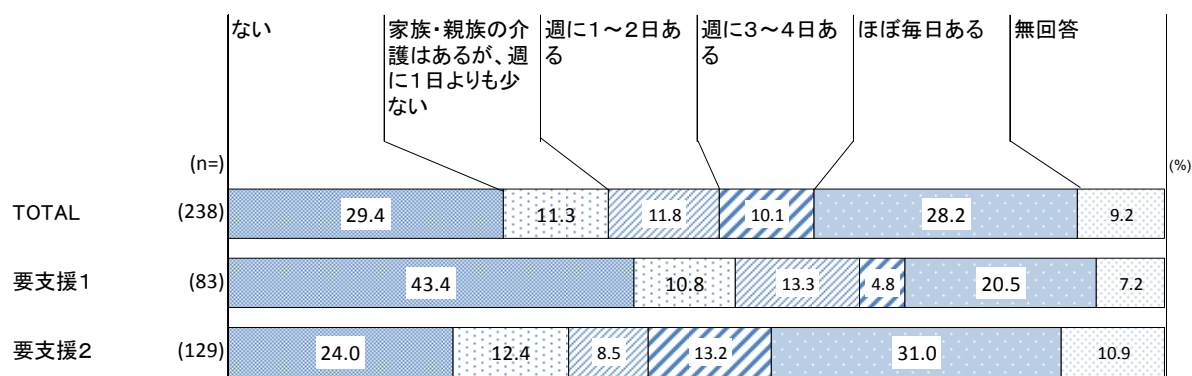
③ 一日当たりの介護時間

要支援者を主に介護している人の介護時間は、「ない」(29.4%)が最も多く、次いで「ほぼ毎日ある」(28.2%)となっている。

要介護度別では、要支援1では「ない」が43.4%であるのに対し、要支援2では「ほぼ毎日ある」が31.0%となっている。

図表2(4)③-1 主に介護をしている人から介護を受ける頻度(要支援・問49)

【要介護度別】



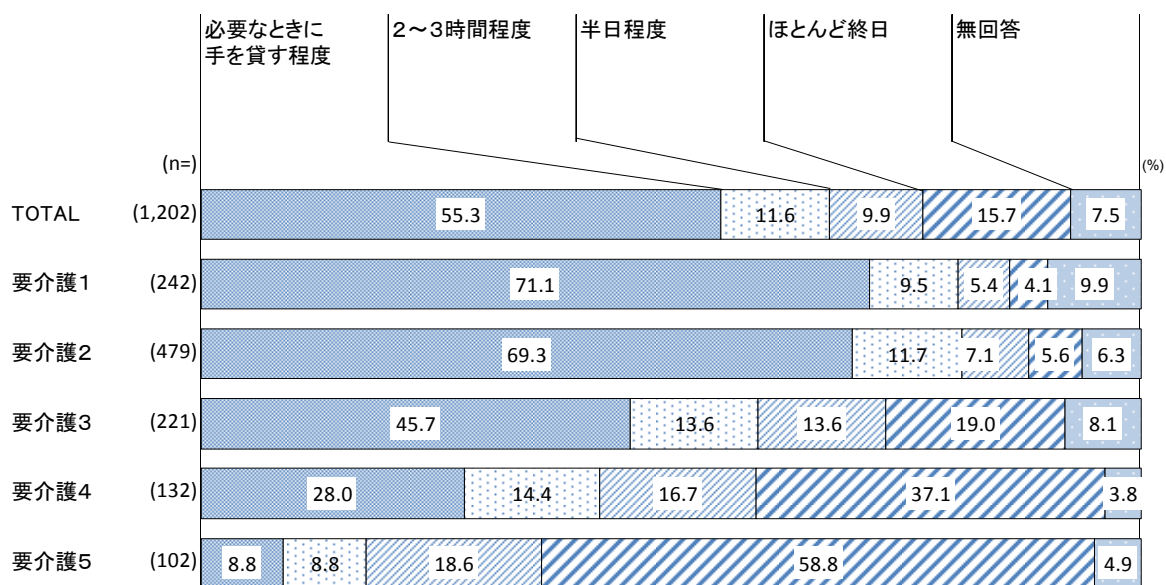
(無回答等 n=26 は非表示)

要介護者を主に介護している人の一日当たりの介護時間は、「必要なときに手を貸す程度」が最も多く、55.3%となっている。

要介護1・2の軽度では、7割前後が「必要なときに手を貸す程度」となっているが、要介護4・5の重度では「ほとんど終日」の割合が高くなっており、要介護4では37.1%、要介護5では58.8%を占めている。

図表2(4)③-2 一日当たりの介護時間(要介護・問24)

【要介護度別】



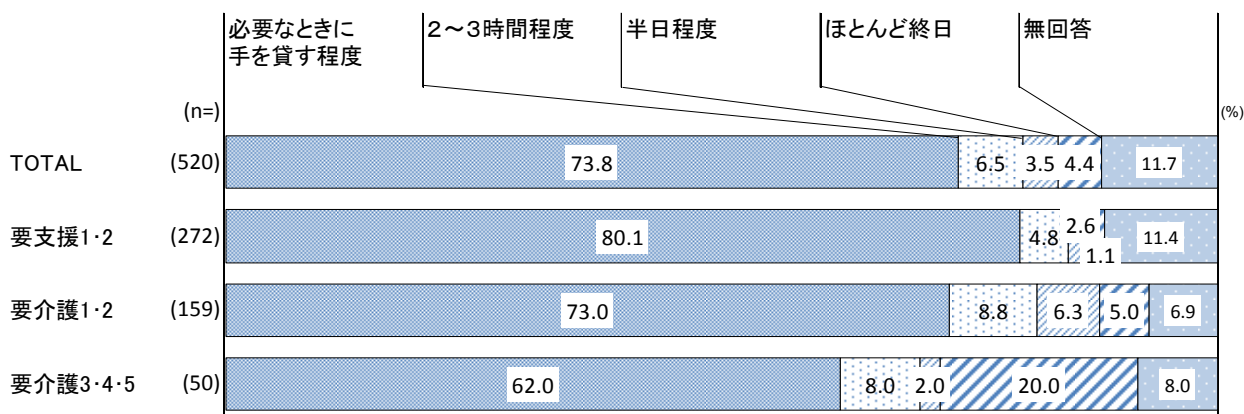
(無回答 n=26 は非表示)

未利用者を主に介護している人の一日当たりの介護時間は、「必要なときに手を貸す程度」が最も多く、73.8%となっている。

要介護度別では、要支援1・2、要介護1・2の軽度では、7～8割が「必要なときに手を貸す程度」となっているが、要介護3・4・5の中・重度では「ほとんど終日」の割合が高く、20.0%となっている。

図表 2 (4)③-3 一日当たりの介護時間（未利用・問 24）

【要介護度別】



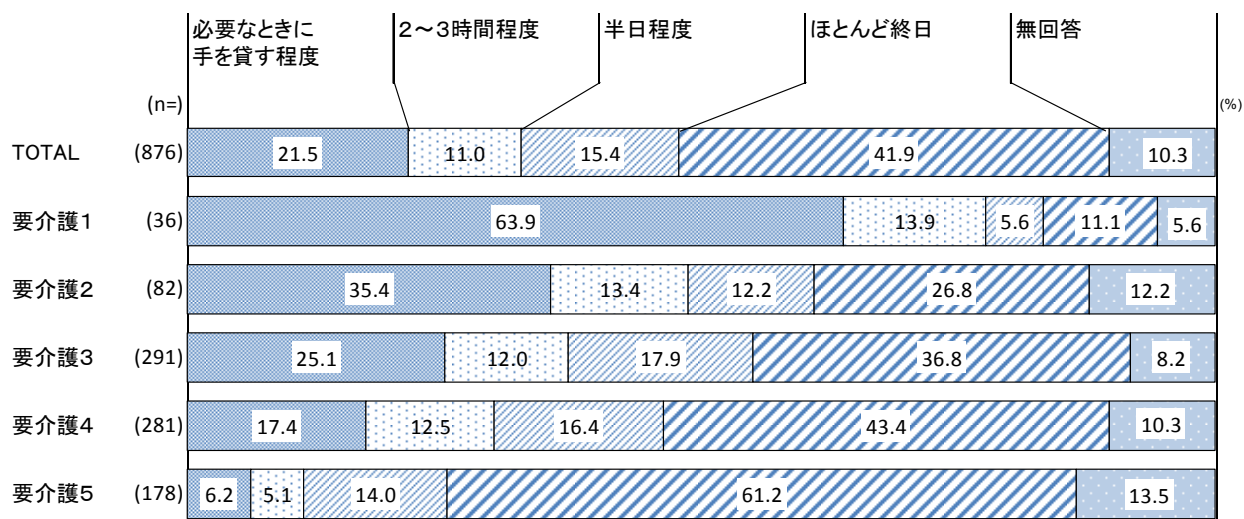
(無回答 n=39 は非表示)

特養申込者を主に介護している人の一日当たりの介護時間は、介護度によって大きく異なっており、全体では「ほとんど終日」が最も多く、41.9%となっている。

要介護度別では、重度者の介護者ほど介護時間が長く、要介護5では「ほとんど終日」が61.2%となっている。

図表 2 (4)③-4 一日当たりの介護時間（特養申込者・問 18）

【要介護度別】



(無回答 n=8 は非表示)

(5) 介護負担

① 介護負担感

要支援者の在宅での介護について、主に介護をしている人が困ったり負担に感じていることについては、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」が20.2%で最も多く、次いで「精神的なストレスがたまっている」が19.7%となっている。

要介護度別では、要支援2で「精神的なストレスがたまっている」が24.8%、「身体的につらい（腰痛や肩こりなど）」が20.9%、「自分の用事・都合をすませることができない」、「先々のことを考える余裕がない」がともに16.3%、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が15.5%、「来客にも気を遣う」、「自分の自由になる時間が持てない」がともに14.0%と、要支援1の割合を大きく上回っている。

図表 2 (5)①-1 介護負担感（複数回答、要支援・問52）

【要介護度別】

		TOTAL (n=238)	要介護度別(無回答等n=26非表示)	
(%)			要支援1 (n=83)	要支援2 (n=129)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	6.3	3.6	7.8
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	8.8	7.2	9.3
	来客にも気を遣う	10.5	6.0	14.0
	本人の言動が理解できないことがある	6.7	7.2	6.2
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	2.1	3.6	1.6
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	5.9	1.2	8.5
	症状への対応がわからない	6.3	4.8	5.4
	徘徊するため目が離せない	0.0	0.0	0.0
	他の家族等に介護を協力してもらえない	3.4	2.4	4.7
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	2.5	1.2	3.1
	日中、家を空けるのを不安に感じる	13.4	10.8	15.5
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	3.4	0.0	5.4
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	0.8	0.0	1.6
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	1.7	0.0	2.3
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	9.2	9.6	7.8
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	0.8	0.0	1.6
	サービス事業者との関係がうまくいかない	0.8	0.0	1.6
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.1	2.4	1.6
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	11.3	2.4	16.3
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	20.2	16.9	20.9
	精神的なストレスがたまっている	19.7	12.0	24.8
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	5.9	2.4	7.8
	自分の自由になる時間が持てない	10.1	3.6	14.0
	先々のことを考える余裕がない	13.0	8.4	16.3
	経済的につらいと感じるときがある	8.4	7.2	7.8
	仕事と介護の両立が困難	4.2	1.2	5.4
	育児と介護の両立が困難	0.8	0.0	0.8
	家事と介護の両立が困難	3.4	0.0	5.4
	その他	3.4	1.2	4.7
	特に困っていることはない	23.9	27.7	22.5
無回答	26.1	27.7	24.8	

要介護者の在宅での介護について、主に介護をしている人が困ったり負担に感じていることについては、「精神的なストレスがたまっている」が最も多く、48.5%となっている。次いで「日中、家を空けるのを不安に感じる」(44.3%)や「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(34.4%)、「自分の自由になる時間が持てない」(34.3%)、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」(33.7%)となっている。全体的に、介護者自身や意思疎通に関する内容の割合が高くなっている。

また、介護度が高くなるにつれ、「自分の自由になる時間が持てない」、「身体的につらい」の割合が高くなる傾向にある。

図表 2 (5)①-2 介護負担感 (複数回答、要介護・問 30)

【要介護度別】

	(%)	TOTAL (n=1202)	要介護度別(無回答n=26非表示)				
			要介護1 (n=242)	要介護2 (n=479)	要介護3 (n=221)	要介護4 (n=132)	要介護5 (n=102)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	21.5	19.4	15.9	24.4	30.3	38.2
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	33.7	32.6	27.6	38.9	45.5	43.1
	来客にも気を遣う	18.3	14.0	16.7	21.7	18.2	28.4
	本人の言動が理解できないことがある	29.3	27.7	24.0	33.0	40.2	39.2
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.1	5.8	6.3	5.0	8.3	6.9
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	9.2	7.9	8.8	10.9	12.1	6.9
	症状への対応がわからない	11.4	10.7	9.8	13.1	15.2	13.7
	徘徊するため目が離せない	3.4	1.7	1.3	6.3	8.3	5.9
	他の家族等に介護を協力してもらえない	12.1	5.4	11.5	16.3	17.4	14.7
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	4.8	5.4	4.8	2.3	7.6	3.9
	日中、家を空けるのを不安に感じる	44.3	39.3	40.1	52.0	53.8	49.0
	介護を家族他の人に任せてよいか、悩むことがある	7.6	7.0	6.7	10.4	4.5	11.8
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	3.2	1.2	1.9	3.6	6.1	6.9
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	2.8	3.3	2.1	1.8	3.8	3.9
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.7	7.0	8.4	8.6	3.8	10.8
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	3.2	2.1	2.3	3.2	5.3	8.8
	サービス事業者との関係がうまくいかない	2.1	1.2	2.9	1.4	2.3	2.0
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	1.7	1.2	2.1	1.4	0.8	2.9
介護者自身	自分の用事・都合をすませることができない	27.2	24.0	22.8	27.1	40.2	43.1
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	34.4	22.7	28.6	47.1	47.0	52.0
	精神的なストレスがたまっている	48.5	40.9	46.1	58.8	53.8	52.0
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	17.4	8.7	12.1	23.1	28.8	40.2
	自分の自由になる時間が持てない	34.3	25.2	29.4	39.8	45.5	58.8
	先々のことを考える余裕がない	23.9	17.8	19.4	27.6	35.6	39.2
	経済的につらいと感じるときがある	21.1	14.5	16.9	28.1	26.5	37.3
	仕事と介護の両立が困難	11.9	8.3	12.7	14.0	12.1	13.7
	育児と介護の両立が困難	0.7	0.8	0.2	0.9	0.0	2.0
	家事と介護の両立が困難	8.2	6.6	5.8	11.8	12.9	10.8
その他	4.7	4.5	3.5	5.4	7.6	6.9	
特に困っていることはない	9.4	9.5	11.5	5.4	9.8	5.9	
無回答	10.1	12.8	12.7	7.7	1.5	3.9	

【要介護者の年齢別】

	(%)	TOTAL (n=1202)	要介護者の年齢別(無回答n=8非表示)					
			65歳未満 (n=3)	65～69歳 (n=56)	70～74歳 (n=103)	75～79歳 (n=186)	80～84歳 (n=261)	85歳以上 (n=585)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	21.5	0.0	8.9	17.5	17.2	16.9	26.8
	本人に現在の状況を理解してもらおうのが難しい	33.7	33.3	17.9	32.0	30.6	29.1	38.6
	来客にも気を遣う	18.3	0.0	21.4	25.2	16.7	18.0	17.6
	本人の言動が理解できないことがある	29.3	66.7	32.1	29.1	32.3	28.4	28.2
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.1	33.3	3.6	5.8	4.8	6.9	6.3
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	9.2	0.0	14.3	13.6	5.9	9.6	8.4
	症状への対応がわからない	11.4	0.0	21.4	12.6	8.1	14.2	9.7
	徘徊するため目が離せない	3.4	0.0	3.6	7.8	3.8	2.7	2.9
	他の家族等に介護を協力してもらえない	12.1	33.3	8.9	11.7	11.8	10.0	13.3
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	4.8	33.3	8.9	4.9	5.9	5.7	3.6
	日中、家を空けるのを不安に感じる	44.3	33.3	46.4	45.6	46.8	40.2	45.0
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	7.6	0.0	1.8	6.8	5.4	7.3	9.2
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	3.2	33.3	1.8	1.0	2.2	2.7	4.1
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	2.8	33.3	3.6	0.0	2.2	3.1	3.2
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.7	33.3	10.7	10.7	6.5	5.4	8.4
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	3.2	0.0	1.8	1.9	4.8	2.7	3.4
	サービス事業者との関係がうまくいかない	2.1	0.0	0.0	0.0	3.8	3.4	1.5
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	1.7	0.0	3.6	1.0	1.6	1.9	1.5
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	27.2	33.3	28.6	24.3	29.6	25.3	27.9
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	34.4	33.3	26.8	40.8	38.2	36.8	31.8
	精神的なストレスがたまっている	48.5	33.3	48.2	50.5	53.2	42.1	49.6
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	17.4	33.3	21.4	19.4	19.4	14.6	17.1
	自分の自由になる時間が持てない	34.3	33.3	33.9	34.0	40.3	28.4	35.6
	先々のことを考える余裕がない	23.9	0.0	32.1	29.1	32.3	20.3	21.5
	経済的につらいと感じるときがある	21.1	33.3	33.9	31.1	29.0	19.5	16.4
	仕事と介護の両立が困難	11.9	0.0	16.1	10.7	11.8	10.3	12.5
	育児と介護の両立が困難	0.7	0.0	3.6	1.0	1.6	0.0	0.3
	家事と介護の両立が困難	8.2	0.0	7.1	12.6	5.4	9.2	8.0
その他	4.7	0.0	3.6	5.8	3.8	5.4	4.6	
特に困っていることはない	9.4	0.0	10.7	4.9	7.5	10.0	10.6	
無回答	10.1	33.3	10.7	9.7	8.1	11.9	9.6	

特養申込者の在宅での介護について、主に介護をしている人が困ったり負担に感じていることについては、「精神的なストレスがたまっている」が71.6%で最も多いほか、「本人に現在の状況を理解してもらうのが難しい」(58.7%)、「日中、家を空けるのを不安に感じる」(57.4%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(55.0%)がいずれも半数を超えている。

要介護度別では、特に要介護3の人を主に介護している人で「精神的なストレスがたまっている」が77.3%、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が62.9%と高くなっている。

また、「自分の自由になる時間が持てない」は要介護4・5の人を主に介護している人で約5割となっている。

図表2(5)①-3 介護負担感(複数回答、特養申込者・問23)

【要介護度別】

	(%)	TOTAL (n=876)	要介護度別(無回答n=8非表示)				
			要介護1 (n=36)	要介護2 (n=82)	要介護3 (n=291)	要介護4 (n=281)	要介護5 (n=178)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	46.0	16.7	34.1	48.8	48.4	49.4
	本人に現在の状況を理解してもらうのが難しい	58.7	50.0	48.8	62.5	62.3	52.8
	来客にも気を遣う	27.5	22.2	31.7	29.2	26.7	25.3
	本人の言動が理解できないことがある	49.3	36.1	35.4	52.9	49.5	52.2
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	8.7	11.1	6.1	8.9	10.3	5.6
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	20.1	11.1	15.9	18.9	24.2	19.7
	症状への対応がわからない	20.8	22.2	15.9	19.6	23.8	20.2
	徘徊するため目が離せない	15.0	8.3	8.5	16.5	21.7	6.2
	他の家族等に介護を協力してもらえない	28.8	22.2	31.7	29.6	31.7	22.5
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	8.4	16.7	8.5	7.9	8.5	7.9
	日中、家を空けるのを不安に感じる	57.4	44.4	45.1	62.9	58.4	55.6
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	14.2	5.6	9.8	13.4	16.7	15.2
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	5.8	2.8	7.3	6.2	6.8	3.9
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	6.4	11.1	7.3	5.8	6.8	5.6
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	11.6	8.3	12.2	11.0	13.5	10.7
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	8.0	5.6	6.1	6.9	9.6	9.0
	サービス事業者との関係がうまくいかない	2.4	5.6	0.0	1.7	2.8	3.4
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.9	2.8	2.4	2.1	2.5	5.1
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	47.0	33.3	35.4	48.5	48.4	52.2
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	55.0	30.6	36.6	54.6	60.5	62.4
	精神的なストレスがたまっている	71.6	58.3	68.3	77.3	72.2	64.6
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	40.3	25.0	32.9	43.0	42.0	41.0
	自分の自由になる時間が持てない	46.5	25.0	32.9	48.1	50.5	50.0
	先々のことを考える余裕がない	45.3	36.1	41.5	47.4	47.3	43.3
	経済的につらいと感じるときがある	39.2	30.6	42.7	41.2	40.9	33.1
	仕事と介護の両立が困難	28.3	25.0	25.6	28.2	32.4	25.3
	育児と介護の両立が困難	2.3	2.8	1.2	2.4	2.1	2.8
	家事と介護の両立が困難	23.5	19.4	20.7	23.0	27.4	21.3
	その他	7.1	13.9	11.0	8.2	6.0	3.9
特に困っていることはない	0.6	5.6	0.0	0.7	0.0	0.6	
無回答	8.2	11.1	11.0	6.2	6.8	12.4	

② 不安を感じる介護

要支援者を主に介護している人が不安を感じる内容は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（28.2%）、「外出の付き添い、送迎等」（26.9%）、「食事の準備（調理等）」（23.5%）が2割を超えている。また、「不安を感じていることは、特にない」は17.2%となっている。

要介護度別にみると、要支援2では、「外出の付き添い、送迎等」が31.0%と3割を超えている。

図表2 (5)②-1 不安を感じる介護（複数回答、要支援・問54）

【要介護度別】

	TOTAL (n=238)	要介護度別(無回答等n=26非表示)	
		要支援1 (n=83)	要支援2 (n=129)
(%)			
日中の排泄	3.8	2.4	3.9
夜間の排泄	4.6	1.2	4.7
食事の介助(食べる時)	2.1	1.2	2.3
入浴・洗身	11.8	7.2	13.2
身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	2.1	0.0	2.3
衣服の着脱	2.9	2.4	2.3
屋内の移乗・移動	5.9	6.0	6.2
外出の付き添い、送迎等	26.9	21.7	31.0
服薬	4.6	6.0	3.1
認知症状への対応	12.2	8.4	14.7
医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	4.2	1.2	6.2
食事の準備(調理等)	23.5	16.9	27.1
その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	28.2	26.5	27.9
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	16.4	20.5	12.4
その他	4.2	3.6	5.4
不安を感じていることは、特にない	17.2	18.1	20.2
無回答	19.7	22.9	17.1

要介護者を主に介護している人が不安に感じる内容は、「外出の付き添い、送迎等」が最も多く、34.9%となっており、次いで「認知症状への対応」(31.9%)、「食事の準備(調理等)」(28.8%)となっている。

要介護1・2の軽度では、「外出の付き添い、送迎等」や「認知症状への対応」、「食事の準備(調理等)」が高くなっている。一方、要介護3・4・5の中・重度では、「日中の排泄」や「夜間の排泄」が高くなっている。

図表2(5)②-2 不安に感じる介護(複数回答、要介護・問32)

【要介護度別】

	TOTAL (n=1202)	要介護度別(無回答n=26非表示)				
		要介護1 (n=242)	要介護2 (n=479)	要介護3 (n=221)	要介護4 (n=132)	要介護5 (n=102)
日中の排泄	17.7	9.9	13.8	22.6	34.8	26.5
夜間の排泄	23.6	14.5	20.5	29.4	34.8	38.2
食事の介助(食べる時)	8.9	4.5	7.1	7.2	14.4	26.5
入浴・洗身	26.5	19.0	30.5	31.2	25.0	19.6
身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	8.3	4.5	8.6	11.3	6.8	11.8
衣服の着脱	13.7	7.4	12.1	22.6	15.9	16.7
屋内の移乗・移動	12.6	8.3	10.2	18.1	15.9	19.6
外出の付き添い、送迎等	34.9	36.4	38.0	37.1	27.3	19.6
服薬	15.1	17.8	13.6	19.9	12.1	8.8
認知症状への対応	31.9	37.6	31.3	32.6	30.3	26.5
医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	4.7	4.5	3.1	5.0	6.1	11.8
食事の準備(調理等)	28.8	31.4	30.9	28.5	23.5	19.6
その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	25.9	28.5	26.5	29.4	17.4	17.6
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	19.8	25.2	18.4	20.8	13.6	20.6
その他	4.7	3.7	4.2	4.5	4.5	9.8
不安に感じていることは、特にない	8.5	8.3	9.4	5.4	8.3	9.8
無回答	8.2	9.1	8.6	10.0	3.0	6.9

また、主に介護をしている人の年齢が 50～64 歳では、「認知症状への対応」が 4 割と高くなっている一方、主に介護をしている人の年齢が 75 歳以上では「外出の付き添い、送迎等」が 4 割前後と高く、主に介護をしている人の年齢により不安に感じる内容も異なっている。

図表 2 (5)②-3 不安に感じる介護（複数回答、要介護・問 32）

【主に介護をしている人の年齢別】

(%)	TOTAL (n=1202)	主に介護をしている人の年齢別（無回答n=23非表示）			
		50歳未満 (n=70)	50歳代 (n=239)	60～64歳 (n=154)	65～69歳 (n=191)
日中の排泄	17.7	15.7	21.3	20.1	23.6
夜間の排泄	23.6	22.9	24.3	23.4	30.4
食事の介助(食べる時)	8.9	8.6	7.5	8.4	12.6
入浴・洗身	26.5	28.6	25.1	30.5	24.1
身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	8.3	10.0	7.5	9.1	5.8
衣服の着脱	13.7	11.4	5.0	15.6	11.5
屋内の移乗・移動	12.6	17.1	15.1	17.5	13.1
外出の付き添い、送迎等	34.9	34.3	30.1	31.2	34.0
服薬	15.1	18.6	12.1	13.0	10.5
認知症状への対応	31.9	38.6	41.0	41.6	35.6
医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	4.7	2.9	6.3	7.1	5.2
食事の準備(調理等)	28.8	34.3	23.4	28.6	23.0
その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	25.9	30.0	23.4	22.1	22.5
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	19.8	28.6	15.9	18.2	17.3
その他	4.7	2.9	6.3	3.9	8.9
不安に感じていることは、特にない	8.5	8.6	6.7	7.8	10.5
無回答	8.2	5.7	6.7	4.5	8.4

(%)	TOTAL (n=1202)	(つづき)主に介護をしている人の年齢別（無回答n=23非表示）			
		70～74歳 (n=138)	75～79歳 (n=129)	80～84歳 (n=163)	85歳以上 (n=95)
日中の排泄	17.7	15.2	20.9	10.4	9.5
夜間の排泄	23.6	23.9	29.5	16.0	15.8
食事の介助(食べる時)	8.9	8.0	13.2	4.9	8.4
入浴・洗身	26.5	28.3	28.7	29.4	15.8
身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	8.3	12.3	9.3	8.0	7.4
衣服の着脱	13.7	23.9	22.5	16.6	9.5
屋内の移乗・移動	12.6	8.7	12.4	8.6	8.4
外出の付き添い、送迎等	34.9	32.6	42.6	40.5	38.9
服薬	15.1	18.8	19.4	15.3	22.1
認知症状への対応	31.9	18.8	27.1	19.6	31.6
医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	4.7	5.1	4.7	2.5	2.1
食事の準備(調理等)	28.8	27.5	40.3	29.4	34.7
その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	25.9	24.6	33.3	31.3	27.4
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	19.8	21.7	24.0	19.6	25.3
その他	4.7	3.6	1.6	3.1	5.3
不安に感じていることは、特にない	8.5	13.8	7.8	8.0	5.3
無回答	8.2	8.0	5.4	12.3	12.6

(6) 仕事と介護の両立

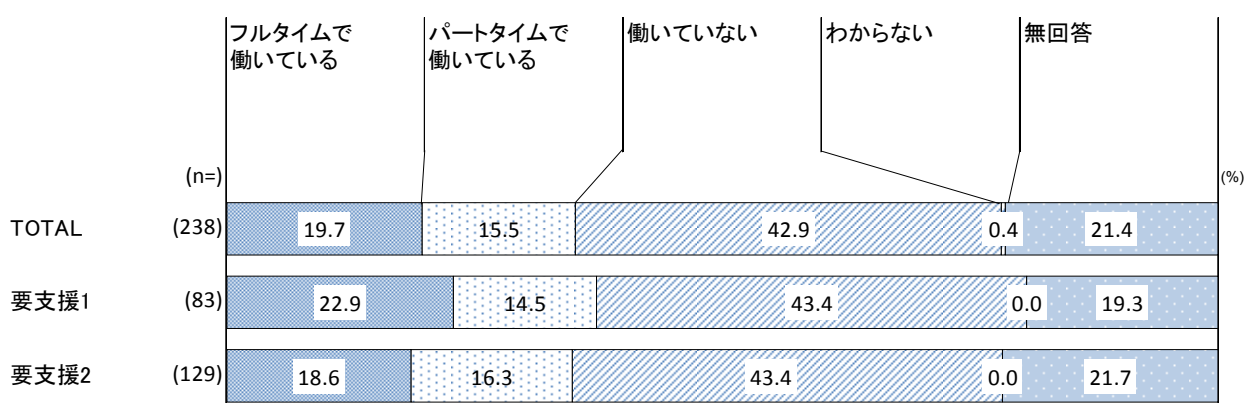
① 主に介護をしている人の就労状況

主に介護をしている人の就労状況は、要支援者を介護している人で『働いている（「フルタイムで働いている」及び「パートタイムで働いている」の合計）』は 35.2%となっている。最も軽度である要支援1を主に介護している人では、『働いている』は 37.4%と最も多くなっている。

要介護者を主に介護している人で『働いている』は 29.0%、介護保険サービス未利用者を主に介護している人で『働いている』は 28.1%となっている。

図表2 (6)① 主に介護をしている人の就労状況・勤務形態
(要支援・問53)

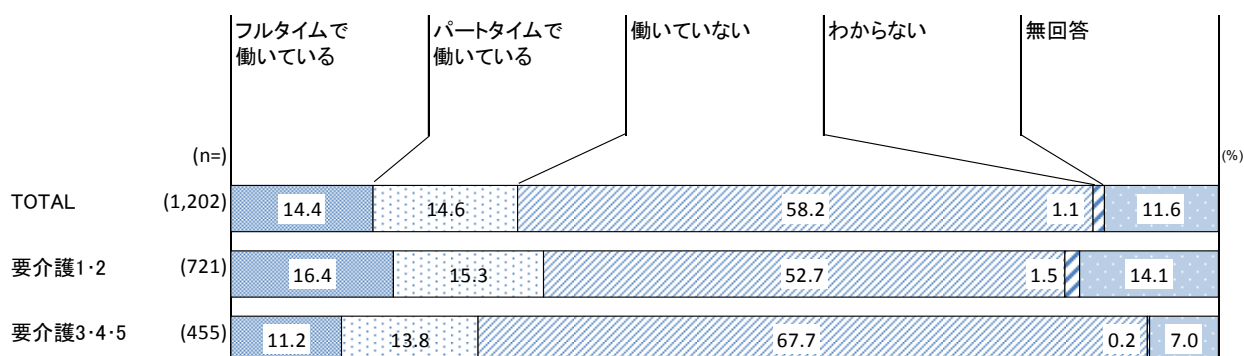
【要介護度別】



(無回答等 n=26 は非表示)

(要介護・問31)

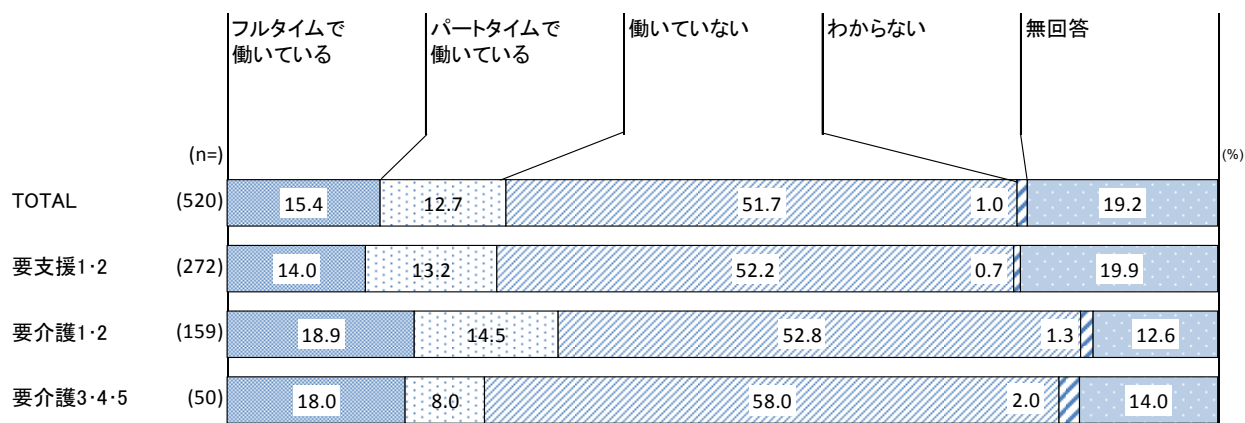
【要介護度別】



(無回答 n=26 は非表示)

(未利用・問 31)

【要介護度別】



(無回答 n=39 は非表示)

② 主に介護をしている人の働き方の調整

働き方の調整は、要介護者を主に介護している人では「介護のために、『労働時間を調整』しながら、働いている」は37.8%と高く、要介護3・4・5と中・重度になるほどその割合は高くなっている。

一方、要支援及び介護保険サービス未利用者を主に介護している人は、働き方の調整は「特に行っていない」が5割超となっている。

図表2(6)② 主に介護をしている人の働き方の調整状況（複数回答）
（要支援・問53-1）

【要介護度別】

調整状況	TOTAL (n=84)	要介護度別(無回答等n=8非表示)	
		要支援1 (n=31)	要支援2 (n=45)
特に行っていない	58.3	67.7	55.6
介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている	15.5	16.1	15.6
介護のために、「休暇」を取りながら、働いている	10.7	3.2	13.3
介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	2.4	0.0	2.2
介護のために、前掲(2~4)以外の調整をしながら、働いている	15.5	16.1	15.6
無回答	3.6	0.0	6.7

（要介護・問31-1）

【要介護度別】

調整状況	TOTAL (n=349)	要介護度別(無回答n=7非表示)	
		要介護1・2 (n=228)	要介護3・4・5 (n=114)
特に行っていない	32.7	36.4	24.6
介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている	37.8	33.3	47.4
介護のために、「休暇」を取りながら、働いている	12.9	14.5	10.5
介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	2.0	1.8	2.6
介護のために、前掲(2~4)以外の調整をしながら、働いている	17.5	15.8	21.1
無回答	6.9	7.5	5.3

（未利用・問31-1）

【要介護度別】

調整状況	TOTAL (n=146)	要介護度別(無回答n=6非表示)		
		要支援1・2 (n=74)	要介護1・2 (n=53)	要介護3・4・5 (n=13)
特に行っていない	52.1	60.8	45.3	46.2
介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている	21.2	9.5	30.2	46.2
介護のために、「休暇」を取りながら、働いている	7.5	8.1	7.5	7.7
介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	2.1	0.0	3.8	7.7
介護のために、前掲(2~4)以外の調整をしながら、働いている	11.6	6.8	13.2	23.1
無回答	9.6	14.9	3.8	0.0

③ 勤務先からの支援

仕事と介護の両立に効果がある勤務先からの支援は、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」や「制度を利用しやすい職場づくり」、「介護をしている従業員への経済的な支援」等があがっている。

図表 2 (6)③ 仕事と介護の両立に効果がある勤務先からの支援（複数回答）
（要支援・問 53-2）

【要介護度別】

要介護度別	TOTAL (n=84)	要介護度別（無回答等n=8非表示）	
		要支援1 (n=31)	要支援2 (n=45)
自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	10.7	9.7	11.1
介護休業・介護休暇等の制度の充実	25.0	25.8	22.2
制度を利用しやすい職場づくり	25.0	25.8	26.7
仕事と介護の両立に関する情報の提供	13.1	12.9	13.3
介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	10.7	9.7	13.3
介護をしている従業員への経済的な支援	22.6	22.6	22.2
その他	6.0	9.7	4.4
特になし	27.4	35.5	24.4
無回答	15.5	12.9	17.8

（要介護・問 31-2）

【要介護度別】

要介護度別	TOTAL (n=349)	要介護度別（無回答n=7非表示）	
		要介護1・2 (n=228)	要介護3・4・5 (n=114)
自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	18.3	19.3	16.7
介護休業・介護休暇等の制度の充実	25.2	24.1	28.1
制度を利用しやすい職場づくり	23.2	24.1	21.9
仕事と介護の両立に関する情報の提供	10.6	9.6	13.2
介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	8.9	7.9	11.4
介護をしている従業員への経済的な支援	23.2	23.2	24.6
その他	6.9	6.1	7.9
特になし	20.6	21.1	20.2
無回答	9.7	9.6	8.8

（未利用・問 31-2）

【要介護度別】

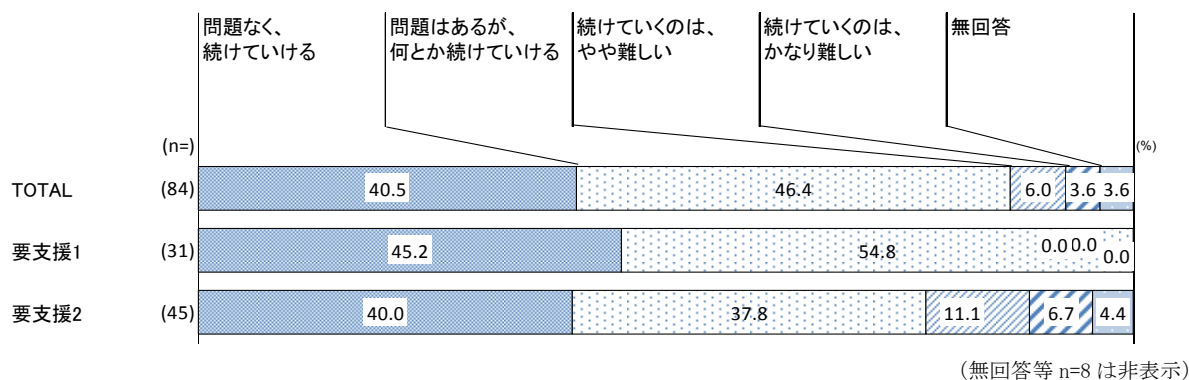
要介護度別	TOTAL (n=146)	要介護度別（無回答n=6非表示）		
		要支援1・2 (n=74)	要介護1・2 (n=53)	要介護3・4・5 (n=13)
自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	15.8	10.8	24.5	15.4
介護休業・介護休暇等の制度の充実	17.1	18.9	15.1	7.7
制度を利用しやすい職場づくり	21.2	18.9	24.5	15.4
仕事と介護の両立に関する情報の提供	12.3	9.5	13.2	23.1
介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	10.3	12.2	7.5	7.7
介護をしている従業員への経済的な支援	19.2	14.9	24.5	15.4
その他	2.1	2.7	1.9	0.0
特になし	28.1	27.0	22.6	61.5
無回答	13.0	18.9	7.5	0.0

④ 介護継続の見込み

今後も介護を続けていけるかどうかは、要支援者を主に介護している人で『続けていける（「問題なく、続けていける」及び「問題はあるが、何とか続けていける」の合計）』は 86.9%となっている。要介護者を主に介護している人では 77.9%、介護保険サービス未利用者を主に介護している人では 82.8%となっている。

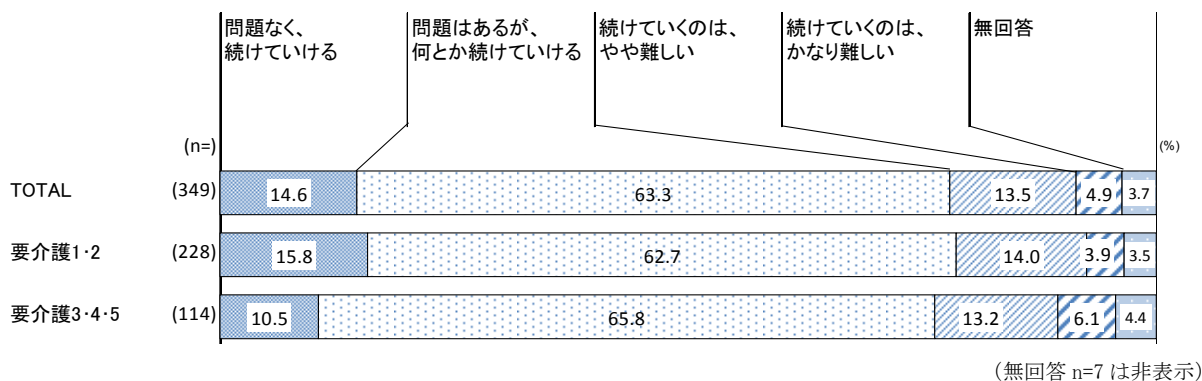
図表 2 (6)④ 介護継続の見込み（要支援・問 53-3）

【要介護度別】



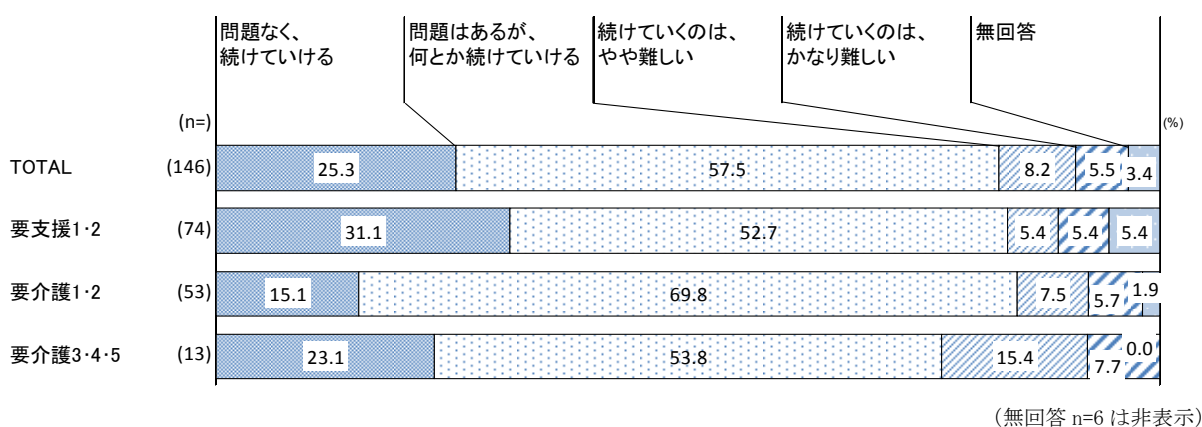
(要介護・問 31-3)

【要介護度別】



(未利用・問 31-3)

【要介護度別】



⑤ 介護離職・転職の状況

介護のために家族や親族が離職・転職したかどうかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が5割超を占めるが、要介護3・4・5（要介護調査）の中・重度では、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」割合が高くなっている（21.1%）。

図表 2 (6)⑤ 家族・親族の介護離職・転職の有無（複数回答）
（要支援・問 51）

【要介護度別】

	TOTAL (n=238)	要介護度別(無回答等n=26非表示)	
		要支援1 (n=83)	要支援2 (n=129)
主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	2.9	0.0	4.7
主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	0.0	0.0	0.0
主な介護者が転職した	2.5	1.2	3.9
主な介護者以外の家族・親族が転職した	0.4	1.2	0.0
介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	55.0	53.0	55.8
わからない	5.5	2.4	7.0
無回答	33.6	42.2	28.7

（要介護・問 27）

【要介護度別】

	TOTAL (n=1202)	要介護度別(無回答n=26非表示)	
		要介護1・2 (n=721)	要介護3・4・5 (n=455)
主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	15.4	11.8	21.1
主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	1.6	1.1	2.4
主な介護者が転職した	2.2	2.6	1.5
主な介護者以外の家族・親族が転職した	0.4	0.7	0.0
介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	52.6	54.9	49.7
わからない	4.2	3.5	4.8
無回答	24.0	25.8	20.9

（未利用・問 27）

【要介護度別】

	TOTAL (n=520)	要介護度別(無回答n=39非表示)		
		要支援1・2 (n=272)	要介護1・2 (n=159)	要介護3・4・5 (n=50)
主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	7.9	3.7	13.8	10.0
主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	1.3	0.4	3.1	2.0
主な介護者が転職した	1.3	0.7	2.5	0.0
主な介護者以外の家族・親族が転職した	0.2	0.4	0.0	0.0
介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	50.8	52.2	52.8	48.0
わからない	6.2	7.7	3.1	10.0
無回答	32.9	34.9	25.2	32.0

(7) 軽度者への在宅サービス提供

要支援1・2の高齢者が現在（平成28年11月時点）利用している介護保険の在宅サービスは、「介護予防訪問介護又は横浜市訪問介護相当サービス」（34.6%）や「介護予防通所介護又は横浜市通所介護相当サービス」（28.2%）が高くなっている。

図表2(7)-1 利用サービス（平成28年11月時点）（複数回答、要支援1・2のみ*・問26）
【要介護度別】

利用サービス (%)	要支援1・2 TOTAL (n=486)	要介護度別	
		要支援1 (n=203)	要支援2 (n=283)
介護予防訪問介護又は横浜市訪問介護相当サービス(ホームヘルプ)	34.6	38.9	31.4
横浜市訪問型生活援助サービス	15.8	16.7	15.2
介護予防訪問入浴介護	1.6	0.5	2.5
介護予防訪問看護	4.3	3.4	4.9
介護予防訪問リハビリ	5.6	2.5	7.8
介護予防居宅療養管理指導	2.3	3.0	1.8
介護予防通所介護又は横浜市通所介護相当サービス(デイサービス)	28.2	25.6	30.0
介護予防通所リハビリ(デイケア)	23.5	22.2	24.4
介護予防短期入所生活介護(福祉施設のショートステイ)	0.8	0.0	1.4
介護予防短期入所療養介護(医療施設等のショートステイ)	0.8	0.5	1.1
介護予防特定施設入居者生活介護	0.4	0.0	0.7
介護予防福祉用具貸与	22.0	16.7	25.8
介護予防福祉用具購入	8.0	6.4	9.2
介護予防住宅改修費	7.2	6.9	7.4
介護予防認知症対応型通所介護	0.0	0.0	0.0
介護予防小規模多機能型居宅介護(1か所で通い、訪問、泊まりの各サービスを提供)	0.6	0.5	0.7
介護予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0.2	0.5	0.0
利用していない	7.6	7.4	7.8
無回答	6.6	5.9	7.1

* 要支援の結果のうち、「要介護1～5」や「要介護認定なし」等を除き、「要支援1」、「要支援2」のみで集計した結果を示している。

要介護1・2の高齢者が現在(平成28年11月時点)利用しているのは、「通所介護(デイサービス)」(46.7%)や「福祉用具貸与」(42.5%)が高くなっている。

図表2(7)-2 利用サービス(平成28年11月時点)(複数回答、要介護1・2のみ*・問33)
【要介護度別】

利用サービス (%)	TOTAL (n=944)	要介護度別	
		要介護1 (n=320)	要介護2 (n=624)
訪問介護	25.1	24.7	25.3
訪問入浴介護	8.9	6.6	10.1
訪問看護	13.0	10.0	14.6
訪問リハビリテーション	10.9	7.5	12.7
居宅療養管理指導	2.3	2.2	2.4
通所介護(デイサービス)	46.7	45.6	47.3
通所リハビリテーション(デイケア)	22.8	23.8	22.3
短期入所生活介護	8.6	7.2	9.3
短期入所療養介護	0.5	0.3	0.6
福祉用具貸与	42.5	32.2	47.8
福祉用具購入	10.7	9.7	11.2
住宅改修	9.9	9.1	10.3
特定施設入居者生活介護	0.5	0.6	0.5
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1.6	1.6	1.6
夜間対応型訪問介護	0.4	0.6	0.3
認知症対応型通所介護	0.6	0.6	0.6
小規模多機能型居宅介護	1.3	0.6	1.6
看護小規模多機能型居宅介護	0.3	0.6	0.2
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	0.3	0.3	0.3
地域密着型通所介護	2.3	1.6	2.7
地域密着型特定施設入居者生活介護	0.3	0.3	0.3
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.1	0.0	0.2
あてはまるものはない	3.6	3.8	3.5
無回答	7.0	9.1	5.9

* 要介護の結果のうち、「要介護3・4・5」等を除き、「要介護1」、「要介護2」のみで集計した結果を示している。

要支援1・2の高齢者が今後必要と考える活動やサービスは、「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」（24.9%）や「緊急時の通報システム」（23.5%）、「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（22.8%）が高くなっている。

また、要介護1・2の高齢者が今後必要と考える活動やサービスは、「通院・福祉施設・役所の送迎」（21.7%）、「緊急時の通報システム」（21.2%）、「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（21.1%）が高くなっている。

図表2(7)-3 今後必要な活動・サービス（複数回答）
（要支援・問33、要支援1・2*のみ）

【要介護度別】

(%)	要支援1・2 TOTAL (n=486)	要介護度別	
		要支援1 (n=203)	要支援2 (n=283)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	24.9	26.6	23.7
通いの場への送迎	17.7	15.3	19.4
通院・福祉施設・役所の送迎	19.1	15.8	21.6
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	9.7	7.9	11.0
栄養改善を目的とした配食	10.1	8.9	11.0
見守り・安否確認	13.0	13.3	12.7
緊急時の通報システム	23.5	20.7	25.4
ごみ出し	12.6	14.3	11.3
生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	22.8	22.7	23.0
話し相手	8.6	7.4	9.5
訪問による理美容	7.6	7.9	7.4
歯科などの訪問診療	7.0	5.4	8.1
介護等が必要になった場合の住宅改造	7.4	5.4	8.8
紙おむつの購入	6.2	3.4	8.1
その他	0.8	0.5	1.1
特になし	16.3	19.2	14.1
無回答	13.6	12.3	14.5

* 要支援の結果のうち、「要介護1～5」や「要介護認定なし」等を除き、「要支援1」、「要支援2」のみで集計した結果を示している。

（要介護・問41、要介護1・2*のみ）

【要介護度別】

(%)	要介護1・2 TOTAL (n=944)	要介護度別	
		要介護1 (n=320)	要介護2 (n=624)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	19.9	23.8	17.9
通いの場への送迎	16.2	18.1	15.2
通院・福祉施設・役所の送迎	21.7	20.6	22.3
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	16.0	14.7	16.7
栄養改善を目的とした配食	10.4	11.6	9.8
見守り・安否確認	14.5	15.3	14.1
緊急時の通報システム	21.2	21.9	20.8
ごみ出し	8.9	9.7	8.5
生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	21.1	20.9	21.2
話し相手	13.2	16.6	11.5
訪問による理美容	14.7	12.8	15.7
歯科などの訪問診療	14.2	11.9	15.4
介護等が必要になった場合の住宅改造	8.3	9.1	7.9
紙おむつの購入	12.3	10.6	13.1
その他	1.8	1.3	2.1
特になし	17.1	15.6	17.8
無回答	13.1	12.2	13.6

* 要介護の結果のうち、「要介護3・4・5」等を除き、「要介護1」、「要介護2」のみで集計した結果を示している。

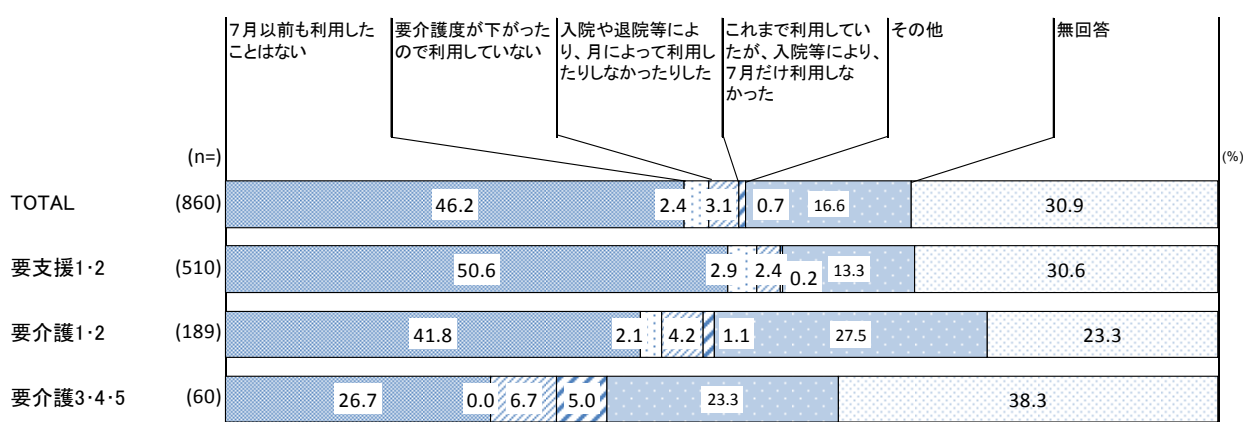
(8) 介護サービス未利用者の状況（平成 28 年 8 月にサービス利用がない方）

① 未利用者の状況と理由

抽出時点（平成 28 年 8 月）で介護サービスを利用していなかった高齢者の在宅サービス利用状況は、「7 月以前も利用したことはない」が最も多く約半数（46.2%）である。要介護度別では、要支援 1・2 は「7 月以前も利用していない」は 50.6%となっている一方、要介護 3・4・5 では 26.7%である。また、要介護 3・4・5 では「入院や退院等により、月によって利用したりしなかったりした」が 6.7%、「これまで利用していたが、入院等により、7 月だけ利用しなかった」が 5.0%と他の介護度に比べて多い。

図表 2 (8)①-1 介護サービス未利用者の状況（未利用・問 33）

【要介護度別】



(無回答 n=101 は非表示)

介護サービス未利用の理由については、要支援1・2、要介護1・2では「より重度の要介護状態になったとき利用したい」、「介護者の体力が衰えたとき利用したい」が2割を上回っている。一方、要介護3・4・5では、「施設、病院などに入所・入院していた」が36.7%と最も多い。また、「9月以降、サービス利用を始めた（または決めた）」が18.3%となっている。

図表2(8)①-2 介護サービス未利用の理由（複数回答、未利用・問34）

【要介護度別】

	TOTAL (n=860)	要介護度別(無回答等n=101非表示)		
		要支援1・2 (n=510)	要介護1・2 (n=189)	要介護3・4・5 (n=60)
(%)				
より重度の要介護状態になったとき利用したい	22.8	26.5	21.7	10.0
介護者の体力が衰えたとき利用したい	18.7	20.0	20.1	18.3
サービスの内容がよく分からない	16.7	16.1	19.0	6.7
家族が介護をするため必要ない	11.9	12.0	14.8	11.7
家族などの介護者が急に病気になった時などに、ショートステイを利用したい	10.6	10.0	14.8	13.3
施設、病院などに入所・入院していた	9.3	5.7	13.2	36.7
9月以降サービス利用を始めた(または決めた)	8.4	5.9	15.9	18.3
使いたいサービスがない	7.9	9.0	7.4	3.3
介護サービスを利用したいが、経済的な負担が大きい	6.7	6.9	7.9	8.3
家族以外の介護を受けたくない	6.3	4.5	12.2	8.3
特別養護老人ホーム等の介護保険施設のみの利用を予定している	3.5	4.1	1.6	6.7
介護保険にないサービス(紙おむつの支給、食事サービスなど)のみを利用している	1.9	1.6	1.1	8.3
その他	16.5	16.3	19.0	13.3
無回答	24.2	24.9	13.8	21.7

② 不安に感じること・介護負担感

介護サービス未利用者に対して、介護を行う上で不安に感じることは、「外出の付き添い、送迎等」が28.1%で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」(22.3%)、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」(21.7%)、「認知症状への対応」(21.5%)の順となっている。

要介護度別では、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」(27.9%)に次いで、「その他の家事」(25.4%)が高い。要介護1・2、要介護3・4・5では、「外出の付き添い、送迎等」(要介護1・2：30.8%、要介護3・4・5：34.0%)が3割を超えているほか、「認知症状への対応」は要介護1・2で39.0%、要介護3・4・5では30.0%となっている。また、要介護3・4・5では「夜間の排泄」が26.0%、「食事の準備（調理等）」が32.0%となっている。

図表2(8)②-1 不安に感じる介護（複数回答、未利用・問32）

【要介護度別】

(%)	TOTAL (n=520)	要介護度別(無回答n=39非表示)		
		要支援1・2 (n=272)	要介護1・2 (n=159)	要介護3・4・5 (n=50)
日中の排泄	7.1	4.8	10.7	8.0
夜間の排泄	14.8	9.9	18.2	26.0
食事の介助(食べる時)	4.0	2.6	3.1	14.0
入浴・洗身	18.7	16.2	23.3	22.0
身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	3.5	1.8	3.8	4.0
衣服の着脱	5.0	4.0	5.0	12.0
屋内の移乗・移動	4.4	4.8	3.1	6.0
外出の付き添い、送迎等	28.1	27.9	30.8	34.0
服薬	9.2	4.8	15.7	14.0
認知症状への対応	21.5	11.4	39.0	30.0
医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	4.0	2.6	4.4	14.0
食事の準備(調理等)	22.3	18.8	27.7	32.0
その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	21.7	25.4	15.7	22.0
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	15.4	14.7	18.9	16.0
その他	4.4	5.1	1.9	10.0
不安に感じていることは、特になし	13.3	17.6	8.2	6.0
無回答	15.4	17.3	10.1	4.0

介護者の介護負担感は、介護者ご自身、介護の仕方、意思疎通に関する項目について、介護度が高いほど、負担に感じる割合が高い傾向となっている。

個別項目では「日中、家を空けるのを不安に感じる」とする割合が 25.8%、「精神的なストレスがたまっている」が 25.4%と、介護者の 4 人に 1 人がいずれかの負担感を感じている、としている。これら 2 項目は介護度が重度の介護者ほど割合が高い傾向があり、要介護 3・4・5 では、「精神的なストレスがたまっている」が 46.0%、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 40.0%と 4 割にのぼっている。

図表 2 (8)②-2 介護負担感（複数回答、未利用・問 30）

【要介護度別】

	(%)	TOTAL (n=520)	要介護度別(無回答n=39非表示)		
			要支援1・2 (n=272)	要介護1・2 (n=159)	要介護3・4・5 (n=50)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	10.4	4.8	17.0	16.0
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	13.5	7.4	24.5	18.0
	来客にも気を遣う	9.8	7.4	14.5	16.0
	本人の言動が理解できないことがある	15.0	7.4	26.4	26.0
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.3	4.0	9.4	12.0
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	7.5	6.6	8.2	12.0
	症状への対応がわからない	7.7	7.0	9.4	10.0
	徘徊するため目が離せない	1.2	0.0	1.3	6.0
	他の家族等に介護を協力してもらえない	6.7	2.6	10.7	18.0
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	5.4	3.7	8.2	6.0
	日中、家を空けるのを不安に感じる	25.8	19.9	34.0	40.0
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	5.4	2.9	8.2	8.0
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	2.7	0.7	4.4	6.0
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	1.5	0.4	2.5	6.0
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.7	6.6	8.8	10.0
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	2.9	0.0	4.4	14.0
	サービス事業者との関係がうまくいかない	1.7	0.4	3.1	4.0
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.5	1.8	1.9	6.0
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	13.5	6.3	24.5	24.0
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	17.9	18.4	16.4	28.0
	精神的なストレスがたまっている	25.4	16.5	37.1	46.0
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	6.7	4.4	6.9	22.0
	自分の自由になる時間が持てない	14.8	7.7	23.9	32.0
	先々のことを考える余裕がない	12.3	9.2	14.5	24.0
	経済的につらいと感じるときがある	12.9	9.9	14.5	26.0
	仕事と介護の両立が困難	6.3	2.9	9.4	16.0
	育児と介護の両立が困難	0.4	0.0	0.6	2.0
	家事と介護の両立が困難	5.0	3.7	5.0	14.0
その他	3.5	2.9	5.0	4.0	
特に困っていることはない	19.0	23.5	14.5	10.0	
無回答	22.5	24.6	16.4	14.0	

(9) 介護保険料の負担感、介護保険サービスと保険料の関係

① 介護保険料の負担感

介護保険料の負担感については、各調査対象者において「負担であるが、支払うことが可能」が半数を超えている。

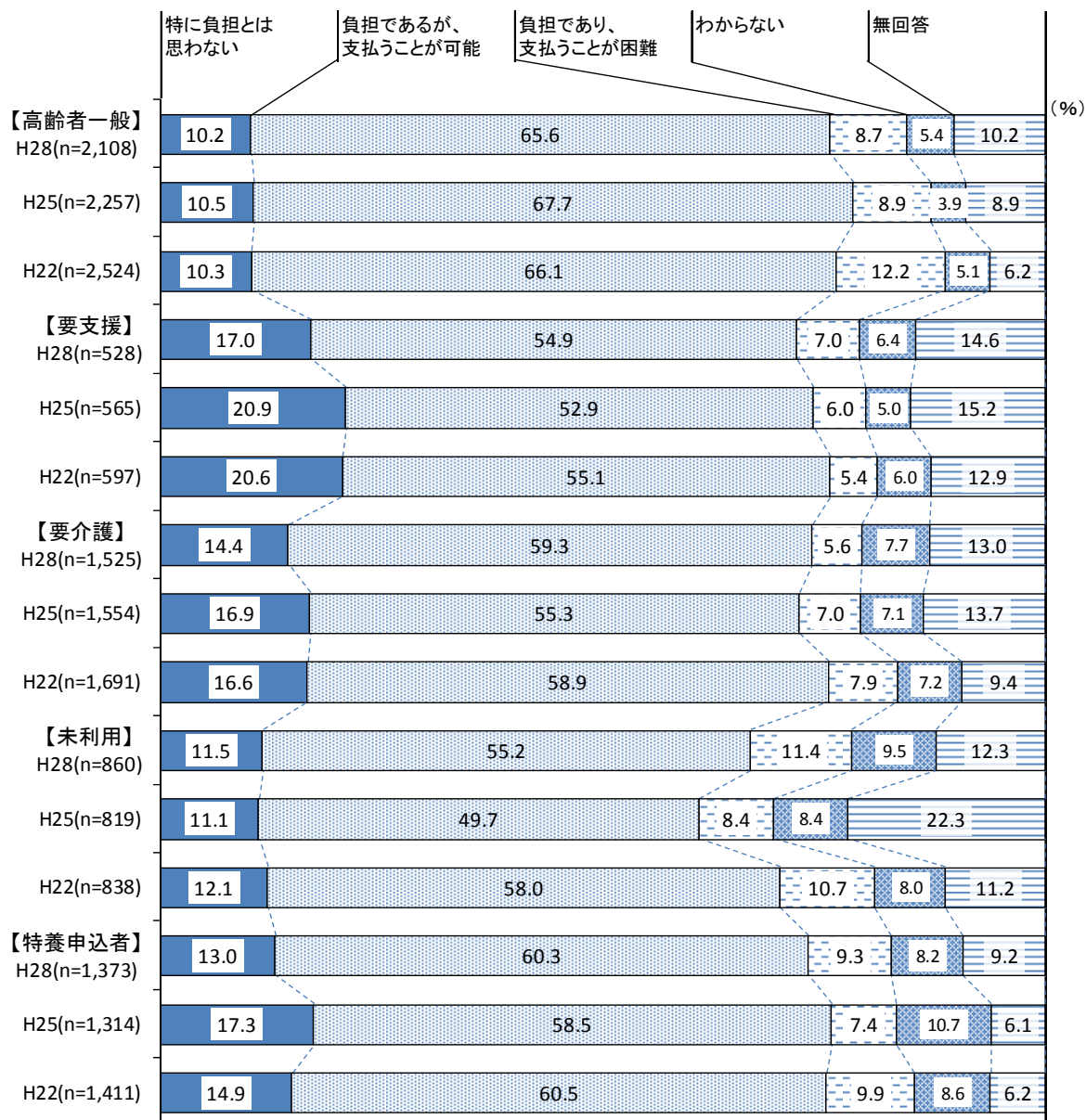
高齢者一般では前々回（平成 22 年）、前回（平成 25 年）と比べてほぼ同じ割合となっている。

要支援、要介護では、前回（平成 25 年）に比べて「特に負担とは思わない」がやや減少している（前回：要支援 20.9%、要介護 16.9%）。

未利用では、前回（平成 25 年）に比べて「負担であり、支払うことが困難」はやや増加している（前回 8.4%）。

特養申込者では、前回（平成 25 年）に比べて「特に負担とは思わない」は 4 ポイントほど減少している（前回 17.3%）。

図表 2 (9)① 介護保険料の負担感（時系列）

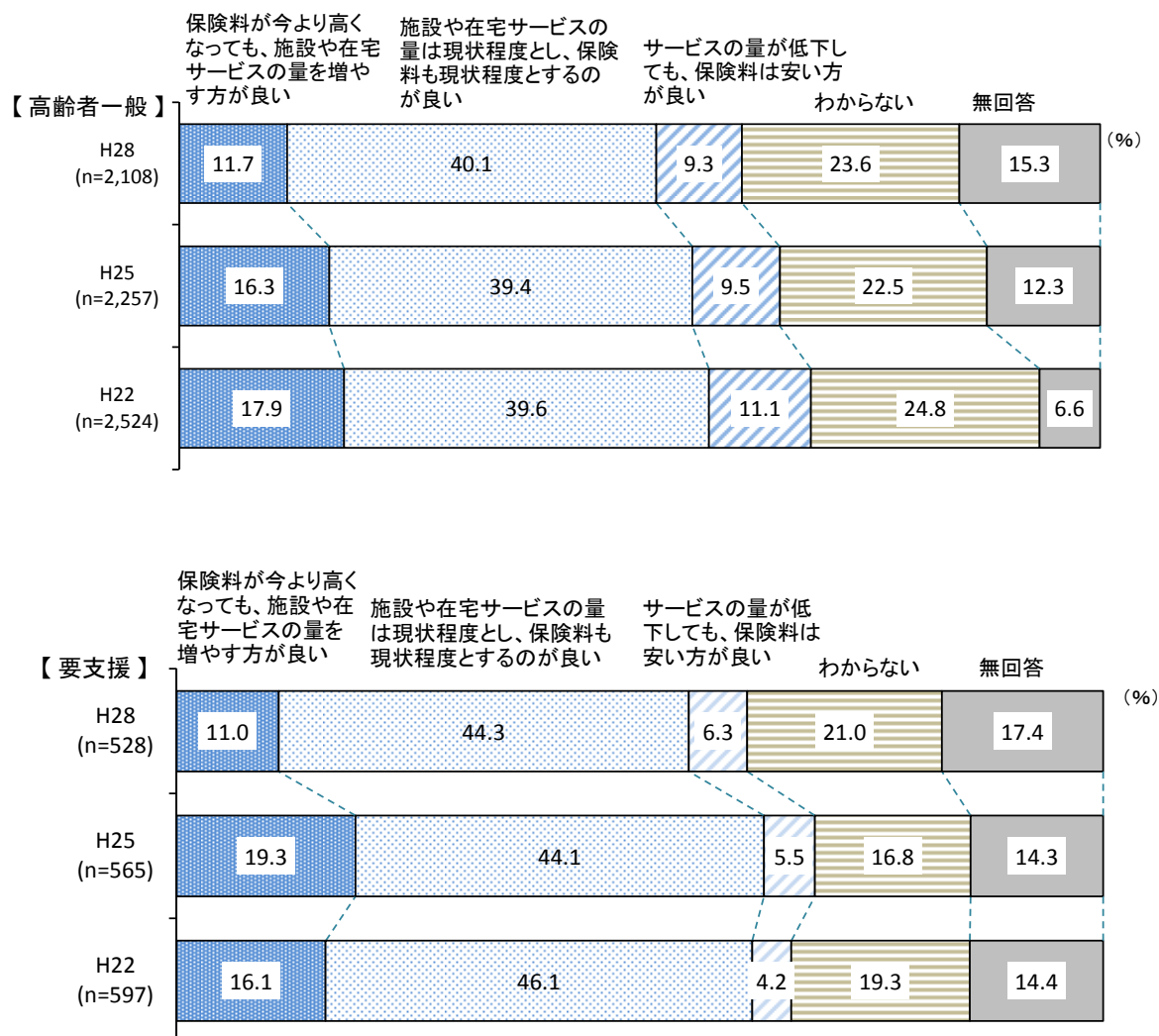


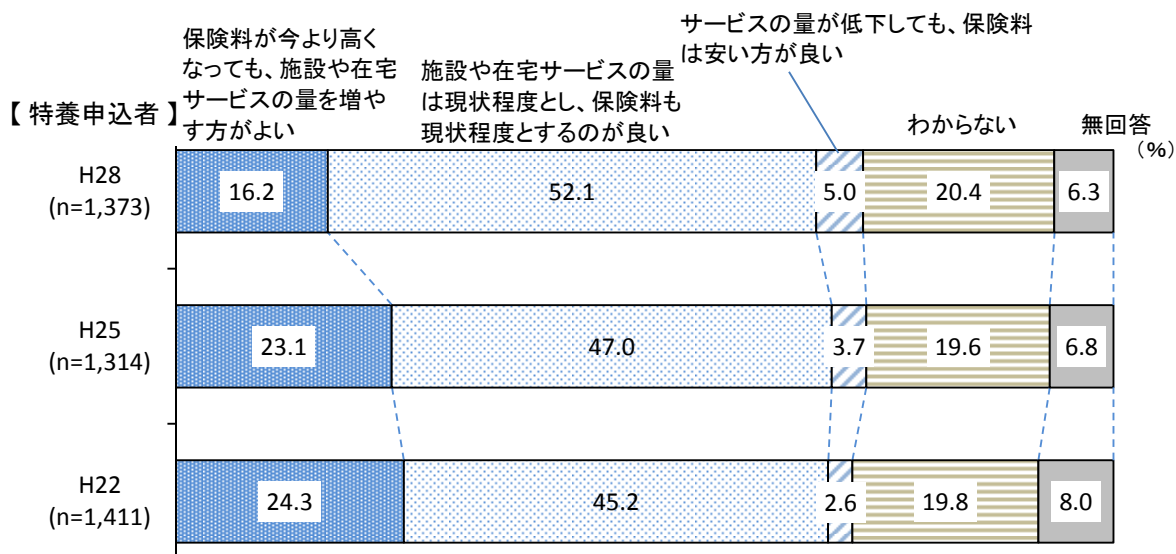
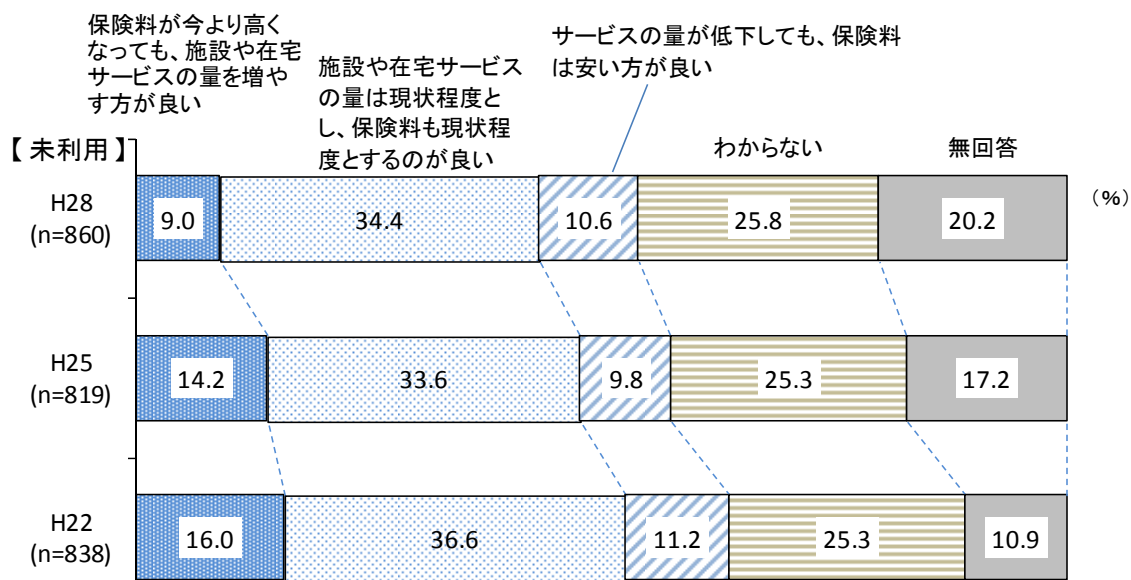
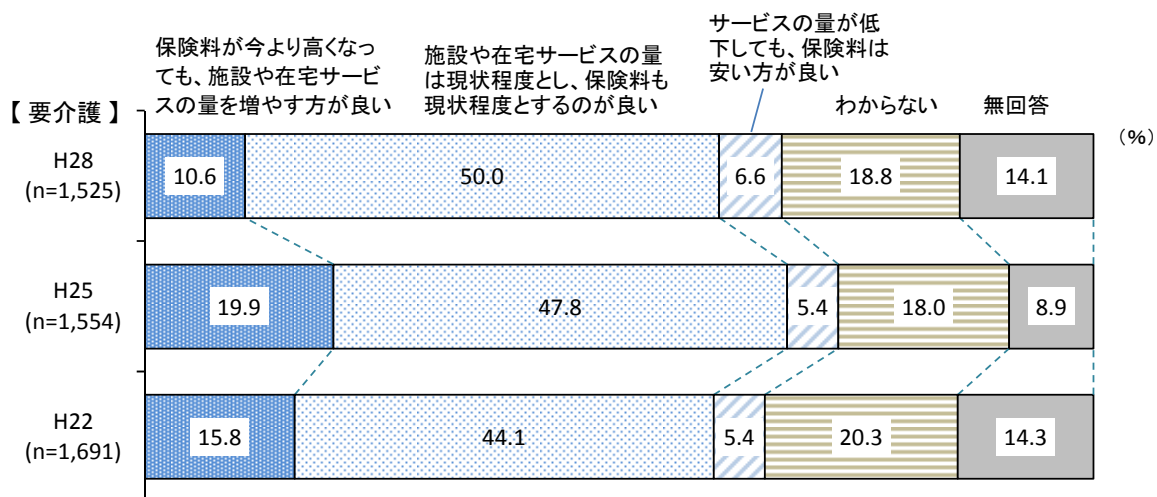
② 介護サービスと保険料の関係について

介護サービスと保険料の関係については、各調査対象者において「施設や在宅サービスの量は現状程度とし、保険料も現状程度とするのが良い」が最も多くなっている。次いで、高齢者一般、要支援、要介護、特養申込者では、「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やす方が良い」が多くなっているが、未利用では「サービスの量が低下しても、保険料は安い方が良い」(10.6%)が「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やす方が良い」(9.0%)をやや上回っている。

前回(平成25年)と比較すると、各調査対象とも、「保険料が今より高くなっても、施設や在宅サービスの量を増やす方が良い」は大幅に減少している。

図表2(9)② 介護サービスと保険料の関係について(時系列)





(10) 介護従事者の確保と担い手の育成

① 職場の取組状況・評価

介護に従事する職場における取組状況（「十分行われているもの」）については、ヘルパー、ケアワーカーとも「定期的な健康診断の実施」（ヘルパー65.5%、ケアワーカー75.4%）が最も実施割合が高く、次いで「採用時における賃金・勤務時間の説明」（ヘルパー64.3%、ケアワーカー50.6%）、「事故やトラブルへの対応マニュアル作成等の体制づくり」（ヘルパー50.6%、ケアワーカー43.7%）となっている。

図表 2 (10)①-1 職場の取組状況・評価①十分行われている取組（複数回答）
（ヘルパー・問 32）

【就業形態別】

	TOTAL (n=826)	就業形態別（無回答n=30非表示）	
		正社員 （正規職員） (n=324)	非正（規）社員 （パート、アルバイト、派遣職員、 非常勤職員、嘱託職員、契約社員、 登録ヘルパー等） (n=472)
キャリアアップの仕組みの整備	28.0	28.1	27.1
働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会の設定	41.2	42.0	39.4
勤務体制を決める際の職員の要望を聞く機会の設定	46.9	44.4	47.5
採用時における賃金・勤務時間の説明	64.3	62.7	64.4
介護能力を適切に評価する仕組み	26.5	27.5	25.6
介護能力に見合った仕事への配置	45.8	47.2	44.9
介護能力の向上に向けた研修	50.2	44.8	53.6
実務の中で、上司や先輩から指導や助言を受ける機会の設定	49.9	49.7	49.8
介護に関する事例検討会の開催	41.9	40.1	42.8
定期的な健康診断の実施	65.5	70.4	61.4
介助しやすい施設づくりや福祉機器の導入	16.3	17.9	15.0
事故やトラブルへの対応マニュアル作成等の体制づくり	50.6	50.3	49.6
事業所の相談援助体制の設定	33.2	32.1	32.8
その他	2.2	2.8	1.5
無回答	11.4	12.3	11.0

（ケアワーカー・問 30）

【就業形態別】

	TOTAL (n=945)	就業形態別（無回答n=23非表示）	
		正社員 （正規職員） (n=569)	非正（規）社員 （パート、アルバイト、派遣職員、非常 勤職員、嘱託職員、契約社員等） (n=353)
キャリアアップの仕組みの整備	22.5	24.4	19.3
働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会の設定	27.5	29.3	23.5
勤務体制を決める際の職員の要望を聞く機会の設定	35.2	32.7	38.8
採用時における賃金・勤務時間の説明	50.6	49.4	52.1
介護能力を適切に評価する仕組み	21.3	24.1	16.7
介護能力に見合った仕事への配置	19.0	20.2	16.7
介護能力の向上に向けた研修	41.8	45.2	36.3
実務の中で、上司や先輩から指導や助言を受ける機会の設定	34.8	37.4	30.3
介護に関する事例検討会の開催	26.1	27.2	24.4
定期的な健康診断の実施	75.4	79.3	69.7
介助しやすい施設づくりや福祉機器の導入	17.8	19.2	14.7
事故やトラブルへの対応マニュアル作成等の体制づくり	43.7	45.5	40.5
事業所の相談援助体制の設定	14.8	16.0	12.5
その他	1.3	1.1	1.1
無回答	15.7	12.5	20.1

仕事上の悩み、不安、不満等を解消する上で役立つと思う取組については、ヘルパー、ケアワーカーともに「介護能力の向上に向けた研修」（ヘルパー40.2%、ケアワーカー44.6%）が最も多くなっている。次いで、ヘルパーでは「実務の中で、上司や先輩から指導や助言を受ける機会の設定」、「介護に関する事例検討会の開催」（ともに 37.9%）となっている。ケアワーカーでは「定期的な健康診断の実施」（43.6%）、「事故やトラブルへの対応マニュアル作成等の体制づくり」（41.0%）となっている。

図表 2 (10)①-2 職場の取組状況・評価②仕事上の悩み、不安、不満等の解消に役立つと思う取組（複数回答）
（ヘルパー・問 32）

【就業形態別】

就業形態別(無回答n=30非表示)	TOTAL (n=826)	就業形態別(無回答n=30非表示)	
		正社員 (正規職員) (n=324)	非正(規)社員(パート、アルバイト、派遣職員、非常勤職員、嘱託職員、契約社員、登録ヘルパー等) (n=472)
(%)	(n=826)	(n=324)	(n=472)
キャリアアップの仕組みの整備	34.7	38.3	32.6
働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会の設定	35.7	37.0	35.2
勤務体制を決める際の職員の要望を聞く機会の設定	36.0	39.5	34.5
採用時における賃金・勤務時間の説明	30.8	30.9	30.9
介護能力を適切に評価する仕組み	29.7	34.9	25.8
介護能力に見合った仕事への配置	31.7	34.0	29.9
介護能力の向上に向けた研修	40.2	42.0	39.8
実務の中で、上司や先輩から指導や助言を受ける機会の設定	37.9	38.6	37.9
介護に関する事例検討会の開催	37.9	37.3	38.8
定期的な健康診断の実施	33.7	32.4	34.1
介助しやすい施設づくりや福祉機器の導入	23.0	24.4	21.8
事故やトラブルへの対応マニュアル作成等の体制づくり	34.5	34.9	34.7
事業所の相談援助体制の設定	30.1	30.9	29.7
その他	1.2	1.5	1.1
役立つと考えられることはない	0.5	0.0	0.8
無回答	22.9	21.6	22.9

（ケアワーカー・問 30）

【就業形態別】

就業形態別(無回答n=23非表示)	TOTAL (n=945)	就業形態別(無回答n=23非表示)	
		正社員 (正規職員) (n=569)	非正(規)社員(パート、アルバイト、派遣職員、非常勤職員、嘱託職員、契約社員等) (n=353)
(%)	(n=945)	(n=569)	(n=353)
キャリアアップの仕組みの整備	34.8	38.7	28.9
働き方や仕事内容、キャリアについて上司と相談する機会の設定	36.7	40.2	31.4
勤務体制を決める際の職員の要望を聞く機会の設定	34.8	37.3	31.2
採用時における賃金・勤務時間の説明	34.0	34.6	33.4
介護能力を適切に評価する仕組み	33.2	36.9	27.2
介護能力に見合った仕事への配置	30.2	33.2	25.5
介護能力の向上に向けた研修	44.6	49.9	36.3
実務の中で、上司や先輩から指導や助言を受ける機会の設定	37.7	39.5	34.8
介護に関する事例検討会の開催	32.9	35.3	29.2
定期的な健康診断の実施	43.6	43.1	44.8
介助しやすい施設づくりや福祉機器の導入	35.6	38.5	30.6
事故やトラブルへの対応マニュアル作成等の体制づくり	41.0	43.6	37.4
事業所の相談援助体制の設定	23.4	25.7	20.1
その他	2.2	2.1	2.3
役立つと考えられることはない	1.4	1.4	1.4
無回答	20.1	17.8	22.7

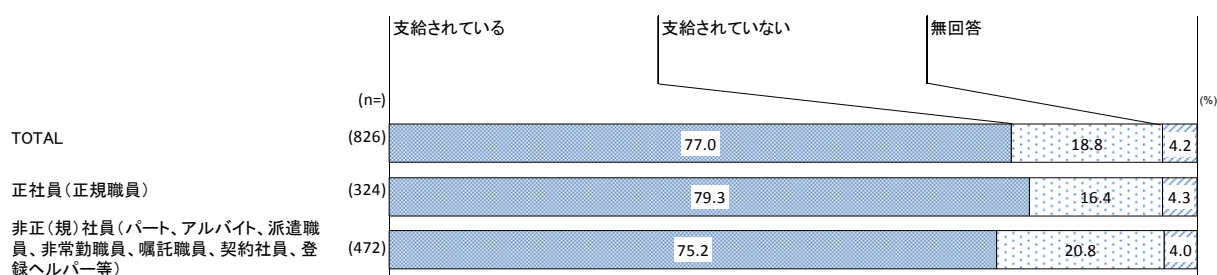
② 処遇改善加算状況

介護職員の処遇改善加算については、「支給されている」が、ヘルパーでは 77.0%、ケアワーカーでは 81.6%となっており、「支給されていない」はヘルパーでは 18.8%、ケアワーカーでは 14.6%となっている。

ヘルパー、ケアワーカーのそれぞれについて、就業形態別にみると、ケアワーカーの正社員（正規職員）では、「支給されている」が 88.0%となっている。

図表 2 (10)②-1 処遇改善加算状況（複数回答）
（ヘルパー・問 29）

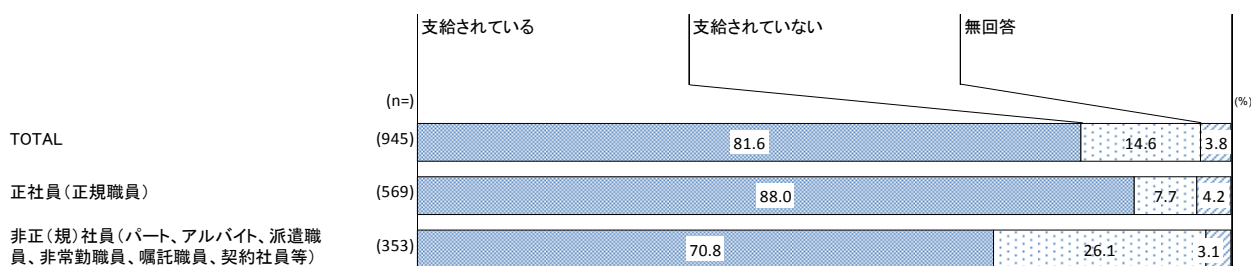
【就業形態別】



(無回答 n=30 は非表示)

（ケアワーカー・問 27）

【就業形態別】



(無回答 n=23 は非表示)

介護職員処遇改善加算による賃金改善として職場で行っているとする項目については、ヘルパー、ケアワーカーともに「一時金（賞与・その他の臨時支給分）として支給」（ヘルパー46.5%、ケアワーカー49.7%）が最も多く、次いで「毎月支給される手当として支給」（ヘルパー42.3%、ケアワーカー42.5%）となっている。

就業形態別では、ヘルパーの正社員（正規職員）では、「定期昇給の実施」が19.5%に対し、非正（規）社員では12.1%となっている。ケアワーカーについては、正社員（正規職員）では「毎月支給される手当として支給」が46.7%に対し、非正（規）社員では34.8%となっている。また、正社員（正規職員）では「一時金（賞与・その他の臨時支給分）として支給」が46.5%に対し、非正（規）社員では55.2%となっていることから、正社員（正規職員）は毎月の手当で、非正（規）社員は一時金で受け取る機会が多くなっている。

図表 2 (10)②-2 処遇改善加算の実施項目・職場で行っている賃金改善（複数回答）
（ヘルパー・問 29-2）

【就業形態別】

	TOTAL (n=636)	就業形態別（無回答n=24非表示）	
		正社員 （正規職員） (n=257)	非正（規）社員 （パート、アルバイト、派遣職員、 非常勤職員、嘱託職員、契約社員、 登録ヘルパー等） (n=355)
(%)			
給与表（賃金表等）の改定による賃金水準の引き上げ	26.7	28.4	25.1
定期昇給の実施	15.7	19.5	12.1
毎月支給される手当として支給	42.3	43.2	41.7
一時金（賞与・その他の臨時支給分）として支給	46.5	46.7	47.0
その他	2.0	3.5	1.1
無回答	17.5	17.1	16.9

（ケアワーカー・問 27-2）

【就業形態別】

	TOTAL (n=771)	就業形態別（無回答n=20非表示）	
		正社員 （正規職員） (n=501)	非正（規）社員 （パート、アルバイト、派遣職員、 非常勤職員、嘱託職員、契約社員 等） (n=250)
(%)			
給与表（賃金表等）の改定による賃金水準の引き上げ	12.8	13.6	11.2
定期昇給の実施	3.6	5.2	0.4
毎月支給される手当として支給	42.5	46.7	34.8
一時金（賞与・その他の臨時支給分）として支給	49.7	46.5	55.2
その他	2.6	2.6	2.8
無回答	2.3	2.0	3.2

介護職員処遇改善加算による賃金改善として職場で行ってほしい項目については、ヘルパーでは、「給与表（賃金表等）の改定による賃金水準の引き上げ」が30.2%と最も多く、次いで「定期昇給の実施」（29.2%）となっている。ケアワーカーでは、「毎月支給される手当として支給」（46.6%）が最も多く、次いで「一時金（賞与・その他の臨時支給分）として支給」（34.4%）となっている。

図表 2 (10)②-3 処遇改善加算の実施項目・職場で行ってほしい賃金改善（複数回答）
（ヘルパー・問 29-2）

【就業形態別】

	TOTAL (n=636)	就業形態別(無回答n=24非表示)	
		正社員 (正規職員) (n=257)	非正(規)社員 (パート、 アルバイト、 派遣職員、非 常勤職員、嘱 託職員、契約 社員、登録ヘルパー等) (n=355)
(%)			
給与表(賃金表等)の改定による賃金水準の引き上げ	30.2	34.2	27.6
定期昇給の実施	29.2	31.9	28.2
毎月支給される手当として支給	20.6	26.1	16.3
一時金(賞与・その他の臨時支給分)として支給	26.7	28.8	25.9
その他	1.6	1.6	1.7
無回答	45.4	42.4	47.3

（ケアワーカー・問 27-3）

【就業形態別】

	TOTAL (n=771)	就業形態別(無回答n=20非表示)	
		正社員 (正規職員) (n=501)	非正(規)社員 (パート、 アルバイト、 派遣職員、非 常勤職員、嘱 託職員、契約 社員等) (n=250)
(%)			
給与表(賃金表等)の改定による賃金水準の引き上げ	30.6	34.3	23.6
定期昇給の実施	13.4	17.2	6.4
毎月支給される手当として支給	46.6	46.7	45.2
一時金(賞与・その他の臨時支給分)として支給	34.4	30.5	42.4
その他	2.1	2.4	1.6
無回答	4.7	4.4	4.8

③ 待遇面の要望

待遇面の要望については、ヘルパーで「賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい」が38.0%と最も多くなっている。次いで、「能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映してほしい」(25.2%)、「キャリアに応じた給与体系を整備してほしい」(21.7%)となっている。

図表 2 (10)③-1 待遇面の要望（複数回答、ヘルパー・問 33）

【就業形態別】

	TOTAL (n=826)	就業形態別(無回答n=30非表示)	
		正社員 (正規職員) (n=324)	非正(規)社員 (パート、アルバイト、派遣職員、 非常勤職員、嘱託職員、契約社員、 登録ヘルパー等) (n=472)
(%)	(n=826)	(n=324)	(n=472)
労働時間(時間帯・総労働時間)の希望を聞いてほしい	13.0	13.0	12.9
職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図ってほしい	21.1	19.8	22.5
賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい	38.0	48.5	31.4
非正規職員から正規職員への転換の機会を設けてほしい	5.3	2.8	7.0
能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映してほしい	25.2	25.0	25.0
能力開発(社内研修実施、社外講習等の受講・支援等)を充実してほしい	18.3	21.6	16.7
仕事内容の希望(持ち場の移動など)を聞いてほしい	10.5	9.6	11.7
業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに力を入れてほしい	18.6	22.5	15.9
経営者・管理者と従業員が経営方針・ケア方針を共有する機会を設けてほしい	12.6	15.4	10.0
キャリアに応じた給与体系を整備してほしい	21.7	21.9	20.8
悩み、不安、不満などの相談窓口を設けてほしい	12.1	12.3	11.9
健康対策や健康管理に力を入れてほしい	10.7	10.5	10.4
福利厚生を充実させ、職場内の交流を深めてほしい	16.8	19.1	14.8
職場環境を整えてほしい(休憩室、談話室、出社時に座れる席の確保等)	12.3	15.7	9.7
新人の指導担当・アドバイザーを置いてほしい	10.7	14.5	8.1
職員の仕事内容と必要な能力等を明示してほしい	6.4	7.4	5.9
管理者・リーダー層の部下育成や動機付け能力向上に向けた教育研修に力を入れてほしい	13.4	17.6	10.0
子育て支援を行ってほしい(子ども預り所を設ける、保育費用支援等)	9.3	14.2	5.9
その他	2.7	2.2	3.2
無回答	18.2	13.0	21.4

ケアワーカーでは、「賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい」(50.7%)に次いで、「能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映してほしい」(40.5%)、「業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに力を入れてほしい」(36.0%)となっている。

図表 2 (10)③-2 待遇面の要望（複数回答、ケアワーカー・問 31）

【就業形態別】

	TOTAL (n=945)	就業形態別(無回答n=23非表示)	
		正社員 (正規職員) (n=569)	非正(規)社員 (パート、アルバイト、派遣職員、非常勤職員、嘱託職員、契約社員等) (n=353)
(%)			
健康対策や健康管理に力を入れてほしい	18.7	20.6	16.1
労働時間(時間帯・総労働時間)の希望を聞いてほしい	14.4	15.8	12.2
賃金、労働時間等の労働条件を改善してほしい	50.7	54.0	45.3
キャリアに応じた給与体系を整備してほしい	31.6	35.1	26.6
非正規職員から正規職員への転換の機会を設けてほしい	3.5	2.3	5.7
子育て支援を行ってほしい(子ども預り所を設ける。保育費用支援等)	17.0	18.8	14.2
福利厚生を充実させ、職場内の交流を深めてほしい	20.0	23.6	14.7
職場内の仕事上のコミュニケーションの円滑化を図ってほしい	24.6	25.5	23.8
経営者・管理者と従業員が経営方針・ケア方針を共有する機会を設けてほしい	15.8	18.5	12.2
悩み、不安、不満などの相談窓口を設けてほしい	18.9	18.8	19.5
能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映してほしい	40.5	41.7	39.4
職員の仕事内容と必要な能力等を明示してほしい	14.2	14.8	12.7
管理者・リーダー層の部下育成や動機付け能力向上に向けた教育研修に力を入れてほしい	22.8	26.0	17.0
新人の指導担当・アドバイザーを置いてほしい	22.9	23.0	22.4
仕事内容の希望(持ち場の移動など)を聞いてほしい	11.7	12.0	11.0
能力開発(社内研修実施、社外講習等の受講・支援等)を充実してほしい	15.3	17.8	11.6
業務改善や効率化等による働きやすい職場作りに力を入れてほしい	36.0	38.0	33.7
職場環境を整えてほしい(休憩室、談話室、出社時に座れる席の確保等)	27.3	31.1	21.5
その他	3.7	3.2	4.8
無回答	9.1	7.6	11.6

④ 賃金・労働時間・やりがい

賃金・労働時間に関して、『収入が少なくても、自分の都合のよい時間に働ける方がよい』とする考え方については、ヘルパーでは、『あてはまる（「大いにあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計）』は57.5%に対し、『あてはまらない（「あまりあてはまらない」及び「全くあてはまらない」の合計）』は38.7%となっている。

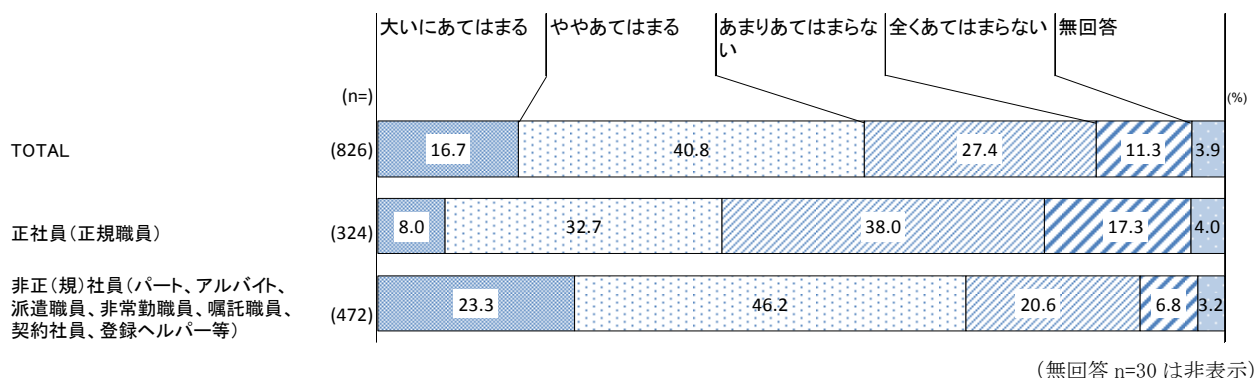
就業形態別では、正社員（正規職員）は『あてはまる』は40.7%に対し、非正（規）社員では69.5%と非正（規）社員が30ポイント近く上回っている。

ケアワーカーでは、『あてはまる』は41.9%に対し、『あてはまらない』は53.6%となっている。

就業形態別では、正社員（正規職員）は『あてはまる』は28.6%に対し、非正（規）社員では63.2%と非正（規）社員が30ポイント以上上回っている。

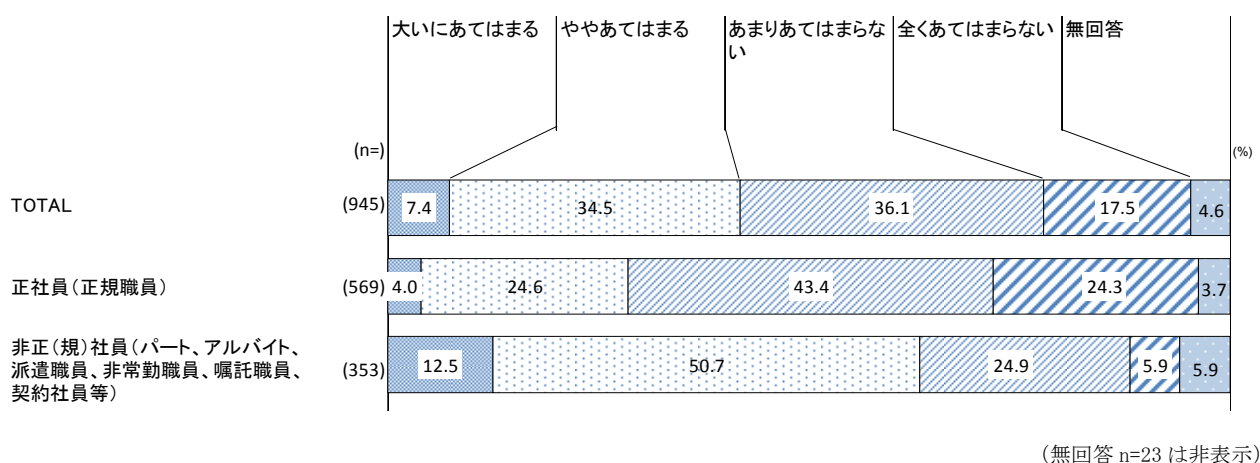
図表2 (10)④-1 賃金・労働時間について
『収入が少なくても、自分の都合のよい時間に働ける方がよい』
(ヘルパー・問34)

【就業形態別】



(ケアワーカー・問32)

【就業形態別】



賃金・労働時間に関して、『毎月決まった収入があれば、自分の希望する曜日や時間帯にこだわらない』とする考え方については、ヘルパーでは、『あてはまる（「大いにあてはまる」及び「ややあてはまる」の合計）』は 36.7%に対し、『あてはまらない（「あまりあてはまらない」及び「全くあてはまらない」の合計）』は 58.9%となっている。

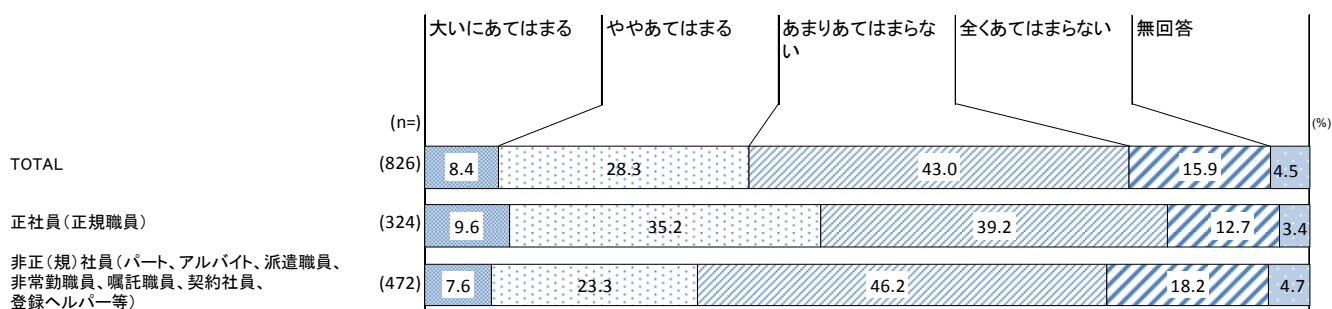
職業形態別では、正社員（正規職員）は『あてはまる』は 44.8%に対し、非正（規）社員では 30.9%と正社員（正規職員）が 10 ポイント以上上回っている。

ケアワーカーでは、「大いにあてはまる」（7.4%）、「ややあてはまる」（37.1%）を合わせた『あてはまる』は 44.5%に対し、「あまりあてはまらない」（35.2%）、「全くあてはまらない」（15.3%）を合わせた『あてはまらない』は 50.5%となっている。

職業形態別では、正社員（正規職員）は『あてはまる』は 55.0%に対し、非正（規）社員では 26.3%と正社員（正規職員）が 30 ポイント近く上回っている。

図表 2 (10)④-2 賃金・労働時間についての考え
『毎月決まった収入があれば、自分の希望する曜日や時間帯にこだわらない』
(ヘルパー・問 34)

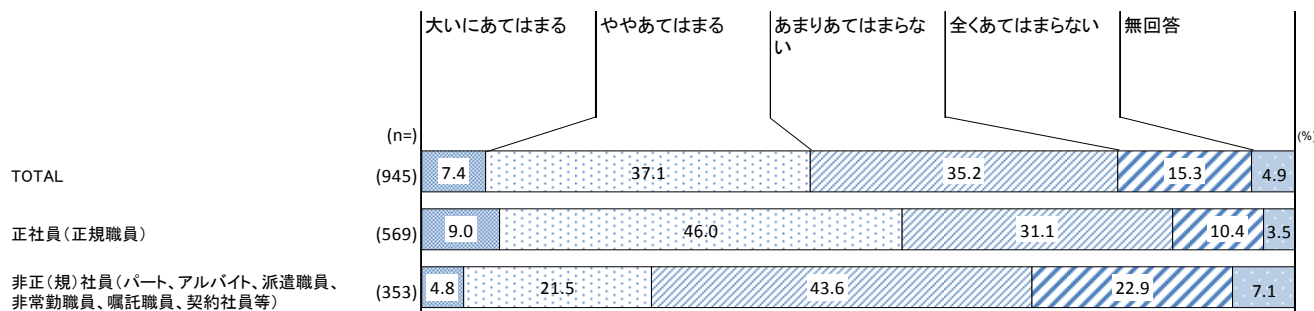
【就業形態別】



(無回答 n=30 は非表示)

(ケアワーカー・問 32)

【就業形態別】



(無回答 n=23 は非表示)

やりがいを感じる際には、ヘルパー、ケアワーカーとも「利用者や家族から感謝されること」（ヘルパー64.6%、ケアワーカー54.2%）が最も多く、次いで、「利用者とのコミュニケーションがスムーズに図られること」（ヘルパー60.3%、ケアワーカー52.7%）、「持っている資格が生かせること」（ヘルパー52.8%、ケアワーカー35.4%）となっている。

図表 2 (10)④-3 やりがいを感じる時（複数回答）
（ヘルパー・問 36）

【就業形態別】

	TOTAL (n=826)	就業形態別（無回答n=30非表示）	
		正社員 （正規職員） (n=324)	非正（規）社員 （パート、アルバイト、派遣職員、非常勤職員、嘱託職員、契約社員、登録ヘルパー等） (n=472)
(%)			
持っている資格が生かせること	52.8	48.8	55.7
経験・勤続年数を生かした働き方ができること	32.4	30.9	33.7
利用者とのコミュニケーションがスムーズに図られること	60.3	60.2	61.0
利用者や家族から感謝されること	64.6	62.3	66.1
能力に見合った賃金が支払われること	14.6	11.4	16.5
先輩からノウハウやスキルを学べること	23.5	24.4	22.9
研修や勉強会に参加して新たな知識やネットワークを広げられること	22.3	19.8	24.8
専門技術・ノウハウを生かせること	16.7	18.5	15.5
スタッフの自主性を尊重してくれること	27.6	25.9	28.2
その他	2.2	1.9	2.5
無回答	5.4	5.6	5.1

（ケアワーカー・問 34）

【就業形態別】

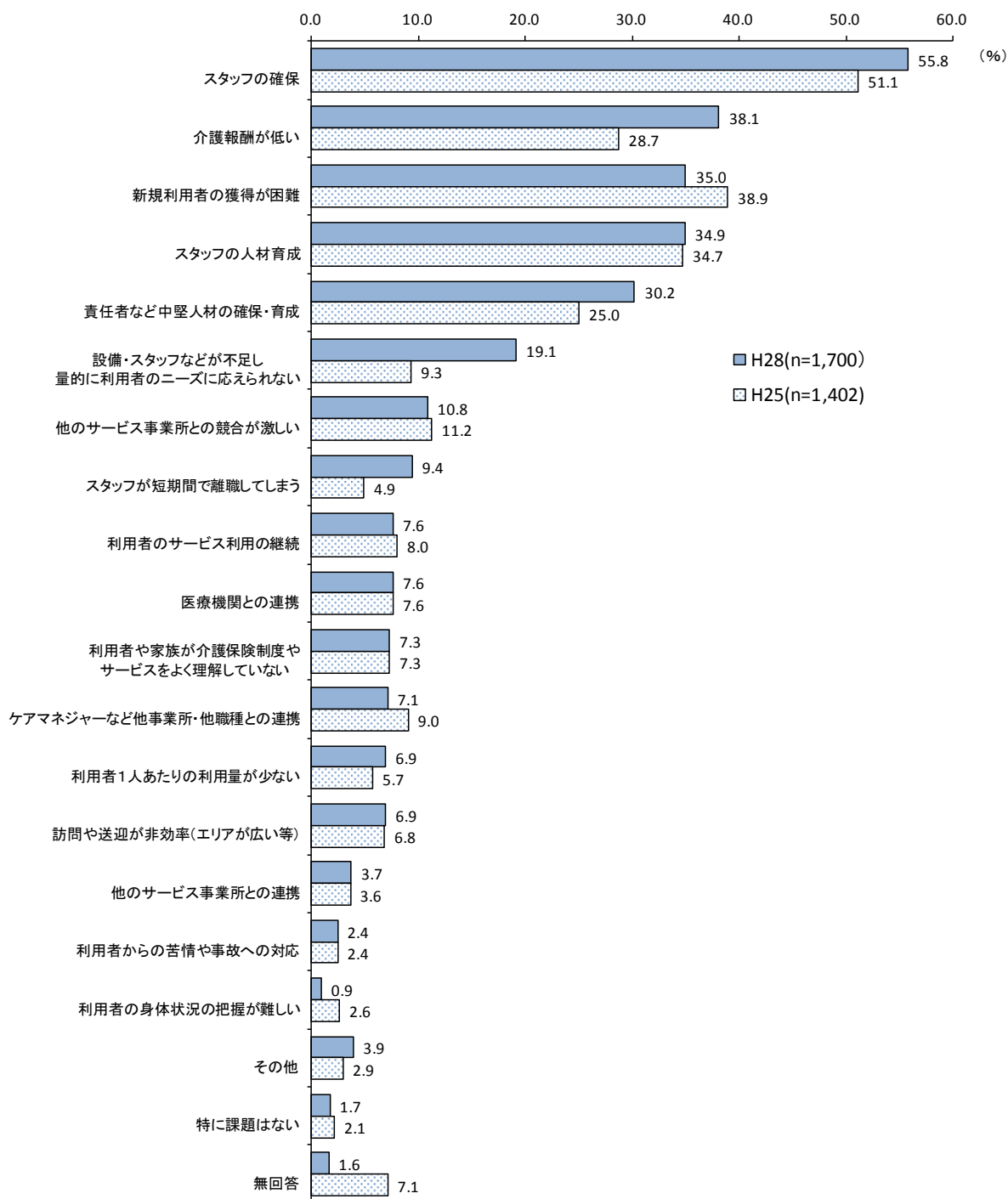
	TOTAL (n=945)	就業形態別（無回答n=23非表示）	
		正社員 （正規職員） (n=569)	非正（規）社員 （パート、アルバイト、派遣職員、非常勤職員、嘱託職員、契約社員等） (n=353)
(%)			
持っている資格が生かせること	35.4	36.9	33.1
経験・勤続年数を生かした働き方ができること	34.1	34.4	33.7
利用者とのコミュニケーションがスムーズに図られること	52.7	49.9	57.8
利用者や家族から感謝されること	54.2	55.9	52.1
能力に見合った賃金が支払われること	12.3	13.9	10.5
先輩からノウハウやスキルを学べること	23.2	23.6	23.2
研修や勉強会に参加して新たな知識やネットワークを広げられること	16.6	20.0	11.9
専門技術・ノウハウを生かせること	13.2	16.3	8.8
スタッフの自主性を尊重してくれること	19.0	21.6	15.3
その他	4.4	4.6	4.5
無回答	5.2	4.7	5.7

(11) 事業所の状況

① 介護サービス事業所

在宅サービス事業所について、事業を運営する上での課題は、「スタッフの確保」が 55.8%と最も多く、次いで「介護報酬が低い」(38.1%)、「新規利用者の獲得が困難」(35.0%)の順となっている。前回(平成 25 年)と比較すると、「介護報酬が低い」、「設備・スタッフなどが不足し量的に利用者のニーズに応えられない」(19.1%)は、それぞれ前回(平成 25 年)を 10 ポイント近く上回っている。

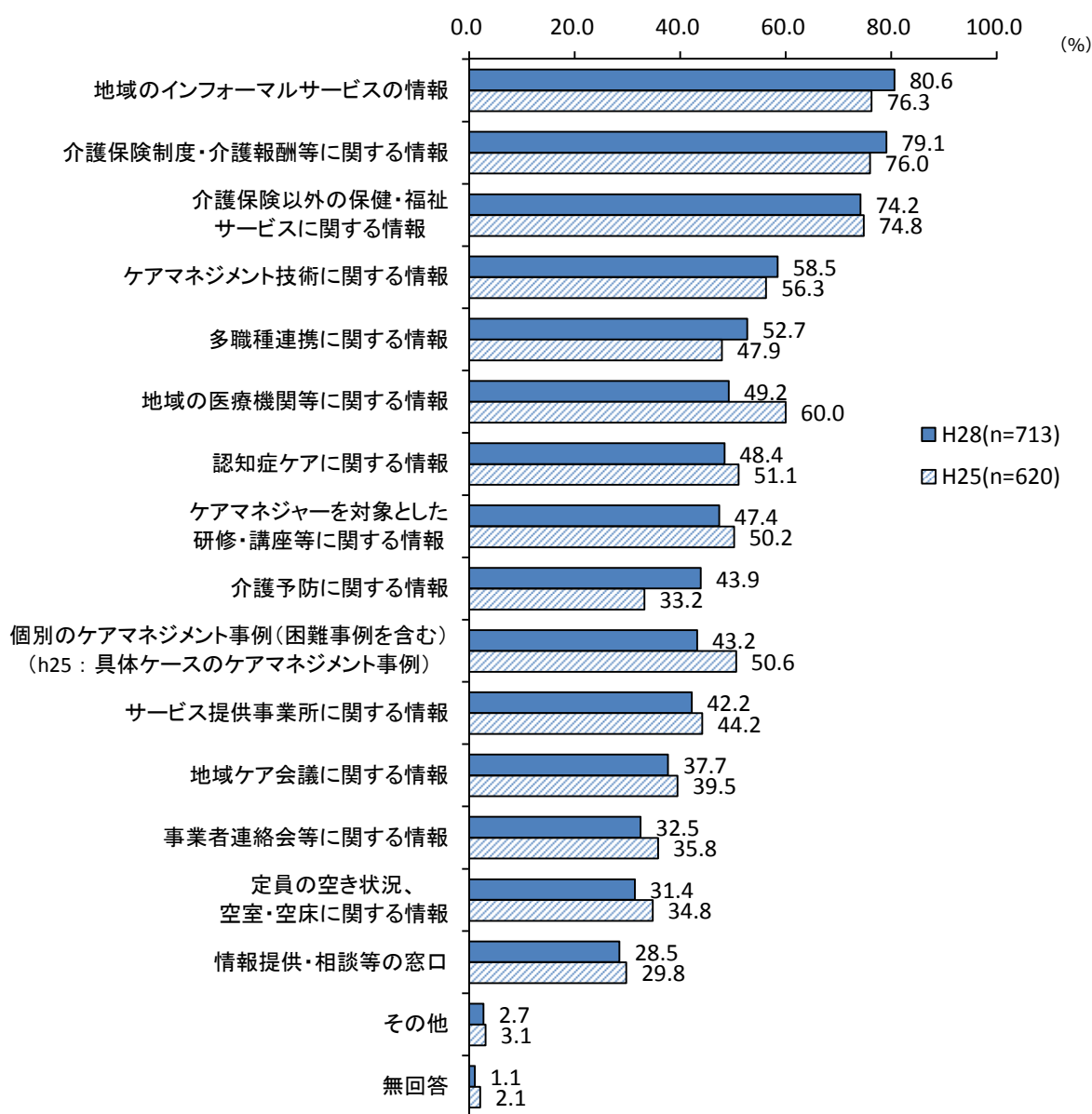
図表 2 (11)① 事業を運営する上での課題(居宅介護支援以外の居宅サービス)
(複数回答、時系列、介護事業所・問 9)



② 居宅介護支援事業所

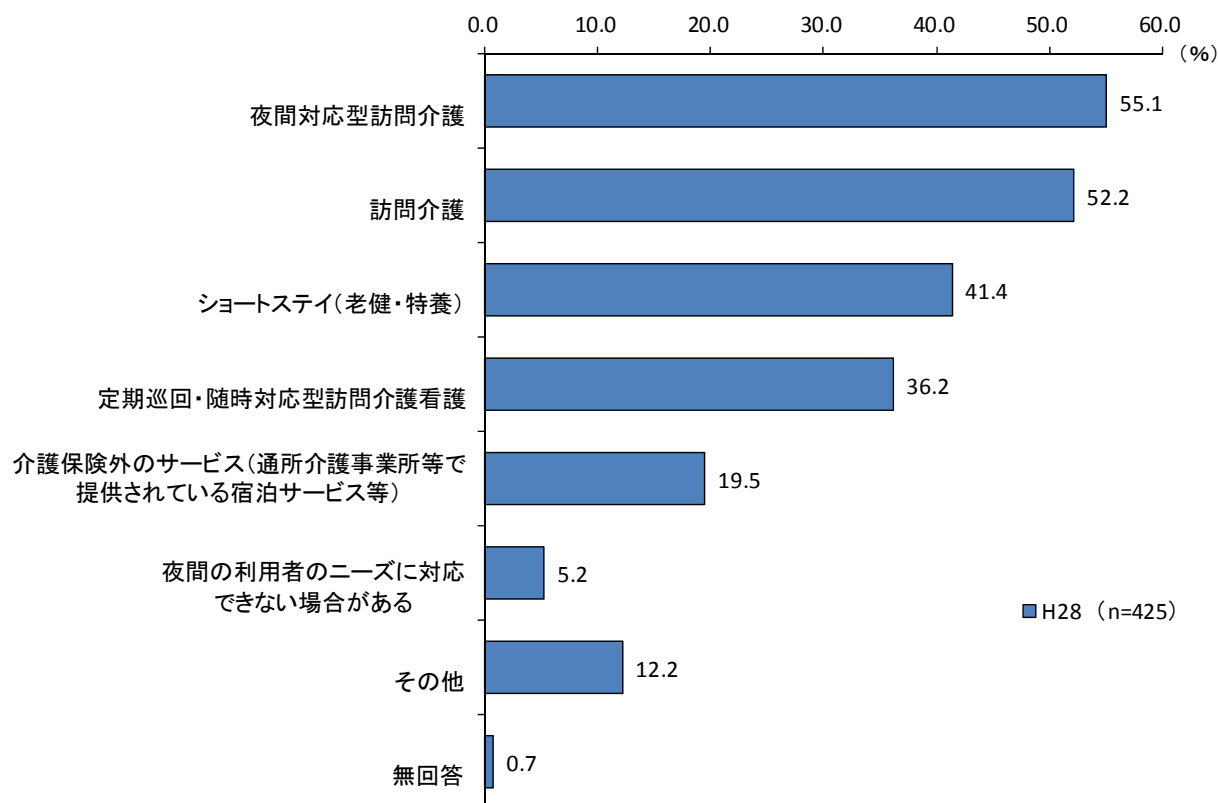
ケアマネジャー業務を行う上で必要な情報については、「地域のインフォーマルサービスの情報」(80.6%)、「介護保険制度・介護報酬等に関する情報」(79.1%)、「介護保険以外の保健・福祉サービスに関する情報」(74.2%) がともに7割を超えている。前回(平成25年)と比較すると、上位3項目は変わらず、「ケアマネジメント技術に関する情報」(58.5%)、「多職種連携に関する情報」(52.7%) が半数を超えて、前回(平成25年)よりも高くなっている。また「介護予防に関する情報」は43.9%と、前回(平成25年、33.2%)を10ポイント上回っている。

図表2(11)②-1 ケアマネジャー業務を行う上で必要な情報(複数回答、時系列)
(居宅介護支援・問13)



夜間の対応が必要な利用者について、現時点でのサービスの利用状況は、「夜間対応型訪問介護」(55.1%)、「訪問介護」(52.2%) がともに半数を超えている。次いで「ショートステイ(老健・特養)」(41.4%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(36.2%) の順となっている。

図表 2 (11) ②-2 夜間の対応が必要な利用者の現時点のサービス利用状況 (複数回答)
(居宅介護支援・問 14-1)



③ 他の介護サービス事業所との連携状況

医療系サービス提供事業所の他の介護サービス事業との連携については、「勉強会、ケース検討会の共同開催」(35.8%)が最も多く、次いで「地域包括支援センターとの連絡会などの連携」(33.6%)となっている。

図表2(11)③ 他の介護サービス事業との連携(複数回答、介護事業所・問14)

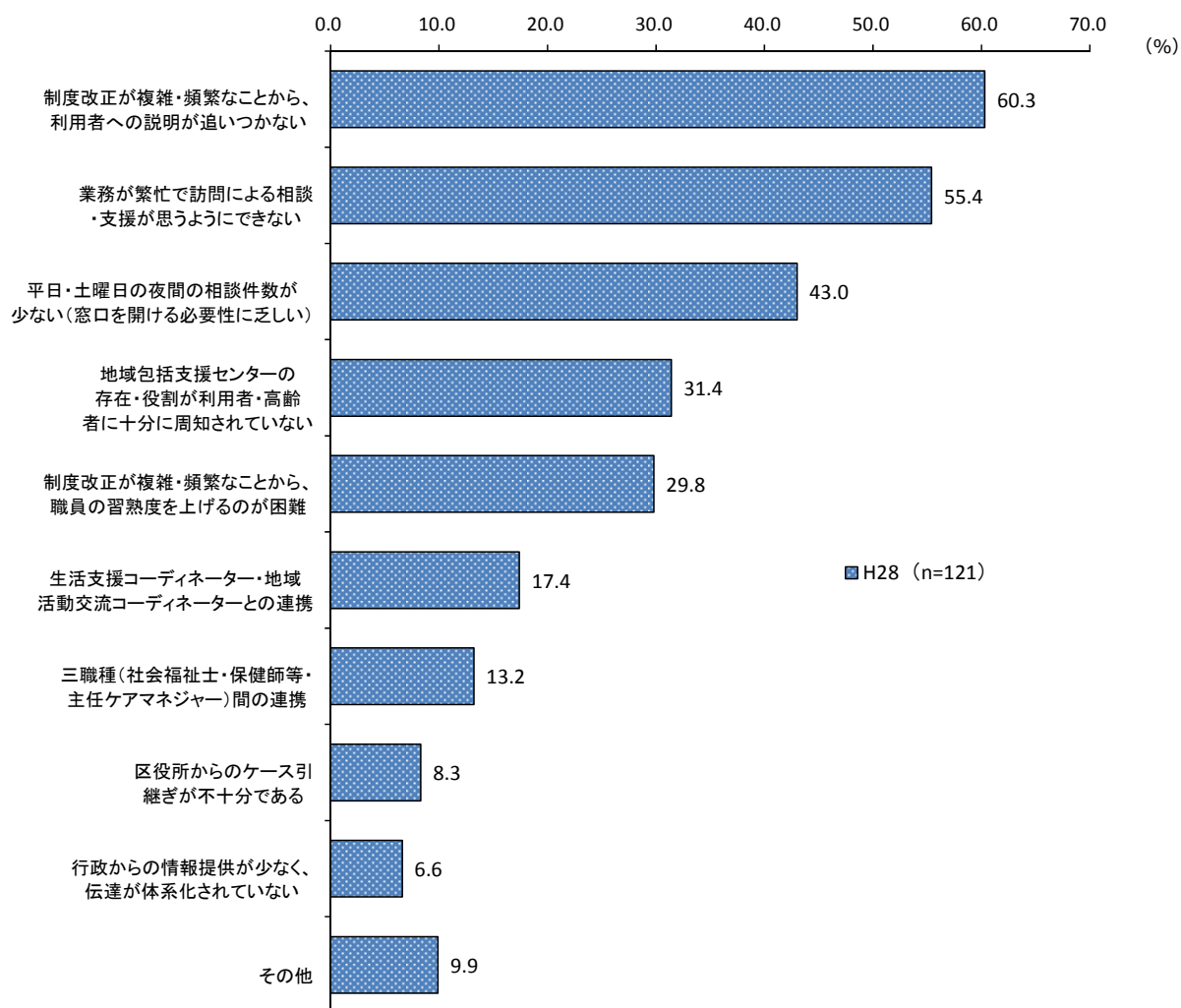
【医療系サービス提供事業所別】

(%)	TOTAL (n=1700)	医療系サービス提供事業所別(無回答n=32非表示)				
		訪問看護 (n=230)	訪問リハビリ テーション (n=61)	居宅療養管 理指導 (n=73)	通所リハビリ テーション (n=91)	医療系サービ ス提供事業 所以外 (n=1573)
勉強会、ケース検討会の共同開催	35.8	51.3	32.8	30.1	27.5	36.0
地域包括支援センターとの連絡会などの連携	33.6	44.3	29.5	30.1	23.1	34.7
定員オーバーや空きがある場合の紹介・連携	23.6	35.2	24.6	15.1	34.1	23.9
サービス事業所等との交換研修の実施	20.5	27.8	16.4	16.4	17.6	21.0
事業環境などの情報交換	19.1	22.6	19.7	9.6	29.7	19.1
技術的に対応できない場合の紹介・連携	11.0	16.1	16.4	4.1	17.6	11.4
NPO・ボランティア等活動団体との連絡会	5.7	3.9	3.3	2.7	4.4	5.8
その他	4.3	6.5	1.6	5.5	3.3	4.3
特になし	19.5	14.8	26.2	35.6	18.7	18.9
無回答	3.7	2.2	3.3	8.2	1.1	3.1

④ 地域ケアプラザ等

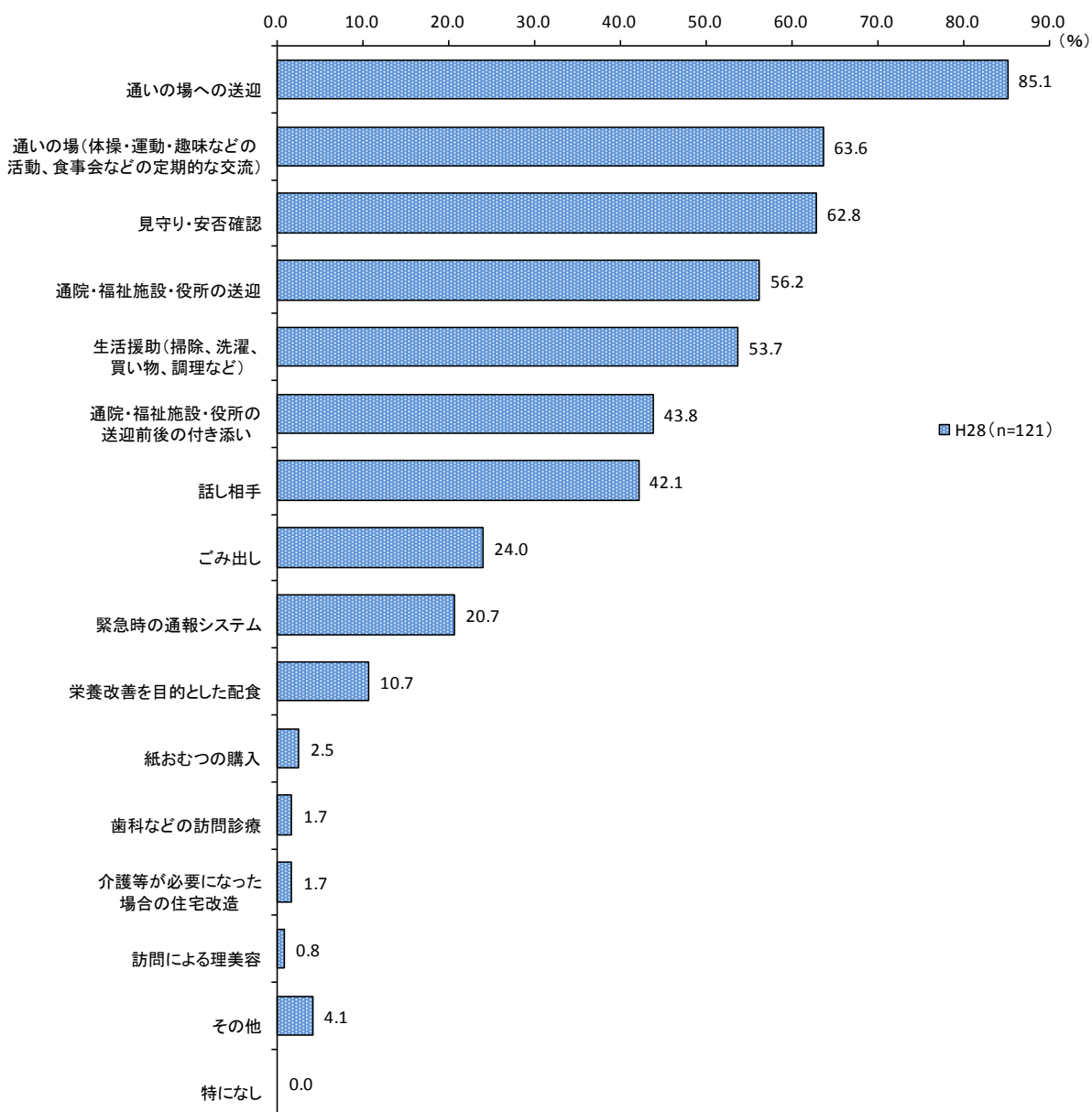
市内各地域ケアプラザ等における、地域包括支援センターの相談支援業務の課題については、「制度改正が複雑・頻繁なことから、利用者への説明が追いつかない」が60.3%で最も多く、次いで「業務が繁忙で訪問による相談・支援が思うようにできない」(55.4%)、「平日・土曜日の夜間の相談件数が少ない(窓口を開ける必要性に乏しい)」(43.0%)の順となっている。

図表 2 (11)④-1 地域包括支援センターの相談支援業務の課題 (複数回答)
(ケアプラ・問8)



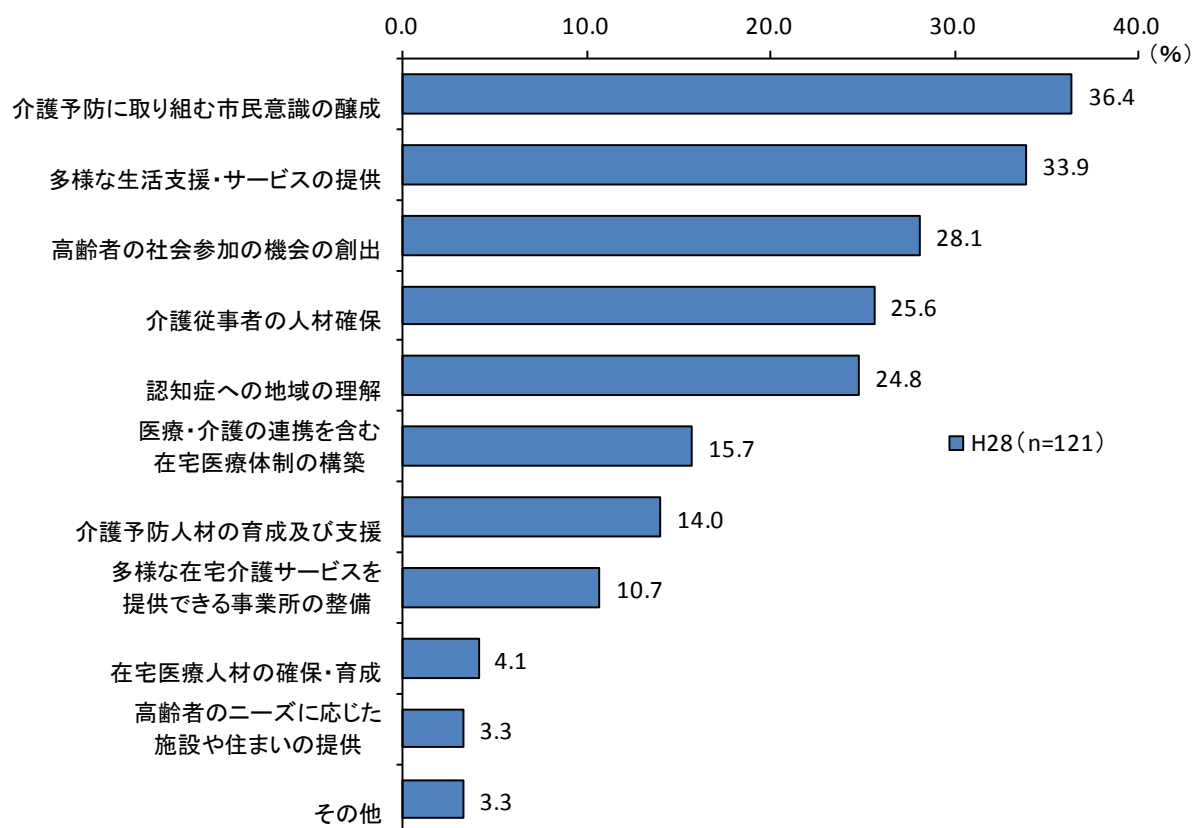
今後充実が必要だと思う活動やサービスについては、「通いの場への送迎」が 85.1%で最も多く、次いで「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」（63.6%）、「見守り・安否確認」（62.8%）がともに6割台で続いている。

図表 2 (11)④-2 今後充実が必要だと思う活動やサービス（複数回答）
（ケアプラ・問 13）



市内各地域ケアプラザ等への調査において、「地域包括ケアシステム構築に向けて優先すべき課題」を2つまで選択可能な形式でたずねたところ、「介護予防に取り組む市民意識の醸成」が36.4%で最も多く、次いで「多様な生活支援・サービスの提供」(33.9%)、「高齢者の社会参加の機会の創出」(28.1%)の順となっている。

図表2(11)④-3 地域包括ケアシステム構築に向けて優先度の高い課題（複数回答）
（ケアプラ・問16）

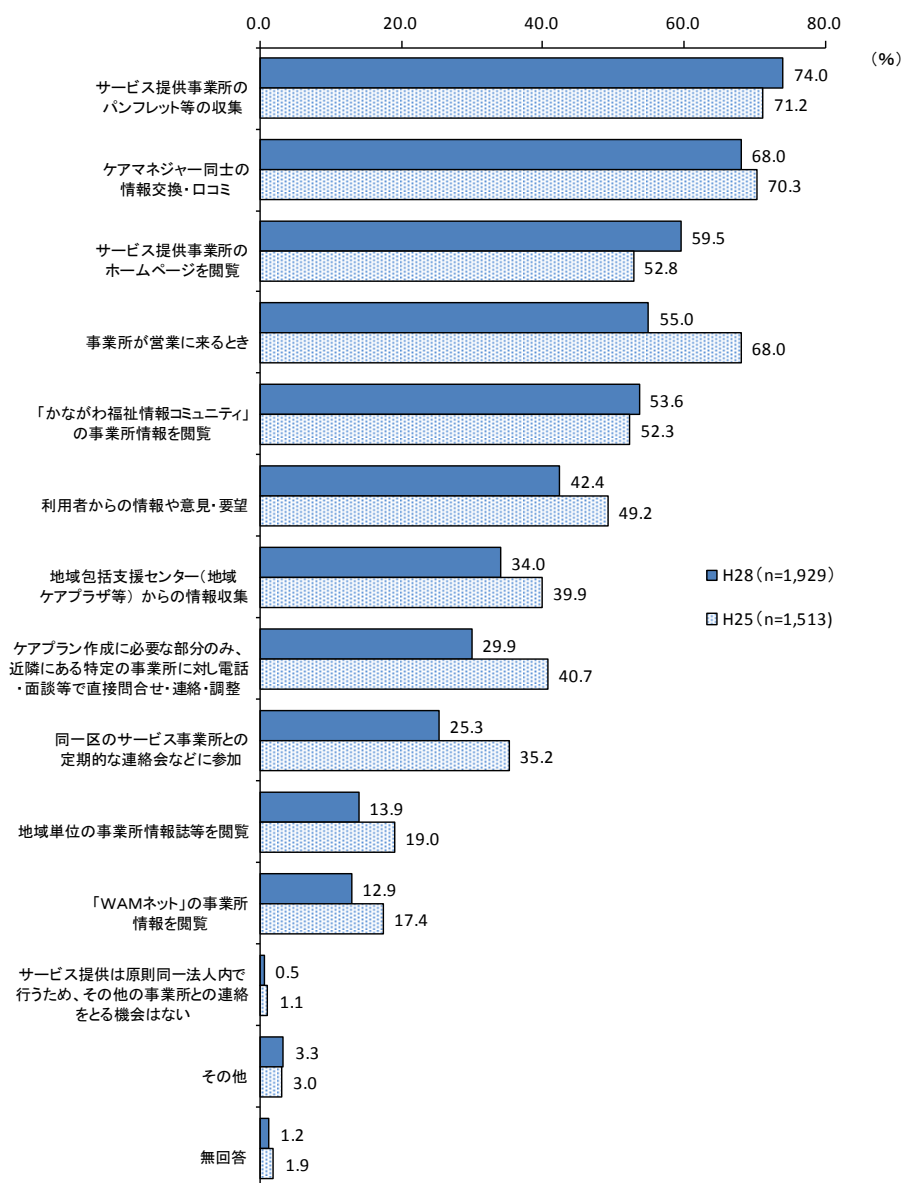


(12) 従事者（ケアマネジャー）の状況

ケアマネジャーがサービス提供事業所に関する情報収集や、連絡・調整を行う方法等については、「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」が74.0%で最も多く、次いで「ケアマネジャー同士の情報交換・ロコミ」(68.0%)、「サービス提供事業所のホームページを閲覧」(59.5%)の順となっている。

前回(平成25年)と比較すると、上位3項目のうち「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」、「サービス提供事業所のホームページを閲覧」の2つが前回(平成25年)の割合を上回っている。一方、「事業所が営業に来るとき」(55.0%)、「ケアプラン作成に必要な部分のみ、近隣にある特定の事業所に対し電話・面談等で直接問合せ・連絡・調整」(29.9%)、「同一区のサービス事業所との定期的な連絡会などに参加」(25.3%)では前回(平成25年)に比べてそれぞれ10ポイント前後低くなっている。

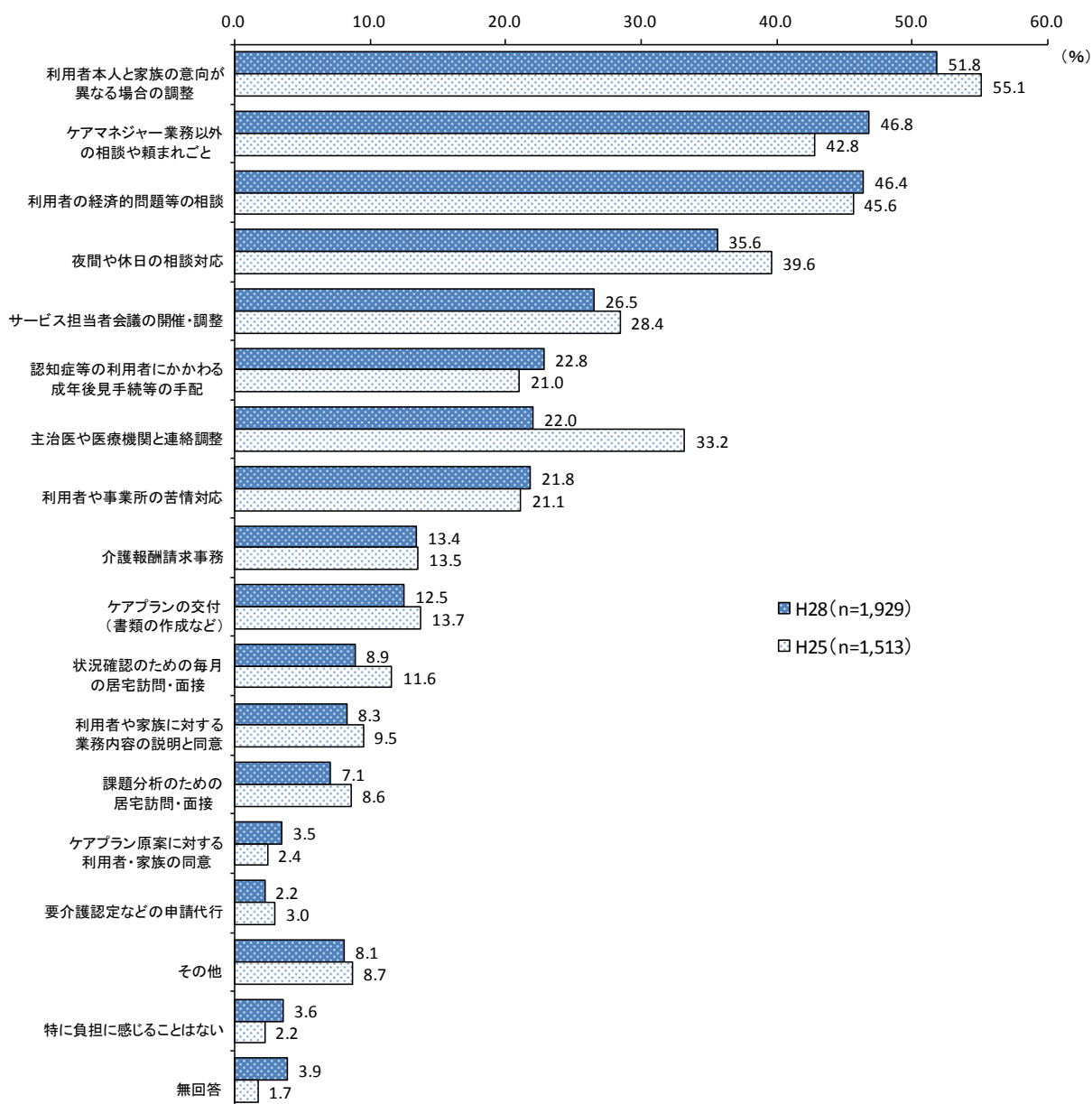
図表2(12)-1 サービス提供事業所に関する情報収集・連絡・調整の方法(複数回答、時系列)
(ケアマネジャー・問22)



ケアマネジャー業務を行う上での負担感については、「利用者本人と家族の意向が異なる場合の調整」が 51.8%で最も多く、次いで「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」(46.8%)、「利用者の経済的問題等の相談」(46.4%) の順となっている。

前回(平成 25 年)と比較すると、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」、「利用者の経済的問題等の相談」、「認知症等の利用者にかかわる成年後見手続等の手配」、「利用者や事業所の苦情対応」、「ケアプラン原案に対する利用者・家族の同意」で前回(平成 25 年)よりやや高い、もしくは同じ程度の割合だが、他の項目は前回(平成 25 年)を下回っており、「主治医や医療機関と連絡調整」(22.0%)は 10 ポイント近く低くなっている。

図表 2 (12)-2 ケアマネジャー業務を行う上での負担感(複数回答、時系列)
(ケアマネジャー・問 43)



3. 医療

(1) 医療ニーズへの対応

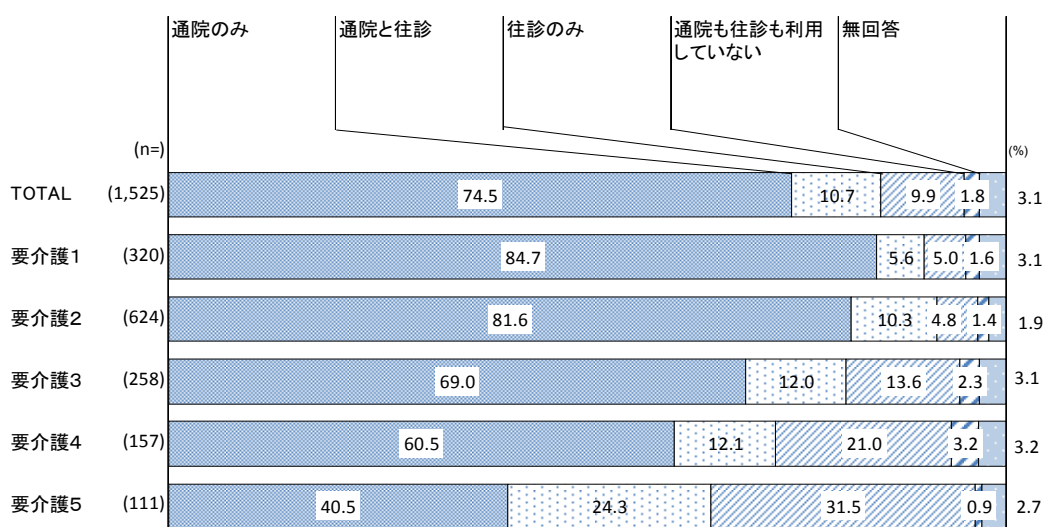
① 通院・往診状況

要介護者の通院・往診の状況は、「通院のみ」が最も多く、74.5%と4人のうち3人を占める割合となっている。

要介護度別では、要介護1・2の人は「通院と往診」及び「往診のみ」の割合が低いのに対し、要介護5では、「通院と往診」は24.3%、「往診のみ」が31.5%と高くなっている。

図表3(1)① 通院・往診状況（要介護・問20）

【要介護度別】



(無回答 n=55 は非表示)

② 通院の診療科目

要介護者の通院の診療科目では、「内科」が70.0%と最も多く、次いで「整形外科」(30.6%)、「眼科」(24.0%)となっている。

図表3(1)② 通院の診療科目（複数回答、要介護・問20-2）

【要介護度別】

	TOTAL (n=1299)	要介護度別(無回答n=42非表示)				
		要介護1 (n=289)	要介護2 (n=573)	要介護3 (n=209)	要介護4 (n=114)	要介護5 (n=72)
内科	70.0	72.7	69.5	71.3	71.1	55.6
整形外科	30.6	36.0	31.1	28.7	28.1	16.7
眼科	24.0	28.0	25.0	22.0	19.3	18.1
歯科	19.4	23.5	20.4	16.7	12.3	15.3
神経内科	16.4	17.6	15.5	18.7	15.8	16.7
循環器科	16.0	14.2	19.4	12.9	12.3	12.5
皮膚科	12.0	9.3	12.0	16.3	13.2	13.9
外科	6.6	5.9	7.7	7.2	4.4	4.2
耳鼻いんこう科	5.5	6.6	5.9	3.8	3.5	6.9
その他	19.1	13.8	17.5	24.4	21.9	34.7
無回答	3.0	3.1	2.6	2.9	3.5	4.2

③ 往診の内容

要介護者の往診内容では、「痛みに対する管理（注射、湿布、薬等）」が29.0%で最も多く、次いで「歯科診療（入れ歯、口腔ケア等）」（28.3%）となっている。

要介護度別で見ると、要介護1では「痛みに対する管理（注射、湿布、薬等）」（32.4%）や「歯科診療（入れ歯、口腔ケア等）」（29.4%）が高かったのに対し、要介護5では、「歯科診療（入れ歯、口腔ケア等）」（35.5%）や「経管栄養（胃ろう等）」（19.4%）、「じょくそう（床ずれ）の処置」、「飲み込みの問題」（ともに17.7%）が多くなっている。

図表3(1)③ 往診内容（複数回答、要介護・問20-4）

【要介護度別】

	TOTAL (n=314)	要介護度別(無回答n=6非表示)				
		要介護1 (n=34)	要介護2 (n=94)	要介護3 (n=66)	要介護4 (n=52)	要介護5 (n=62)
痛みに対する管理(注射、湿布、薬等)	29.0	32.4	37.2	34.8	28.8	11.3
歯科診療(入れ歯、口腔ケア等)	28.3	29.4	24.5	25.8	28.8	35.5
じょくそう(床ずれ)の処置	8.3	5.9	2.1	3.0	17.3	17.7
飲み込みの問題	8.0	2.9	6.4	3.0	9.6	17.7
導尿の管理(カテーテル、自己)	5.7	0.0	3.2	1.5	9.6	14.5
点滴	5.1	0.0	7.4	4.5	5.8	4.8
経管栄養(胃ろう等)	5.1	0.0	1.1	0.0	5.8	19.4
酸素療法	4.1	2.9	5.3	3.0	5.8	3.2
気管切開の処置	3.2	0.0	2.1	1.5	1.9	9.7
人工呼吸器	1.6	0.0	0.0	1.5	0.0	6.5
インスリン注射	1.0	0.0	1.1	1.5	0.0	1.6
その他	36.6	41.2	27.7	43.9	42.3	37.1
無回答	13.4	14.7	13.8	13.6	9.6	11.3

(2) 医療と介護の連携

① 医療機関等からの情報収集

ケアプラン作成時の医療機関等からの情報収集については、「主治医の意見書を入手」(92.1%)が最も多く、次いで「医療相談室MSWを通じた情報収集等」(69.9%)、「往診・受診・通院・入院時に同行」(59.7%)となっている。

図表3(2)① ケアプラン作成時の医療機関等からの情報収集
(複数回答、ケアマネジャー・問33)

【勤務形態別】

(%)	TOTAL (n=1929)	勤務形態別(無回答n=18非表示)			
		常勤・専従 (n=983)	常勤・兼務 (n=575)	非常勤・専従 (n=279)	非常勤・兼務 (n=74)
主治医の意見書を入手	92.1	93.6	91.7	91.8	90.5
医療相談室MSWを通じた情報収集等	69.9	72.2	72.9	62.7	51.4
往診・受診・通院・入院時に同行	59.7	59.6	67.5	52.0	37.8
カンファレンス	52.0	53.5	53.0	47.7	43.2
家族を通じて医師に指示を確認	51.9	51.2	57.2	45.9	52.7
入院歴のある人の場合は入院していた医療機関に対して 問合せ・連絡・情報収集	34.9	33.9	37.4	35.8	33.8
意見書を記載した主治医に対して電話・面談等で直接 問合せ・連絡・情報収集	20.5	18.9	25.4	16.8	18.9
意見書を記載した主治医以外のかかりつけ医に対して電 話・面談等で直接問合せ・連絡・情報収集	9.7	9.3	12.2	7.5	8.1
その他	1.7	1.5	2.1	1.4	1.4
特に行っていない	0.6	0.5	0.5	1.4	0.0
無回答	1.4	1.1	0.7	0.4	2.7

【業務兼務内容別】

※勤務形態が「常勤・兼務」及び「非常勤・兼務」の方のみの結果のため、TOTAL値が上記と異なる。

(%)	TOTAL (n=649)	業務兼務内容別(無回答n=6非表示)			
		管理業務 (n=516)	医療系サービス (n=50)	介護サービス (n=84)	相談業務 (n=67)
主治医の意見書を入手	91.5	92.6	80.0	85.7	88.1
医療相談室MSWを通じた情報収集等	70.4	74.8	58.0	53.6	59.7
往診・受診・通院・入院時に同行	64.1	69.2	50.0	52.4	56.7
家族を通じて医師に指示を確認	56.7	58.1	48.0	51.2	59.7
カンファレンス	51.9	53.9	50.0	44.0	52.2
入院歴のある人の場合は入院していた医療機関に対して 問合せ・連絡・情報収集	37.0	37.6	60.0	29.8	34.3
意見書を記載した主治医に対して電話 ・面談等で直接問合せ・連絡・情報収集	24.7	25.0	38.0	20.2	22.4
意見書を記載した主治医以外のかかりつけ医に対して電 話・面談等で直接問合せ・連絡・情報収集	11.7	12.4	16.0	8.3	17.9
その他	2.0	2.3	2.0	1.2	1.5
特に行っていない	0.5	0.2	0.0	2.4	0.0
無回答	0.9	0.8	2.0	2.4	0.0

② 医療機関との連携で困ること

ケアマネジャーが医療機関との連携で困ることについては、「サービス担当者会議の日程調整が難しい」(43.2%)が最も多く、次いで「医師といつ連絡を取ればよいか分からない」(43.0%)、「退院までの準備期間が短い」(34.5%)となっている。

図表3(2)② 医療機関との連携で困ること(複数回答、ケアマネジャー・問35)

【勤務形態別】

(%)	TOTAL (n=1929)	勤務形態別(無回答n=18非表示)			
		常勤・専従 (n=983)	常勤・兼務 (n=575)	非常勤・専従 (n=279)	非常勤・兼務 (n=74)
サービス担当者会議の日程調整が難しい	43.2	42.0	47.5	40.1	43.2
医師といつ連絡を取ればよいか分からない	43.0	45.7	37.4	44.4	48.6
退院までの準備期間が短い	34.5	36.6	33.9	33.7	18.9
主治医意見書の到着が遅い	23.5	25.0	21.2	24.7	21.6
書類を頼んでも対応が遅い、嫌がられる	18.8	20.0	20.0	14.0	13.5
医療側からの一方的な意見で支援方法が決定され、介護側の意見が考慮されない	17.0	17.9	19.0	12.5	6.8
個人情報保護で医療的な情報が取りにくい	17.0	16.8	18.3	16.5	13.5
専門用語が多く理解が困難	15.7	17.4	13.4	15.4	14.9
退院してからの連絡が取りにくい	15.0	15.6	15.8	11.1	18.9
医療機関側の介護保険の説明が遅い	8.4	8.4	10.4	6.1	2.7
その他	6.1	5.8	6.8	6.1	5.4
困ったことはない	6.3	5.8	7.5	5.7	6.8
無回答	3.9	3.6	3.5	2.9	4.1

【業務兼務内容別】

※勤務形態が「常勤・兼務」及び「非常勤・兼務」の方のみの結果のため、TOTAL値が上記と異なる。

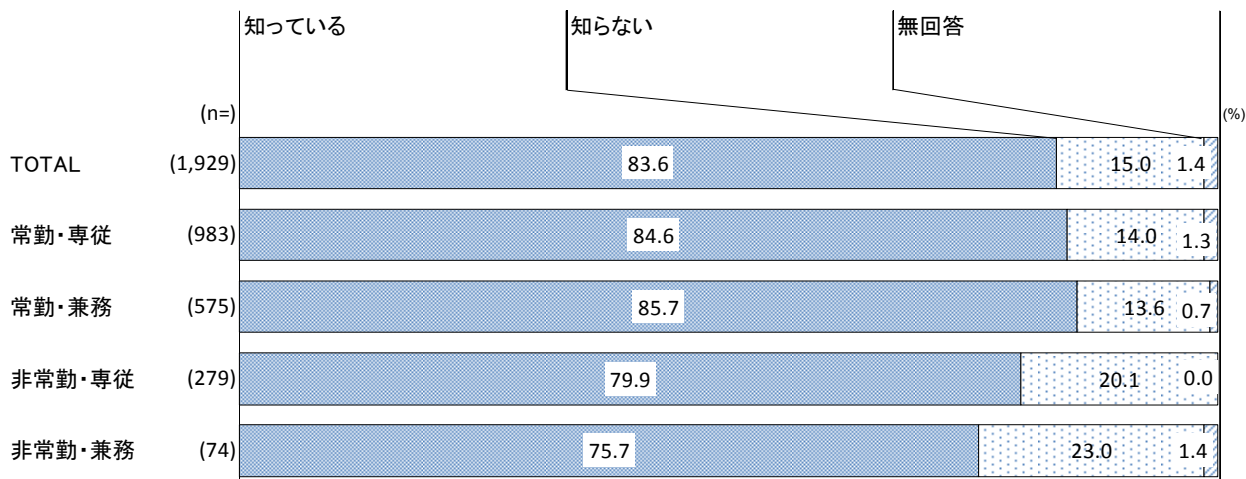
(%)	TOTAL (n=649)	業務兼務内容別(無回答n=6非表示)			
		管理業務 (n=516)	医療系サービス (n=50)	介護サービス (n=84)	相談業務 (n=67)
サービス担当者会議の日程調整が難しい	47.0	48.4	40.0	39.3	37.3
医師といつ連絡を取ればよいか分からない	38.7	36.0	24.0	53.6	38.8
退院までの準備期間が短い	32.2	34.1	32.0	25.0	31.3
主治医意見書の到着が遅い	21.3	21.7	22.0	19.0	19.4
書類を頼んでも対応が遅い、嫌がられる	19.3	20.2	20.0	8.3	13.4
個人情報保護で医療的な情報が取りにくい	17.7	19.6	8.0	10.7	17.9
医療側からの一方的な意見で支援方法が決定され、介護側の意見が考慮されない	17.6	19.8	12.0	13.1	13.4
退院してからの連絡が取りにくい	16.2	15.7	20.0	17.9	16.4
専門用語が多く理解が困難	13.6	13.4	4.0	20.2	16.4
医療機関側の介護保険の説明が遅い	9.6	10.9	10.0	1.2	6.0
その他	6.6	6.4	6.0	6.0	11.9
困ったことはない	7.4	7.6	14.0	2.4	11.9
無回答	3.5	3.3	2.0	6.0	3.0

③ 在宅医療連携拠点の認知・利用状況

ケアマネジャーの在宅医療連携拠点の認知度については、「知っている」は 83.6%、「知らない」は 15.0%となっている。

図表 3 (2) ③-1 在宅医療連携拠点の認知度 (ケアマネジャー・問 36)

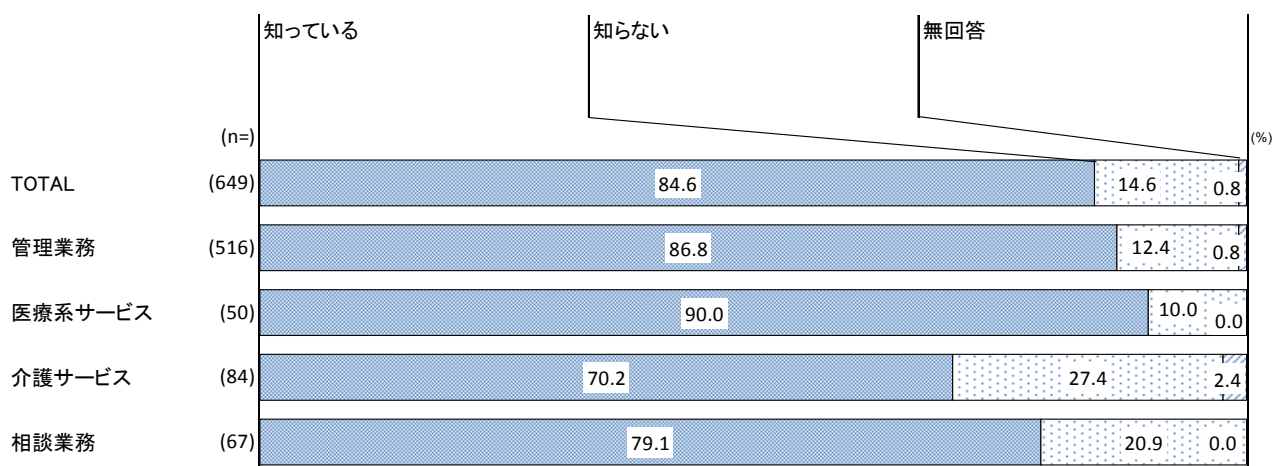
【勤務形態別】



(無回答 n=18 は非表示)

【業務兼務内容別】

※勤務形態が「常勤・兼務」及び「非常勤・兼務」の方のみの結果のため、TOTAL 値が上記と異なる。

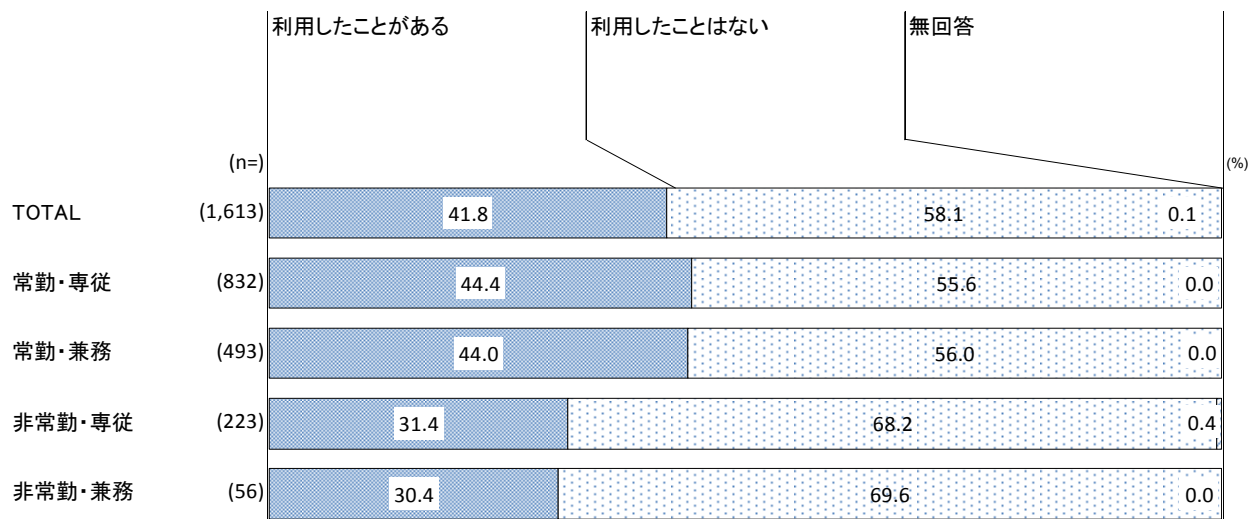


(無回答 n=6 は非表示)

ケアマネジャーの在宅医療連携拠点の利用経験については、「利用したことはない」が 58.1%となっており、「利用したことがある」(41.8%)を16ポイント上回っている。

図表 3 (2) ③-2 在宅医療連携拠点の利用経験 (ケアマネジャー・問 36-1)

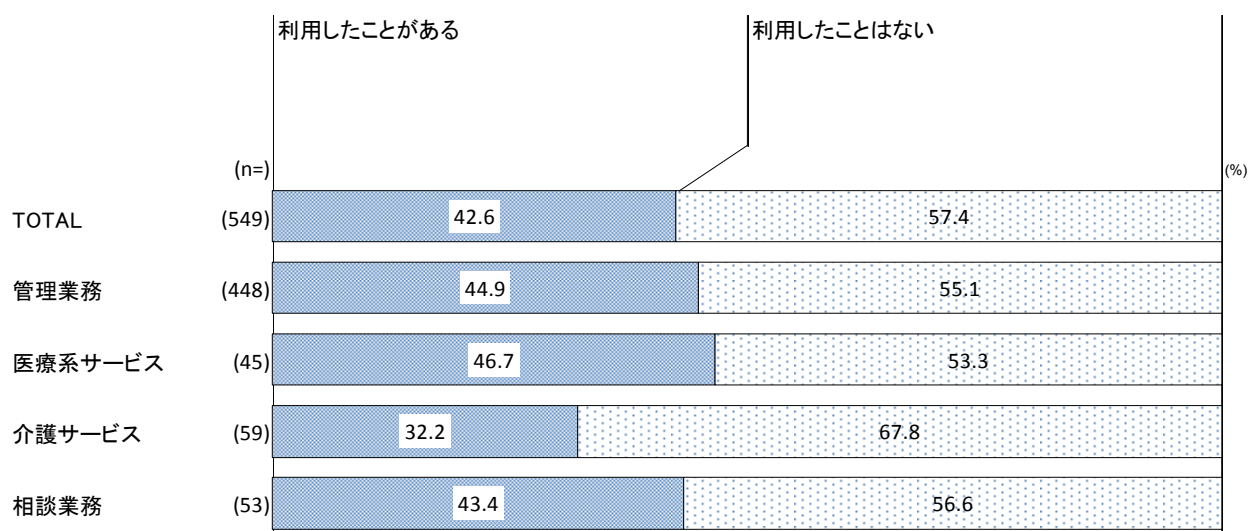
【勤務形態別】



(無回答 n=9 は非表示)

【業務兼務内容別】

※勤務形態が「常勤・兼務」及び「非常勤・兼務」の方のみの結果のため、TOTAL 値が上記と異なる。



(無回答 n=3 は非表示)

ケアマネジャーの在宅医療連携拠点の未利用の理由については、「必要性を感じたことがない」が60.4%で最も多く、次いで「利用の仕方が分からない」(18.6%)となっている。

図表3(2)③-3 在宅医療連携拠点 未利用の理由(複数回答、ケアマネジャー・問36-2)

【勤務形態別】

(%)	TOTAL (n=937)	勤務形態別(無回答n=7非表示)			
		常勤・専従 (n=463)	常勤・兼務 (n=276)	非常勤・専従 (n=152)	非常勤・兼務 (n=39)
必要性を感じたことがない	60.4	60.0	63.8	55.3	61.5
利用の仕方が分からない	18.6	18.4	17.0	21.1	20.5
地域包括支援センターとの違いが分からない	6.8	6.0	8.3	5.9	10.3
その他	17.9	18.6	16.7	21.1	7.7
無回答	3.4	3.7	2.5	3.3	7.7

【業務兼務内容別】

※勤務形態が「常勤・兼務」及び「非常勤・兼務」の方のみの結果のため、TOTAL値が上記と異なる。

(%)	TOTAL (n=315)	業務兼務内容別(無回答n=3非表示)			
		管理業務 (n=247)	医療系サービス (n=24)	介護サービス (n=40)	相談業務 (n=30)
必要性を感じたことがない	63.5	64.0	66.7	52.5	76.7
利用の仕方が分からない	17.5	17.0	0.0	27.5	16.7
地域包括支援センターとの違いが分からない	8.6	7.3	16.7	7.5	10.0
その他	15.6	16.6	12.5	17.5	10.0
無回答	3.2	2.0	4.2	5.0	6.7

④ 介護サービス事業所と医療機関の連携状況

介護サービス事業所の医療機関との連携状況については、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」(42.5%)が最も多く、次いで「緊急時の対応」(35.4%)、「往診をしてくれる医師・医療機関がある」(32.1%)となっている。

図表3(2)④ 医療機関との連携状況(複数回答、介護事業所・問16)

(%)	TOTAL (n=1700)
医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている	42.5
緊急時の対応	35.4
往診をしてくれる医師・医療機関がある	32.1
職員研修	16.9
急変時の受入を依頼できる病院を確保している	13.3
提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている	12.5
在宅医療連携拠点に相談している	7.9
その他	1.9
自らもしくは法人として医療機関を経営しており、連携の問題はない	2.6
連携していない	8.6
特になし	13.8
無回答	3.8

(3) 在宅での延命・看取りについて

延命・看取り等についての意思表示について、高齢者一般では「特にしていない」(50.0%)が最も多く、次いで「家族と話し合っている」(33.9%)となっている。

「特にしていない」は、年齢別では前期高齢者(65~74歳)で54.1%、世帯状況別では夫婦二人暮らしで一人だけが65歳以上で66.3%と割合が高い。

図表3(3)-1 延命・看取り等についての意思表示(複数回答、高齢者一般・問44)

【年齢別】

	TOTAL (n=2108)	年齢別(無回答n=4非表示)	
		前期高齢者 (65~74歳) (n=1127)	後期高齢者 (75歳以上) (n=977)
特にしていない	50.0	54.1	45.0
家族と話し合っている	33.9	33.2	34.9
かかりつけ医に希望を伝えている	2.6	1.5	3.8
リビングウィルを作成している	3.5	2.2	4.9
エンディングノートを作成している	6.2	4.4	8.2
遺言状を作成している	4.0	2.4	5.8
その他	1.6	1.0	2.4
無回答	8.5	7.5	9.7

【介護状況別】

	TOTAL (n=2108)	介護状況別(無回答n=117非表示)		
		現在介護を している (n=174)	現在は介護してい ないが、今後介護 する立場になる 可能性が高い (n=892)	現在介護をしていな いし、今後も介護す る立場になる可能 性はほとんどない (n=925)
特にしていない	50.0	43.7	50.6	51.7
家族と話し合っている	33.9	39.1	35.7	31.1
かかりつけ医に希望を伝えている	2.6	3.4	2.2	2.2
リビングウィルを作成している	3.5	1.1	2.9	4.9
エンディングノートを作成している	6.2	4.6	5.4	7.5
遺言状を作成している	4.0	2.3	2.8	5.3
その他	1.6	2.9	1.2	1.5
無回答	8.5	10.9	8.2	7.8

【世帯状況別】

	TOTAL (n=2108)	世帯状況別(無回答n=8非表示)					
		ひとり暮らし (n=348)	夫婦二人暮らしで 二人とも65歳以上 (n=887)	夫婦二人暮らしで 一人だけが65歳 以上 (n=98)	子や孫などと同居 (n=689)	前掲(1~4)以外 で全員が65歳 以上 (n=37)	その他 (n=41)
特にしていない	50.0	52.3	47.7	66.3	49.1	48.6	58.5
家族と話し合っている	33.9	24.1	37.8	27.6	35.6	35.1	24.4
かかりつけ医に希望を伝えている	2.6	2.9	3.2	0.0	2.0	0.0	4.9
リビングウィルを作成している	3.5	7.2	2.8	0.0	3.2	0.0	2.4
エンディングノートを作成している	6.2	9.8	6.3	3.1	4.5	10.8	4.9
遺言状を作成している	4.0	7.5	2.9	1.0	4.1	2.7	4.9
その他	1.6	2.0	1.9	0.0	1.3	2.7	0.0
無回答	8.5	9.5	7.6	6.1	9.1	8.1	12.2

延命・看取り等についての意思表示について一般 55～64 歳では、「特にしていない」(65.0%) が最も多く、高齢者一般と比べると 15 ポイント高くなっている。次いで「家族と話し合っている」(28.3%) となっている。

「特にしていない」は、性別・年齢別では男性・55～59 歳で 8 割弱 (77.2%)、世帯状況別では「ひとり暮らし」で 8 割 (80.3%) と高い割合となっている。

図表 3 (3)-2 延命・看取り等についての意思表示 (複数回答、一般 55～64 歳・問 43)

【性別・年齢別】

性別・年齢別 (性別無回答n=1、男性年齢無回答n=4、女性年齢無回答n=3非表示)	TOTAL (n=1345)	性別・年齢別 (性別無回答n=1、男性年齢無回答n=4、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=650)	男性・ 55～59歳 (n=294)	男性・ 60～64歳 (n=352)	女性計 (n=694)	女性・ 55～59歳 (n=317)	女性・ 60～64歳 (n=374)
特にしていない	65.0	72.5	77.2	68.8	58.1	63.1	53.7
家族と話し合っている	28.3	21.2	17.3	24.1	34.7	30.9	38.0
かかりつけ医に希望を伝えている	0.4	0.6	0.7	0.6	0.3	0.3	0.3
リビングウィルを作成している	1.4	1.1	0.3	1.4	1.7	1.6	1.9
エンディングノートを作成している	3.5	1.5	0.3	2.3	5.3	4.1	6.4
遺言状を作成している	1.6	2.0	1.7	2.3	1.2	0.9	1.3
その他	1.7	1.1	1.4	0.9	2.2	2.2	2.1
無回答	1.9	2.6	2.0	3.1	1.2	1.3	1.1

【介護状況別】

介護状況別 (無回答n=11非表示)	TOTAL (n=1345)	介護状況別 (無回答n=11非表示)		
		現在介護をして いる (n=180)	現在は介護して いないが、今後 介護する立場に なる可能性が高 い (n=666)	現在介護をして いないし、今後 介護する立場に なる可能性はほ とんどない (n=488)
特にしていない	65.0	56.7	67.9	64.5
家族と話し合っている	28.3	35.6	26.6	27.7
かかりつけ医に希望を伝えている	0.4	0.6	0.5	0.4
リビングウィルを作成している	1.4	2.2	1.2	1.4
エンディングノートを作成している	3.5	4.4	2.3	4.7
遺言状を作成している	1.6	1.1	1.1	2.3
その他	1.7	2.8	1.8	1.2
無回答	1.9	1.1	1.7	2.3

【世帯状況別】

世帯状況別 (無回答n=2非表示)	TOTAL (n=1345)	世帯状況別 (無回答n=2非表示)					
		ひとり暮らし (n=142)	夫婦二人暮 らし (n=462)	子や孫など 同居 (n=539)	親と同居 (n=86)	親及び子な ど同居 (n=87)	その他 (n=27)
特にしていない	65.0	80.3	57.1	66.4	73.3	69.0	51.9
家族と話し合っている	28.3	9.9	35.7	27.6	18.6	28.7	37.0
かかりつけ医に希望を伝えている	0.4	0.0	0.4	0.4	2.3	0.0	0.0
リビングウィルを作成している	1.4	1.4	1.5	1.1	2.3	1.1	3.7
エンディングノートを作成している	3.5	4.9	4.3	3.3	2.3	0.0	0.0
遺言状を作成している	1.6	2.8	2.6	0.6	0.0	1.1	3.7
その他	1.7	0.7	1.5	1.9	2.3	0.0	11.1
無回答	1.9	2.8	1.7	1.9	1.2	2.3	0.0

(4) 医療系サービス利用

要介護者の傷病の状況については、「高血圧症」(43.6%)が最も多く、次いで「認知症」(28.0%)、「腰痛症」(25.8%)、「お口の病気(むし歯、歯周病、入れ歯など)」(25.4%)となっている。

図表3(4)-1 要介護者の傷病の状況(要介護・問14)

【世帯状況別】

		(%)	(n=)	高血圧症	脂質異常症(高コレステロール血症、中性脂肪など)	糖尿病	動脈硬化症	腰痛症	関節症(膝・股関節など)	リウマチ	骨粗しょう症	脳血管疾患(脳出血、脳梗塞など)	狭心症・心筋梗塞	目の病気(白内障など)	消化器の病気(胃炎、肝炎など)	泌尿器の病気(腎臓病、前立腺肥大など)	がん	呼吸器の病気(ぜん息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)など)	耳や鼻の病気(難聴など)	お口の病気(むし歯、歯周病、入れ歯など)	骨折・外傷	認知症	心の病気	その他	特になし	無回答
世帯構成別	TOTAL	43.6	1,525	11.1	17.5	5.6	25.8	16.6	3.1	19.6	15.9	12.7	24.5	9.5	14.9	7.1	9.4	15.1	25.4	8.1	28.0	5.5	11.7	2.4	1.2	
	ひとり暮らし	49.2	301	11.6	15.9	8.3	36.2	18.6	4.3	25.2	12.3	12.3	30.2	10.6	12.6	7.3	8.0	16.6	27.6	11.0	17.3	6.6	11.3	1.0	0.7	
	夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上	39.4	436	10.3	18.6	6.2	24.5	13.8	2.8	12.8	21.3	14.2	22.7	7.8	20.9	11.2	8.5	12.6	25.0	7.6	28.7	4.6	11.0	2.1	1.6	
	夫婦二人暮らしで一人だけが65歳以上	34.6	26	3.8	3.8	7.7	26.9	7.7	3.8	3.8	30.8	15.4	11.5	11.5	11.5	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0	23.1	3.8	7.7	3.8	0.0	
	子や孫など同居	44.5	686	11.8	17.5	4.1	22.3	17.3	3.1	22.0	14.0	12.2	22.7	9.9	12.2	4.1	10.1	15.7	24.3	7.7	32.5	5.2	12.1	3.2	1.3	
	前掲(1~4)以外で全員が65歳以上	45.8	24	12.5	25.0	4.2	16.7	8.3	0.0	25.0	20.8	4.2	25.0	16.7	25.0	12.5	20.8	29.2	33.3	8.3	33.3	8.3	8.3	4.2	0.0	
	その他	34.9	43	11.6	23.3	4.7	23.3	25.6	2.3	18.6	4.7	11.6	34.9	7.0	9.3	9.3	9.3	16.3	30.2	2.3	30.2	9.3	18.6	2.3	0.0	

(無回答n=9は非表示)

特養申込者の受療状況については、「医療処置は受けていない」が51.1%と最も多くなっている。世帯状況別では、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上で「たんの吸引」(9.2%)、「胃ろう」(8.2%)、「じょくそうの処置」(4.8%)となっている。

図表3(4)-2 受療状況(複数回答、特養申込者・問13)

【世帯状況別】

	TOTAL (n=1373)	世帯状況別(無回答n=19非表示)					
		ひとり暮らし (n=310)	夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上 (n=294)	夫婦二人暮らしで一人だけが65歳以上 (n=12)	子や孫など同居 (n=614)	前掲(1~4)以外で全員が65歳以上 (n=37)	その他 (n=87)
胃ろう	5.7	6.5	8.2	8.3	5.0	0.0	
たんの吸引	5.2	3.5	9.2	8.3	4.9	0.0	
じょくそうの処置	3.9	3.2	4.8	8.3	4.4	0.0	
バルーンカテーテル留置	3.7	2.9	5.1	0.0	3.4	5.4	
インシュリン	3.1	1.3	3.7	8.3	3.6	2.7	
ペースメーカー	1.7	1.9	0.3	0.0	2.0	2.7	
鼻腔(経管栄養)	1.2	1.0	1.4	16.7	1.0	0.0	
在宅酸素	1.1	0.0	2.0	0.0	1.3	0.0	
ストーマ(人工肛門・人工膀胱)	1.0	0.6	0.7	0.0	1.1	2.7	
透析	0.8	1.3	0.3	0.0	0.8	0.0	
口腔(経管栄養)	0.4	0.0	0.7	0.0	0.5	0.0	
IVH(中心静脈栄養)	0.3	0.3	0.0	0.0	0.5	0.0	
食道ろう	0.2	0.3	0.3	0.0	0.0	2.7	
気管切開	0.2	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	
腸ろう	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	
その他	14.7	14.5	17.0	0.0	13.5	16.2	
医療処置は受けていない	51.1	54.2	42.9	50.0	53.4	51.4	
無回答	13.8	14.2	13.6	8.3	13.2	16.2	

4. 介護予防

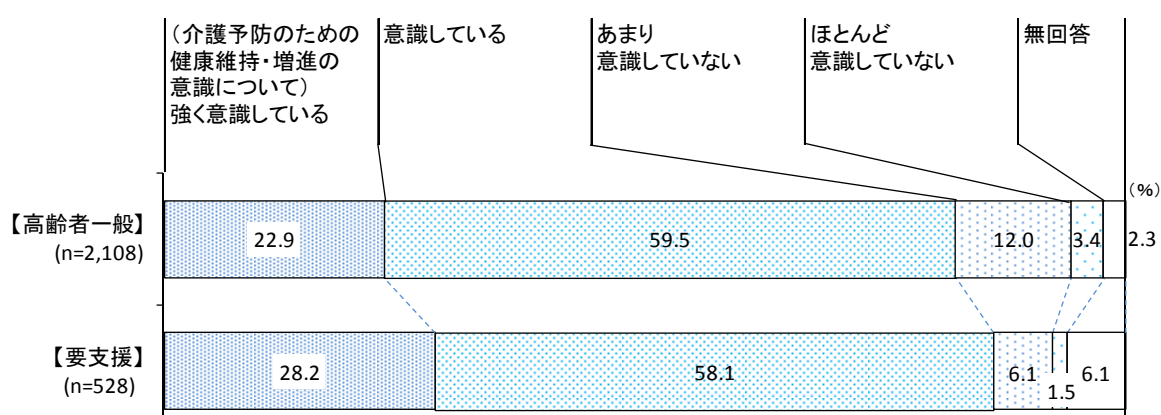
(1) 積極的な取組の意識について

① 介護予防への取組状況

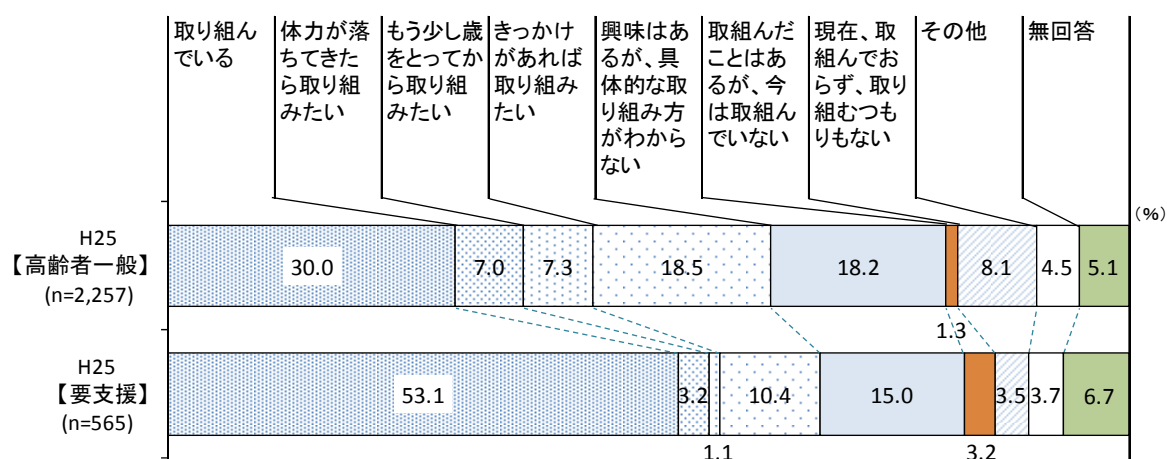
介護予防への取組については、「強く意識している」、「意識している」を合わせると、高齢者一般が82.4%、要支援が86.3%と、ともに8割を超えている。

前回（平成25年）では、要支援では「(介護予防に)取り組んでいる」が53.1%と、高齢者一般の30.0%を大きく上回っている。

図表4 (1)① 介護予防のための健康維持・増進の意識（高齢者一般・問15、要支援・問13）



(参考) 図表 介護予防への取組についての考え方（前回平成25年）



② 介護予防分布

以下で示す『介護予防分布』とは、厚生労働省基本チェックリストに基づく点数化指標に該当する調査項目から算出し、作成した区分を指す。「介護予防必要者」、「介護予防必要者以外」に分けられ、「介護予防必要者」は、「運動器」、「栄養」、「口腔」、「全体（暮らしぶり含む）」の4要素のうち1つ以上のリスクを有する者である。

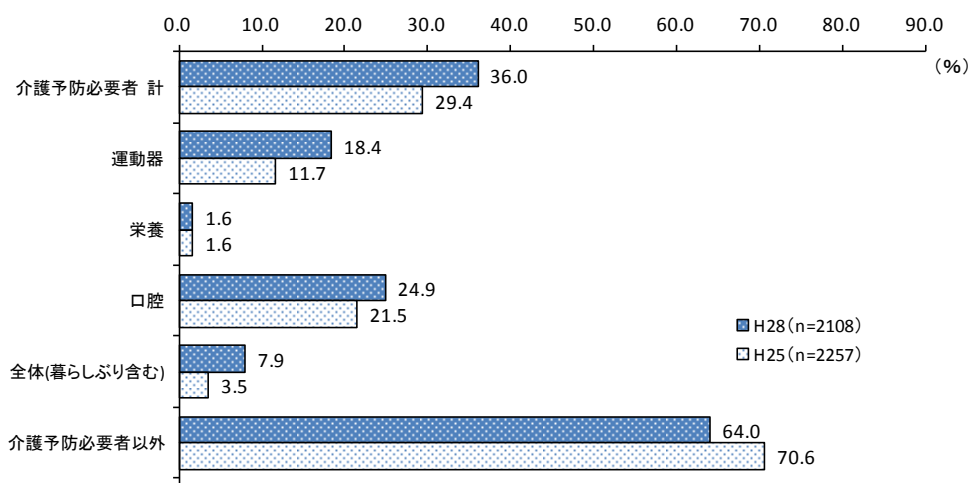
高齢者一般では「介護予防必要者 計」が36.0%、「介護予防必要者以外」が64.0%である。

前回（平成25年）と比較すると、「介護予防必要者 計」は約7ポイント高くなっており（平成28年36.0%、平成25年29.4%）、特に「運動器」で高くなっている（平成28年18.4%、平成25年11.7%）。

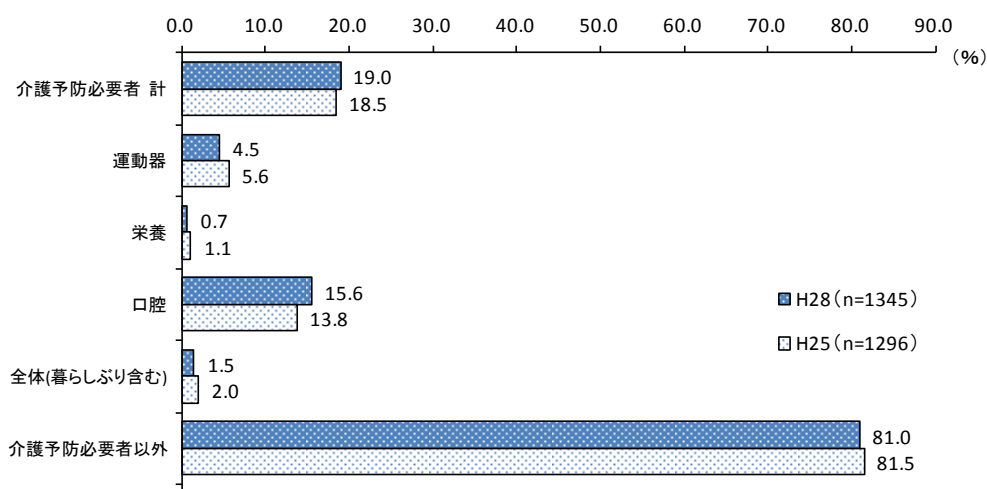
一般55～64歳では、「介護予防必要者 計」が19.0%、「介護予防必要者以外」が81.0%となっており、前回（平成25年）と比較しても大きな変化はない。

高齢者一般では、一般55～64歳に比べると、介護予防必要者の割合が2倍近くになっている。

図表4 (1)②-1 介護予防必要者層の分布（複数回答、時系列）
（高齢者一般・問25）



（一般55～64歳・問25）



居住区別にみると、高齢者一般では「介護予防必要者 計」が最も多いのが瀬谷区で44.8%、次いで中区(43.9%)、港南区(41.6%)と続く。最も少ないのは泉区で26.4%となっている。

図表4(1)②-2 介護予防必要者層の分布(複数回答、高齢者一般・問25)

【居住区別】

	TOTAL (n=2108)	居住区別(無回答n=1非表示)					
		青葉区 (n=142)	旭区 (n=174)	泉区 (n=106)	磯子区 (n=103)	神奈川区 (n=129)	金沢区 (n=144)
(%)							
介護予防必要者 計	36.0	34.5	40.8	26.4	30.1	34.1	34.0
運動器	18.4	19.7	25.3	9.4	15.5	17.8	15.3
栄養	1.6	1.4	0.6	1.9	1.0	2.3	2.8
口腔	24.9	23.9	25.9	22.6	20.4	19.4	25.0
全体(暮らしぶり含む)	7.9	5.6	11.5	2.8	6.8	6.2	11.1
介護予防必要者以外	64.0	65.5	59.2	73.6	69.9	65.9	66.0

	TOTAL (n=2108)	(つづき) 居住区別(無回答n=1非表示)					
		港南区 (n=149)	港北区 (n=154)	栄区 (n=103)	瀬谷区 (n=67)	都筑区 (n=79)	鶴見区 (n=124)
(%)							
介護予防必要者 計	36.0	41.6	32.5	32.0	44.8	39.2	37.1
運動器	18.4	18.1	16.2	12.6	20.9	20.3	21.0
栄養	1.6	1.3	0.6	1.0	4.5	3.8	0.8
口腔	24.9	31.5	18.8	27.2	29.9	29.1	24.2
全体(暮らしぶり含む)	7.9	8.1	4.5	6.8	9.0	11.4	8.1
介護予防必要者以外	64.0	58.4	67.5	68.0	55.2	60.8	62.9

	TOTAL (n=2108)	(つづき) 居住区別(無回答n=1非表示)					
		戸塚区 (n=174)	中区 (n=66)	西区 (n=43)	保土ヶ谷区 (n=126)	緑区 (n=105)	南区 (n=119)
(%)							
介護予防必要者 計	36.0	34.5	43.9	34.9	40.5	34.3	37.0
運動器	18.4	16.1	15.2	11.6	21.4	21.0	26.1
栄養	1.6	1.7	1.5	2.3	1.6	1.0	0.8
口腔	24.9	26.4	34.8	23.3	28.6	22.9	19.3
全体(暮らしぶり含む)	7.9	8.6	3.0	0.0	11.9	9.5	10.1
介護予防必要者以外	64.0	65.5	56.1	65.1	59.5	65.7	63.0

一般 55～64 歳では、「介護予防必要者 計」が 19.0%、「介護予防必要者以外」が 81.0%である。居住区別にみると「介護予防必要者 計」が最も多いのが栄区で 28.2%、次いで磯子区 (26.3%)、中区 (25.6%) と続く。最も少ないのは青葉区で 9.1%であった。

図表 4 (1)②-3 介護予防必要者層の分布 (複数回答、一般 55～64 歳・問 25)

【居住区別】

	TOTAL (n=1345)	居住区別					
		青葉区 (n=110)	旭区 (n=89)	泉区 (n=64)	磯子区 (n=57)	神奈川区 (n=85)	金沢区 (n=94)
(%)							
介護予防必要者 計	19.0	9.1	22.5	18.8	26.3	20.0	18.1
運動器	4.5	2.7	7.9	7.8	1.8	5.9	5.3
栄養	0.7	0.0	0.0	0.0	1.8	2.4	0.0
口腔	15.6	7.3	19.1	17.2	22.8	12.9	13.8
全体(暮らしぶり含む)	1.5	0.0	1.1	4.7	0.0	3.5	2.1
介護予防必要者以外	81.0	90.9	77.5	81.3	73.7	80.0	81.9

	TOTAL (n=1345)	(つづき) 居住区別					
		港南区 (n=80)	港北区 (n=127)	栄区 (n=39)	瀬谷区 (n=41)	都筑区 (n=82)	鶴見区 (n=98)
(%)							
介護予防必要者 計	19.0	15.0	17.3	28.2	17.1	12.2	23.5
運動器	4.5	5.0	0.8	10.3	4.9	2.4	3.1
栄養	0.7	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
口腔	15.6	11.3	15.0	23.1	14.6	9.8	21.4
全体(暮らしぶり含む)	1.5	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
介護予防必要者以外	81.0	85.0	82.7	71.8	82.9	87.8	76.5

	TOTAL (n=1345)	(つづき) 居住区別					
		戸塚区 (n=110)	中区 (n=39)	西区 (n=20)	保土ヶ谷区 (n=70)	緑区 (n=60)	南区 (n=80)
(%)							
介護予防必要者 計	19.0	19.1	25.6	20.0	17.1	21.7	23.8
運動器	4.5	4.5	10.3	5.0	0.0	3.3	8.8
栄養	0.7	0.0	0.0	5.0	1.4	1.7	1.3
口腔	15.6	17.3	20.5	10.0	15.7	16.7	18.8
全体(暮らしぶり含む)	1.5	0.0	2.6	0.0	0.0	5.0	5.0
介護予防必要者以外	81.0	80.9	74.4	80.0	82.9	78.3	76.3

③ 健康・介護予防の取組

普段からの健康維持・健康増進に対する意識について、高齢者一般では『意識している（「強く意識している」及び「意識している」の合計）』人は、8割（82.4%）を超えている。

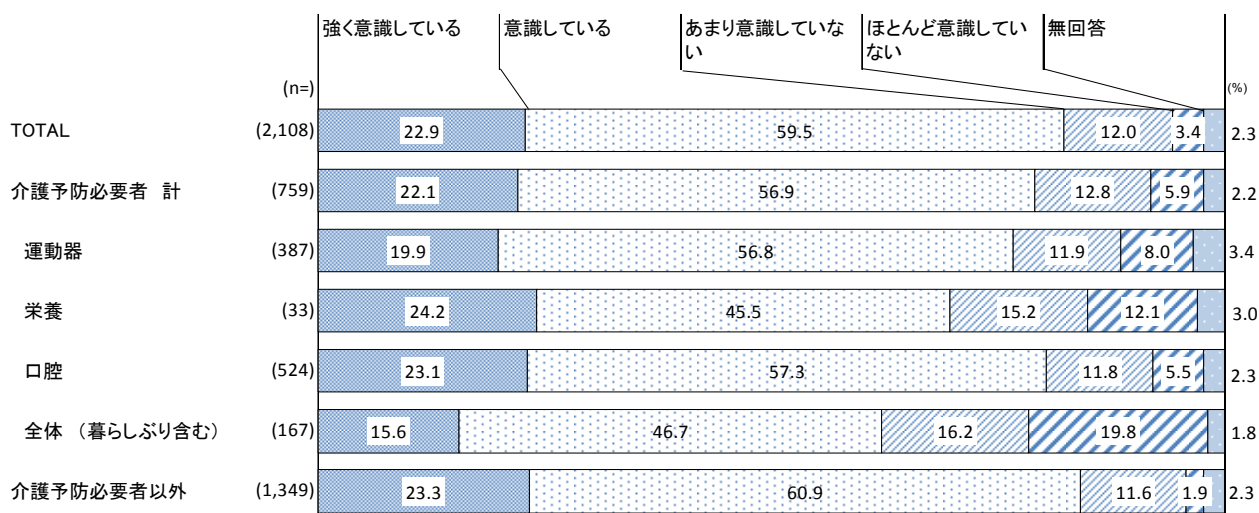
介護予防必要者別では、全体（暮らしぶり含む）の人で、『意識していない（「あまり意識していない」及び「ほとんど意識していない」の合計）』が36.0%と高くなっている。

一般55～64歳では『意識している』人は、7割（73.7%）を超えている。

なお、『意識していない』は、高齢者一般では15.4%、一般55～64歳は25.8%であり、その差が10ポイントとなっている。

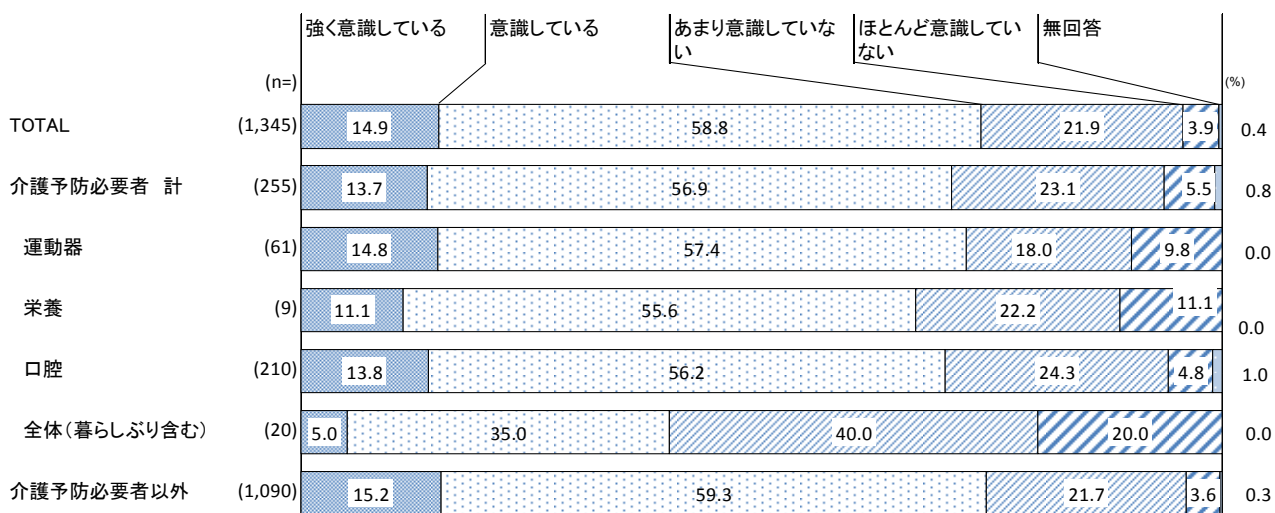
図表4(1)③-1 健康維持・増進意識
(高齢者一般・問15)

【介護予防必要者別】



(一般55～64歳・問15)

【介護予防必要者別】



健康及び介護予防の取組状況は、高齢者一般では「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」が68.6%と最も多く、次いで「かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている」(60.6%)や「規則的な生活を心がけている（夜更かしをしないなど）」(57.1%)等となっている。

介護予防必要者別では、運動器及び全体（暮らしぶり含む）の人で、全般的に取り組んでいる割合が低くなっている。

図表 4 (1)③-2 健康・介護予防取組状況（複数回答、高齢者一般・問16）

【介護予防必要者別】

	TOTAL (n=2108)	介護予防必要者別					
		介護予防必要者計 (n=759)	運動器 (n=387)	栄養 (n=33)	口腔 (n=524)	全体 (暮らしぶり含む) (n=167)	介護予防必要者以外 (n=1349)
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている	46.1	41.1	39.0	45.5	43.1	31.1	48.9
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)	68.6	65.1	64.9	81.8	65.8	54.5	70.6
ウォーキングや体操など、1回30分、週2回以上定期的に運動をしている	35.3	28.3	20.7	21.2	31.3	11.4	39.2
ウォーキングや体操など、自分に合ったペースで定期的に運動をしている	36.7	30.4	23.0	27.3	32.8	18.0	40.3
規則的な生活を心がけている(夜更かしをしないなど)	57.1	52.2	50.9	54.5	51.3	37.1	59.8
たばこをやめた、または吸っていない	50.2	45.1	40.6	45.5	46.2	36.5	53.1
お酒を飲みすぎない	30.5	26.2	21.2	33.3	28.4	15.6	32.8
読み書きや計算など、頭を使う作業に取り組んでいる	29.8	27.1	26.1	36.4	27.5	21.0	31.4
年1回は健康診断を受けている	51.7	44.7	38.8	42.4	49.4	28.7	55.7
年1回は歯科健診を受けている	34.7	29.9	27.4	33.3	31.5	21.6	37.4
かかりつけの医師(主治医)に定期的に診てもらっている	60.6	67.1	74.9	69.7	64.9	74.9	56.9
かかりつけの歯科医師に定期的に診てもらっている	39.9	35.8	35.7	30.3	36.3	28.1	42.3
気持ちをできる限り明るく保っている	45.0	42.6	42.4	36.4	41.4	28.1	46.3
休養や睡眠を十分にとっている	50.2	48.7	50.1	45.5	47.3	43.7	51.0
もう少し歳をとってから取り組みたい	1.5	1.4	1.0	0.0	1.7	0.0	1.6
きっかけがあれば取り組みたい	5.4	5.7	3.9	6.1	6.5	1.2	5.2
現在、取り組んでおらず取り組むつもりもない	0.3	0.4	0.3	3.0	0.2	0.0	0.2
その他	0.9	1.2	2.1	3.0	1.0	4.2	0.7
特にない	0.7	1.2	2.1	0.0	0.6	3.6	0.4
無回答	0.9	1.3	2.3	3.0	0.8	1.8	0.7

高齢者一般の性別・年齢別では、男性に比べて女性が取り組んでいる割合が高いものは、「栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている」（男性 40.1%、女性 51.6%）、「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」（男性 63.6%、女性 73.4%）、「かかりつけの歯科医師に定期的に診てもらっている」（男性 34.5%、女性 45.2%）、「気持ちをできる限り明るく保っている」（男性 35.6%、女性 53.7%）等である。特に、「気持ちをできる限り明るく保っている」や「栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている」は前期高齢者で差が大きい。

一方、女性に比べて男性が取り組んでいる割合が高いものは、「たばこをやめた、または吸っていない」（男性 63.0%、女性 38.4%）、「お酒を飲みすぎない」（男性 40.9%、女性 20.6%）等である。

また、「ウォーキングや体操など、1回30分、週2回以上定期的に運動をしている」は、男性の前期高齢者と後期高齢者の差と比べて、女性の前期高齢者と後期高齢者で差が大きい（女性・前期高齢者 37.8%、女性・後期高齢者 28.5%）。

図表 4 (1) ③-3 健康・介護予防取組状況（複数回答、高齢者一般・問 16）

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=2108)	性別・年齢別（性別無回答n=12、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=3非表示）					
		男性計 (n=1009)	男性・ 前期高齢者 (n=559)	男性・ 後期高齢者 (n=449)	女性計 (n=1087)	女性・ 前期高齢者 (n=564)	女性・ 後期高齢者 (n=520)
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事 をしている	46.1	40.1	36.0	45.2	51.6	53.9	49.0
口の中を清潔にしている（歯みがき、うがい など）	68.6	63.6	59.4	69.0	73.4	75.0	71.9
ウォーキングや体操など、1回30分、週2回以 上定期的に運動をしている	35.3	37.6	38.6	36.1	33.3	37.8	28.5
ウォーキングや体操など、自分に合ったペース で定期的に運動をしている	36.7	35.2	33.1	37.9	38.3	42.9	33.1
規則的な生活を心がけている（夜更かしをしな いなど）	57.1	55.8	50.6	62.4	58.6	61.2	56.0
たばこをやめた、または吸っていない	50.2	63.0	58.7	68.4	38.4	44.7	31.3
お酒を飲みすぎない	30.5	40.9	37.2	45.7	20.6	25.5	15.2
読み書きや計算など、頭を使う作業に取り組 んでいる	29.8	28.1	25.8	31.2	31.5	33.7	29.0
年1回は健康診断を受けている	51.7	53.3	58.9	46.3	50.2	53.9	46.2
年1回は歯科健診を受けている	34.7	31.6	31.7	31.6	37.6	36.5	38.7
かかりつけの医師（主治医）に定期的に診て もらっている	60.6	61.1	54.4	69.7	60.2	49.5	71.7
かかりつけの歯科医師に定期的に診て もらっている	39.9	34.5	32.6	37.0	45.2	46.1	43.8
気持ちをできる限り明るく保っている	45.0	35.6	30.9	41.2	53.7	54.6	53.1
休養や睡眠を十分にとっている	50.2	50.3	45.1	56.8	50.1	48.6	51.9
もう少し歳をとってから取り組みたい	1.5	2.1	2.7	1.3	1.0	1.2	0.8
きっかけがあれば取り組みたい	5.4	4.8	4.3	5.3	6.0	6.0	6.0
現在、取り組んでおらず取り組むつもりもない	0.3	0.3	0.2	0.4	0.3	0.2	0.4
その他	0.9	0.5	0.2	0.9	1.2	0.7	1.7
特になし	0.7	0.5	0.7	0.2	0.8	0.2	1.5
無回答	0.9	0.6	0.0	1.3	1.1	0.4	1.9

健康及び介護予防の取組状況は、一般 55～64 歳では「年 1 回は健康診断を受けている」が 69.8%と最も多く、次いで「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」(60.4%) 等となっている。

図表 4 (1)③-4 健康・介護予防取組状況（複数回答、一般 55～64 歳・問 16）

【介護予防必要者別】

	TOTAL (n=1345)	介護予防必要者別					
		介護予防必要者計 (n=255)	運動器 (n=61)	栄養 (n=9)	口腔 (n=210)	全体 (暮らしぶり含む) (n=20)	介護予防必要者以外 (n=1090)
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事している	36.0	32.9	32.8	33.3	31.4	10.0	36.7
口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）	60.4	60.4	60.7	33.3	61.0	25.0	60.5
ウォーキングや体操など、1回30分、週2回以上定期的に運動をしている	29.1	23.1	23.0	33.3	21.9	10.0	30.5
ウォーキングや体操など、自分に合ったペースで定期的に運動をしている	28.3	26.7	21.3	44.4	28.1	15.0	28.6
規則的な生活を心がけている（夜更かしをしないなど）	44.1	36.9	47.5	33.3	34.3	20.0	45.8
たばこをやめた、または吸っていない	46.2	43.1	36.1	22.2	44.3	35.0	46.9
お酒を飲みすぎない	28.4	30.2	24.6	33.3	31.0	20.0	28.0
読み書きや計算など、頭を使う作業に取り組んでいる	22.7	23.9	26.2	11.1	23.8	10.0	22.4
年1回は健康診断を受けている	69.8	65.5	54.1	44.4	68.1	40.0	70.8
年1回は歯科健診を受けている	30.6	28.6	29.5	11.1	30.0	20.0	31.0
かかりつけの医師（主治医）に定期的に診てもらっている	33.2	36.9	50.8	55.6	32.9	30.0	32.3
かかりつけの歯科医師に定期的に診てもらっている	29.4	28.6	27.9	22.2	28.1	20.0	29.5
気持ちをできる限り明るく保っている	32.6	31.0	41.0	0.0	30.0	20.0	33.0
休養や睡眠を十分にとっている	31.8	28.6	32.8	22.2	28.6	35.0	32.6
もう少し歳をとってから取り組みたい	4.2	3.9	3.3	0.0	4.3	5.0	4.3
きっかけがあれば取り組みたい	6.9	10.2	9.8	11.1	10.5	15.0	6.1
現在、取り組んでおらず取り組むつもりもない	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
その他	0.4	0.8	0.0	0.0	1.0	0.0	0.4
特になし	1.6	1.2	1.6	0.0	1.4	5.0	1.7
無回答	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

一般 55～64 歳の性別・年齢別では、男性に比べて女性が取り組んでいる割合が高いものは、「栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事をしている」（男性 25.1%、女性 46.3%）、「口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど）」（男性 49.4%、女性 70.7%）、「読み書きや計算など、頭を使う作業に取り組んでいる」（男性 16.9%、女性 28.1%）、「年 1 回は歯科健診を受けている」（男性 25.2%、女性 35.6%）、「かかりつけの歯科医師に定期的に診てもらっている」（男性 20.0%、女性 38.2%）、「気持ちをできる限り明るく保っている」（男性 21.8%、女性 42.8%）等である。

一方、女性に比べて男性が取り組んでいる割合が高いものは、「たばこをやめた、または吸っていない」（男性 50.5%、女性 42.2%）、「年 1 回は健康診断を受けている」（男性 76.2%、女性 64.0%）等である。

また、「ウォーキングや体操など、1 回 30 分、週 2 回以上定期的に運動をしている」、「ウォーキングや体操など、自分に合ったペースで定期的に運動をしている」は、男性 55～59 歳に比べて女性 55～59 歳が 6 ポイントほど上回っている。

図表 4 (1)③-5 健康・介護予防取組状況（複数回答、一般 55～64 歳・問 16）

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=1345)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=4、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=650)	男性・ 55～59歳 (n=294)	男性・ 60～64歳 (n=352)	女性計 (n=694)	女性・ 55～59歳 (n=317)	女性・ 60～64歳 (n=374)
栄養バランスや、かむ回数に気をつけて食事 をしている	36.0	25.1	25.2	25.3	46.3	45.1	47.1
口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいな ど)	60.4	49.4	49.3	49.7	70.7	69.4	72.2
ウォーキングや体操など、1回30分、週2回以 上定期的に運動をしている	29.1	26.9	22.4	31.0	31.0	29.0	32.6
ウォーキングや体操など、自分に合ったペース で定期的に運動をしている	28.3	25.4	24.5	26.4	31.0	29.0	32.6
規則的な生活を心がけている(夜更かしをしな いなど)	44.1	41.2	35.0	46.6	46.8	42.9	50.0
たばこをやめた、または吸っていない	46.2	50.5	53.7	47.7	42.2	42.0	42.8
お酒を飲みすぎない	28.4	30.3	27.9	32.1	26.7	29.7	24.3
読み書きや計算など、頭を使う作業に取り組ん でいる	22.7	16.9	13.6	19.6	28.1	26.2	29.9
年 1 回は健康診断を受けている	69.8	76.2	78.9	74.1	64.0	68.1	60.2
年 1 回は歯科健診を受けている	30.6	25.2	28.2	22.7	35.6	36.0	35.3
かかりつけの医師(主治医)に定期的に診ても らっている	33.2	34.0	29.3	38.1	32.4	25.9	38.0
かかりつけの歯科医師に定期的に診てもらっ ている	29.4	20.0	18.4	21.6	38.2	36.9	39.3
気持ちをできる限り明るく保っている	32.6	21.8	21.1	22.7	42.8	42.0	43.6
休養や睡眠を十分にとっている	31.8	30.9	26.9	34.7	32.7	30.6	34.8
もう少し歳をとってから取り組みたい	4.2	4.5	3.4	5.4	4.0	4.1	4.0
きっかけがあれば取り組みたい	6.9	5.5	5.8	5.4	8.2	9.8	7.0
現在、取り組んでおらず取り組むつもりもない	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0
その他	0.4	0.3	0.0	0.6	0.6	0.6	0.5
特になし	1.6	1.8	2.4	1.4	1.3	1.3	1.3
無回答	0.1	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0

運動や介護予防の取組を始めたきっかけは、高齢者一般及び一般 55～64 歳ともに「以前からの習慣で、自発的に」が最も多くなっている（高齢者一般 47.3%、一般 55～64 歳 51.5%）。

高齢者一般の性別・年齢別では、女性と比べて男性は「家族のアドバイスや一言」（男性 27.5%、女性 15.2%）、「医師等の専門家からの指導や助言」（男性 27.1%、女性 19.3%）、「具体的に症状が現れたので」（男性 21.6%、女性 13.9%）が多く、男性と比べて女性は「友人・知人からのアドバイスや一言」（男性 8.0%、女性 15.6%）、「新聞やテレビなどのマスコミの情報から」（男性 16.0%、女性 27.4%）が多くなっている。

図表 4 (1)③-6 健康や介護予防の取組開始のきっかけ（複数回答）
（高齢者一般・問 16-1）

【性別・年齢別】

性別・年齢別	TOTAL (n=1929)	性別・年齢別(性別無回答n=10、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=2非表示)					
		男性計 (n=946)	男性・ 前期高齢者 (n=523)	男性・ 後期高齢者 (n=422)	女性計 (n=973)	女性・ 前期高齢者 (n=521)	女性・ 後期高齢者 (n=450)
家族のアドバイスや一言	21.2	27.5	27.3	27.7	15.2	12.1	18.9
友人・知人からのアドバイスや一言	11.9	8.0	6.7	9.7	15.6	15.9	15.3
となり近所の人からのアドバイスや一言	2.4	2.0	1.3	2.8	2.8	2.1	3.6
市の広報紙や回覧板などの情報から	9.5	6.3	4.2	9.0	12.6	14.8	10.2
医師等の専門家からの指導や助言	23.2	27.1	25.8	28.7	19.3	16.5	22.7
具体的に症状が現れたので	17.7	21.6	22.4	20.6	13.9	15.0	12.7
検査の結果(数字など)が気になって	20.9	23.9	27.3	19.7	17.9	20.9	14.4
新聞やテレビなどのマスコミの情報から	21.7	16.0	11.9	21.1	27.4	31.7	22.7
以前からの習慣で、自発的に	47.3	45.1	45.1	45.0	49.7	53.0	45.8
その他	3.0	3.5	4.6	2.1	2.6	2.5	2.7
無回答	7.3	6.2	4.0	9.0	8.2	4.8	12.2

（一般 55～64 歳・問 16-1）

【性別・年齢別】

性別・年齢別	TOTAL (n=1226)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=3、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=589)	男性・ 55～59歳 (n=271)	男性・ 60～64歳 (n=315)	女性計 (n=636)	女性・ 55～59歳 (n=286)	女性・ 60～64歳 (n=347)
家族のアドバイスや一言	15.3	21.4	22.5	20.3	9.6	8.0	10.7
友人・知人からのアドバイスや一言	9.1	7.3	6.3	8.3	10.5	9.1	11.5
となり近所の人からのアドバイスや一言	1.1	0.8	0.4	1.3	1.4	1.0	1.7
市の広報紙や回覧板などの情報から	3.3	0.8	0.4	1.3	5.7	5.2	6.1
医師等の専門家からの指導や助言	17.2	22.1	19.2	24.8	12.7	11.9	13.5
具体的に症状が現れたので	19.2	20.5	21.0	20.3	17.9	17.1	18.4
検査の結果(数字など)が気になって	21.9	27.2	26.6	27.9	17.0	17.8	16.4
新聞やテレビなどのマスコミの情報から	21.5	14.6	11.4	17.5	27.8	26.6	28.8
以前からの習慣で、自発的に	51.5	45.0	44.3	45.7	57.5	59.1	56.5
その他	4.0	3.4	4.4	2.5	4.4	4.9	4.0
無回答	1.8	1.7	2.2	1.0	1.9	1.4	2.3

(2) 介護予防必要者層の生活実態

① 介護予防必要者層の普段の過ごし方

普段の過ごし方は、高齢者一般では「テレビ・ラジオ」が86.3%と最も多く、次いで「新聞、雑誌など」(65.5%)や「趣味・娯楽」(46.8%)等となっている。

一般55～64歳では「テレビ・ラジオ」が73.1%と最も多く、次いで「仕事」(59.9%)や「飲食・ショッピング」(44.7%)や「インターネット・メール」(44.5%)等となっている。

図表4(2)① 普段の過ごし方(複数回答)
(高齢者一般・問27)

【介護予防必要者別】

	TOTAL (n=2108)	介護予防必要者別					
		介護予防必要者計 (n=759)	運動器 (n=387)	栄養 (n=33)	口腔 (n=524)	全体 (暮らしぶり含む) (n=167)	介護予防必要者以外 (n=1349)
テレビ・ラジオ	86.3	86.6	88.4	81.8	86.8	84.4	86.1
新聞、雑誌など	65.5	58.0	57.9	66.7	57.8	42.5	69.7
趣味・娯楽	46.8	39.1	33.3	30.3	41.4	19.8	51.1
家族・孫とのだんらん	27.1	22.4	22.7	15.2	22.1	19.8	29.7
仲間と集まって、おしゃべりする	25.0	20.9	18.6	27.3	21.4	9.6	27.4
軽い運動やスポーツ	42.0	30.7	21.2	21.2	32.6	11.4	48.3
飲食・ショッピング	41.4	33.3	28.2	27.3	34.9	13.2	46.0
日帰りの行楽(ハイキングなど)	17.8	11.7	8.5	9.1	12.2	4.2	21.2
ドライブ	11.0	5.9	4.7	3.0	6.1	1.2	13.8
ボランティア活動・地域活動	12.9	9.6	6.7	15.2	10.3	3.0	14.8
インターネット・メール	27.9	18.2	12.1	18.2	21.0	8.4	33.4
学習活動	7.2	5.1	3.6	9.1	5.7	0.6	8.3
仕事	18.3	11.9	6.2	6.1	14.1	4.8	21.9
家事・育児	26.2	22.0	19.9	24.2	22.1	15.0	28.6
その他	4.6	5.4	7.5	3.0	4.8	13.2	4.1
何もしないでのんびりする	8.9	13.8	17.8	9.1	12.8	27.5	6.2

(一般55～64歳・問27)

【介護予防必要者別】

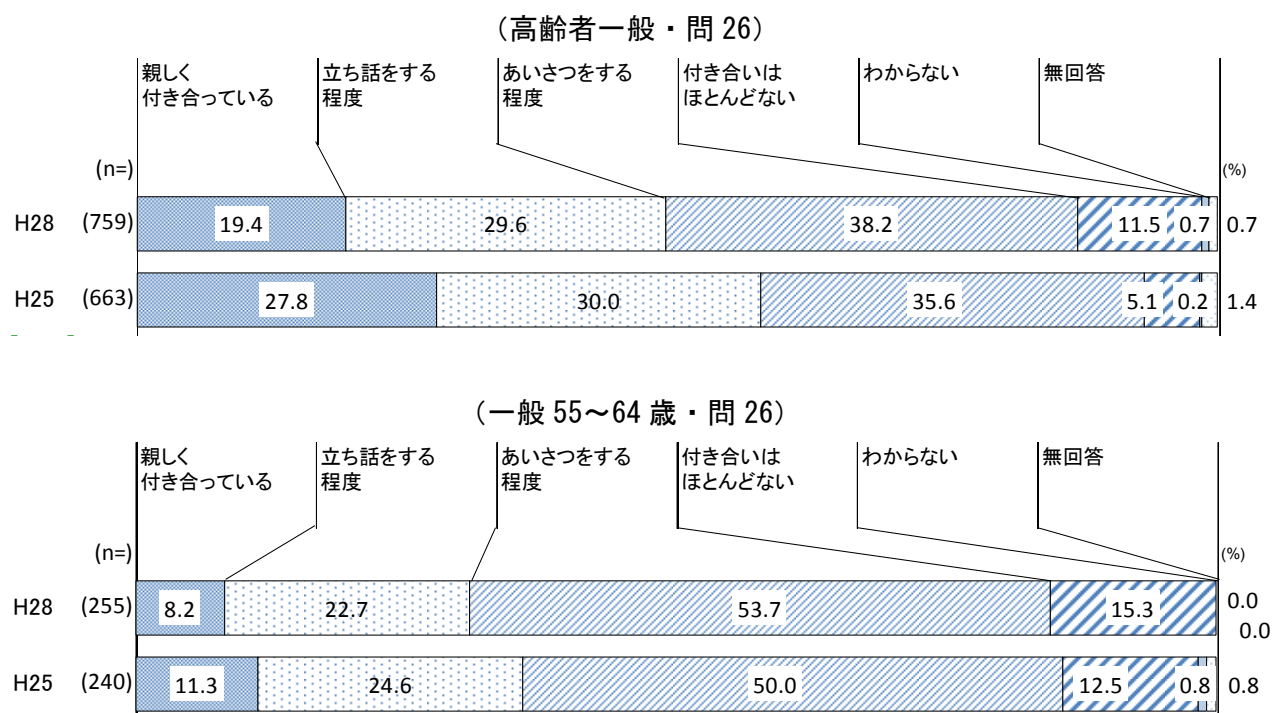
	TOTAL (n=1345)	介護予防必要者別					
		介護予防必要者計 (n=255)	運動器 (n=61)	栄養 (n=9)	口腔 (n=210)	全体 (暮らしぶり含む) (n=20)	介護予防必要者以外 (n=1090)
テレビ・ラジオ	73.1	76.5	82.0	66.7	74.8	85.0	72.3
新聞、雑誌など	43.8	39.2	34.4	22.2	39.0	40.0	44.9
趣味・娯楽	39.9	34.9	29.5	11.1	35.2	20.0	41.1
家族・孫とのだんらん	28.5	25.5	24.6	11.1	25.2	20.0	29.2
仲間と集まって、おしゃべりする	17.3	14.1	9.8	0.0	14.8	5.0	18.1
軽い運動やスポーツ	32.8	25.1	16.4	22.2	26.7	15.0	34.6
飲食・ショッピング	44.7	38.0	34.4	11.1	39.0	25.0	46.2
日帰りの行楽(ハイキングなど)	12.9	8.2	0.0	0.0	10.0	0.0	14.0
ドライブ	13.2	8.2	1.6	0.0	9.5	0.0	14.3
ボランティア活動・地域活動	7.1	4.3	3.3	11.1	3.8	0.0	7.8
インターネット・メール	44.5	40.4	32.8	0.0	42.9	25.0	45.5
学習活動	8.5	6.7	0.0	11.1	7.6	0.0	8.9
仕事	59.9	53.3	42.6	55.6	55.2	40.0	61.5
家事・育児	33.9	31.8	27.9	22.2	33.3	30.0	34.4
その他	4.0	4.7	1.6	0.0	5.2	0.0	3.9
何もしないでのんびりする	5.7	8.2	6.6	11.1	9.0	20.0	5.0

② 介護予防必要者層の近所づきあい

介護予防必要者における近所づきあいは、高齢者一般では「あいさつをする程度」が38.2%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が29.6%、「親しく付き合っている」が19.4%となっている。前回（平成25年）と比較して、「親しく付き合っている」は前回27.8%から、8ポイント近く低くなっている。また、「付き合いはほとんどない」は、前回5.1%から、今回11.5%と6ポイント高くなっている。

一般55～64歳では「あいさつをする程度」が53.7%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が22.7%となっている。前回（平成25年）と比較して、「あいさつをする程度」は前回50.0%から、今回4ポイント近く高くなり、「付き合いはほとんどない」は前回12.5%から、今回3ポイント近く高くなっている。

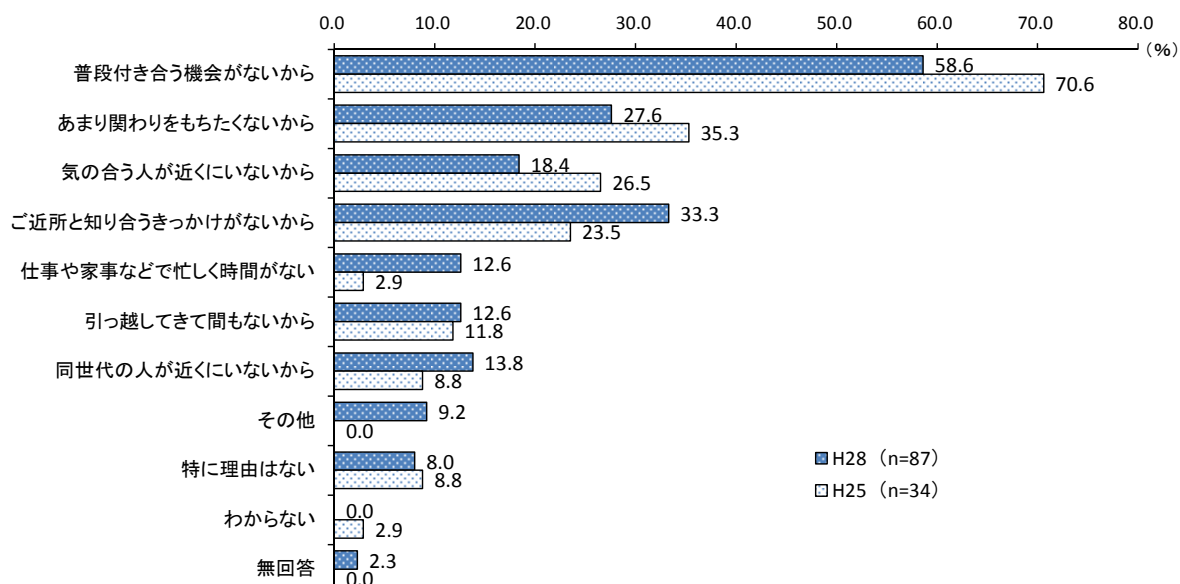
図表4 (2)②-1 近所づきあいの程度（時系列）



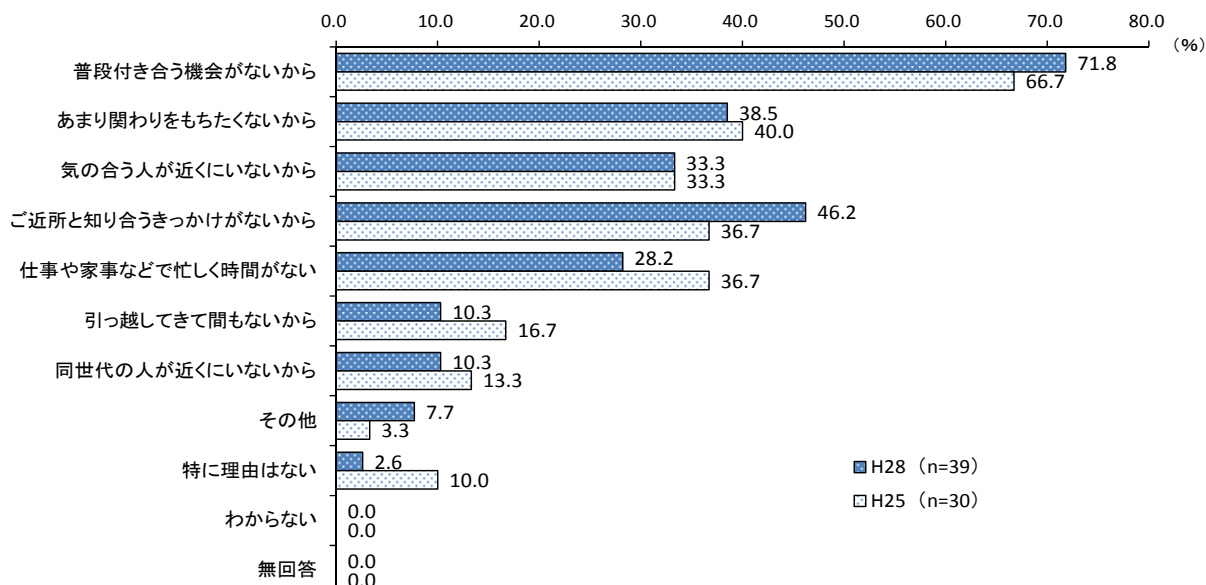
介護予防必要者における付き合いがほとんどない理由は、高齢者一般、一般55～64歳ともに「普段付き合い合えないから」（高齢者一般58.6%、一般55～64歳71.8%）が最も多くなっている。次いで、高齢者一般では、「ご近所と知り合うきっかけがないから」（33.3%）、「あまり関わりをもちたくないから」（27.6%）となっている。前回（平成25年）と比較して、「ご近所と知り合うきっかけがないから」（前回23.5%、今回33.3%）や、「仕事や家事などで忙しく時間がない」（前回2.9%、今回12.6%）が高くなっている。

一般55～64歳では、「ご近所と知り合うきっかけがないから」（46.2%）、「あまり関わりをもちたくないから」（38.5%）となっている。前回（平成25年）と比較して、「ご近所と知り合うきっかけがない」（前回36.7%、今回46.2%）は高くなり、「仕事や家事などで忙しく時間がない」（前回36.7%、今回28.2%）は低くなっている（サンプル少数のため参考値）。

図表4(2)②-2 付き合いがほとんどない理由（複数回答、時系列）
（高齢者一般・問26-1）



（一般55～64歳・問26-1）



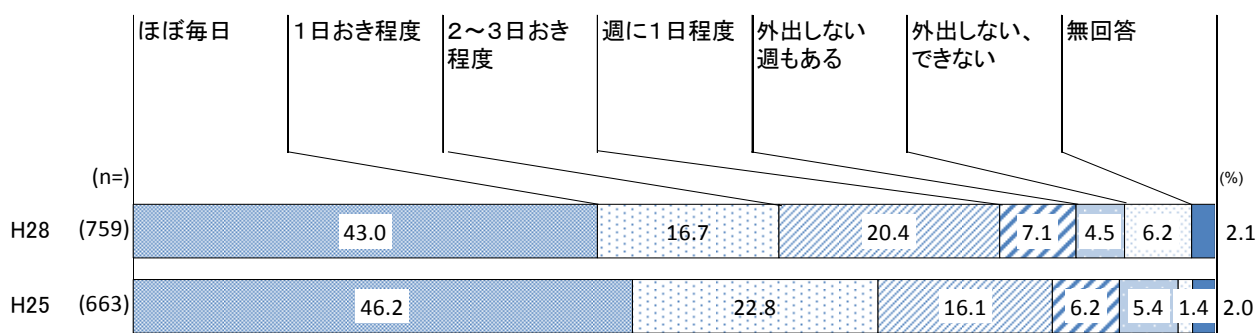
③ 介護予防必要者層の外出実態

介護予防必要者における平日の外出頻度は、高齢者一般では「ほぼ毎日」が43.0%と最も多く、次いで「2～3日おき程度」が20.4%、「1日おき程度」が16.7%となっている。

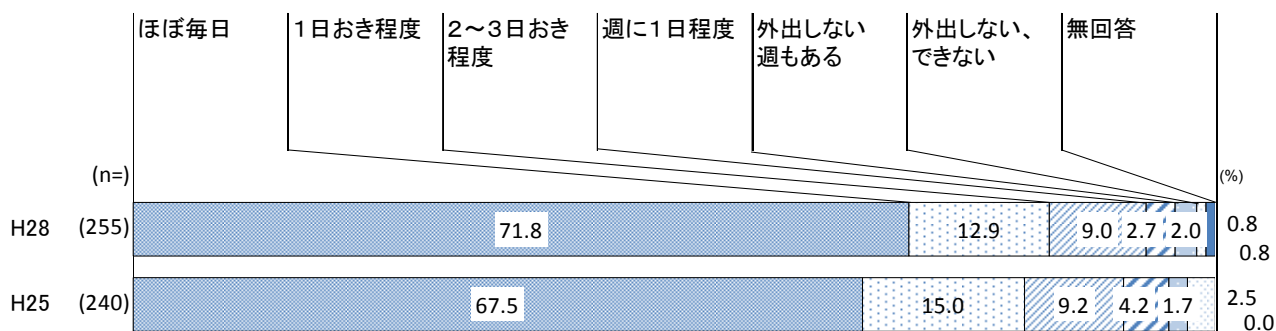
一般55～64歳では「ほぼ毎日」が71.8%と最も多く、次いで「1日おき程度」が12.9%、「2～3日おき程度」が9.0%となっている。前回（平成25年）と比較して、「ほぼ毎日」は前回67.5%から、今回4ポイント高くなっている。

図表4(2)③-1 平日外出頻度（時系列）

（高齢者一般・問32）



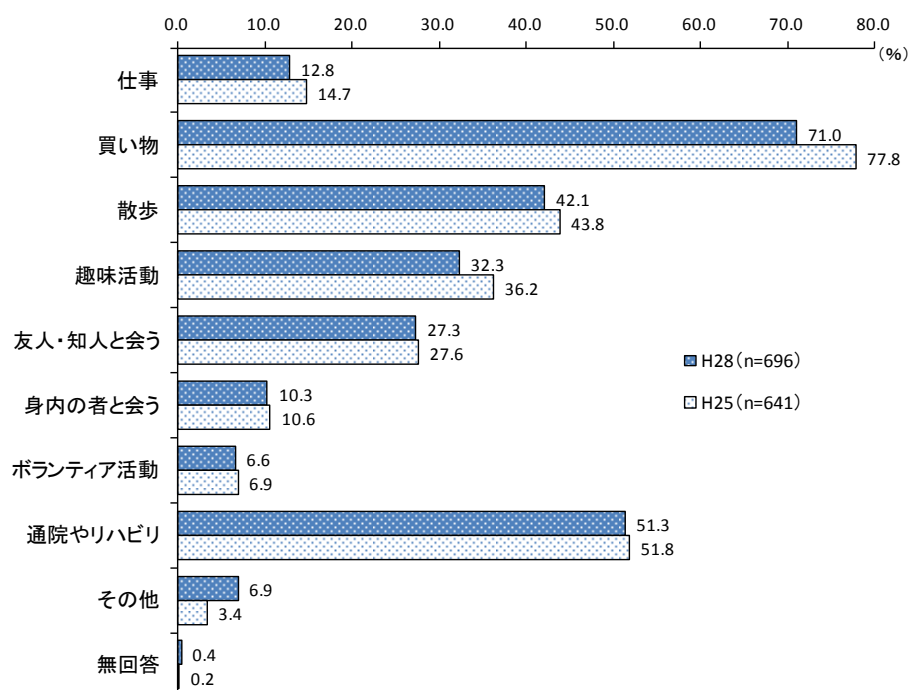
（一般55～64歳・問32）



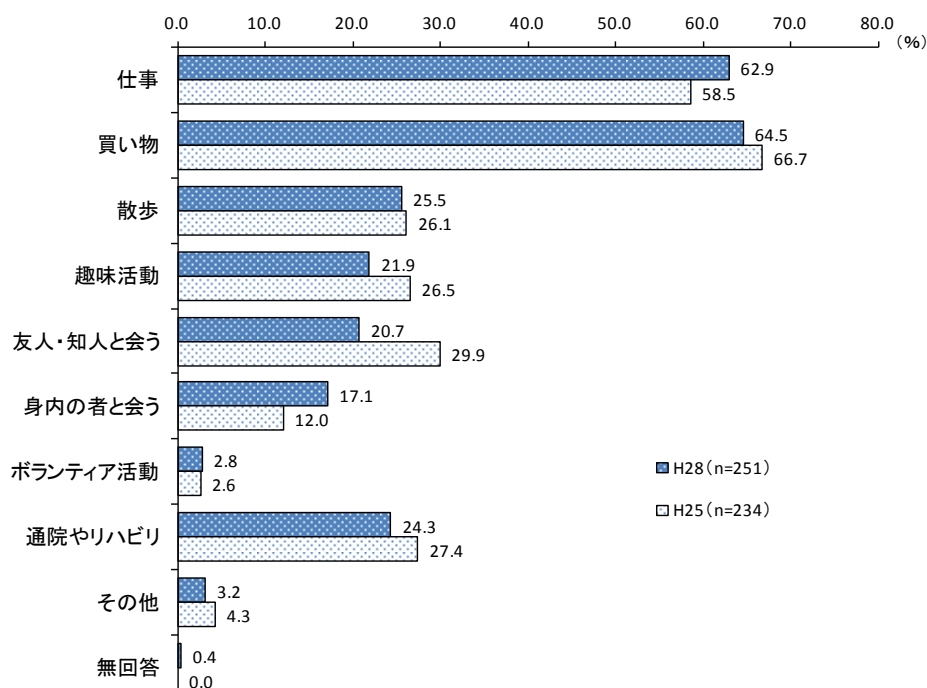
介護予防必要者における外出目的は、高齢者一般では「買い物」が71.0%と最も多く、次いで「通院やリハビリ」が51.3%、「散歩」が42.1%となっている。前回（平成25年）と比較して、「買い物」は前回77.8%から、今回7ポイント近く低くなっている。

一般55～64歳では「買い物」が64.5%と最も多く、次いで「仕事」が62.9%となっている。前回（平成25年）と比較して、「友人・知人と会う」は前回29.9%から、今回9ポイント低くなっている。

図表4(2)③-2 外出目的（複数回答、時系列）
（高齢者一般・問32-1）



（一般55～64歳・問32-1）



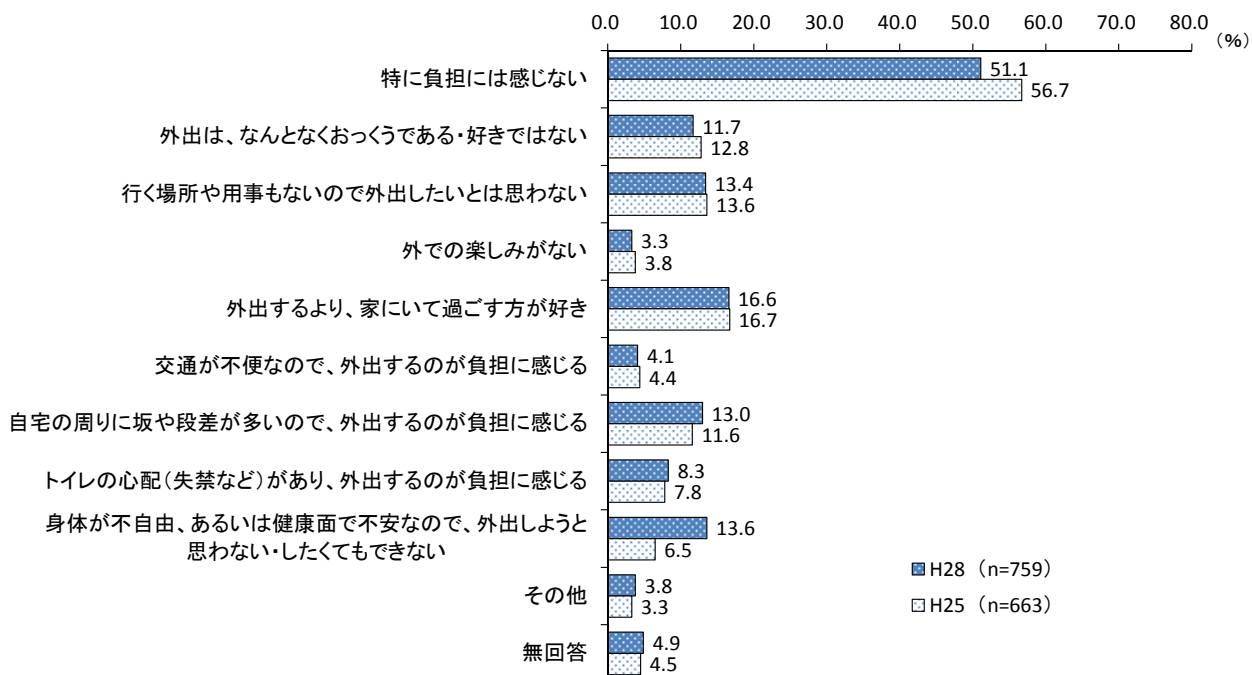
介護予防必要者における外出への考え方は、高齢者一般では「特に負担には感じない」が51.1%と最も多くなっている。

一般55～64歳では「特に負担には感じない」が63.5%となっている。

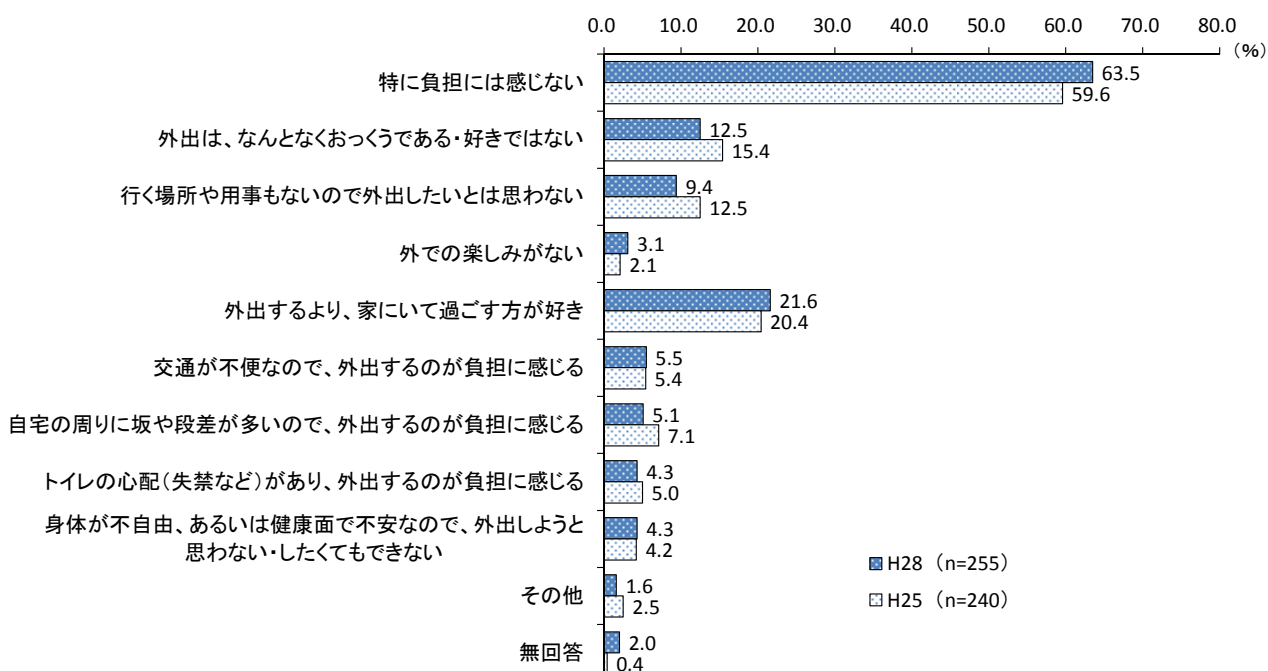
高齢者一般及び一般55～64歳ともに、前回（平成25年）との大きな差はみられない。

図表4(2)③-3 外出への考え方（複数回答、時系列）

（高齢者一般・問36）



（一般55～64歳・問35）



④ 介護予防必要者層の主観的健康観

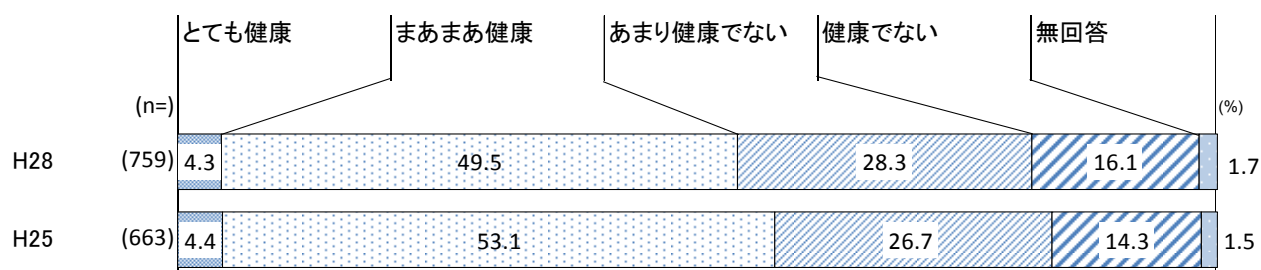
介護予防必要者における主観的健康観は、高齢者一般では『健康（「とても健康」及び「まあまあ健康」の合計）』は、53.8%である。

一般 55～64 歳では『健康』は、67.5%である。

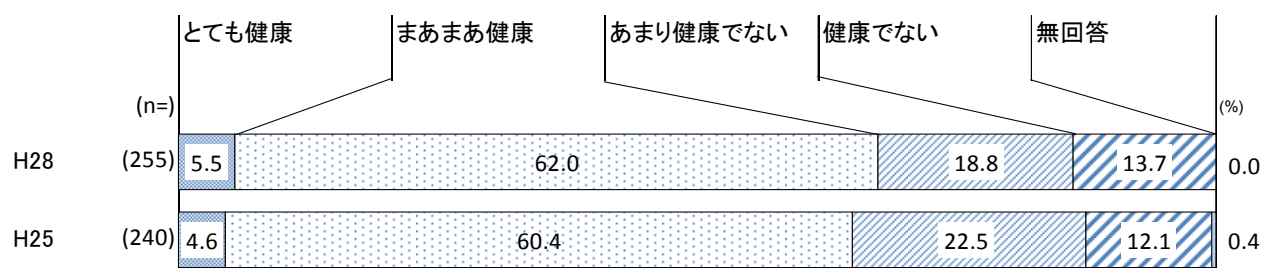
高齢者一般及び一般 55～64 歳ともに、前回（平成 25 年）との大きな差はみられない。

図表 4 (2)④ 主観的健康観（時系列）

（高齢者一般・問 13）



（一般 55～64 歳・問 13）



5. 生活支援

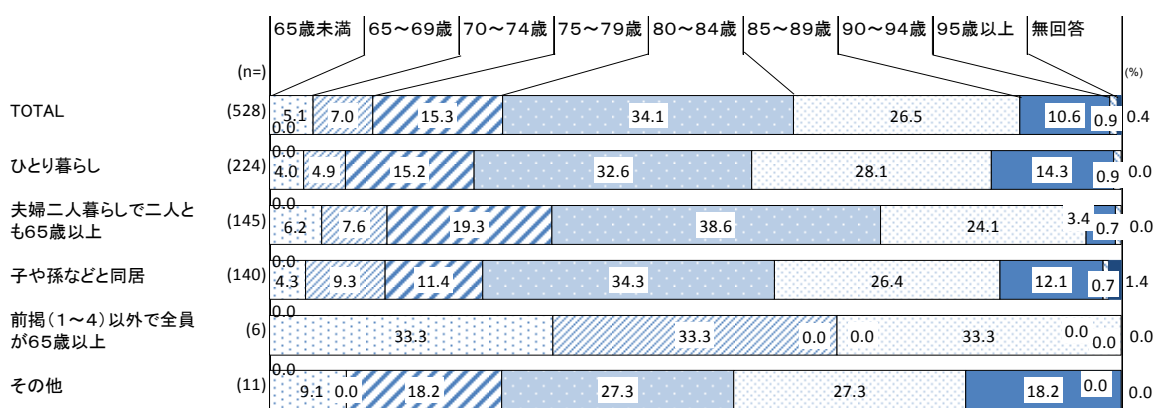
(1) 日常生活支援の必要性

① 要支援者の世帯状況と本人の年齢

要支援者の年齢構成について、世帯状況別では、ひとり暮らしや子や孫など同居の世帯では、85歳以上が43.3%、39.2%と4割前後となっている。また、ひとり暮らし世帯では、「90歳以上」が15.2%となっている。

図表5(1)① 要支援者の世帯状況と本人の年齢
(要支援・問4)

【世帯状況別】



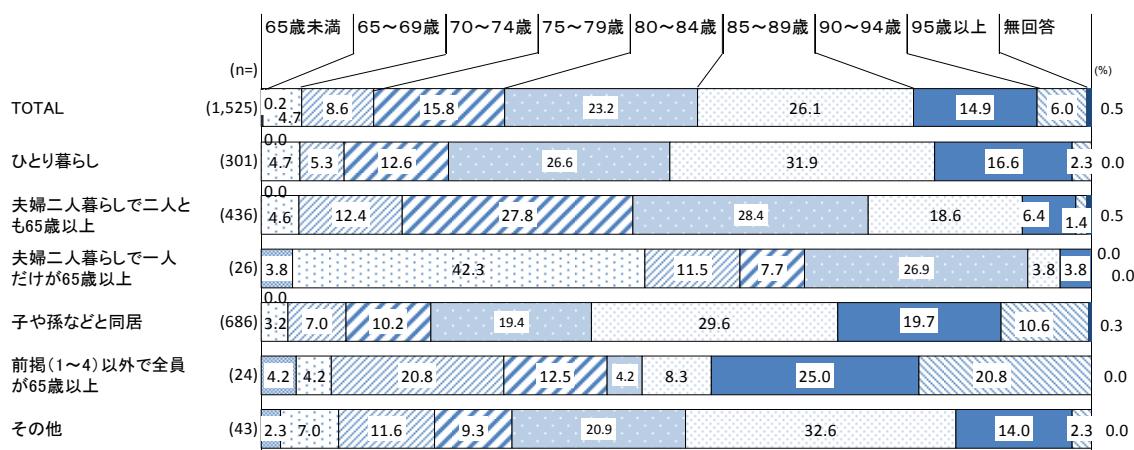
(無回答 n=2 は非表示)

② 要介護者の世帯状況と本人の年齢

要介護者の年齢構成について、世帯状況別では、ひとり暮らしや子や孫など同居の世帯では、85歳以上が50.8%、59.9%と5~6割となっている。また、90歳以上は、ひとり暮らし世帯では18.9%、子や孫など同居世帯では30.3%となっている。

図表5(1)② 要介護者の世帯状況と本人の年齢
(要介護・問4)

【世帯状況別】



(無回答 n=9 は非表示)

(2) ちょっとした困りごとへの簡易なサポート

高齢者一般において、心配ごとや悩みは、「自分の健康のこと」が 62.0%と最も多く、次いで「親族の健康のこと」(39.2%)、「生活費等経済的なこと」(23.0%)、「ひとり暮らしや孤独になること」(12.7%)、「病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと」(10.5%)となっている。

高齢者一般の心配ごとや悩みについて、世帯状況別では、ひとり暮らしでは「自分の健康のこと」が 68.7%、「病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと」が 29.3%となっている。夫婦二人暮らしで二人とも 65 歳以上では、「親族の健康のこと」が 45.5%となっている。夫婦二人暮らしで二人とも 65 歳以上、子や孫などと同居では、「生活費等経済的なこと」が 20.2%、26.4%となっている。

居住年数別では、15 年以上居住する高齢者では、「親族の健康のこと」が 4 割前後となっている。

図表 5 (2)-1 心配ごと・悩み（複数回答、高齢者一般・問 19）

【世帯状況別】

	TOTAL (n=2108)	世帯状況別（無回答n=8非表示）					
		ひとり暮らし (n=348)	夫婦二人暮らしで二人とも 65歳以上 (n=887)	夫婦二人暮らしで一人だけ が65歳以上 (n=98)	子や孫などと 同居 (n=689)	前掲(1~4) 以外で全員 が65歳以上 (n=37)	その他 (n=41)
自分の健康のこと	62.0	68.7	62.8	50.0	59.8	62.2	58.5
親族の健康のこと	39.2	18.7	45.5	37.8	40.9	59.5	34.1
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	10.5	29.3	7.4	4.1	4.9	16.2	19.5
ひとり暮らしや孤独になること	12.7	21.3	16.2	6.1	4.5	18.9	9.8
生活費等経済的なこと	23.0	21.8	20.2	27.6	26.4	24.3	26.8
安心して住める場所がないこと	2.1	4.9	1.1	2.0	1.6	8.1	2.4
趣味や生きがいがないこと	4.6	6.3	3.0	7.1	5.1	8.1	4.9
時間的なゆとりがないこと	3.3	2.6	2.5	4.1	3.8	13.5	7.3
精神的なゆとりがないこと	4.7	4.6	3.7	2.0	5.7	18.9	4.9
その他	4.7	4.9	4.3	7.1	4.5	0.0	14.6
心配ごとや悩みはない	13.3	10.3	13.4	17.3	14.7	10.8	2.4
無回答	4.8	5.5	4.1	3.1	5.2	2.7	12.2

【居住年数別】

	TOTAL (n=2108)	居住年数別（無回答n=12非表示）						
		1年未満 (n=21)	1~5年 未満 (n=67)	5~10年 未満 (n=114)	10~15年 未満 (n=108)	15~20年 未満 (n=170)	20~30年 未満 (n=307)	30年以上 (n=1309)
自分の健康のこと	62.0	66.7	59.7	62.3	63.9	60.6	59.6	62.6
親族の健康のこと	39.2	28.6	35.8	32.5	35.2	42.9	37.8	40.5
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	10.5	9.5	10.4	11.4	8.3	8.8	11.4	10.6
ひとり暮らしや孤独になること	12.7	14.3	17.9	20.2	13.9	8.8	12.1	12.3
生活費等経済的なこと	23.0	28.6	23.9	32.5	25.0	27.6	23.5	21.3
安心して住める場所がないこと	2.1	4.8	3.0	8.8	8.3	2.4	2.0	0.9
趣味や生きがいがないこと	4.6	19.0	3.0	7.9	5.6	4.7	6.2	3.7
時間的なゆとりがないこと	3.3	0.0	1.5	6.1	5.6	5.3	2.6	3.0
精神的なゆとりがないこと	4.7	9.5	4.5	10.5	7.4	6.5	4.9	3.7
その他	4.7	4.8	3.0	6.1	7.4	6.5	5.9	4.0
心配ごとや悩みはない	13.3	9.5	11.9	10.5	12.0	14.7	11.7	14.0
無回答	4.8	4.8	10.4	4.4	5.6	2.9	6.5	4.3

近所との付き合い状況別では、他と比べて割合が高いものとして、あいさつをする程度、付き合いはほとんどないとする高齢者では、「生活費等経済的なこと」が26.5%、28.6%となっている。また、付き合いはほとんどない高齢者では、「病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと」が16.2%、「趣味や生きがいがないこと」が11.0%となっている。

図表5(2)-2 心配ごと・悩み（複数回答、高齢者一般・問19）

【近所の人との付き合い状況別】

(%)	TOTAL (n=2108)	近所の人との付き合い状況別(無回答n=58非表示)				
		親しく付き合っている (n=486)	立ち話をする程度 (n=627)	あいさつをする程度 (n=774)	付き合いはほとんどない (n=154)	わからない (n=9)
自分の健康のこと	62.0	61.3	63.0	62.5	59.1	66.7
親族の健康のこと	39.2	37.9	43.5	38.4	30.5	22.2
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	10.5	8.8	10.4	10.6	16.2	11.1
ひとり暮らしや孤独になること	12.7	11.1	13.4	13.0	13.0	11.1
生活費等経済的なこと	23.0	17.7	21.7	26.5	28.6	11.1
安心して住める場所がないこと	2.1	0.4	1.9	2.2	6.5	11.1
趣味や生きがいがないこと	4.6	1.4	4.8	5.3	11.0	11.1
時間的なゆとりがないこと	3.3	2.9	4.1	2.6	3.9	0.0
精神的なゆとりがないこと	4.7	3.1	4.9	5.4	5.2	0.0
その他	4.7	3.3	4.1	5.4	7.1	22.2
心配ごとや悩みはない	13.3	17.9	11.8	12.1	11.7	0.0
無回答	4.8	5.1	4.5	3.9	5.8	11.1

高齢者一般において、心配ごとや悩みごとの相談先は、「配偶者」が54.1%と最も多く、次いで「子ども」(48.7%)、「かかりつけの医師」(31.0%)、「友人・知人」(25.1%)、「その他の家族・親族」(15.8%)となっている。

世帯状況別では、ひとり暮らしでは「子ども」が46.1%で最も多く、次いで「友人・知人」(37.5%)、「かかりつけの医師」(32.4%)の順となっている。夫婦二人暮らしで一人だけ65歳以上では、「配偶者」が8割で最も多い。子や孫など同居では、「子ども」が57.4%と最も多い。

居住年数別では、15年以上居住している高齢者で、「配偶者」が6割近くとなっている。また、30年以上では「子ども」が50.7%となっている。

図表5(2)-3 相談先(複数回答、高齢者一般・問19-1)

【世帯状況別】

	TOTAL (n=1726)	世帯状況別(無回答n=4非表示)					
		ひとり暮らし (n=293)	夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上 (n=732)	夫婦二人暮らしで一人だけが65歳以上 (n=78)	子や孫など同居 (n=552)	前掲(1~4)以外で全員が65歳以上 (n=32)	その他 (n=35)
配偶者	54.1	1.4	79.1	80.8	47.8	43.8	28.6
子ども	48.7	46.1	46.3	30.8	57.4	28.1	45.7
その他の家族・親族	15.8	22.5	13.1	14.1	13.4	37.5	34.3
友人・知人	25.1	37.5	22.4	17.9	22.6	21.9	37.1
となり近所の人	3.3	5.8	2.0	2.6	3.6	6.3	2.9
自治会や町内会の役員	0.9	1.0	0.8	1.3	0.9	0.0	0.0
民生委員・児童委員	2.0	5.1	1.2	1.3	1.3	0.0	2.9
市や区の相談窓口	3.8	5.5	3.0	5.1	3.8	3.1	2.9
地域包括支援センター(地域ケアプラザ)	5.9	7.2	5.7	2.6	5.6	6.3	8.6
かかりつけの医師	31.0	32.4	33.7	26.9	27.5	37.5	22.9
その他	1.6	2.4	0.7	2.6	1.8	3.1	5.7
相談したりする人はいない	3.2	8.5	2.2	2.6	1.8	6.3	2.9
無回答	8.0	6.8	7.7	6.4	8.9	9.4	11.4

【居住年数別】

	TOTAL (n=1726)	居住年数別(無回答n=9非表示)						
		1年未満 (n=18)	1~5年未満 (n=52)	5~10年未満 (n=97)	10~15年未満 (n=89)	15~20年未満 (n=140)	20~30年未満 (n=251)	30年以上 (n=1070)
配偶者	54.1	38.9	46.2	39.2	43.8	57.9	57.8	55.7
子ども	48.7	61.1	42.3	37.1	47.2	46.4	47.8	50.7
その他の家族・親族	15.8	16.7	15.4	18.6	15.7	17.9	17.5	14.7
友人・知人	25.1	33.3	21.2	28.9	29.2	21.4	26.3	24.7
となり近所の人	3.3	0.0	0.0	3.1	1.1	2.9	3.2	3.8
自治会や町内会の役員	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	1.6	0.7
民生委員・児童委員	2.0	5.6	0.0	1.0	1.1	0.0	3.2	2.1
市や区の相談窓口	3.8	11.1	0.0	7.2	5.6	4.3	4.0	3.3
地域包括支援センター(地域ケアプラザ)	5.9	16.7	5.8	3.1	5.6	7.1	8.0	5.3
かかりつけの医師	31.0	22.2	34.6	26.8	34.8	33.6	30.7	30.6
その他	1.6	5.6	1.9	3.1	4.5	1.4	1.2	1.3
相談したりする人はいない	3.2	5.6	7.7	5.2	2.2	1.4	2.8	3.3
無回答	8.0	0.0	9.6	9.3	5.6	10.0	6.0	8.3

近所の人との付き合い状況別では、親しく付き合っている高齢者では、「友人・知人」が 36.1%であるのに対し、付き合いはほとんどない高齢者では、「友人・知人」が 12.6%と 1 割台であり、相談先に、普段の付き合いの程度が関連していることがうかがえる。

図表 5 (2)-4 相談先（複数回答、高齢者一般・問 19-1）

【近所の人との付き合い状況別】

	TOTAL (n=1726)	近所の人との付き合い状況別(無回答n=42非表示)				
		親しく付き合っている (n=374)	立ち話をする程度 (n=525)	あいさつをする程度 (n=650)	付き合いはほとんどない (n=127)	わからない (n=8)
配偶者	54.1	50.8	54.9	58.5	41.7	50.0
子ども	48.7	57.0	56.0	40.9	37.0	62.5
その他の家族・親族	15.8	15.8	18.5	14.8	11.8	0.0
友人・知人	25.1	36.1	27.0	19.2	12.6	0.0
となり近所の人	3.3	9.9	2.5	0.6	0.0	0.0
自治会や町内会の役員	0.9	2.4	0.6	0.5	0.0	0.0
民生委員・児童委員	2.0	3.5	1.3	2.0	0.8	0.0
市や区の相談窓口	3.8	5.1	2.9	3.8	3.1	0.0
地域包括支援センター(地域ケアプラザ)	5.9	9.1	5.1	4.0	8.7	25.0
かかりつけの医師	31.0	36.1	30.9	29.4	25.2	50.0
その他	1.6	0.8	1.7	1.4	3.9	0.0
相談したりする人はいない	3.2	1.1	2.1	3.7	11.8	0.0
無回答	8.0	7.8	7.2	8.3	11.0	0.0

高齢者一般において、住んでいる環境で困っていることや不満な点は、「家のまわりに階段や坂が多い」が24.0%と最も多く、次いで「バスの本数が少ない」(12.8%)、「スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない」(12.3%)、「電車の駅やバス停が遠い」、「友人が近くにいない」(ともに8.9%)、「家のまわりの道に歩道がない、狭い」(8.3%)となっている。

世帯状況別では、ひとり暮らしでは、「家のまわりに階段や坂が多い」が17.5%、次いで「家族が近くにいない」が14.9%、「バスの本数が少ない」が12.4%となっている。夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上では、「家のまわりに階段や坂が多い」が26.8%、「スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない」が14.9%、「バスの本数が少ない」が12.5%となっている。子や孫など同居では、「家のまわりに階段や坂が多い」が25.0%、「バスの本数が少ない」が14.2%となっている。

図表5(2)-5 住んでいる環境で困っていること、不満な点(複数回答、高齢者一般・問37)
【世帯状況別】

	TOTAL (n=2108)	世帯状況別(無回答n=8非表示)					
		ひとり暮らし (n=348)	夫婦二人暮らし して二人とも 65歳以上 (n=887)	夫婦二人暮らし して一人だけ が65歳以上 (n=98)	子や孫などと 同居 (n=689)	前掲(1~4) 以外で全員が 65歳以上 (n=37)	その他 (n=41)
スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない	12.3	10.3	14.9	8.2	11.0	8.1	9.8
家のまわりに階段や坂が多い	24.0	17.5	26.8	13.3	25.0	13.5	31.7
家のまわりの道に歩道がない、狭い	8.3	4.6	8.7	7.1	10.2	5.4	7.3
電車の駅やバス停が遠い	8.9	7.2	9.0	7.1	9.3	8.1	17.1
バスの本数が少ない	12.8	12.4	12.5	4.1	14.2	10.8	19.5
医療機関が近くにない	6.2	5.5	6.1	5.1	6.7	8.1	9.8
暮らしや健康・福祉のことで利用できる施設や 事業所(地域ケアプラザなど)が近くにない	5.3	4.3	5.6	7.1	5.2	5.4	2.4
家族が近くにいない	6.9	14.9	8.8	3.1	1.5	2.7	2.4
友人が近くにいない	8.9	10.9	7.7	11.2	8.7	10.8	12.2
参加したい地域活動グループがない	7.2	9.2	6.5	11.2	7.0	2.7	2.4
住民相互の助け合いが乏しい	7.1	9.5	7.4	6.1	5.7	8.1	7.3
公園や緑地が少ない	4.9	4.6	4.6	9.2	5.4	2.7	0.0
その他	2.8	2.3	2.8	3.1	2.5	8.1	4.9
困っていることはない	36.7	36.8	35.3	39.8	38.3	45.9	26.8
無回答	10.2	12.6	9.8	7.1	9.7	8.1	14.6

(3) 介護保険以外のサービス

① 介護保険以外に必要な活動やサービス（利用者）

利用者側が今後必要と考える活動やサービスは、要支援者、要介護者、未利用それぞれにおいて、「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」や「通院・福祉施設・役所への送迎」、「緊急時の通報システム」、「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」等が多くなっている。要介護者では、10%以上の項目が多くなっている。

図表5 (3)①-1 今後必要と考える活動やサービス（複数回答）
（要支援・問33、要介護・問41、未利用・問35）

(%)	要支援 (n=528)	要介護 (n=1525)	未利用 (n=860)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	25.0	17.0	20.1
通いの場への送迎	17.4	14.5	12.7
通院・福祉施設・役所の送迎	19.3	19.8	19.3
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	9.8	15.9	9.3
栄養改善を目的とした配食	10.0	10.6	9.4
見守り・安否確認	13.4	14.2	12.1
緊急時の通報システム	24.1	20.9	21.4
ごみ出し	12.1	7.7	11.6
生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	22.5	20.8	21.3
話し相手	8.7	12.1	7.9
訪問による理美容	7.8	16.2	8.4
歯科などの訪問診療	6.8	16.3	8.0
介護等が必要になった場合の住宅改造	7.0	7.7	12.8
紙おむつの購入	5.9	15.3	5.8
その他	0.8	2.1	2.2
特になし	16.1	16.6	13.6
無回答	13.6	13.5	22.2

利用者側が今後必要と考える活動やサービスは、要支援者においては、「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」が24.9%と最も多く、次いで「緊急時の通報システム」（23.5%）、「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（22.8%）、「通院・福祉施設・役所への送迎」（19.1%）、「通いの場への送迎」（17.7%）となっている。

要支援1では「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」が26.6%、また要支援2では「緊急時の通報システム」が25.4%と、最も多くなっている。

図表5 (3)①-2 今後必要と考える活動やサービス（複数回答、要支援1・2のみ*・問33）
【要介護度別】

活動やサービス (%)	要支援1・2 TOTAL (n=486)	要介護度別	
		要支援1 (n=203)	要支援2 (n=283)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	24.9	26.6	23.7
通いの場への送迎	17.7	15.3	19.4
通院・福祉施設・役所の送迎	19.1	15.8	21.6
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	9.7	7.9	11.0
栄養改善を目的とした配食	10.1	8.9	11.0
見守り・安否確認	13.0	13.3	12.7
緊急時の通報システム	23.5	20.7	25.4
ごみ出し	12.6	14.3	11.3
生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	22.8	22.7	23.0
話し相手	8.6	7.4	9.5
訪問による理美容	7.6	7.9	7.4
歯科などの訪問診療	7.0	5.4	8.1
介護等が必要になった場合の住宅改造	7.4	5.4	8.8
紙おむつの購入	6.2	3.4	8.1
その他	0.8	0.5	1.1
特になし	16.3	19.2	14.1
無回答	13.6	12.3	14.5

* 要支援の結果のうち、「要介護1～5」や「要介護認定なし」等を除き、「要支援1」、「要支援2」のみで集計した結果を示している。

利用者側が今後必要と考える活動やサービスは、要介護者においては、「緊急時の通報システム」が20.9%と最も多く、次いで「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（20.8%）、「通院・福祉施設・役所の送迎」（19.8%）、「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」（17.0%）となっている。

要介護度別で最も多いものについては、要介護1では「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」（23.8%）、要介護2では「通院・福祉施設・役所の送迎」（22.3%）、要介護3では「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（24.4%）、要介護4では「訪問による理美容」（24.2%）、要介護5では「紙おむつの購入」（28.8%）となっている。

図表5(3)①-3 今後必要と考える活動やサービス（複数回答、要介護・問41）

【要介護度別】

活動やサービス	TOTAL (n=1525)	要介護度別(無回答n=55非表示)				
		要介護1 (n=320)	要介護2 (n=624)	要介護3 (n=258)	要介護4 (n=157)	要介護5 (n=111)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	17.0	23.8	17.9	14.3	11.5	9.0
通いの場への送迎	14.5	18.1	15.2	16.7	7.6	5.4
通院・福祉施設・役所の送迎	19.8	20.6	22.3	22.1	14.6	10.8
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	15.9	14.7	16.7	19.0	14.0	13.5
栄養改善を目的とした配食	10.6	11.6	9.8	12.8	10.2	11.7
見守り・安否確認	14.2	15.3	14.1	14.3	16.6	10.8
緊急時の通報システム	20.9	21.9	20.8	21.3	21.0	20.7
ごみ出し	7.7	9.7	8.5	6.6	1.9	5.4
生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	20.8	20.9	21.2	24.4	17.2	17.1
話し相手	12.1	16.6	11.5	9.7	12.1	9.9
訪問による理美容	16.2	12.8	15.7	19.4	24.2	14.4
歯科などの訪問診療	16.3	11.9	15.4	20.5	22.3	20.7
介護等が必要になった場合の住宅改造	7.7	9.1	7.9	8.1	6.4	4.5
紙おむつの購入	15.3	10.6	13.1	18.2	22.3	28.8
その他	2.1	1.3	2.1	2.3	2.5	4.5
特になし	16.6	15.6	17.8	14.0	15.3	19.8
無回答	13.5	12.2	13.6	14.0	8.9	14.4

利用者側が今後必要と考える活動やサービスは、未利用においては、「緊急時の通報システム」が21.4%と最も多く、次いで「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（21.3%）、「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」（20.1%）、「通院・福祉施設・役所の送迎」（19.3%）の順となっている。

未利用の多いものについては、要支援1・2では「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」（23.5%）、「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（22.7%）、「緊急時の通報システム」（21.6%）となっている。要介護1・2では「生活援助（掃除、洗濯、買い物、調理など）」（23.8%）、「通院・福祉施設・役所の送迎」（22.2%）、「緊急時の通報システム」（21.7%）となっている。要介護3・4・5では「緊急時の通報システム」（33.3%）、「通院・福祉施設・役所の送迎」（31.7%）がともに3割を超えている。

図表5(3)①-4 今後必要と考える活動やサービス（複数回答）
（未利用・問35）

【要介護度別】

(%)	TOTAL (n=860)	要介護度別(無回答n=101非表示)		
		要支援1・2 (n=510)	要介護1・2 (n=189)	要介護3・4・5 (n=60)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	20.1	23.5	16.4	11.7
通いの場への送迎	12.7	13.3	13.8	10.0
通院・福祉施設・役所の送迎	19.3	17.8	22.2	31.7
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	9.3	7.8	11.6	20.0
栄養改善を目的とした配食	9.4	9.4	8.5	13.3
見守り・安否確認	12.1	11.8	16.4	6.7
緊急時の通報システム	21.4	21.6	21.7	33.3
ごみ出し	11.6	13.1	12.2	1.7
生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	21.3	22.7	23.8	15.0
話し相手	7.9	6.7	13.2	5.0
訪問による理美容	8.4	7.6	10.6	16.7
歯科などの訪問診療	8.0	6.9	10.1	18.3
介護等が必要になった場合の住宅改造	12.8	12.9	15.9	8.3
紙おむつの購入	5.8	4.7	7.9	13.3
その他	2.2	2.7	0.5	1.7
特にない	13.6	12.5	16.4	10.0
無回答	22.2	22.0	14.8	23.3

② 介護保険以外に必要な活動やサービス（事業所）

介護保険以外のサービスについて、介護事業所が実施または実施予定のある活動やサービスは、「生活援助（掃除・洗濯・買い物・調理など）」が 19.8%と最も多く、次いで「通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い」（18.2%）や「見守り・安否確認」（17.1%）、「通院・福祉施設・役所の送迎」（16.5%）となっている。

また、介護事業所が今後充実が必要と考える活動やサービスは、「見守り・安否確認」が 27.7%と最も多く、次いで「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」（24.8%）や「通いの場への送迎」（19.2%）、「緊急時の通報システム」（19.1%）等となっている。

図表 5 (3)②-1 介護保険以外のサービスの状況（複数回答、介護事業所・問 18）

(%)	実施または実施予定 (n=1700)	今後充実が必要 (n=1700)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	13.0	24.8
通いの場への送迎	6.9	19.2
通院・福祉施設・役所の送迎	16.5	16.1
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	18.2	17.8
栄養改善を目的とした配食	5.5	12.6
見守り・安否確認	17.1	27.7
緊急時の通報システム	7.0	19.1
ごみ出し	12.5	11.7
生活援助(掃除・洗濯・買い物・調理など)	19.8	14.0
話し相手	12.4	16.9
訪問による理美容	11.5	8.2
歯科などの訪問診療	10.7	7.8
介護等が必要になった場合の住宅改造	3.7	4.9
紙おむつの購入	10.8	4.6
その他	2.6	1.5
特になし	26.2	11.4
無回答	25.6	31.2

今後必要と考える活動やサービスについて、地域ケアプラザでは「通いの場への送迎」が85.1%で最も多く、次いで「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」(63.6%)、「見守り・安否確認」(62.8%)の順となっている。

ケアマネジャーでは、「通いの場への送迎」が49.5%と最も多く、次いで「見守り・安否確認」(40.7%)、「通いの場（体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流）」(39.0%)の順となっている。

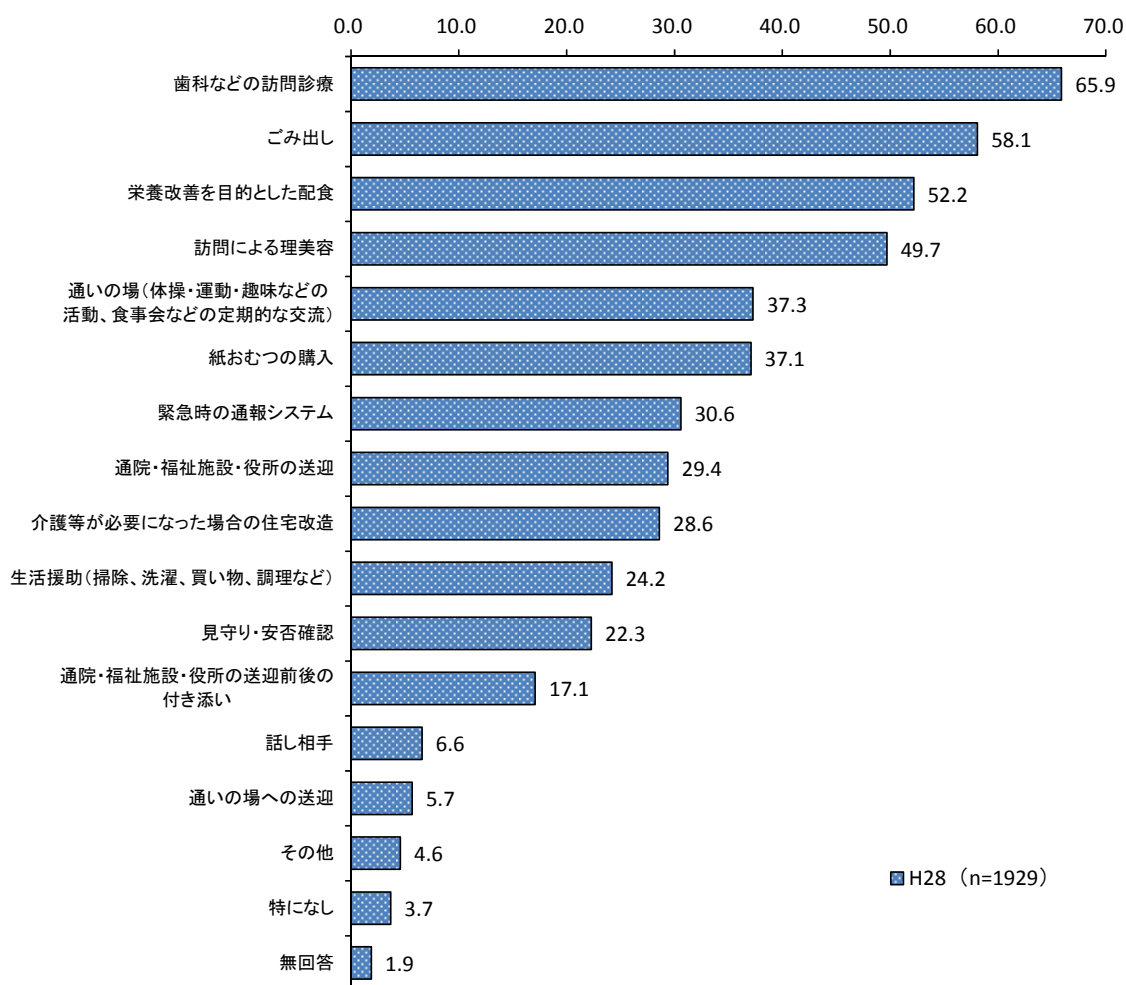
図表5(3)②-2 今後充実が必要な活動・サービス（複数回答）
（ケアプラ・問13、ケアマネジャー・問26）

(%)	地域ケアプラザ [*] (n=121)	ケアマネジャー [*] (n=1929)
通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)	63.6	39.0
通いの場への送迎	85.1	49.5
通院・福祉施設・役所の送迎	56.2	27.6
通院・福祉施設・役所の送迎前後の付き添い	43.8	30.9
栄養改善を目的とした配食	10.7	11.7
見守り・安否確認	62.8	40.7
緊急時の通報システム	20.7	17.2
ごみ出し	24.0	15.7
生活援助(掃除、洗濯、買い物、調理など)	53.7	24.3
話し相手	42.1	38.1
訪問による理美容	0.8	4.6
歯科などの訪問診療	1.7	2.8
介護等が必要になった場合の住宅改造	1.7	1.5
紙おむつの購入	2.5	3.0
その他	4.1	3.5
特になし	0.0	5.0
無回答	0.0	3.5

③ 保険外サービスのケアプランへの組み込み状況

ケアマネジャーにおいて、保険外の活動やサービスを組み合わせて作成したケアプランは、「歯科などの訪問診療」が 65.9%と最も多く、次いで「ごみ出し」(58.1%)、「栄養改善を目的とした配食」(52.2%)、「訪問による理美容」(49.7%)、「通いの場(体操・運動・趣味などの活動、食事会などの定期的な交流)」(37.3%)、「紙おむつの購入」(37.1%)となっている。

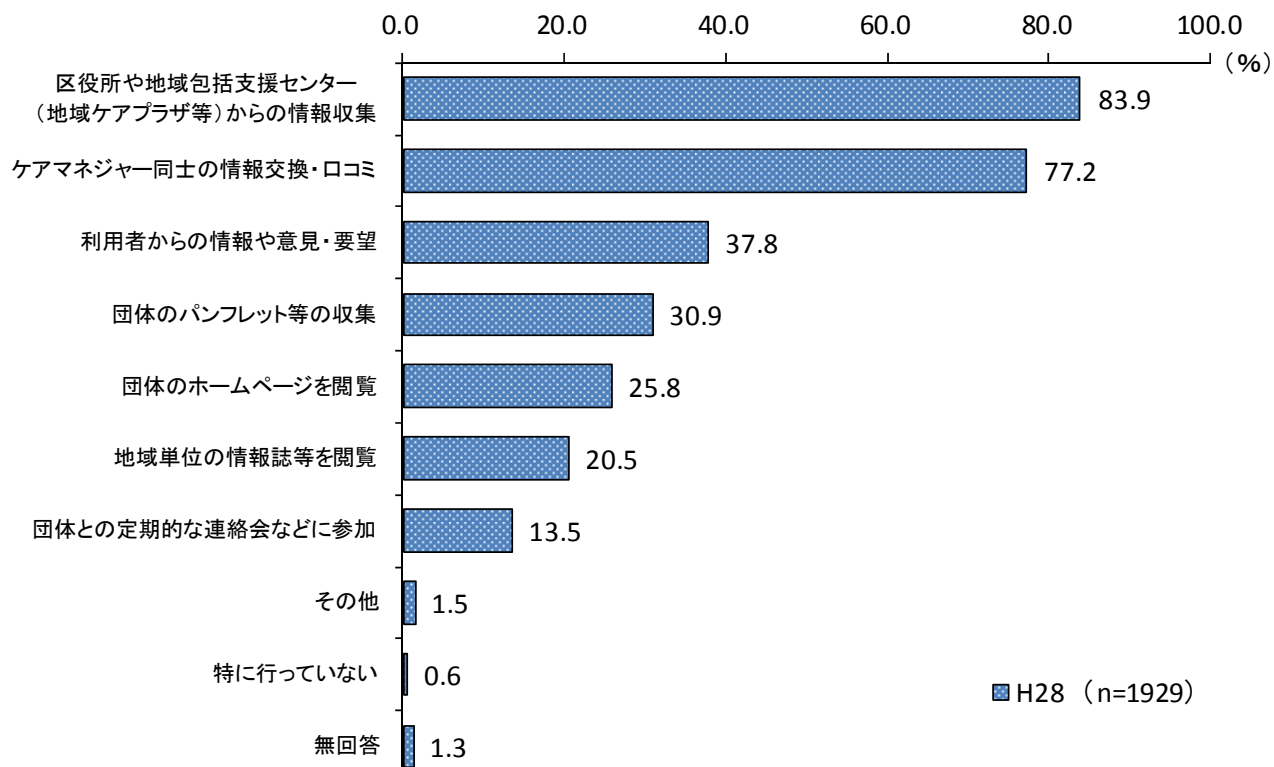
図表 5 (3)③ 保険外サービスのケアプランへの組み込み (複数回答)
(ケアマネジャー・問 25)



④ 情報収集の状況

ケアマネジャーにおいて、保険外の活動やサービスに関する情報収集の状況は、「区役所や地域包括支援センター（地域ケアプラザ等）からの情報収集」が83.9%と最も多く、次いで「ケアマネジャー同士の情報交換・ロコミ」（77.2%）、「利用者からの情報や意見・要望」（37.8%）、「団体のパンフレット等の収集」（30.9%）となっている。

図表 5 (3)④ 保険外サービス・活動の情報収集（複数回答、ケアマネジャー・問 28）



6. 施設・住まい

(1) 介護サービスの利用と住まいについて

① 介護サービスの利用と住まい

介護サービスの利用と住まいについては、各調査対象とも在宅介護サービスを利用しながら自宅での生活継続を望む割合が最も高い。

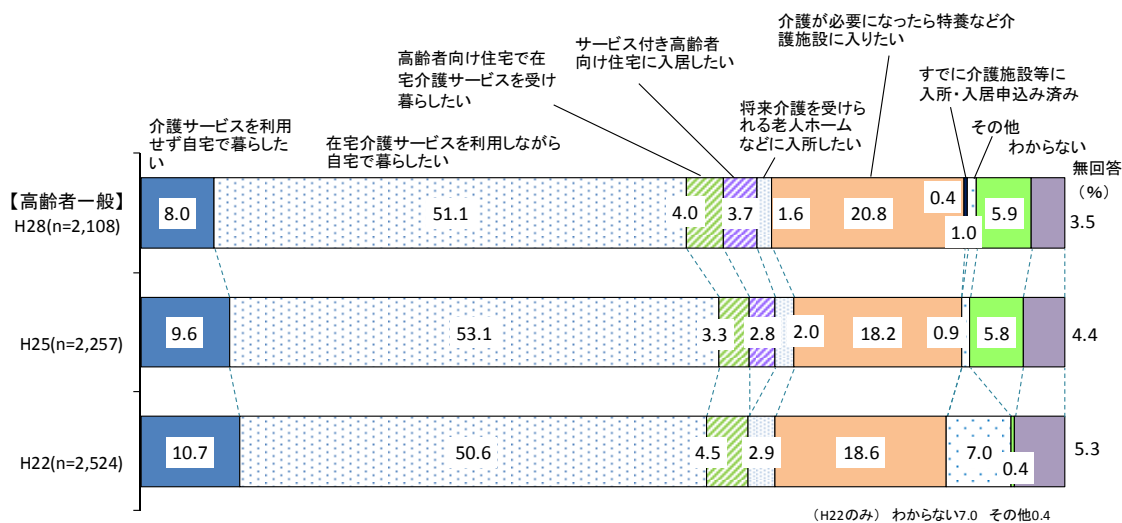
高齢者一般では「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が 51.1%と半数であるほか、「介護が必要になったら特養など介護施設に入りたい」が 20.8%となっている。

要支援では、「在宅介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が 47.3%で、前回割合 (36.6%) を 11 ポイント近く上回っている。

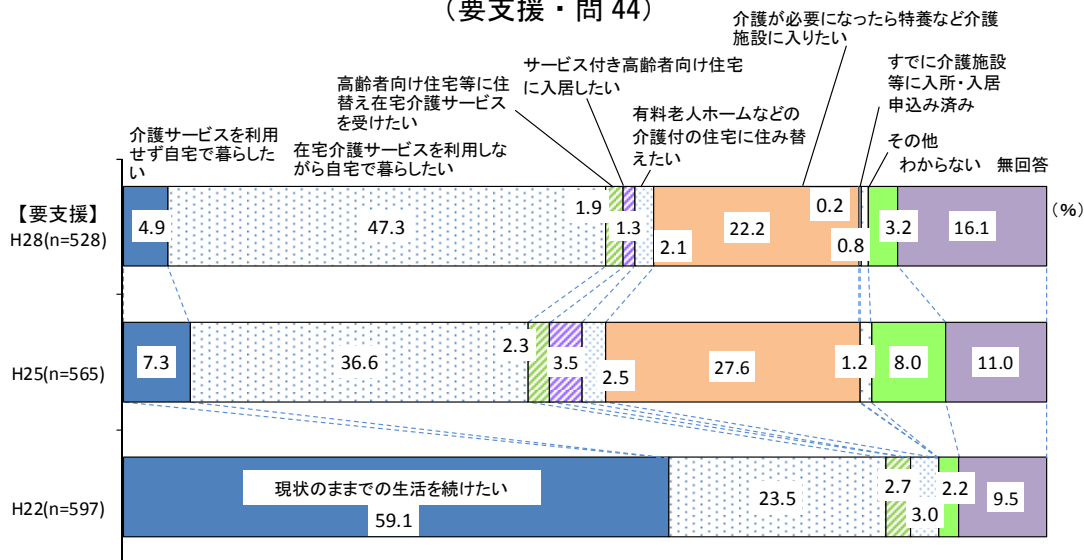
要介護では、「在宅介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が 71.6%となっており、前回に比べて割合に大きな変化はみられない。

未利用では、「在宅介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が 38.1%で最も高いが、前回割合 (44.3%) に比べて 6 ポイント減少している。

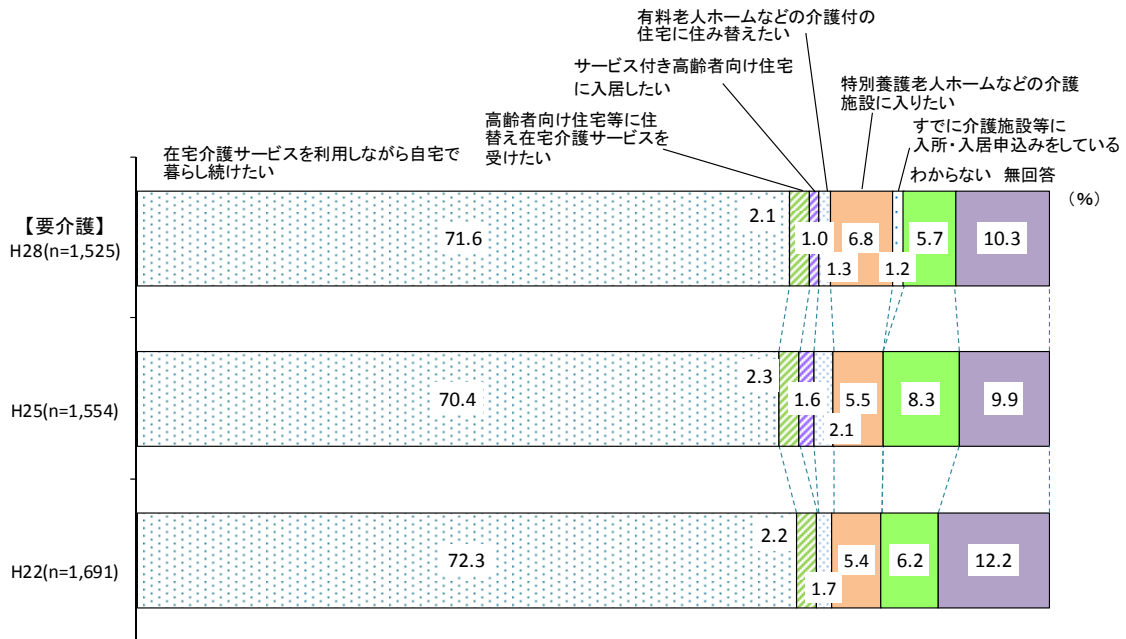
図表 6 (1) ①-1 介護サービスの利用と住まいについて (時系列)
(高齢者一般・問 38)



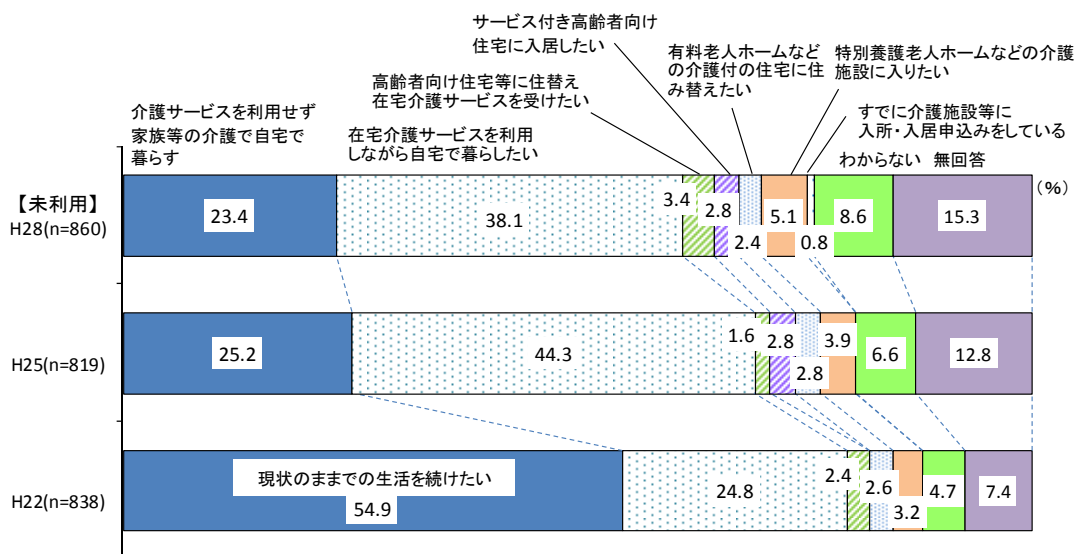
(要支援・問 44)



(要介護・問 43)



(未利用・問 41)

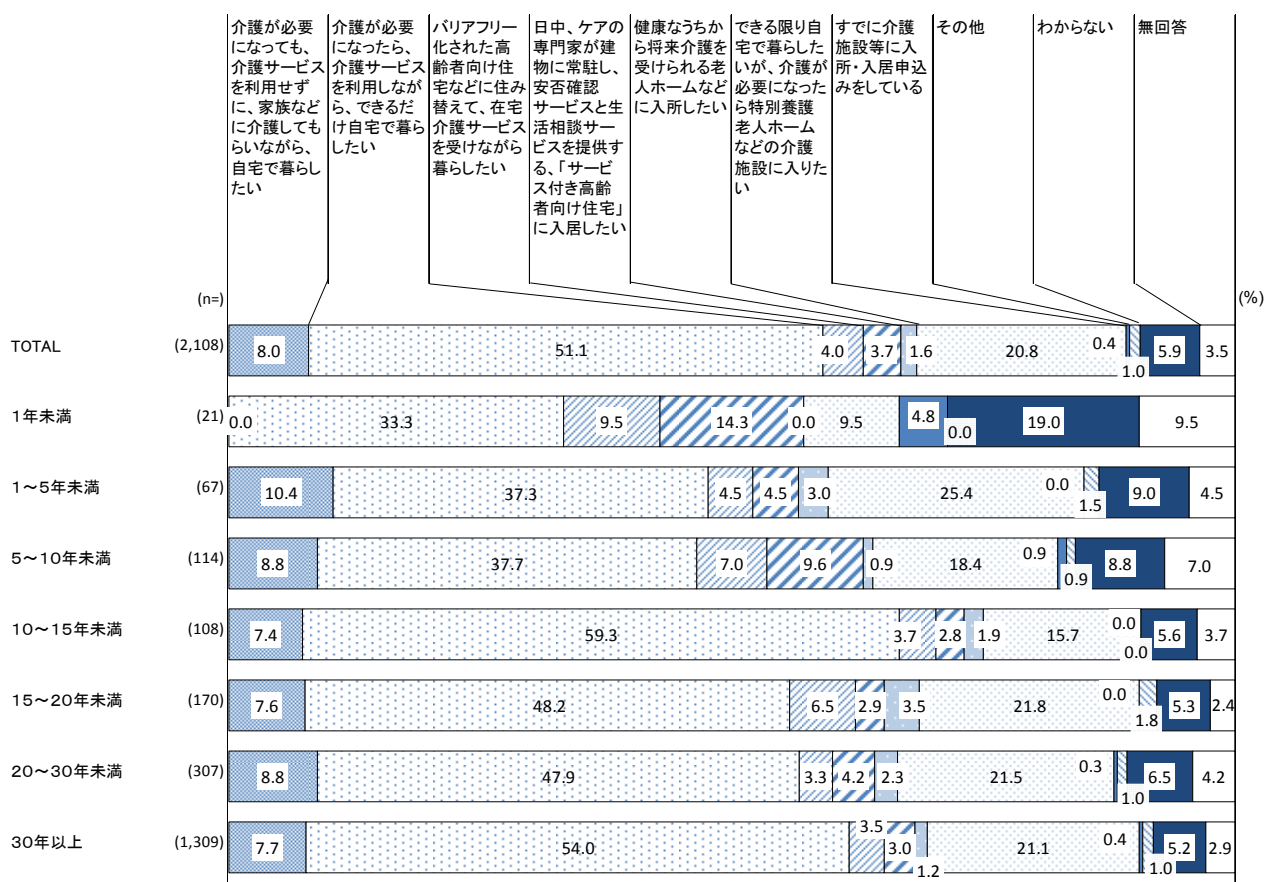


介護サービスの利用と住まいについて、高齢者一般の居住年数別では、「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が51.1%となっており、居住年数が比較的長い10～15年未満、30年以上の居住者では59.3%、54.0%と半数を超えている。

また、居住年数が短い高齢者では、「日中、ケアの専門家が建物に常駐し、安否確認サービスと生活相談サービスを提供する、『サービス付き高齢者向け住宅』に入居したい」をあげる割合が高く、5年～10年未満では、9.6%となっている。

図表6 (1)①-2 介護サービスの利用と住まいについて（高齢者一般・問38）

【居住年数別】



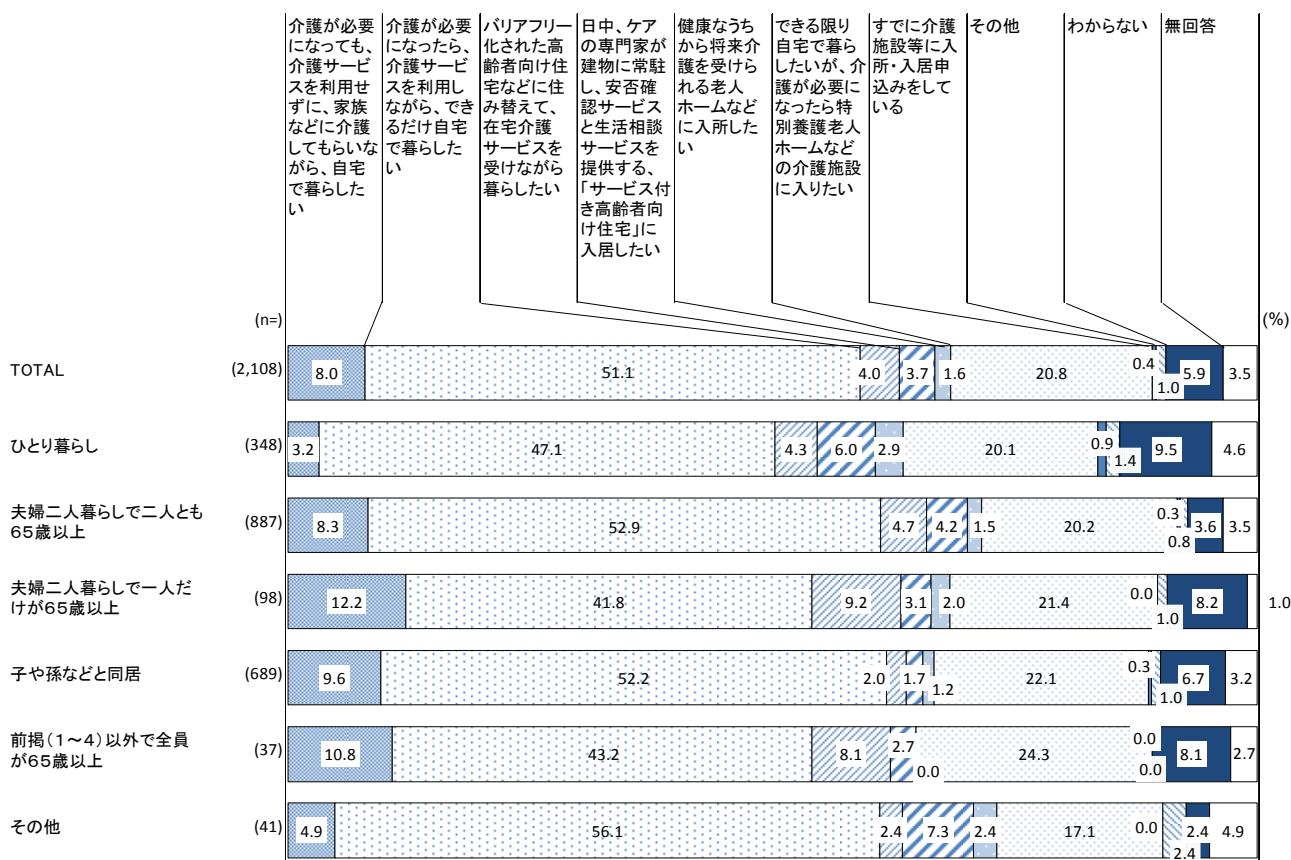
(無回答 n=12 は非表示)

介護サービスの利用と住まいについて、高齢者一般の世帯状況別では、いずれも「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が4～5割で最も多い。

このうち、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上、子や孫など同居の高齢者では52.9%、52.2%とともに5割を超えている。次いで「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」は、いずれの世帯状況でも2割前後となっている。

図表6(1)①-3 介護サービスの利用と住まいについて（高齢者一般・問38）

【世帯状況別】



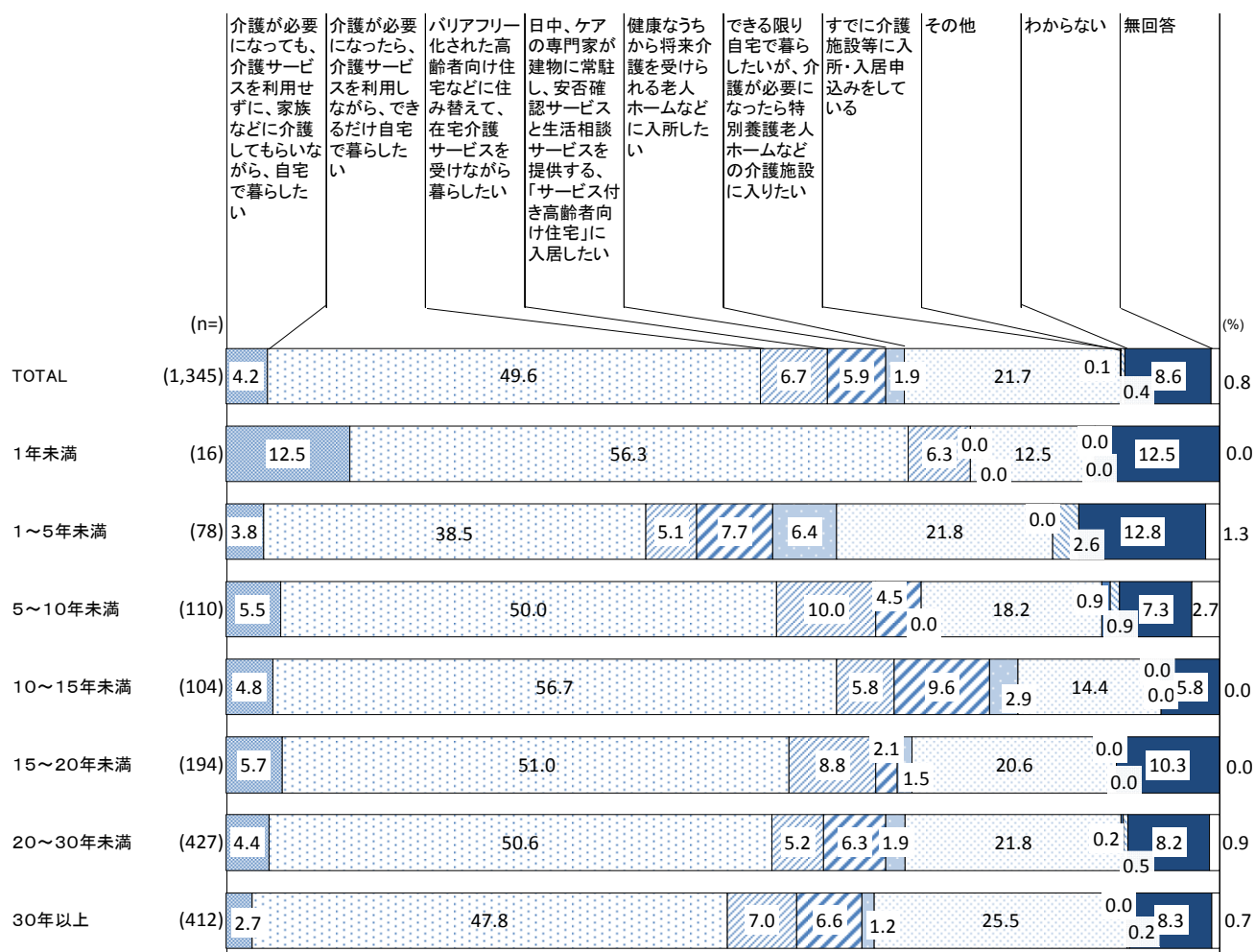
(無回答 n=8 は非表示)

介護サービスの利用と住まいについて、一般 55～64 歳の居住年数別では、高齢者一般と同様、居住年数が長い者では「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」とする割合が高い傾向があり、5年以上居住する者では5割前後で、10～15年未満では56.7%となっている。

また、1～5年未満および15年以上居住する者では、「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が2割台となっている。

図表6 (1)①-4 介護サービスの利用と住まいについて（一般 55～64 歳・問 37）

【居住年数別】



(無回答 n=4 は非表示)

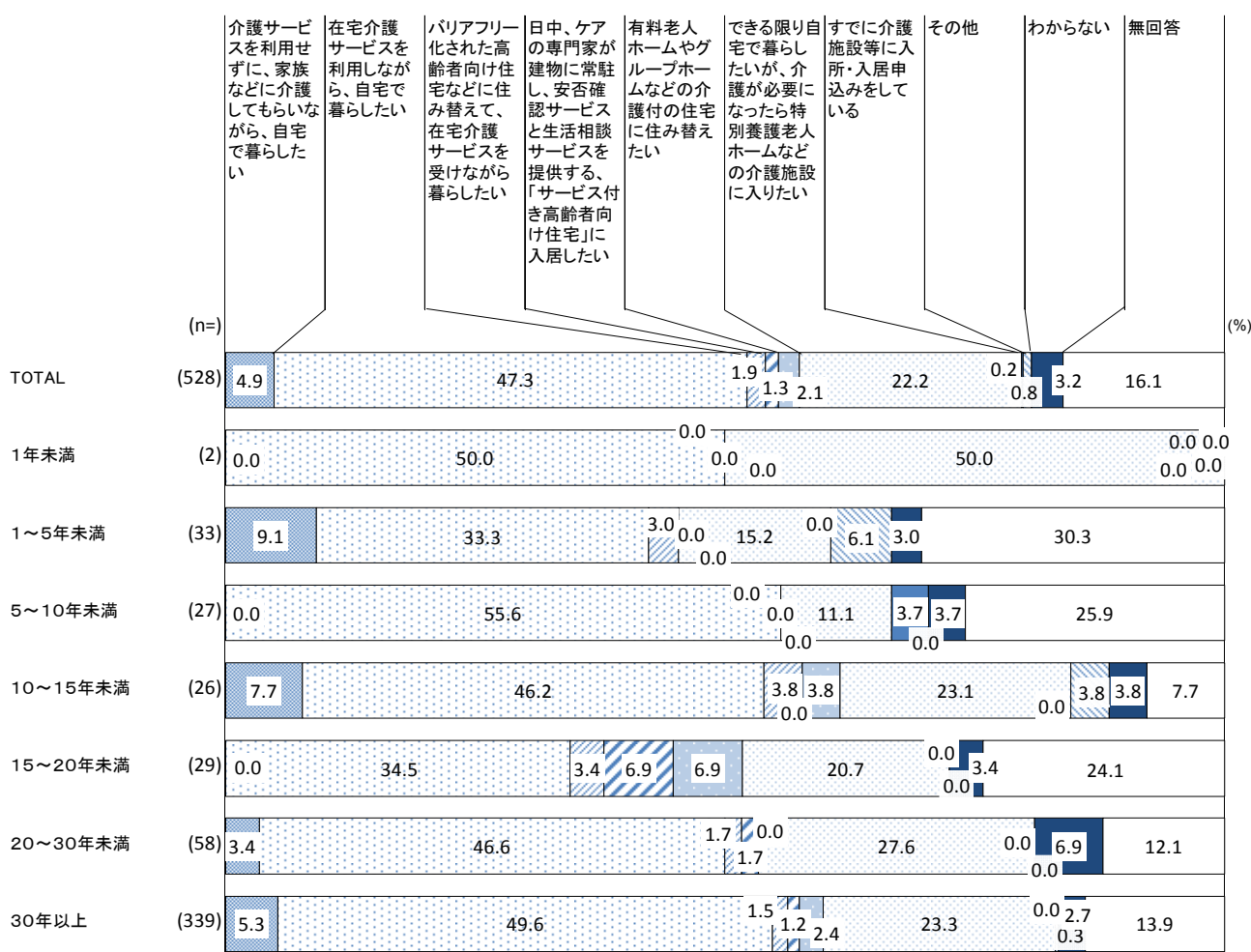
介護サービスの利用と住まいについて、要支援の居住年数別では、居住年数が30年以上のサンプル数が突出して大きく、回答全体の傾向を左右している。

居住年数が30年以上の要支援者では、「介護が必要になったら、在宅介護サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」が約半数（49.6%）となっている。また、「できる限り自宅で暮らしたいが、介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が23.3%となっている。

なお、20～30年未満の要支援者は、30年以上の要支援者とはほぼ同様の回答傾向となっている。

図表6(1)①-5 介護サービスの利用と住まいについて（要支援・問44）

【居住年数別】



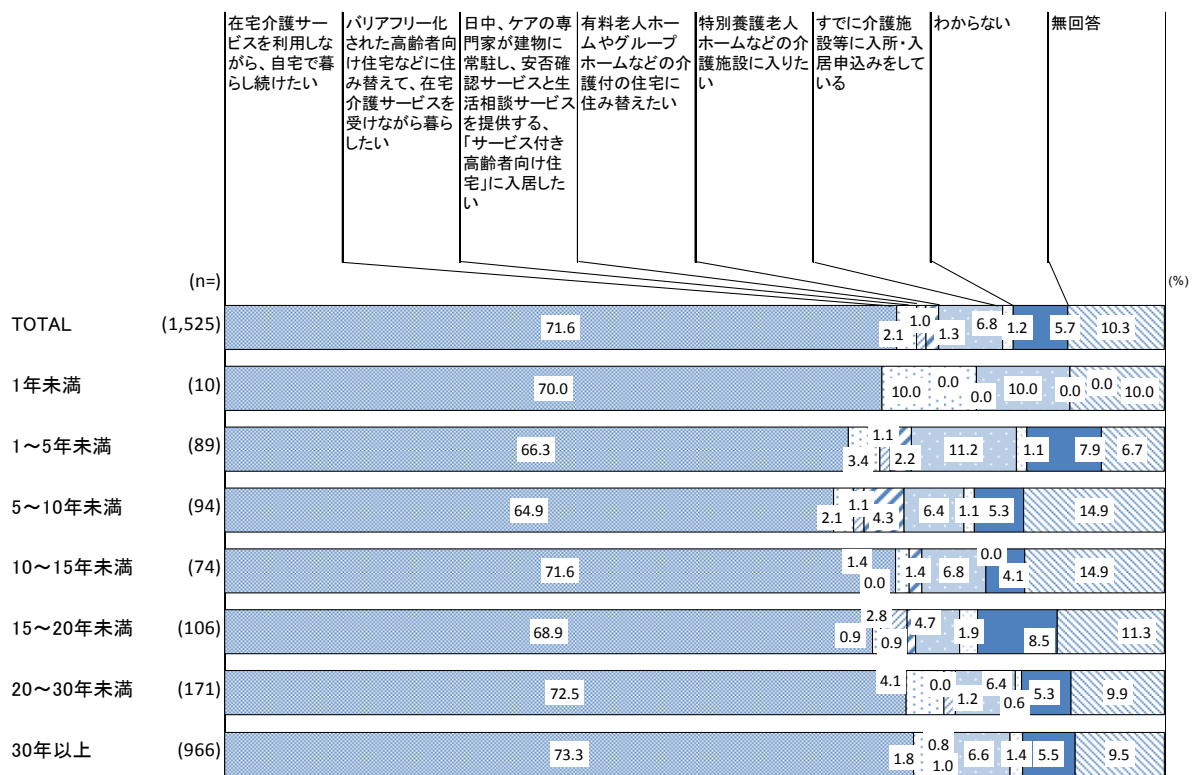
(無回答 n=14 は非表示)

要介護者における今後の在宅サービス利用の希望状況について、居住年数にかかわらず「在宅介護サービスを利用しながら、自宅で暮らし続けたい」をあげる割合が高く、30年以上では73.3%となっている。

要介護度別では、要介護3・4・5にかけては「在宅介護サービスを利用しながら、自宅で暮らし続けたい」をあげる割合は要介護度が高いほど高く、要介護3で65.5%、要介護5では87.4%と8割を超えている。

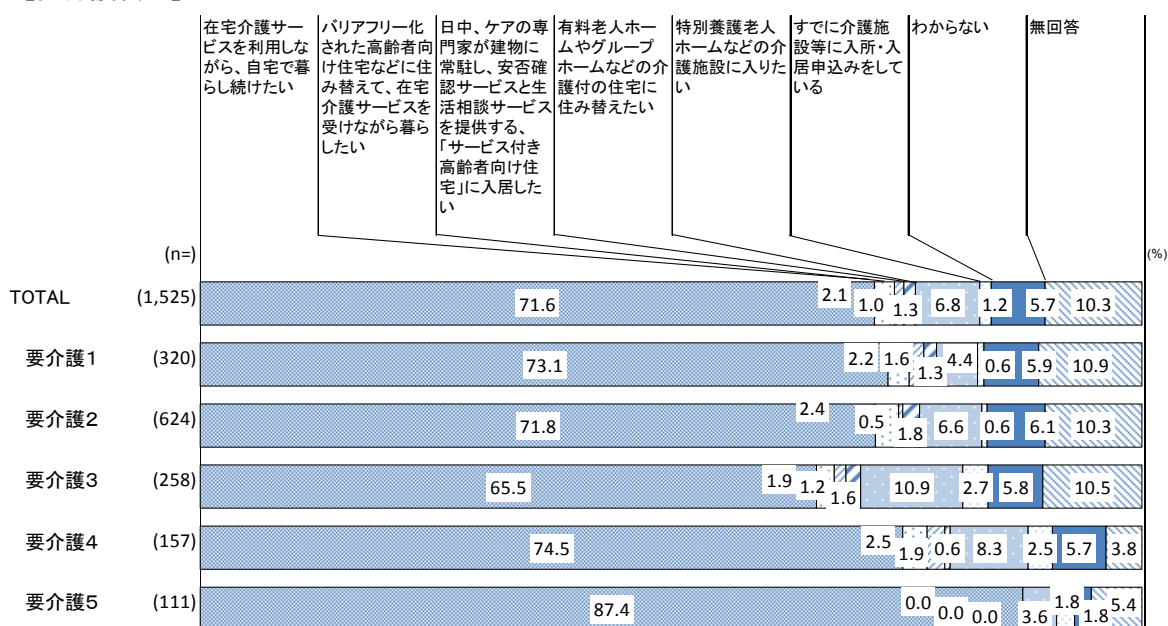
図表6(1)①-6 介護サービスの利用と住まいについて (要介護・問43)

【居住年数別】



(無回答 n=15 は非表示)

【要介護度別】



(無回答 n=55 は非表示)

② 在宅生活維持のために必要なサービス

介護サービス以外の在宅生活維持のために必要なサービスについて、要支援の居住年数別では、30年以上のサンプル数が突出して大きいため、回答全体の傾向を左右している。

その30年以上については、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」(31.5%)、「夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること」(31.0%)、「自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること」(30.4%)の3項目が3割となっている。

図表6(1)②-1 現行サービス以外に必要なもの(複数回答、要支援・問44-1)

【居住年数別】

(%)	TOTAL (n=250)	居住年数別(無回答n=6非表示)						
		1年未満 (n=1)	1~5年未満 (n=11)	5~10年未満 (n=15)	10~15年未満 (n=12)	15~20年未満 (n=10)	20~30年未満 (n=27)	30年以上 (n=168)
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	30.0	0.0	27.3	13.3	50.0	30.0	25.9	31.0
自宅に医師が訪問して診療してくれること	31.6	0.0	27.3	40.0	58.3	10.0	29.6	31.5
ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること	7.2	0.0	9.1	0.0	8.3	0.0	7.4	8.3
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	24.4	0.0	27.3	13.3	33.3	20.0	33.3	23.8
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	28.4	100.0	18.2	33.3	25.0	20.0	22.2	30.4
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	22.4	0.0	27.3	20.0	50.0	20.0	25.9	20.8
その他	4.8	0.0	9.1	6.7	0.0	10.0	14.8	3.0
必要なサービスはない	16.8	0.0	27.3	13.3	8.3	30.0	14.8	17.3
無回答	6.4	0.0	9.1	13.3	8.3	0.0	3.7	6.0

要介護の居住年数別では、5年以上居住する要介護者では「介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が4～5割となっている。

また、1年未満を除き、「自宅に医師が訪問して診療してくれること」の利用意向が3～4割となっている。

10年以上居住する要介護者では「夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること」が3割前後、10年～15年未満の要介護者では49.1%が「自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること」をあげている。

要介護度別では、要介護3・4・5では「介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること」が5～6割と多く、要介護5では63.9%となっている。

また、要介護3では「自宅に医師が訪問して診療してくれること」(39.6%)、「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること」(38.5%)、「ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること」(33.1%)、「自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること」(28.4%)が他の介護度よりも多くなっている。

図表6(1)②-2 現行サービス以外に必要なもの(複数回答、要介護・問43-1)

【居住年数別】

	TOTAL (n=1092)	居住年数別(無回答n=7非表示)						
		1年未満 (n=7)	1～5年未満 (n=59)	5～10年未満 (n=61)	10～15年未満 (n=53)	15～20年未満 (n=73)	20～30年未満 (n=124)	30年以上 (n=708)
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	27.7	14.3	27.1	21.3	35.8	39.7	31.5	26.0
自宅に医師が訪問して診療してくれること	37.0	0.0	42.4	32.8	39.6	39.7	31.5	37.9
ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること	24.8	28.6	28.8	21.3	26.4	24.7	24.2	24.9
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	29.1	14.3	22.0	21.3	28.3	35.6	28.2	30.2
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	26.7	14.3	22.0	37.7	49.1	26.0	23.4	25.6
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	45.1	14.3	37.3	50.8	50.9	47.9	49.2	44.1
その他	2.8	0.0	3.4	1.6	1.9	8.2	4.0	2.3
必要なサービスはない	13.0	14.3	11.9	9.8	11.3	13.7	11.3	13.8
無回答	6.9	0.0	6.8	9.8	1.9	2.7	7.3	7.3

【要介護度別】

	TOTAL (n=1092)	要介護度別(無回答n=27非表示)				
		要介護1 (n=234)	要介護2 (n=448)	要介護3 (n=169)	要介護4 (n=117)	要介護5 (n=97)
夜間にも自宅でホームヘルプや看護が受けられること	27.7	25.6	27.0	31.4	28.2	30.9
自宅に医師が訪問して診療してくれること	37.0	36.3	37.7	39.6	37.6	33.0
ふだん通っている介護事業所などで、希望すれば泊まれること	24.8	22.6	21.4	33.1	30.8	25.8
入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが受けられること	29.1	30.8	28.3	38.5	25.6	17.5
自分の希望に応じて外出支援のサービスを受けられること	26.7	26.5	28.1	28.4	26.5	20.6
介護者の入院など緊急時に入所可能なショートステイのベッドが利用できること	45.1	43.6	39.1	50.3	51.3	63.9
その他	2.8	4.3	2.9	3.0	0.9	2.1
必要なサービスはない	13.0	13.7	13.8	9.5	14.5	10.3
無回答	6.9	6.8	6.5	7.7	2.6	8.2

③ 施設利用について

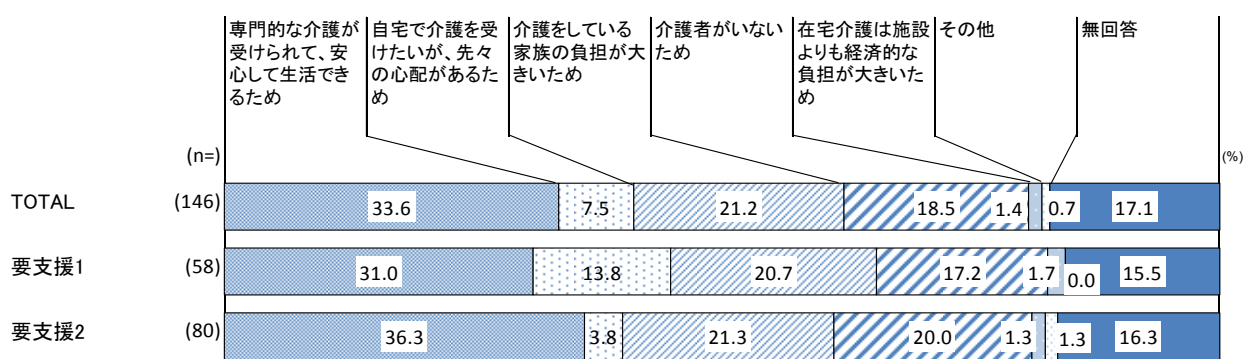
施設等での介護を希望する理由について、要支援では、要支援2において、「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるため」が36.3%、「介護をしている家族の負担が大きいため」が21.3%となっており、それぞれ要支援1よりも高くなっている。

要介護では、要介護2で「介護をしている家族の負担が大きいため」が35.1%、「介護者がいないため」が14.9%となっている。

要介護3では、「介護をしている家族の負担が大きいため」が38.3%、「専門的な介護が受けられて、安心して生活できるため」が27.7%となっている。なお、要介護4・5ではサンプル数が少数だが、要介護4より要介護5のほうが「介護をしている家族の負担が大きいため」を回答した割合が高い。

図表6(1)③-1 施設介護を希望する主な理由（要支援・問44-2）

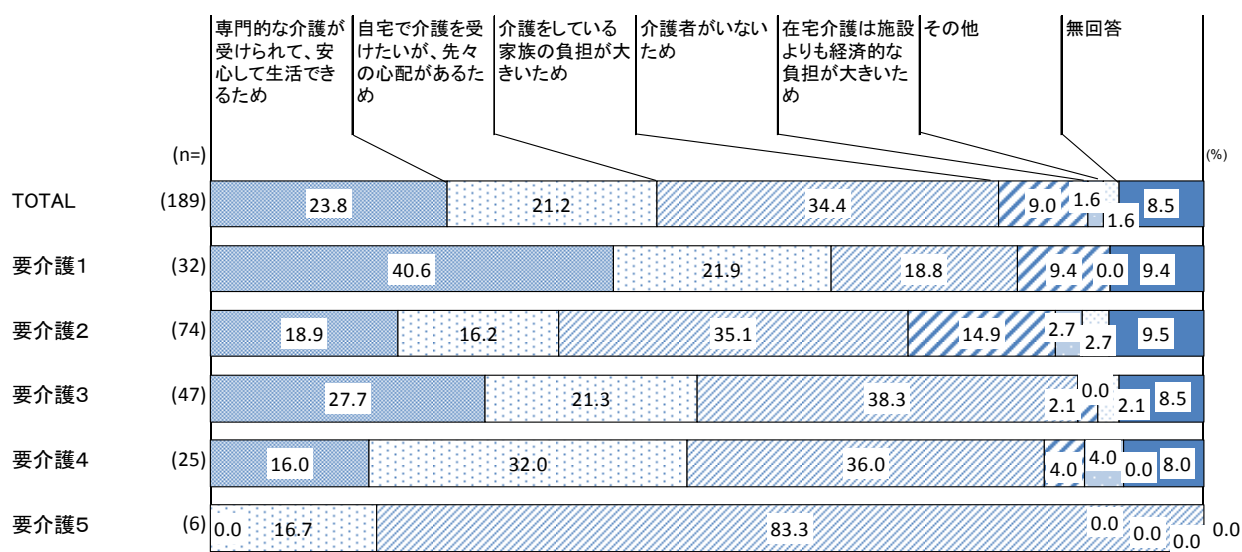
【要介護度別】



(無回答等 n=8 は非表示)

図表6(1)③-2 施設介護を希望する主な理由（要介護・問43-2）

【要介護度別】



(無回答 n=5 は非表示)

(2) 特養申込者の状況

① 申し込み理由

特養入所申し込みの理由については、「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」(41.9%)が最も多く、次いで「要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため」(35.4%)、「すぐには入所できないので、早めに申込みをしておく必要があるため」(34.0%)となっている。

「要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため」は、要介護度が重くなるにつれて割合が高くなっている。

図表6(2)① 特養入所申し込みの理由(複数回答、特養申込者・問27)

【要介護度別】

	TOTAL (n=1373)	要介護度別(無回答n=21非表示)				
		要介護1 (n=67)	要介護2 (n=151)	要介護3 (n=445)	要介護4 (n=408)	要介護5 (n=281)
専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため	41.9	29.9	39.1	44.5	42.2	42.7
要介護度が重い、認知症、食事・排せつができないなど、介護の必要性が高くなったため	35.4	3.0	7.3	29.7	43.1	58.7
すぐには入所できないので、早めに申込みをしておく必要があるため	34.0	41.8	37.1	35.3	34.1	29.2
介護者の精神的ストレスが大きいため	31.6	34.3	33.8	34.8	31.6	26.0
介護者が高齢や病気がちで健康状態が良くないため	24.0	19.4	25.2	24.9	22.1	26.7
介護者が就労しているため	20.0	25.4	16.6	21.3	20.6	18.9
今の在宅での生活を続けたいが、先々の心配があるため	19.8	25.4	22.5	17.3	19.9	20.6
他の施設より安いため	18.5	13.4	19.9	22.7	17.2	15.3
他の施設に入院・入所中だが、退院・退所の期限があるため	16.2	22.4	14.6	13.5	16.9	19.6
在宅での生活を続けるには、住まいの環境が良くないため	16.0	11.9	17.9	18.0	17.4	11.4
同居者の中に他にも要介護者または障害者・病気にかかっている人・乳幼児等があり、介護に負担がかかるため	9.2	6.0	7.9	10.3	9.3	8.2
経済的に在宅では支えきれないため	6.0	11.9	9.9	5.4	6.1	3.9
本人が入所を希望しているため	5.7	11.9	11.9	5.6	4.2	3.2
介護者がいないため	5.5	11.9	6.6	6.7	4.7	2.8
在宅では施設より金銭的な負担が大きいため	4.2	9.0	7.9	3.8	3.2	2.8
介護者が育児をしているため	1.4	1.5	1.3	1.6	1.2	1.4
その他	4.7	7.5	6.6	4.3	2.7	6.8
無回答	0.9	1.5	0.0	0.2	0.2	0.7

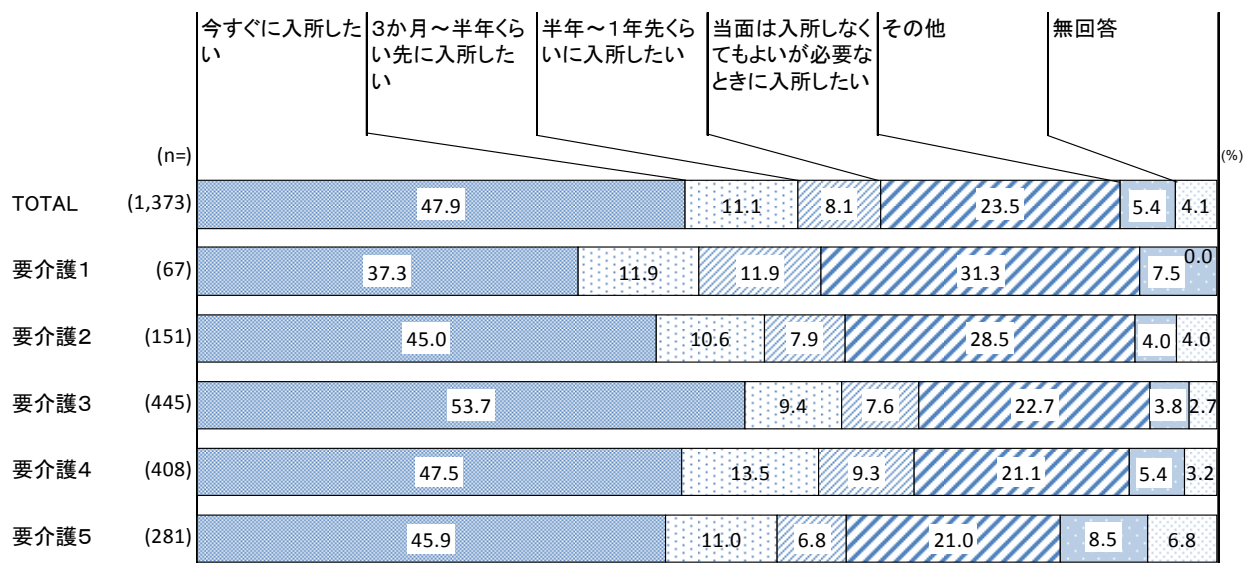
② 入所希望時期とその理由

特養への入所希望時期については、「今すぐに入所したい」(47.9%)が最も多く、「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」(23.5%)、「3か月～半年くらい先に入所したい」(11.1%)となっている。

要介護度別では、要介護3で「今すぐに入所したい」が53.7%と他の介護度に比べて最も高い。一方、要介護1・2では「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」が3割前後となっている。

図表 6 (2)②-1 入所希望時期 (特養申込者・問 29)

【要介護度別】

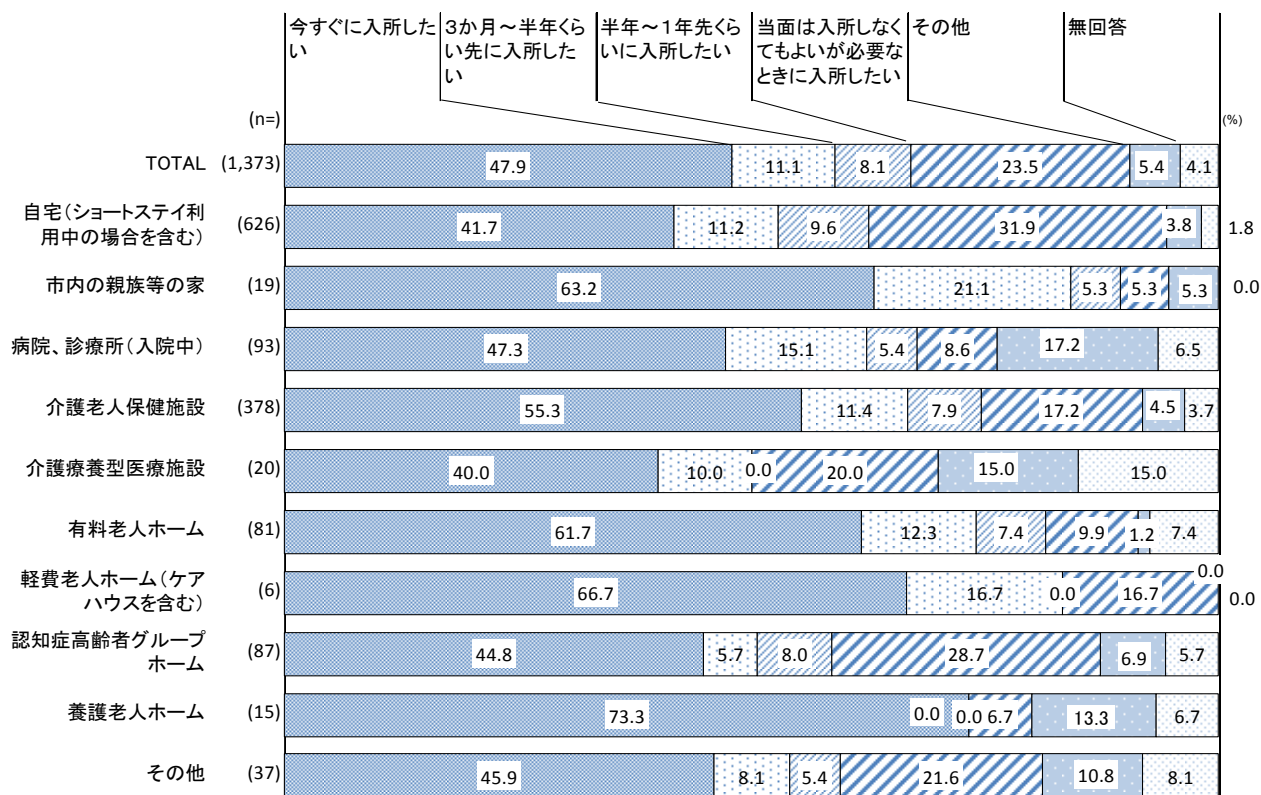


(無回答 n=21 は非表示)

特養への入所希望時期について、要介護者の現在の居所別にみると、介護老人保健施設入所者では、「今すぐに入所したい」が55.3%と半数を超えている。一方、自宅（ショートステイ利用中の場合を含む）では、「今すぐに入所したい」は41.7%、「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」は31.9%となっている。

図表 6 (2) ②-2 入所希望時期（特養申込者・問 29）

【現在の居所別】

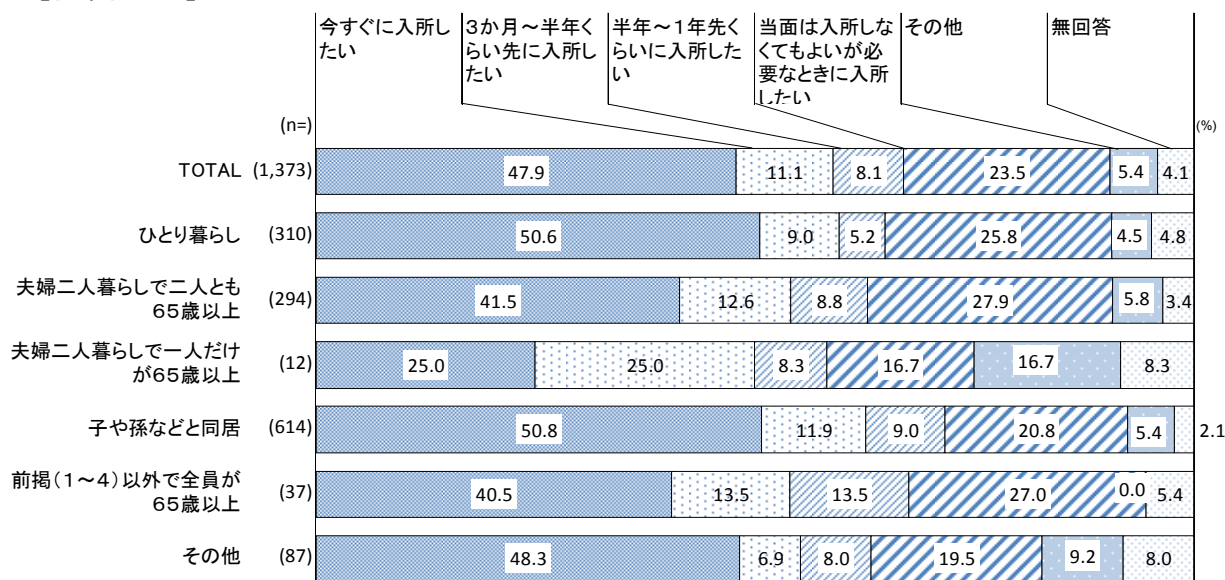


(無回答 n=11 は非表示)

特養への入所希望時期について、要介護者の世帯状況別にみると、ひとり暮らし、子や孫などと同居の5割（50.6%、50.8%）は「今すぐに入所したい」となっている。

図表 6 (2) ②-3 入所希望時期（特養申込者・問 29）

【世帯状況別】



(無回答 n=19 は非表示)

入所希望時期の理由については、「介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）」(39.5%) が最も多く、次いで「現在入院・入所している施設等に退院・退院退所・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）」(20.9%)、「現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから」(18.6%) となっている。

「先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから」は、要介護度が軽くなるにつれ割合が高くなっている。

図表 6 (2) ②-4 入所希望時期の理由（複数回答、特養申込者・問 29-1）

【要介護度別】

理由	TOTAL (n=1373)	要介護度別(無回答n=21非表示)				
		要介護1 (n=67)	要介護2 (n=151)	要介護3 (n=445)	要介護4 (n=408)	要介護5 (n=281)
介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから (限界を超えたら)	39.5	26.9	32.5	43.6	42.2	38.8
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから (退院・退所の時期に合わせて入所したいから)	20.9	20.9	11.9	16.9	23.8	29.2
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて 経済的に続かないから	18.6	16.4	17.9	23.1	17.6	14.2
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	34.3	27.8	19.6	13.2	6.0
介護者が病気になる(要介護になった、入院した)から (病気になるまで)	15.3	19.4	19.2	15.5	12.7	16.0
もう少し自宅にいたいから(面倒を見てもらいたいから)	10.6	14.9	10.6	8.8	11.8	11.0
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	11.9	13.2	9.4	8.6	6.8
現在の病院・施設にもう少しいたいから (治療等が終わるまで、状態が安定するまで等)	7.9	6.0	3.3	5.4	11.8	10.0
その他	8.2	10.4	7.9	7.6	7.8	10.0
無回答	8.4	7.5	9.9	7.9	6.1	8.9

入所希望時期の理由について、特養申込者の現在の居所別では、自宅（ショートステイ利用中の場合を含む）では、「介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）」が56.7%と半数を超えているほか、病院、診療所（入院中）及び介護老人保健施設では、「現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）」とする回答がそれぞれ62.4%、45.8%と高い割合となっている。

また、有料老人ホーム及び認知症高齢者グループホームの入居者では、「現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから」とする回答がそれぞれ74.1%、46.0%となっている。

図表6(2)②-5 入所希望時期の理由（複数回答、特養申込者・問29-1）

【現在の居所別】

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別（無回答n=11非表示）				
		自宅（ショートステイ利用中の場合を含む） (n=626)	市内の親族等の家 (n=19)	病院、診療所（入院中） (n=93)	介護老人保健施設 (n=378)	介護療養型医療施設 (n=20)
介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）	39.5	56.7	63.2	32.3	23.3	15.0
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）	20.9	4.3	0.0	62.4	45.8	25.0
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから	18.6	6.1	5.3	21.5	20.6	20.0
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	22.0	21.1	4.3	11.4	0.0
介護者が病気になった（要介護になった、入院した）から（病気になったら）	15.3	21.9	21.1	7.5	11.1	5.0
もう少し自宅にいたいから（面倒を見てもらいたいから）	10.6	21.7	21.1	0.0	0.5	0.0
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	9.4	10.5	11.8	9.8	5.0
現在の病院・施設にもう少しいたいから（治療等が終わるまで、状態が安定するまで等）	7.9	1.1	5.3	22.6	14.0	20.0
その他	8.2	7.0	10.5	4.3	9.0	15.0
無回答	8.4	8.3	0.0	7.5	8.2	15.0

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別（無回答n=11非表示） （つづき）				
		有料老人ホーム (n=81)	軽費老人ホーム（ケアハウスを含む） (n=6)	認知症高齢者グループホーム (n=87)	養護老人ホーム (n=15)	その他 (n=37)
介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから（限界を超えたら）	39.5	23.5	50.0	14.9	40.0	35.1
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから（退院・退所の時期に合わせて入所したいから）	20.9	1.2	33.3	13.8	20.0	13.5
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから	18.6	74.1	50.0	46.0	13.3	24.3
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	11.1	33.3	11.5	20.0	32.4
介護者が病気になった（要介護になった、入院した）から（病気になったら）	15.3	8.6	0.0	1.1	20.0	16.2
もう少し自宅にいたいから（面倒を見てもらいたいから）	10.6	1.2	0.0	2.3	0.0	2.7
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	12.3	16.7	2.3	6.7	8.1
現在の病院・施設にもう少しいたいから（治療等が終わるまで、状態が安定するまで等）	7.9	7.4	0.0	18.4	0.0	2.7
その他	8.2	11.1	16.7	13.8	6.7	8.1
無回答	8.4	3.7	0.0	6.9	20.0	10.8

入所希望時期の理由について、特養申込者の世帯状況別では、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上や子や孫など同居で、「介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから(限界を超えたら)」がそれぞれ44.2%、49.2%となっている。

図表6(2)②-6 入所希望時期の理由(複数回答、特養申込者・問29-1)

【世帯状況別】

	TOTAL (n=1373)	世帯状況別(無回答n=19非表示)					
		ひとり暮らし (n=310)	夫婦二人暮らし で二人とも 65歳以上 (n=294)	夫婦二人暮らし で一人だけ が65歳以上 (n=12)	子や孫などと 同居 (n=614)	前掲(1~4) 以外で全員が 65歳以上 (n=37)	その他 (n=87)
(96) 介護者・家族への負担が重くなり、限界を超えているから(限界を超えたら)	39.5	22.3	44.2	16.7	49.2	29.7	28.7
現在入院・入所している施設等に退院・退所退院・入所を求められているから(退院・退所の時期に合わせて入所したいから)	20.9	19.4	21.1	41.7	21.3	29.7	20.7
現在利用している施設もしくは在宅サービスの費用が高くて経済的に続かないから	18.6	22.3	15.6	8.3	16.3	18.9	34.5
先々が心配なため、身の回りのことができるうちに入所したいから	16.5	19.4	16.7	16.7	15.6	8.1	17.2
介護者が病気になった(要介護になった、入院した)から(病気になったら)	15.3	5.2	23.5	0.0	15.8	24.3	17.2
もう少し自宅にいたいから(面倒を見てもらいたいから)	10.6	11.6	13.3	8.3	10.1	10.8	3.4
介護者がいなくて、生活に不安があるから	9.3	20.6	6.8	0.0	6.0	2.7	5.7
現在の病院・施設にもう少しいたいから(治療等が終わるまで、状態が安定するまで等)	7.9	9.4	7.1	25.0	7.0	5.4	12.6
その他	8.2	14.2	6.5	0.0	6.8	5.4	4.6
無回答	8.4	8.7	11.2	16.7	5.4	8.1	10.3

③ 他施設の利用意向

特養に代わる他の施設サービスの利用意向について、特養申込者では、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」(65.6%)が最も多く、次いで「介護老人保健施設」(20.3%)となっている。

要介護度別にみると、要介護5では「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」が69.8%と特に高い割合となっている。

図表6(2)③-1 特養に代わるサービス利用意向(複数回答、特養申込者・問40)

【要介護度別】

(%)	TOTAL (n=1373)	要介護度別(無回答等n=21非表示)				
		要介護1 (n=67)	要介護2 (n=151)	要介護3 (n=445)	要介護4 (n=408)	要介護5 (n=281)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	50.7	66.2	67.9	63.5	69.8
介護老人保健施設	20.3	29.9	17.2	19.3	22.1	18.9
介護療養型医療施設	5.2	4.5	1.3	3.8	6.6	8.2
特定施設	1.4	3.0	1.3	1.3	1.5	1.1
住宅型有料老人ホーム	1.6	4.5	1.3	0.9	2.5	1.1
認知症高齢者グループホーム	5.8	6.0	6.6	9.0	3.7	3.2
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	3.0	1.3	0.2	1.2	0.4
小規模多機能型居宅介護	4.3	4.5	6.6	3.4	4.9	2.8
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	6.0	3.3	2.7	2.5	1.1
無回答	9.2	16.4	7.9	7.4	9.1	8.9

特養に代わる他の施設サービスの利用意向について、現在の居所別では自宅（ショートステイ利用中の場合を含む）の要介護者では「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」は73.0%となっている。

同様に、有料老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、病院、診療所（入院中）の要介護者では、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」はそれぞれ67.9%、65.5%、60.2%といずれも6割を超えている。

図表6(2)③-2 特養に代わるサービス利用意向（複数回答、特養申込者・問40）

【現在の居所別】

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別(無回答n=11非表示)				
		自宅(ショートステイ利用中の場合を含む) (n=626)	市内の親族等の家 (n=19)	病院、診療所(入院中) (n=93)	介護老人保健施設 (n=378)	介護療養型医療施設 (n=20)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	73.0	78.9	60.2	55.8	45.0
介護老人保健施設	20.3	13.4	10.5	14.0	38.9	10.0
介護療養型医療施設	5.2	2.4	5.3	20.4	4.2	35.0
特定施設	1.4	1.3	0.0	0.0	0.8	0.0
住宅型有料老人ホーム	1.6	1.1	5.3	0.0	0.3	0.0
認知症高齢者グループホーム	5.8	6.2	10.5	3.2	2.4	0.0
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	1.0	0.0	0.0	0.8	5.0
小規模多機能型居宅介護	4.3	7.3	15.8	1.1	0.8	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	4.3	0.0	0.0	0.8	0.0
無回答	9.2	6.9	5.3	10.8	10.8	20.0

	TOTAL (n=1373)	現在の居所別(無回答n=11非表示)				
		有料老人ホーム (n=81)	軽費老人ホーム(ケアハウスを含む) (n=6)	認知症高齢者グループホーム (n=87)	養護老人ホーム (n=15)	その他 (n=37)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	67.9	33.3	65.5	53.3	70.3
介護老人保健施設	20.3	22.2	16.7	6.9	13.3	8.1
介護療養型医療施設	5.2	11.1	33.3	2.3	0.0	2.7
特定施設	1.4	9.9	0.0	0.0	0.0	0.0
住宅型有料老人ホーム	1.6	9.9	16.7	2.3	0.0	5.4
認知症高齢者グループホーム	5.8	6.2	0.0	23.0	0.0	2.7
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小規模多機能型居宅介護	4.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	9.2	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0

特養に代わる他の施設サービスの利用意向については、世帯状況別では、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上、子や孫など同居、ひとり暮らしの要介護者で、「特別養護老人ホーム以外は利用したくない」は6割台（68.7%、66.3%、64.8%）となっている。

図表6(2)③-3 特養に代わるサービス利用意向（複数回答、特養申込者・問40）

【世帯状況別】

	TOTAL (n=1373)	世帯状況別（無回答n=19非表示）					
		ひとり暮らし (n=310)	夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上 (n=294)	夫婦二人暮らしで一人だけが65歳以上 (n=12)	子や孫など同居 (n=614)	前掲(1~4)以外で全員が65歳以上 (n=37)	その他 (n=87)
(%)	(n=1373)	(n=310)	(n=294)	(n=12)	(n=614)	(n=37)	(n=87)
特別養護老人ホーム以外は利用したくない	65.6	64.8	68.7	41.7	66.3	70.3	58.6
介護老人保健施設	20.3	17.7	16.7	16.7	23.0	13.5	27.6
介護療養型医療施設	5.2	5.2	6.1	8.3	5.0	5.4	2.3
特定施設	1.4	1.9	1.0	0.0	1.5	0.0	1.1
住宅型有料老人ホーム	1.6	1.9	1.4	0.0	1.6	0.0	2.3
認知症高齢者グループホーム	5.8	7.1	4.4	8.3	5.7	2.7	8.0
サービス付き高齢者向け住宅	0.9	1.9	1.4	0.0	0.2	0.0	1.1
小規模多機能型居宅介護	4.3	3.9	3.7	0.0	5.0	5.4	2.3
看護小規模多機能型居宅介護	2.6	2.6	2.7	8.3	2.8	0.0	1.1
無回答	9.2	9.4	10.9	16.7	6.8	16.2	9.2

④ 特養に代わるものとならない理由

特養に代わるものとならない理由については、「特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから」(64.3%)が最も多く、次いで「特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから」(29.2%)、「終の棲家とならないから」(27.6%)の順となっている。

要介護度別では、すべての要介護度において「特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから」とする割合が高く、6割前後となっている。

図表 6 (2)④-1 特養に代わるものとならない理由(複数回答、特養申込者・問 40-1)

【要介護度別】

	TOTAL (n=901) (%)	要介護度別(無回答n=10非表示)				
		要介護1 (n=34)	要介護2 (n=100)	要介護3 (n=302)	要介護4 (n=259)	要介護5 (n=196)
特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから	64.3	58.8	67.0	68.2	62.5	60.2
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	23.5	27.0	27.2	31.3	33.2
終の棲家とならないから	27.6	32.4	24.0	31.8	24.3	28.1
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	8.8	14.0	15.6	18.1	17.9
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	17.6	7.0	12.6	13.5	16.3
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	8.8	13.0	11.3	10.0	6.6
特に理由はない	2.0	0.0	3.0	1.7	2.3	1.5
その他	8.0	8.8	8.0	9.6	6.2	8.2
無回答	2.2	2.9	2.0	1.0	3.1	3.1

特養に代わるものとならない理由について、現在の居所別では、いずれでも「特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから」とする割合が高く、自宅(ショートステイ利用中の場合を含む)の要介護者では68.7%、病院、診療所(入院中)の要介護者では62.5%、有料老人ホームの要介護者では74.5%となっている。

また、介護老人保健施設の要介護者では「終の棲家とならないから」が43.1%となっている。

図表6(2)④-2 特養に代わるものとならない理由(複数回答、特養申込者・問40-1)

【現在の居所別】

	TOTAL (n=901)	現在の居所別(無回答n=5非表示)				
		自宅(ショートステイ利用中の場合を含む) (n=457)	市内の親族等の家 (n=15)	病院、診療所(入院中) (n=56)	介護老人保健施設 (n=211)	介護療養型医療施設 (n=9)
特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから	64.3	68.7	60.0	62.5	54.5	66.7
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	29.8	33.3	26.8	23.2	44.4
終の棲家とならないから	27.6	20.4	20.0	19.6	43.1	22.2
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	21.7	6.7	16.1	12.3	0.0
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	17.1	13.3	5.4	10.0	0.0
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	15.1	20.0	10.7	1.9	0.0
特に理由はない	2.0	1.8	0.0	0.0	3.3	0.0
その他	8.0	6.3	13.3	7.1	11.4	22.2
無回答	2.2	0.9	0.0	5.4	4.3	0.0

	TOTAL (n=901)	(つづき) 現在の居所別(無回答n=5非表示)				
		有料老人ホーム (n=55)	軽費老人ホーム(ケアハウスを含む) (n=2)	認知症高齢者グループホーム (n=57)	養護老人ホーム (n=8)	その他 (n=26)
特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから	64.3	74.5	50.0	50.9	62.5	84.6
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	41.8	0.0	29.8	37.5	38.5
終の棲家とならないから	27.6	27.3	100.0	36.8	12.5	34.6
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	9.1	0.0	7.0	12.5	11.5
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	7.3	0.0	7.0	12.5	15.4
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	3.6	0.0	1.8	12.5	7.7
特に理由はない	2.0	1.8	0.0	1.8	0.0	0.0
その他	8.0	10.9	0.0	8.8	0.0	0.0
無回答	2.2	1.8	0.0	5.3	0.0	0.0

特養に代わるものとならない理由について、世帯状況別では、ひとり暮らし、夫婦二人暮らしで二人とも65歳以上、子や孫など同居のいずれでも「特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから」とする割合が6割台となっている。また、ひとり暮らしの要介護者では「終の棲家とならないから」が38.8%となっている。

図表6(2)④-3 特養に代わるものとならない理由(複数回答、特養申込者・問40-1)
【世帯状況別】

	TOTAL (n=901)	世帯状況別(無回答n=9非表示)					
		ひとり暮らし (n=201)	夫婦二人暮らし で二人とも65 歳以上 (n=202)	夫婦二人暮らし で一人だけが 65歳以上 (n=5)	子や孫など 同居 (n=407)	前掲(1~4)以 外で全員が 65歳以上 (n=26)	その他 (n=51)
特別養護老人ホームよりも料金が安い(高そう)だから	64.3	65.7	67.3	80.0	63.9	26.9	72.5
特別養護老人ホームの方がサービスの質が高そうだから	29.2	29.9	29.7	0.0	29.2	26.9	27.5
終の棲家とならないから	27.6	38.8	25.7	20.0	24.6	23.1	23.5
どのようなサービスか実際に見ていないので実感がわからないから	16.4	16.4	19.8	40.0	16.0	11.5	7.8
身近にある特別養護老人ホーム以外の施設・住宅を知らないから	13.3	7.5	18.3	0.0	14.7	3.8	7.8
デイサービスなど、すでにサービスを受けている事業者だから	10.0	4.5	11.9	0.0	11.5	15.4	9.8
特に理由はない	2.0	1.0	1.5	0.0	2.7	7.7	0.0
その他	8.0	11.4	6.4	0.0	6.9	11.5	9.8
無回答	2.2	2.0	2.0	20.0	1.7	11.5	0.0

(3) 医療処置について

① 医療処置人数

介護施設等における医療処置の種類ごとの利用人数（平均値）について、入所（短期入所は除く）で特養及び老健で比較すると、「吸引」（5.3人）、「吸入」（2.1人）、「経管栄養」（6.3人）、「酸素療法」（2.3人）、「留置尿道カテーテル」（4.7人）、「点滴」（2.9人）、「褥瘡処置」（4.0人）においては特養が上回っている。また、「モニター測定」（25.4人）、「気管切開」（1.5人）、「ストーマ（人工肛門）」（2.2人）、「中心静脈点滴」（3.0人）、「がん末期の疼痛管理」（1.5人）、「腎透析（血液透析及び腹膜透析）」（31.3人）、「自己注射（インスリンを含む）」（3.2人）、「その他の投薬管理」（94.1人）においては、老健が上回っている。

なお、重複を排した医療処置者数は、特養で50.1人、老健で64.1人となっている。

図表6(3)①-1 医療処置人数（数値記入、特養・問14、老健・問15）

		入所(短期入所は除く)				短期入所			
		特養		老健		特養		老健	
		(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)
吸引		(98)	5.3	(46)	3.7	(6)	1.5	(9)	1.0
内数	喀痰吸引	(80)	5.1	(38)	3.8	(5)	1.6	(7)	1.0
吸入		(28)	2.1	(11)	1.9	(4)	1.0	(-)	-
経管栄養		(113)	6.3	(51)	4.6	(10)	1.9	(7)	1.4
内数	鼻腔経管栄養	(9)	1.9	(2)	1.0	(-)	-	(-)	-
	瘻孔経管栄養	(100)	6.3	(45)	4.3	(7)	2.1	(5)	1.4
	中心静脈栄養	(2)	8.5	(-)	-	(-)	-	(-)	-
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)		(11)	9.6	(10)	25.4	(2)	7.5	(3)	2.3
酸素療法		(60)	2.3	(16)	1.6	(9)	1.0	(2)	1.0
気管切開		(1)	1.0	(2)	1.5	(-)	-	(-)	-
人工呼吸器		(-)	-	(-)	-	(-)	-	(-)	-
ストーマ(人工肛門)		(69)	1.6	(33)	2.2	(10)	1.0	(1)	1.0
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)		(110)	4.7	(44)	3.9	(19)	1.2	(3)	1.3
点滴		(14)	2.9	(24)	2.1	(-)	-	(1)	1.0
内数	中心静脈点滴	(2)	1.5	(1)	3.0	(-)	-	(-)	-
	末梢静脈点滴	(13)	2.8	(22)	2.0	(-)	-	(1)	1.0
褥瘡処置		(78)	4.0	(30)	2.9	(13)	1.2	(5)	1.0
内数	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	(46)	1.8	(15)	1.7	(1)	1.0	(3)	1.0
がん末期の疼痛管理		(8)	1.3	(4)	1.5	(1)	1.0	(-)	-
腎透析(血液透析及び腹膜透析)		(4)	10.0	(3)	31.3	(5)	1.6	(1)	5.0
自己注射(インスリンを含む)		(47)	2.5	(32)	3.2	(15)	1.6	(6)	1.0
その他の投薬管理(服薬介助を含む)		(77)	86.2	(41)	94.1	(63)	10.4	(24)	5.5
重複計上しない医療処置の人数		(105)	50.1	(45)	64.1	(71)	8.0	(25)	4.5

居住系事業所における医療処置人数については、重複を排した医療処置者数は、特定施設で 38.3 人、グループホームで 12.9 人、住宅型有料老人ホームで 19.3 人、サービス付き高齢者向け住宅で 11.2 人となっており、いずれの事業所でも「その他の投薬管理（服薬介助を含む）」、「モニター測定」が多く、「モニター測定」については、特定施設で 32.5 人、グループホームで 14.0 人、住宅型有料老人ホームで 20.0 人、サービス付き高齢者向け住宅で 4.0 人となっている。

図表 6 (3)①-2 医療処置人数（数値記入、居住系・問 12-2）

		特定施設		グループホーム		住宅型有料老人ホーム		サービス付き 高齢者向け住宅	
		入居		入居 (短期利用共同生活介 護は除く)		入居		入居	
		(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)	(n=)	平均値 (人)
吸引		(58)	5.2	(4)	1.0	(8)	10.8	(2)	1.0
	内数	(53)	3.6	(3)	1.0	(7)	1.7	(2)	1.0
	喀痰吸引								
吸入		(19)	2.4	(6)	1.0	(1)	1.0	(-)	-
経管栄養		(68)	3.4	(1)	1.0	(8)	2.8	(2)	1.0
	内数								
	鼻腔経管栄養	(14)	2.4	(-)	-	(1)	2.0	-	-
	瘻孔経管栄養	(59)	2.6	(1)	1.0	(6)	2.2	(2)	1.0
	中心静脈栄養	(12)	1.4	(-)	-	(1)	4.0	(-)	-
モニター測定(心拍、血圧、酸素、飽和度)		(10)	32.5	(4)	14.0	(2)	20.0	(1)	4.0
酸素療法		(68)	2.4	(14)	1.1	(13)	1.7	(6)	1.8
気管切開		(8)	1.8	(-)	-	(-)	-	(-)	-
人工呼吸器		(2)	4.5	(-)	-	(-)	-	(1)	1.0
ストーマ(人工肛門)		(39)	1.3	(7)	1.0	(3)	1.0	(2)	2.0
留置尿道カテーテル(膀胱カテーテルを含む)		(74)	2.7	(26)	1.2	(20)	1.8	(3)	1.7
点滴		(16)	1.8	(2)	1.0	(2)	2.0	(-)	-
	内数								
	中心静脈点滴	(7)	1.6	(-)	-	(-)	-	(-)	-
	抹消静脈点滴	(12)	1.4	(2)	1.0	(2)	2.0	(-)	-
褥瘡処置		(44)	2.4	(18)	1.3	(9)	1.8	(1)	1.0
	内数								
	褥瘡処置(Ⅲ度以上)	(17)	2.0	(2)	1.0	(2)	1.5	(-)	-
がん末期の疼痛管理		(21)	1.4	(2)	1.0	(6)	1.3	(2)	1.0
腎透析(血液透析及び腹膜透析)		(26)	1.5	(2)	1.0	(4)	4.5	(1)	1.0
自己注射(インスリンを含む)		(58)	1.8	(6)	1.3	(16)	1.3	(3)	2.0
その他の投薬管理(服薬介助を含む)		(76)	48.3	(96)	15.2	(32)	21.5	(7)	13.6
重複計上しない実際の人数		(98)	38.3	(108)	12.9	(42)	19.3	(9)	11.2

② 特別養護老人ホームにおける医療処置必要者受け入れについて

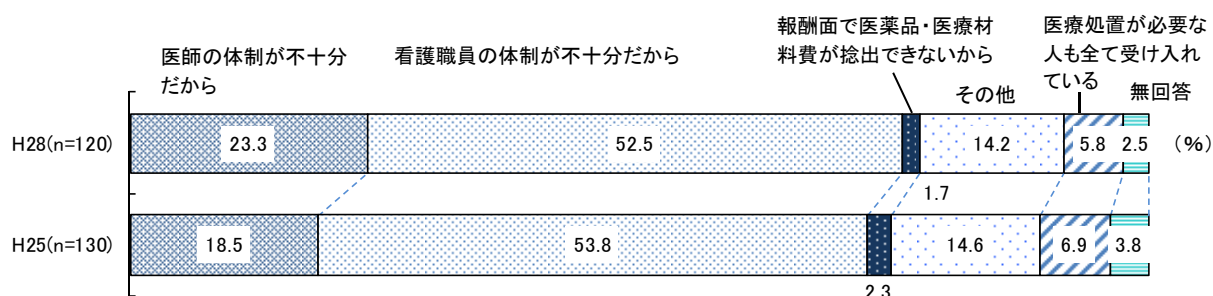
今後特別養護老人ホームにおいて医療処置が必要な方を受け入れるために必要なことについては、「特別養護老人ホームで受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする」との回答が58.2%と最も多く、次いで「介護職員でも一部の医療行為を行えるようにする」(51.8%)、「報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする」(44.5%)、「看護職員の配置基準を上げる(現行の入所者100人に対して3人を5人にする、等)」(42.7%)の順となっている。

図表6(3)②-1 医療処置・今後受け入れるために必要なこと(複数回答、特養・問15-1)

(%)	TOTAL (n=110)
医師の配置基準の見直し(常勤医師の配置等)	22.7
看護職員の配置基準を上げる(現行の入所者100人に対して3人を5人にする、等)	42.7
報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする	44.5
特別養護老人ホームで受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする	58.2
医療処置を必要とする人の受け入れ人数について基準を作る	17.3
介護職員でも一部の医療行為を行えるようにする	51.8
その他	10.0
無回答	1.8

特別養護老人ホームにおいて、医療処置が必要な人の入所が受け入れられない理由については、「看護職員の体制が不十分だから」が52.5%で最も多く、次いで「医師の体制が不十分だから」が23.3%となっている。前回(平成25年)と比較すると、「医師の体制が不十分だから」が約5ポイント増えている(前回18.5%)。

図表6(3)②-2 医療処置・受け入れられない主な理由(時系列、特養・問15)



③ 介護老人保健施設における医療処置必要者受け入れについて

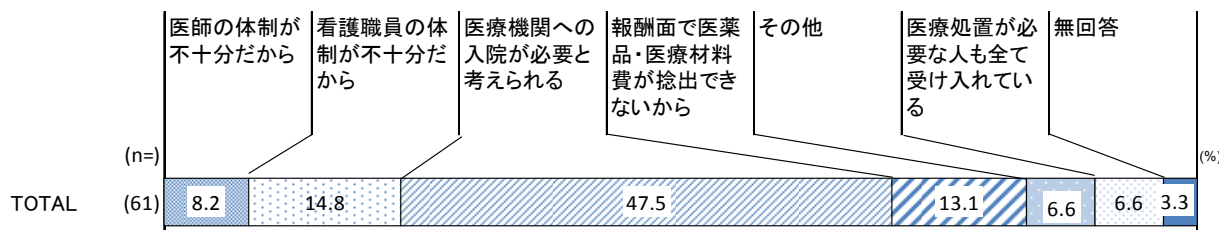
今後介護老人保健施設において医療処置必要者の受け入れに必要なことについては、90.9%とほとんどの施設が「報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする」をあげているほか、「介護老人保健施設での受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする」が54.5%となっている。

図表 6 (3)③-1 医療処置・今後受け入れるために必要なこと（複数回答、老健・問 16-1）

(%)	TOTAL (n=55)
医師の配置基準の見直し	16.4
看護職員の配置基準を上げる	30.9
報酬面で個別に医薬品・医療材料費の加算を可能にする	90.9
介護老人保健施設での受け入れ可能な医療行為の内容について明確にする	54.5
医療処置を必要とする人の受け入れ人数について基準を作る	18.2
介護職員でも一部の医療行為を行えるようにする	23.6
その他	16.4

介護老人保健施設における医療処置必要者受け入れが困難な理由については、「医療機関への入院が必要と考えられる」が47.5%で約半数となっている。次いで「看護職員の体制が不十分だから」(14.8%)、「報酬面で医薬品・医療材料費が捻出できないから」(13.1%)の順となっている。

図表 6 (3)③-2 医療処置・受け入れられない主な理由（老健・問 16）



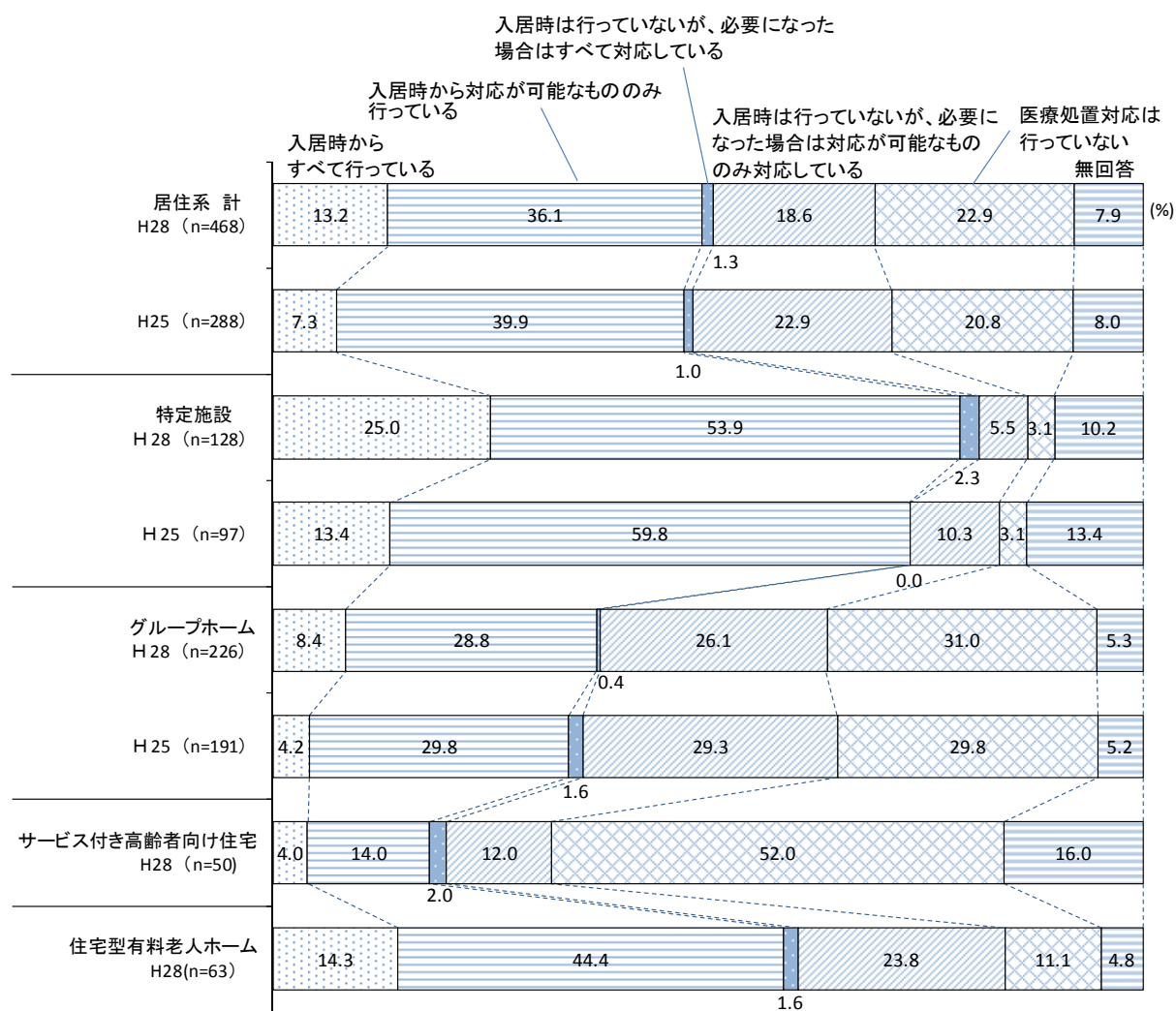
④ 居住系事業所における医療処置必要者受け入れについて

居住系介護サービス事業所（特定施設、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、住宅型有料老人ホーム）について、医療処置対応の状況は、居住系介護サービス事業所全体では「入居時から対応が可能なもののみ行っている」が36.1%で最も多く、次いで「入居時は行っていないが、必要になった場合は対応が可能なもののみ対応している」(18.6%)、「入居時からすべて行っている」(13.2%)の順となっている。

事業種別では、「入居時からすべて行っている」、「入居時から対応が可能なもののみ行っている」の割合が大きく異なっており、「入居時からすべて行っている」、「入居時から対応が可能なもののみ行っている」と合わせて特定施設では78.9%、住宅型有料老人ホームでは58.7%であるのに対し、グループホームでは37.2%、サービス付き高齢者向け住宅では18.0%にとどまる。

前回と比較すると、「入居時からすべて行っている」は特定施設では25.0%（前回13.4%）、グループホームでは8.4%（前回4.2%）とともに増加している。

図表6(3)④-1 入居者への医療処置対応の状況（時系列、居住系・問12-1）



(その他 H28 n=1 は非表示)

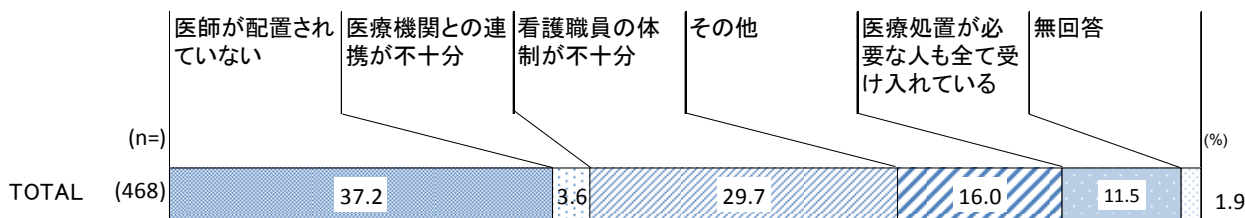
今後居住系事業所において医療処置必要者の受け入れに必要なことについては、「介護職に一部の医療行為を認める」(44.4%)、「協力医療機関との連携を強める」(44.0%)、「看護職員の配置基準を見直す」(40.5%)となっている。

図表 6 (3)④-2 医療処置・今後受け入れるために必要なこと
(複数回答、居住系・問 13-1)

(%)	TOTAL (n=405)
看護職員の配置基準を見直す	40.5
医療処置を必要とする人の受け入れ基準を作る	29.9
協力医療機関との連携を強める	44.0
介護職に一部の医療行為を認める	44.4
その他	6.2
無回答	4.0

居住系事業所における医療処置必要者受け入れが困難な理由については、「医師が配置されていない」(37.2%)、「看護職員の体制が不十分だから」(29.7%)の順となっている。

図表 6 (3)④-3 医療処置・受け入れられない主な理由 (居住系・問 13)



居住系事業所における通院時の対応については、「原則は家族対応」(65.4%)、「協力医療機関を活用している」(53.6%)、「原則はスタッフ対応」(44.0%)の順となっている。

図表 6 (3)④-4 医療処置・通院時対応 (複数回答、居住系・問 14)

(%)	TOTAL (n=468)
原則は家族対応	65.4
原則はスタッフ対応	44.0
協力医療機関を活用している	53.6
その他	14.5
無回答	0.6

居住系事業所における医療機関との連携については、92.9%とほとんどの事業所が「往診をしてくれる医師・医療機関がある」をあげているほか、「入居者の健康管理や処置について助言を受けている」(73.3%)、「認知症の周辺症状について助言を受けている」(46.8%)となっている。

図表 6 (3)④-5 医療処置・医療機関との連携（複数回答、居住系・問 15）

	TOTAL (n=468)
(%)	
入居者の健康管理や処置について助言を受けている	73.3
往診をしてくれる医師・医療機関がある	92.9
急変時の受け入れを依頼できる病院を確保している	31.6
提携病院があり、一般的な入院を受け入れてもらっている	38.0
認知症の周辺症状について助言を受けている	46.8
その他	4.1
連携していない	1.3
無回答	0.6

居住系事業所において医療機関と連携する診療科目については、96.7%とほとんどの事業所が「内科」となっているほか、「歯科」(50.8%)、「皮膚科」(39.0%)の順となっている。

図表 6 (3)④-6 医療処置・連携診療科目（複数回答、居住系・問15-1）

	TOTAL (n=459)
(%)	
内科	96.7
歯科	50.8
皮膚科	39.0
精神科	38.3
整形外科	35.1
循環器科	25.5
外科	23.7
消化器科・胃腸科	23.3
神経内科	19.8
眼科	19.8
泌尿器科	19.2
呼吸器科	15.9
脳神経外科	15.0
リハビリテーション科	9.8
耳鼻咽喉科	9.4
婦人科	8.1
形成外科	7.4
麻酔科	7.4
心療内科	7.4
放射線科	7.2
神経科	5.9
呼吸器外科	5.0
肛門科	4.8
心臓血管外科	4.4
アレルギー科	3.5
リウマチ科	3.3
気管食道科	0.4
その他	2.2
無回答	1.5

(4) サービスの質の向上

① 事業所における取組

居住系事業所における利用者、家族の要望を積極的に取り入れるために行なっている取組は、「利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている」が90.2%と最も多く、次いで「家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている」(83.1%)、「利用者の生活状況を記録し家族に連絡している」(81.4%)となっている。

特定施設及びグループホームでは、一般的に取組実施の割合が高い。

図表6(4)①-1 利用者、家族の要望への取組(複数回答、居住系・問26)

【施設種類別】

	TOTAL (n=468)	施設種類別(その他n=1非表示)			
		特定施設 (n=128)	グループホーム (n=226)	サービス付き 高齢者向け 住宅 (n=50)	住宅型有料老 人ホーム (n=63)
利用者にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている	70.5	88.3	68.6	40.0	65.1
家族にサービス計画を説明し要望を聞く機会を設けている	83.1	93.8	91.2	38.0	68.3
利用者・家族と話し合いの機会を定期的に設けている	53.0	66.4	48.2	38.0	55.6
利用者の生活状況を記録し家族に連絡している	81.4	85.9	89.4	50.0	69.8
利用者・家族を対象に相談・苦情窓口を設けている	90.2	93.8	92.0	76.0	87.3
家族会を設置している	36.8	25.0	55.3	2.0	22.2
その他	8.8	7.8	7.5	8.0	15.9
無回答	1.1	0.8	0.0	2.0	4.8

また、居住系事業所におけるサービスの質の向上に向けた取組は、「事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている」が89.1%と最も多く、次いで「管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」(83.1%)、「運営推進会議を定期的に行っている」(71.6%)となっている。

グループホームにおいて、一般的に取組実施の割合が高い。

図表6(4)①-2 サービスの質の向上に向けた取組(複数回答、居住系・問27)

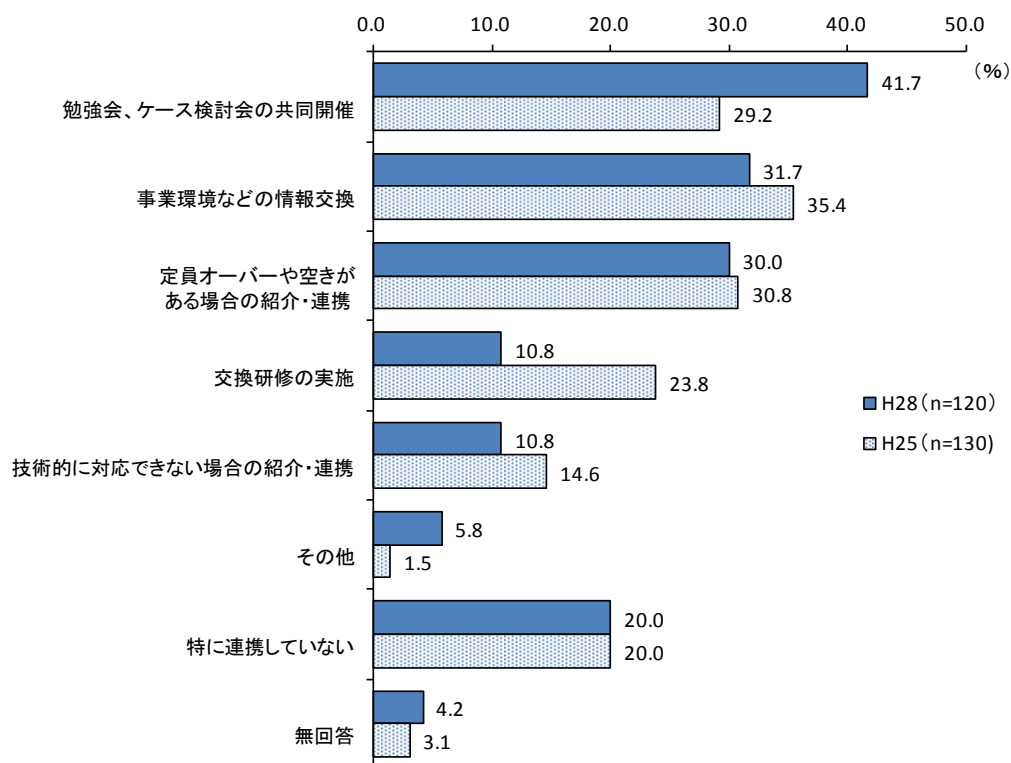
【施設種類別】

	TOTAL (n=468)	施設種類別(その他n=1非表示)			
		特定施設 (n=128)	グループホーム (n=226)	サービス付き 高齢者向け住 宅 (n=50)	住宅型有料老 人ホーム (n=63)
管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している	83.1	82.8	87.6	68.0	79.4
サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している	63.9	77.3	61.1	54.0	55.6
支援困難事例に関するケース検討会を行っている	51.3	57.0	54.4	28.0	47.6
事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている	89.1	94.5	94.2	58.0	85.7
利用者や家族に対し満足度調査を行っている	40.4	57.8	41.2	10.0	27.0
運営推進会議を定期的に行っている	71.6	54.7	99.6	10.0	55.6
外部評価を受けている(介護サービス情報の公開を除く、ISO、第三者評価など)	54.7	20.3	96.5	6.0	14.3
ユニットケアを実施している	39.7	20.3	70.4	0.0	1.6
ボランティア団体や保育園・幼稚園、小学校など地域との交流を行っている	62.6	68.8	73.0	30.0	39.7
利用者が地域活動に向くなど、地域の一員として暮らせるような工夫をしている	47.0	26.6	73.0	30.0	9.5
その他	5.8	3.9	7.1	8.0	3.2
特に行っていない	1.5	0.0	0.0	10.0	3.2
無回答	1.1	0.8	0.0	4.0	3.2

② 介護事業所との連携状況

特別養護老人ホームにおける介護事業所との連携状況については、「勉強会、ケース検討会の共同開催」が41.7%で最も多く、次いで「事業環境などの情報交換」(31.7%)、「定員オーバーや空きがある場合の紹介・連携」(30.0%)がともに3割となっている。前回と比較すると、増えた項目では、「勉強会、ケース検討会の共同開催」が前回(29.2%)より10ポイント以上増えている。

図表6(4)② 介護事業者との連携（複数回答、時系列、特養・問43）



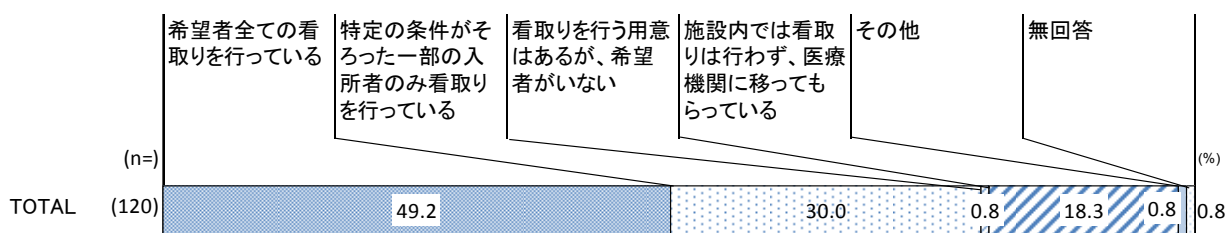
③ 看取りについて

特養における看取りの実施については、「希望者全ての看取りを行っている」が49.2%と最も多く、次いで「特定の条件がそろった一部の入居者のみ看取りを行っている」(30.0%)となっている。

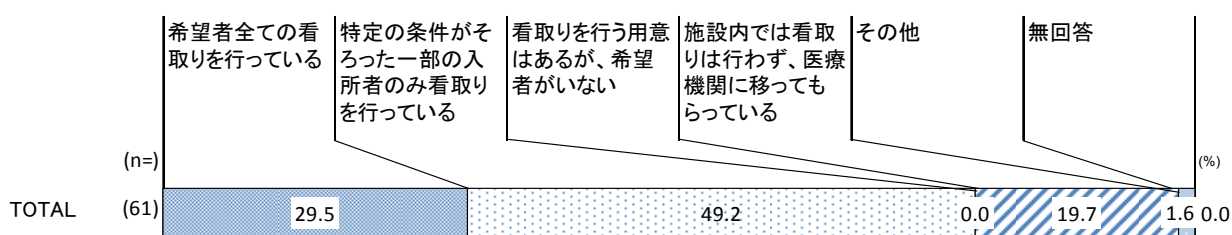
老健では、「特定の条件がそろった一部の入居者のみ看取りを行っている」が49.2%と最も多く、次いで「希望者全ての看取りを行っている」(29.5%)となっている。

図表6(4)③-1 看取り実施状況

(特養・問27)



(老健・問24)



居住系事業所全体では「希望者全ての看取りを行っている」が42.1%で最も多く、次いで「特定の条件がそろった一部の入居者のみ看取りを行っている」が37.0%と、回答事業所の79.1%が看取りを行っている。

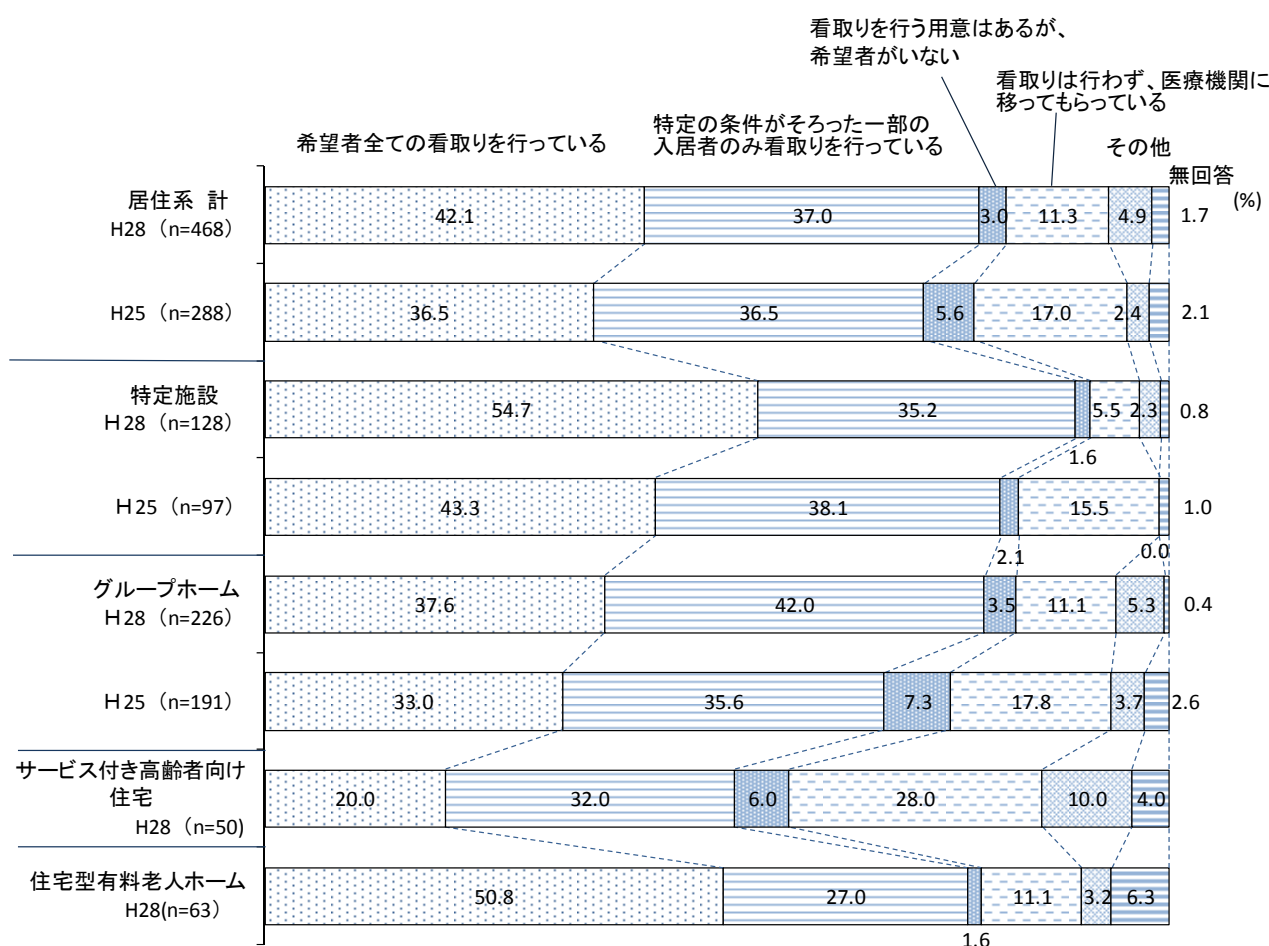
事業種別では、特定施設において「希望者全ての看取りを行っている」が54.7%、住宅型有料老人ホームでも同様の回答が50.8%であるのに対し、グループホームでは37.6%、サービス付き高齢者向け住宅では20.0%となっている。

特定施設、グループホームについて、前回（平成25年）と比較すると、「希望者全ての看取りを行っている」がいずれも増加し、特定施設では54.7%と半数を超えているほか（前回43.3%）、グループホームでは37.6%（前回33.0%）となっている。

一方、「看取りは行わず、医療機関に移ってもらっている」は特定施設では5.5%（前回15.5%）、グループホームでは11.1%（前回17.8%）とともに減少している。

図表6(4)③-2 看取り実施状況（時系列、居住系・問25）

【施設種類別】



(その他 H28 n=1 は非表示)

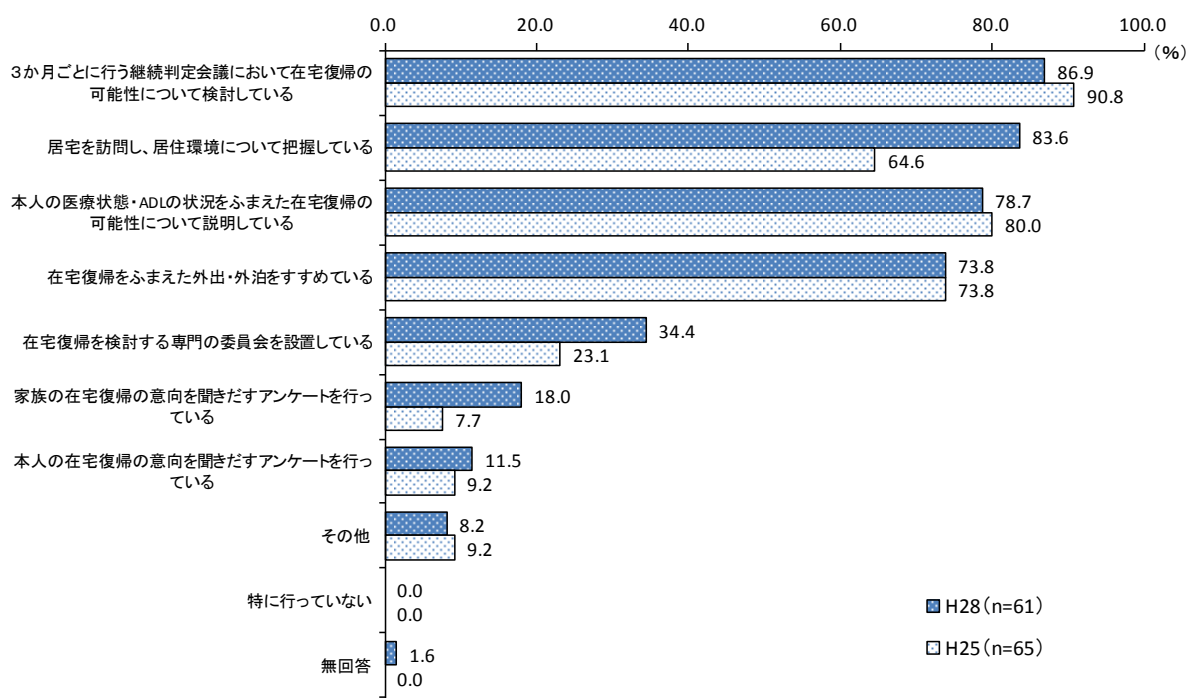
(5) その他

① 在宅復帰・在宅支援促進の取組

介護老人保健施設において在宅復帰・在宅支援を促進するために行っている取組については、「3か月ごとに行う継続判定会議において在宅復帰の可能性について検討している」が86.9%で最も多く、次いで「居宅を訪問し、居住環境について把握している」が83.6%、「本人の医療状態・ADLの状況をふまえた在宅復帰の可能性について説明している」が78.7%、「在宅復帰をふまえた外出・外泊をすすめている」が73.8%の順となっている。

前回と比較すると、「居宅を訪問し、居住環境について把握している」(83.6%)は前回(64.6%)に比べて約20ポイント上回っている。また、「在宅復帰を検討する専門の委員会を設置している」(34.4%)は前回(23.1%)に比べて11ポイント上回っている。同様に「家族の在宅復帰の意向を聞きだすアンケートを行っている」(18.0%)は前回(7.7%)に比べて10ポイント上回っている。

図表6 (5)①-1 在宅復帰・在宅支援促進の取組（複数回答、時系列、老健・問19-5）



介護老人保健施設において入所者の在宅復帰を妨げる要因としては、「居宅で介護ができる環境がない（住宅環境、家族のマンパワー）」、「一人暮らしで介護者がいない」がともに 85.2%で最も多く、次いで「家族が本人を在宅に戻したくないという意向をもっている」（83.6%）の順となっている。

図表 6 (5)①-2 在宅復帰・入所者の在宅復帰を妨げる要因（複数回答、老健・問 19-6）

	TOTAL (n=61)
(%)	
居宅で介護ができる環境がない(住宅環境、家族のマンパワー)	85.2
一人暮らしで介護者がいない	85.2
家族が本人を在宅に戻したくないという意向をもっている	83.6
本人が在宅に戻りたくないという意向をもっている	26.2
人員が不足しており体制的に十分な本人や家族へのアプローチができない	6.6
その他	8.2
無回答	4.9

② サービス付き高齢者向け住宅

サービス付き高齢者向け住宅の事業者は、「入居者が体調不良の場合、経過観察を行う」(80.0%)や「1日1回のみ入居者の安否を確認する」(62.0%)等して、状況把握サービスの提供を行っている。

図表 6 (5)②-1 状況把握サービス提供について（複数回答、居住系：サ高住・問 16）

	TOTAL (n=50)	(%)
1日1回のみ入居者の安否を確認する		62.0
日中、定期的(1日2回以上)に巡回して、入居者の安否を確認する		38.0
夜間、定期的(1日2回以上)に巡回して、入居者の安否を確認する		34.0
入居者が体調不良の場合、経過観察を行う		80.0
その他		12.0
無回答		0.0

また、入居者体調変化への対応では、「日中、夜間ともに、救急対応（救急車の手配等）をする」が最も多く、88.0%となっている。

図表 6 (5)②-2 入居者体調変化への対応（複数回答、居住系：サ高住・問 17）

	TOTAL (n=50)	(%)
日中は、救急対応(救急車の手配等)をする		30.0
日中、夜間ともに、救急対応(救急車の手配等)をする		88.0
日中は、医療機関に受診するための調整を行う		38.0
日中、夜間ともに、医療機関に受診するための調整を行う		46.0
日中は、医療機関に受診する際に必要に応じて付添い等する		24.0
日中、夜間ともに、医療機関に受診する際に必要に応じて付添い等する		36.0
対応していない		0.0
無回答		0.0

認知症入居者への配慮としては、「徘徊などに配慮し、建物の出入りに常に注意を払っている」が80.0%で最も多く、「異食・誤飲に配慮し、薬品や危険物などの管理を徹底している」が28.0%となっている。

図表 6 (5)②-3 認知症入居者への配慮（複数回答、居住系：サ高住・問18）

	TOTAL (n=50)	
(%)		
徘徊などに配慮し、建物の出入りに常に注意を払っている		80.0
異食・誤飲に配慮し、薬品や危険物などの管理を徹底している		28.0
その他		24.0
特別な配慮をしていない		6.0
無回答		2.0

7. 認知症等

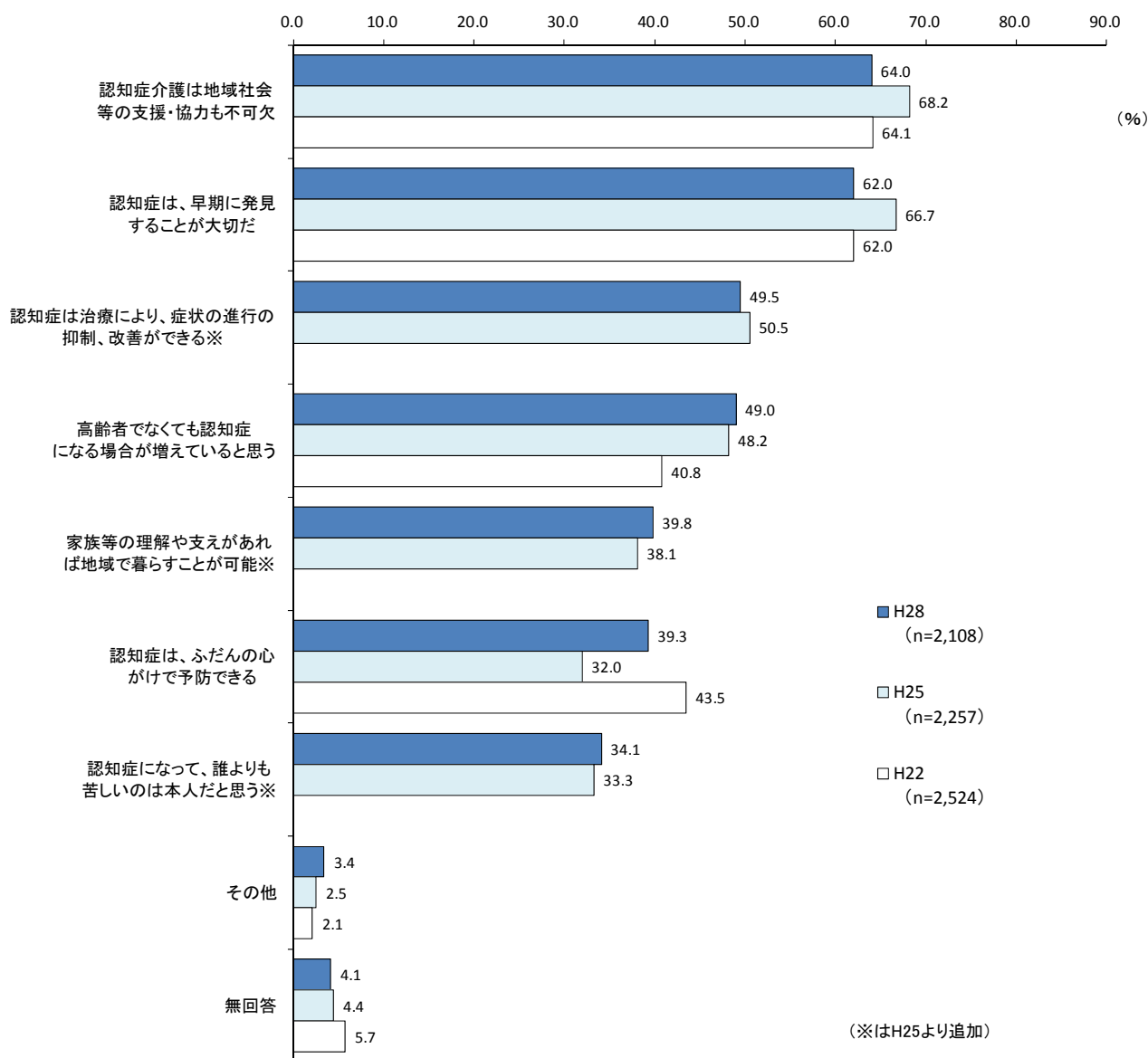
(1) 予防の普及啓発

① 認知症への関心

認知症のイメージについては、高齢者一般では「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」が64.0%、「認知症は、早期に発見することが大切だ」が62.0%と、ともに6割を超えている。

前回と比較すると、上位の割合（「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」、「認知症は、早期に発見することが大切だ」、「認知症は治療により、症状の進行の抑制、改善ができる」）に大きな変化はみられないが、「認知症は、ふだんの心がけで予防できる」は39.3%と前回（32.0%）を約7ポイント上回っている。

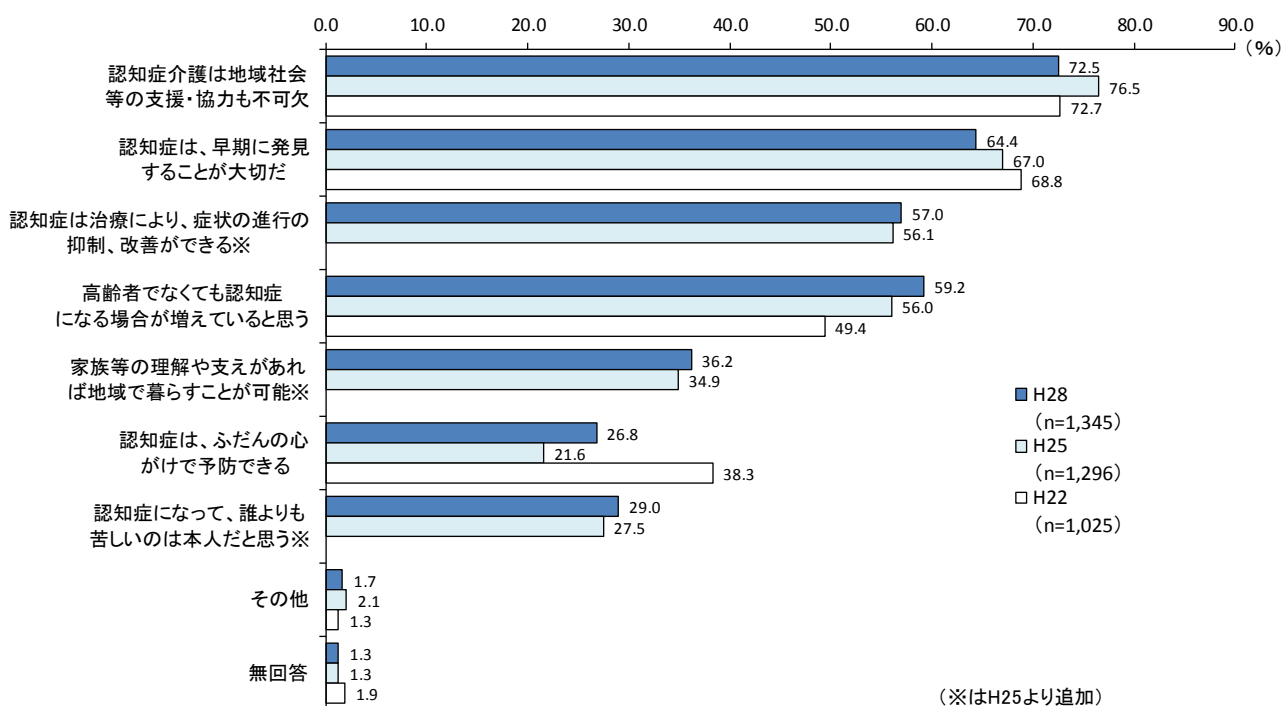
図表7(1)①-1 認知症のイメージ（複数回答、時系列、高齢者一般・問21）



一般 55～64 歳では、「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」が7割強（72.5%）、「認知症は、早期に発見することが大切だ」が6割強（64.4%）となっている。

前回と比較すると、上位の割合（「認知症介護は地域社会等の支援・協力も不可欠」、「認知症は、早期に発見することが大切だ」）に大きな変化はみられないが、「高齢者でなくても認知症になる場合が増えていると思う」は59.2%と前回（56.0%）を約3ポイント上回り、徐々に割合が高くなっている。

図表7(1)①-2 認知症のイメージ（複数回答、時系列、一般55～64歳・問21）



高齢者一般の性別・年齢別では、「認知症は、ふだんの心がけで予防できる」及び「その他」以外の項目で男性・前期高齢者に比べて女性・前期高齢者の割合が上回る傾向がある。「認知症は、早期に発見することが大切だ」(女性 70.6%、男性 60.3%)、「認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる」(女性 60.5%、男性 47.0%)、「高齢者でなくても認知症になる場合が増えてきていると思う」(女性 57.8%、男性 47.2%)等、それぞれ女性・前期高齢者が男性・前期高齢者を10ポイント程度上回っている。

一般55～64歳の性別では、各項目で男性に比べて女性の割合が上回り、特に「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」(女性 81.7%、男性 62.6%)、「認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う」(女性 44.1%、男性 27.7%)、「認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる」(女性 64.7%、男性 48.8%)が15ポイント以上高くなっている。

図表7(1)①-3 認知症のイメージ(複数回答)
(高齢者一般・問21)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=2108)	性別・年齢別(性別無回答n=12、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=1009)	男性・ 前期高齢者 (n=559)	男性・ 後期高齢者 (n=449)	女性計 (n=1087)	女性・ 前期高齢者 (n=564)	女性・ 後期高齢者 (n=520)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	39.3	40.2	35.6	46.1	38.4	38.5	38.5
認知症は、早期に発見することが大切だ	62.0	58.3	60.3	55.7	65.6	70.6	60.0
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	49.5	45.7	47.0	43.9	53.1	60.5	45.2
高齢者でなくても認知症になる場合が増えてきていると思う	49.0	46.1	47.2	44.5	51.8	57.8	45.4
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	39.8	37.5	35.2	40.1	42.0	46.6	37.3
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	34.1	29.4	28.8	30.3	38.5	38.8	38.3
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	64.0	60.9	62.1	59.5	67.2	74.6	58.8
その他	3.4	3.0	3.0	2.9	3.8	2.1	5.6
無回答	4.1	4.6	2.3	7.3	3.7	2.3	5.2

(一般55～64歳・問21)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=1345)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=4、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=650)	男性・ 55～59歳 (n=294)	男性・ 60～64歳 (n=352)	女性計 (n=694)	女性・ 55～59歳 (n=317)	女性・ 60～64歳 (n=374)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	26.8	24.8	22.4	26.7	28.8	31.5	26.2
認知症は、早期に発見することが大切だ	64.4	58.9	56.8	61.1	69.5	67.5	71.1
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	57.0	48.8	48.0	49.7	64.7	64.0	65.8
高齢者でなくても認知症になる場合が増えてきていると思う	59.2	56.6	56.8	57.1	61.7	63.1	60.7
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	36.2	27.7	25.5	29.8	44.1	42.3	45.7
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	29.0	24.6	23.1	26.1	33.1	30.6	35.3
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	72.5	62.6	63.6	62.5	81.7	85.2	79.4
その他	1.7	1.5	3.1	0.3	1.9	1.9	1.9
無回答	1.3	1.4	1.7	0.6	1.2	0.9	1.3

介護状況別では、高齢者一般で、現在介護をしている人では「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が77.0%と、他より高くなっている。

一般55～64歳でも同様に、現在介護をしている人で「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」が83.3%と、特に高くなっている。

図表7(1)①-4 認知症のイメージ（複数回答）
（高齢者一般・問21）

【介護状況別】

	TOTAL (n=2108)	介護状況別（無回答n=117非表示）		
		現在介護をしている (n=174)	現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い (n=892)	現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない (n=925)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	39.3	42.5	41.1	37.9
認知症は、早期に発見することが大切だ	62.0	67.2	66.7	57.9
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	49.5	54.6	53.5	46.2
高齢者でなくても認知症になる場合が増えていると思う	49.0	54.6	52.1	46.7
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	39.8	49.4	43.9	35.1
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	34.1	43.1	36.8	30.1
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	64.0	77.0	67.9	60.1
その他	3.4	3.4	2.5	4.0
無回答	4.1	3.4	2.9	3.9

（一般55～64歳・問21）

【介護状況別】

	TOTAL (n=1345)	介護状況別（無回答n=11非表示）		
		現在介護をしている (n=180)	現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い (n=666)	現在介護をしていないし、今後も介護する立場になる可能性はほとんどない (n=488)
認知症は、ふだんの心がけで予防できる	26.8	26.1	29.4	23.8
認知症は、早期に発見することが大切だ	64.4	61.7	67.4	61.7
認知症は治療によって、症状の進行を抑えたり、改善することができる	57.0	61.1	60.4	51.2
高齢者でなくても認知症になる場合が増えていると思う	59.2	63.9	61.4	54.5
認知症になっても、家族や周囲の人の理解や支えがあれば、地域で暮らすことができると思う	36.2	36.1	40.5	30.1
認知症になって、誰よりも苦しいのは本人だと思う	29.0	28.9	30.2	27.7
認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない	72.5	83.3	76.0	63.9
その他	1.7	2.2	2.1	1.0
無回答	1.3	0.6	0.6	1.8

高齢者一般の認知症への関心事としては「認知症の予防に効果的な方法」が62.2%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(58.7%)、「認知症の治療に関する情報」(40.2%)と続く。

性別・年齢別で見ると、前期高齢者では男性に比べて女性で各項目への関心が多く、「認知症の治療に関する情報」(男性37.7%、女性47.9%)、「認知症の人の介護の仕方」(男性24.3%、女性35.8%)、「認知症の人や家族を支える地域の活動」(男性22.5%、女性34.8%)では女性前期高齢者が10ポイント程度上回っている。

一般55~64歳の認知症への関心事でも「認知症の予防に効果的な方法」が64.9%で最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(56.4%)、「認知症の治療に関する情報」(42.7%)と続く。

性別・年齢別で見ると、男性に比べて女性で「認知症の治療に関する情報」や「認知症の人や家族を支える地域の活動」に関心を持つ人の割合が高い。

図表7(1)①-5 認知症への関心事(複数回答)
(高齢者一般・問22)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=2108)	性別・年齢別(性別無回答n=12、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=1009)	男性・ 前期高齢者 (n=559)	男性・ 後期高齢者 (n=449)	女性計 (n=1087)	女性・ 前期高齢者 (n=564)	女性・ 後期高齢者 (n=520)
認知症を正しく理解するための講座	27.4	25.7	25.6	25.8	29.0	31.0	26.5
認知症の予防に効果的な方法	62.2	62.8	64.0	61.2	61.7	67.7	55.2
認知症の兆候を早期に発見する方法	58.7	59.0	62.3	54.8	58.9	64.4	52.7
認知症の治療に関する情報	40.2	38.1	37.7	38.5	42.3	47.9	36.2
認知症の人の介護の仕方	28.3	25.4	24.3	26.5	30.9	35.8	25.2
認知症の人や家族を支える地域の活動	26.0	22.5	22.5	22.5	29.4	34.8	23.3
その他	1.4	0.8	0.5	1.1	1.8	1.1	2.7
特になし	9.5	11.4	11.6	11.1	7.9	5.3	10.8
無回答	4.7	4.4	2.1	7.1	4.9	2.7	7.3

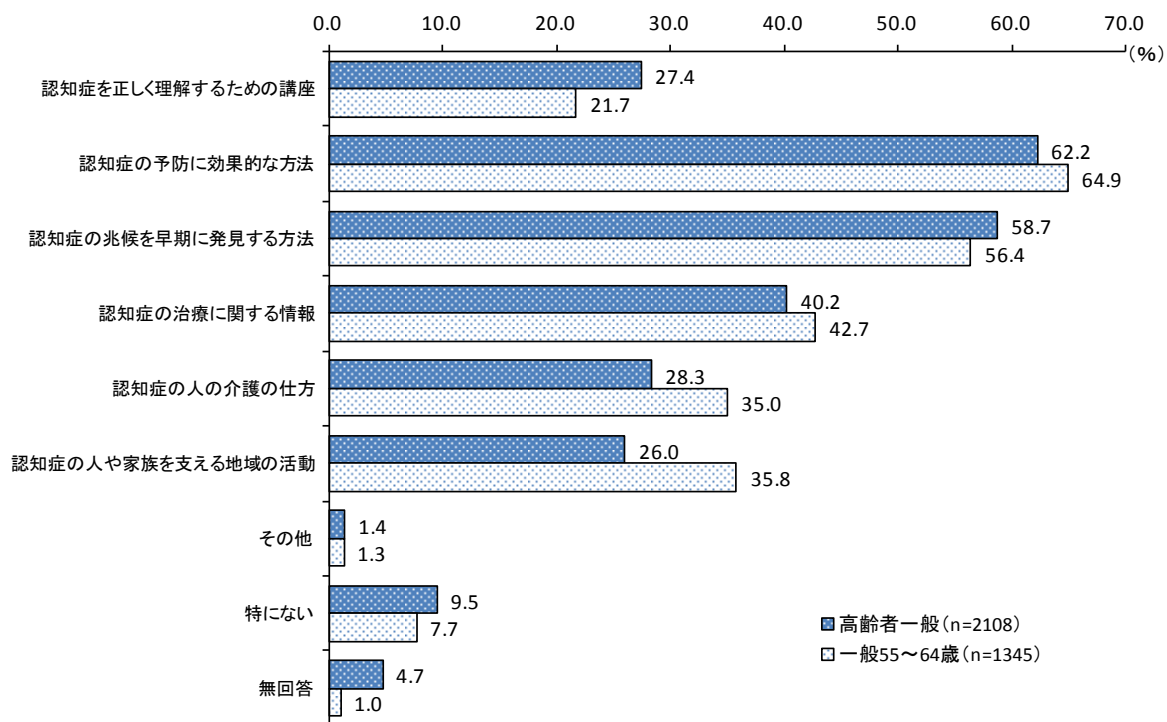
(一般55~64歳・問22)

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=1345)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=4、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=650)	男性・ 55~59歳 (n=294)	男性・ 60~64歳 (n=352)	女性計 (n=694)	女性・ 55~59歳 (n=317)	女性・ 60~64歳 (n=374)
認知症を正しく理解するための講座	21.7	18.9	17.0	20.7	24.4	24.9	23.8
認知症の予防に効果的な方法	64.9	62.6	59.9	65.3	67.0	69.4	64.7
認知症の兆候を早期に発見する方法	56.4	55.2	53.1	57.7	57.5	54.9	59.9
認知症の治療に関する情報	42.7	38.2	38.4	38.1	47.0	48.6	45.5
認知症の人の介護の仕方	35.0	31.7	32.3	31.3	38.0	41.6	35.0
認知症の人や家族を支える地域の活動	35.8	29.5	30.3	29.0	41.6	47.3	36.6
その他	1.3	0.9	1.0	0.9	1.6	1.6	1.6
特になし	7.7	10.2	12.9	8.0	5.5	5.0	5.9
無回答	1.0	1.1	0.7	0.9	0.9	0.3	1.3

高齢者一般と一般 55～64 歳で比較すると、「認知症の予防に効果的な方法」及び「認知症の治療に関する情報」、「認知症の人の介護の仕方」、「認知症の人や家族を支える地域の活動」で、それぞれ一般 55～64 歳が高くなっている。

図表 7 (1)①-6 認知症への関心事（複数回答）
（高齢者一般・一般 55～64 歳の比較）



介護状況別にみると、現在介護をしている人では「認知症の人の介護の仕方」が高く、高齢者一般で49.4%、一般55～64歳では52.2%となっている。

図表7(1)①-7 認知症への関心事（複数回答）
（高齢者一般・問22）

【介護状況別】

	TOTAL (n=2108)	介護状況別(無回答n=117非表示)		
		現在介護をしている (n=174)	現在は介護していないが、 今後介護する 立場になる 可能性が高い (n=892)	現在介護をしていないし、 今後も介護する 立場になる 可能性はほとん どない (n=925)
(%)				
認知症を正しく理解するための講座	27.4	30.5	30.6	24.3
認知症の予防に効果的な方法	62.2	60.9	67.2	60.5
認知症の兆候を早期に発見する方法	58.7	56.3	65.5	53.9
認知症の治療に関する情報	40.2	46.6	43.6	37.4
認知症の人の介護の仕方	28.3	49.4	33.0	20.5
認知症の人や家族を支える地域の活動	26.0	36.8	29.9	21.6
その他	1.4	2.3	0.8	1.4
特になし	9.5	7.5	6.2	13.4
無回答	4.7	3.4	3.5	3.8

（一般55～64歳・問22）

【介護状況別】

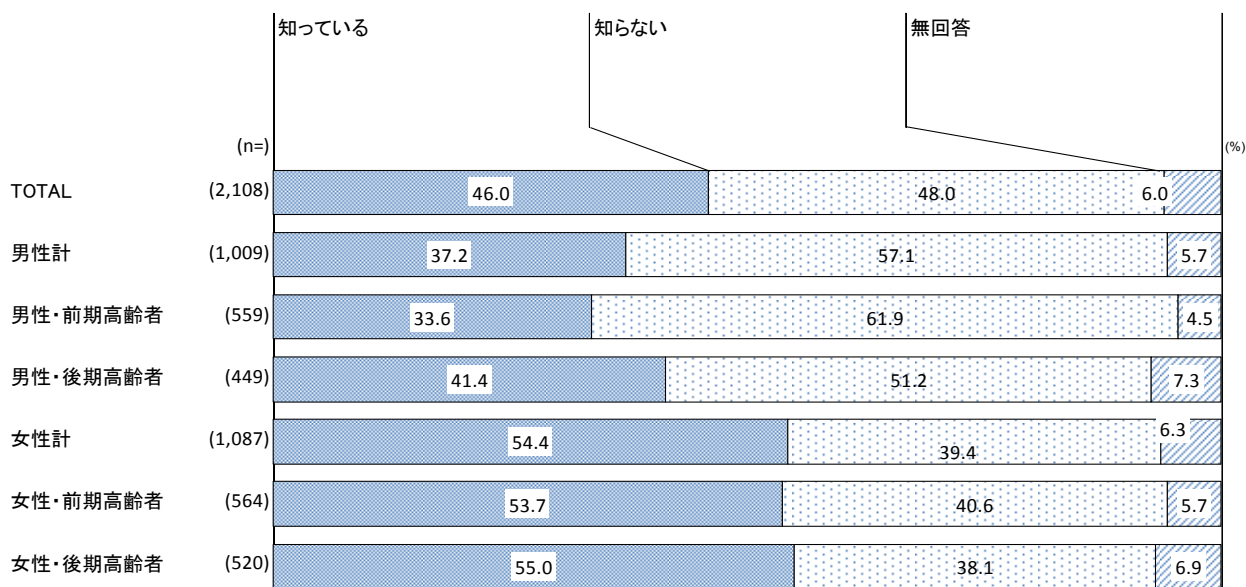
	TOTAL (n=1345)	介護状況別(無回答n=11非表示)		
		現在介護をして いる (n=180)	現在は介護して いないが、 今後介護する 立場になる 可能性が高い (n=666)	現在介護をして いないし、今 後も介護する 立場になる 可能性はほとん どない (n=488)
(%)				
認知症を正しく理解するための講座	21.7	23.3	23.3	18.4
認知症の予防に効果的な方法	64.9	62.2	66.2	64.5
認知症の兆候を早期に発見する方法	56.4	52.8	57.7	56.6
認知症の治療に関する情報	42.7	47.8	42.8	40.8
認知症の人の介護の仕方	35.0	52.2	39.5	22.5
認知症の人や家族を支える地域の活動	35.8	40.6	41.4	26.2
その他	1.3	3.9	1.1	0.4
特になし	7.7	2.8	7.7	9.6
無回答	1.0	0.6	0.9	1.0

高齢者一般では、自分や家族が認知症になった時の相談先を「知っている」人と「知らない」人がほぼ半々である。ただし、男性では「知らない」人が57.1%と多く、特に男性・前期高齢者では61.9%となっている。

一般 55～64 歳においても、自分や家族が認知症になった時の相談先を「知っている」人と「知らない」人はほぼ半々である。ただし、男性では「知らない」人が63.4%と多い。

図表7 (1)①-8 認知症になったときの相談先の認知度
(高齢者一般・問23)

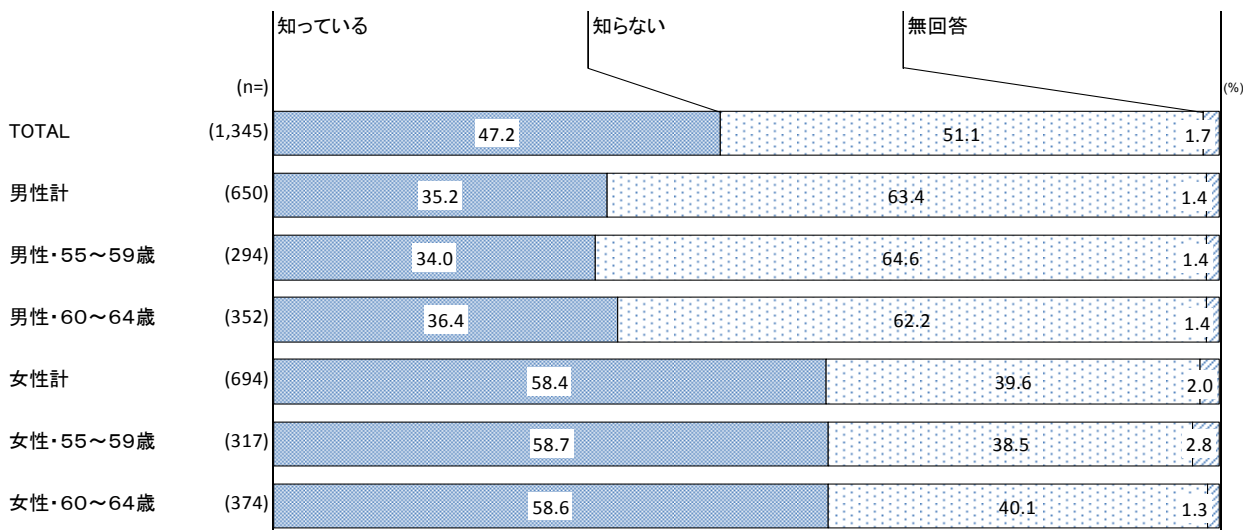
【性別・年齢別】



(性別無回答 n=12、男性年齢無回答 n=1、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

(一般 55～64 歳・問23)

【性別・年齢別】

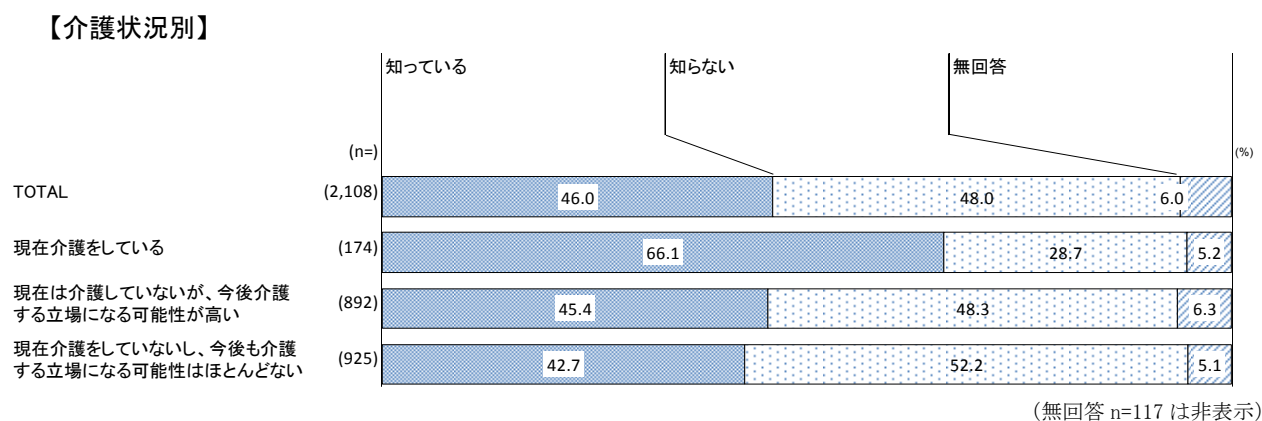


(性別無回答 n=1、男性年齢無回答 n=4、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

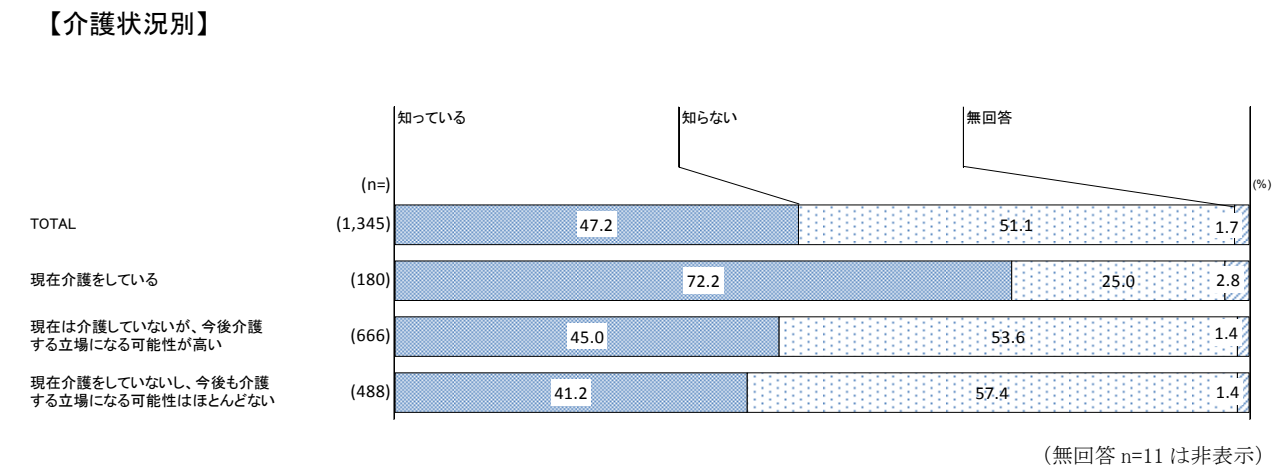
介護状況別にみると、高齢者一般の現在介護をしている人では7割弱（66.1%）が自分や家族が認知症になった時の相談先を「知っている」一方、現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い人では48.3%が「知らない」と回答している。

一般 55～64 歳においても、現在介護をしている人では7割以上（72.2%）が「知っている」一方、現在は介護していないが、今後介護する立場になる可能性が高い人では53.6%が「知らない」と回答している。

図表 7 (1)①-9 認知症になったときの相談先の認知度
(高齢者一般・問 23)



(一般 55～64 歳・問 23)



認知症になったときの具体的な相談先は、高齢者一般では「かかりつけ医（病院・診療所）」が61.6%と最も多く、次いで「区役所（福祉保健センター）」（56.6%）や「地域包括支援センター（地域ケアプラザ）」（50.2%）となっている。特に、男女ともに年齢が高いほど「かかりつけ医（病院・診療所）」とする割合が高くなっている。

介護状況別にみると、現在介護をしている人では6割程度が「かかりつけ医（病院・診療所）」（64.3%）、「地域包括支援センター（地域ケアプラザ）」（61.7%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（59.1%）と答えている。

図表7(1)①-10 認知症になったときの具体的な相談先（複数回答、高齢者一般・問23-1）

【性別・年齢別】

	TOTAL (n=970)	性別・年齢別（性別無回答n=4、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=2非表示）					
		男性計 (n=375)	男性・ 前期高齢者 (n=188)	男性・ 後期高齢者 (n=186)	女性計 (n=591)	女性・ 前期高齢者 (n=303)	女性・ 後期高齢者 (n=286)
(%)							
区役所（福祉保健センター）	56.6	57.1	59.6	54.3	56.7	68.6	44.1
地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	50.2	46.1	45.2	47.3	53.0	59.1	46.5
市・区社会福祉協議会	13.8	14.9	17.6	12.4	13.0	16.5	9.4
かかりつけ医（病院・診療所）	61.6	61.3	54.8	67.7	61.9	58.7	65.0
認知症疾患医療センター	11.0	9.9	8.0	11.8	11.8	11.2	12.2
認知症コールセンター	7.2	4.3	3.7	4.8	9.1	9.9	8.0
民生委員	11.6	10.7	8.5	12.9	12.4	11.9	12.9
ケアマネジャー（介護支援専門員）	34.9	32.8	33.0	32.8	36.4	37.3	35.0
家族会	4.3	4.0	4.3	3.8	4.4	4.3	4.5
その他	0.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.4
無回答	0.4	0.8	1.1	0.5	0.2	0.0	0.3

【介護状況別】

	TOTAL (n=970)	家族の介護状況別（無回答n=55非表示）		
		現在介護を している (n=115)	現在は介護し ていないが、 今後介護する 立場になる可 能性が高い (n=405)	現在介護をし ていないし、今 後も介護する 立場になる可 能性はほとん どない (n=395)
(%)				
区役所（福祉保健センター）	56.6	55.7	64.0	53.2
地域包括支援センター（地域ケアプラザ）	50.2	61.7	49.1	48.1
市・区社会福祉協議会	13.8	9.6	14.1	15.2
かかりつけ医（病院・診療所）	61.6	64.3	63.5	60.8
認知症疾患医療センター	11.0	12.2	10.6	10.4
認知症コールセンター	7.2	9.6	7.4	6.1
民生委員	11.6	7.0	11.9	13.2
ケアマネジャー（介護支援専門員）	34.9	59.1	26.4	33.7
家族会	4.3	5.2	3.0	4.6
その他	0.5	0.9	0.2	0.5
無回答	0.4	0.0	0.0	0.8

認知症になったときの具体的な相談先は、一般 55～64 歳では「区役所（福祉保健センター）」（59.5%）や「地域包括支援センター（地域ケアプラザ）」（59.5%）、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（54.0%）、「かかりつけ医（病院・診療所）」（52.1%）が多くなっている。特に、女性は男性と比べて、「区役所（福祉保健センター）」や「地域包括支援センター（地域ケアプラザ）」、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」へ相談する割合が高くなっている。

介護状況別にみると、現在介護をしている人では7割（70.0%）が「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が相談先であると回答している。

図表 7 (1) ①-11 認知症になったときの具体的な相談先（複数回答、一般 55～64 歳・問 23-1）
【性別・年齢別】

	TOTAL (n=635)	性別・年齢別(性別無回答n=1、男性年齢無回答n=1非表示)					
		男性計 (n=229)	男性・ 55～59歳 (n=100)	男性・ 60～64歳 (n=128)	女性計 (n=405)	女性・ 55～59歳 (n=186)	女性・ 60～64歳 (n=219)
区役所(福祉保健センター)	59.5	54.6	57.0	52.3	62.5	60.8	63.9
地域包括支援センター(地域ケアプラザ)	59.5	48.9	48.0	50.0	65.4	67.7	63.5
市・区社会福祉協議会	10.9	7.9	6.0	9.4	12.6	12.4	12.8
かかりつけ医(病院・診療所)	52.1	48.0	47.0	49.2	54.6	55.4	53.9
認知症疾患医療センター	9.6	9.2	9.0	9.4	9.9	7.0	12.3
認知症コールセンター	4.3	0.9	2.0	0.0	6.2	4.3	7.8
民生委員	9.4	8.3	9.0	7.8	10.1	11.3	9.1
ケアマネジャー(介護支援専門員)	54.0	47.6	53.0	43.8	57.5	68.3	48.4
家族会	4.3	0.4	0.0	0.8	6.4	5.9	6.8
その他	0.6	0.4	0.0	0.8	0.7	1.1	0.5
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.5

【介護状況別】

	TOTAL (n=635)	介護状況別(無回答n=4非表示)		
		現在介護を している (n=130)	現在は介護 していないが、 今後介護する 立場になる可 能性が 高い (n=300)	現在介護を していないし、 今後も介護する 立場になる可 能性はほとん どない (n=201)
区役所(福祉保健センター)	59.5	52.3	61.0	62.7
地域包括支援センター(地域ケアプラザ)	59.5	64.6	59.0	57.2
市・区社会福祉協議会	10.9	8.5	11.0	12.4
かかりつけ医(病院・診療所)	52.1	58.5	50.3	51.2
認知症疾患医療センター	9.6	5.4	10.0	11.4
認知症コールセンター	4.3	3.1	5.0	4.0
民生委員	9.4	8.5	9.0	10.9
ケアマネジャー(介護支援専門員)	54.0	70.0	54.3	43.3
家族会	4.3	2.3	6.0	3.0
その他	0.6	0.0	1.0	0.5
無回答	0.2	0.0	0.3	0.0

② 事業所等における認知症ケアの取組

介護事業所では「認知症に関する研修を実施（または外部主催の研修を受講）している」が70.8%で最も多く、次いで「認知症ケアに関するマニュアル等を整備している」が60.7%となっている。

図表 7 (1)②-1 介護事業所における認知症ケアの取組（複数回答、介護事業所・問17）

	TOTAL (n=1700)
認知症に関する研修を実施(または外部主催の研修を受講)している	70.8
認知症ケアに関するマニュアル等を整備している	60.7
認知症に関する事例検討を実施している	37.4
その他	3.5
無回答	9.5

地域ケアプラザでは「認知症サポーター養成講座の開催」が96.7%と最も多く、次いで「介護者のつどい（家族の会）等の介護者に対する支援」が93.4%、「認知症予防の講座の開催」が90.9%と続く。

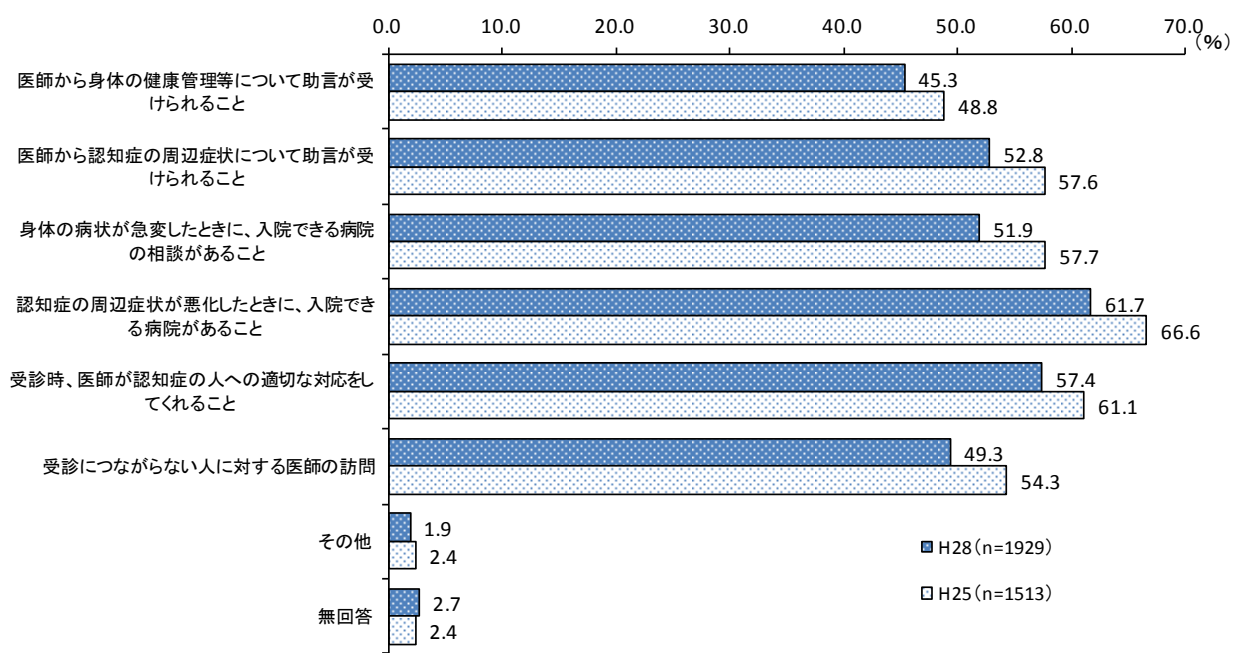
図表 7 (1)②-2 地域ケアプラザにおける認知症ケアの取組
（複数回答、ケアプラ・問20）

	TOTAL (n=121)
認知症サポーター養成講座の開催	96.7
介護者のつどい(家族の会)等の介護者に対する支援	93.4
認知症予防の講座の開催	90.9
成年後見制度や権利擁護に関する講演会等の開催	76.9
認知症キャラバン・メイトの支援	64.5
地域のネットワーク構築のための事業への参加	49.6
認知症の人や家族等のための交流の場や居場所づくり(認知症カフェ等)	43.0
包括エリアネットワーク構築のための連絡会の開催	37.2
認知症に関する相談会等の開催(総合相談以外)	24.0
若年性認知症の人への支援	17.4
その他	2.5
無回答	0.0

(2) 認知症の医療介護連携

認知症の医療介護連携を進める上で必要なこととして、ケアマネジャーでは「認知症の周辺症状が悪化した時に、入院できる病院があること」をあげた人が61.7%と最も多く、次いで「受診時、医師が認知症の人への適切な対応をしてくれること」(57.4%)、「医師から認知症の周辺症状について助言が受けられること」(52.8%)と続く。

図表7(2) 認知症の医療介護連携を進める上で必要なこと
(複数回答、時系列、ケアマネジャー・問37)

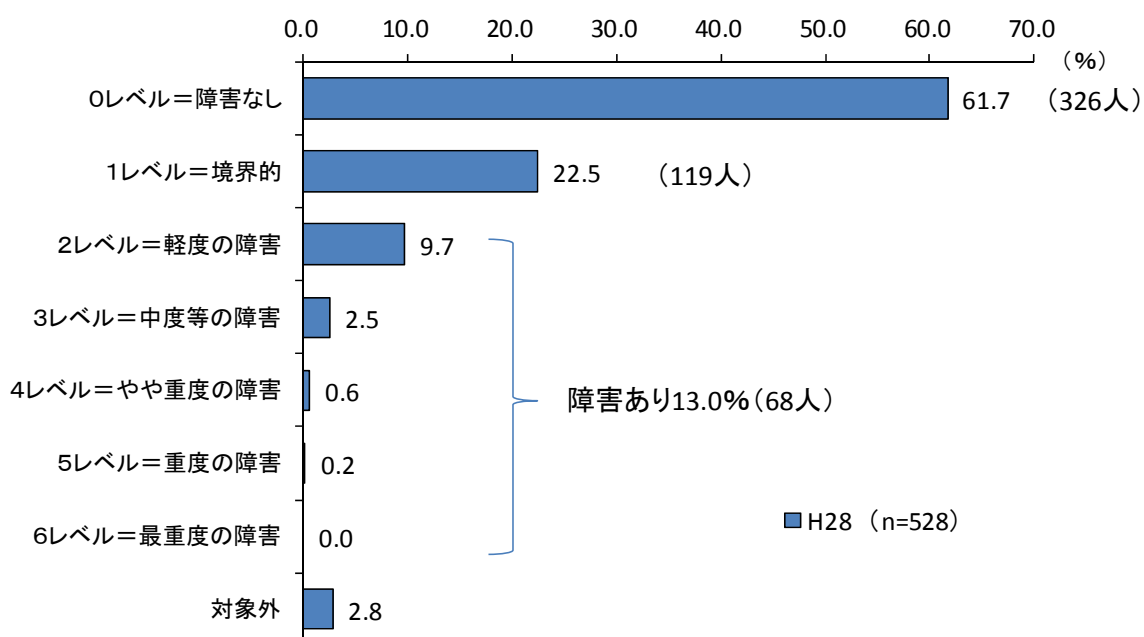


(3) 認知機能障害区分

認知機能障害区分とは、認知機能に障害がみられる方を把握するため、「日常意志決定を行うための認知能力」、「自分を理解させることができる能力」、「短期記憶」、「食事の自己動作」の4項目の回答パターンにより、「0=障害なし」～「6=重度・最重度の障害」までの7段階に区分し（認知機能尺度CPS：Cognitive Performance Scale）、判定を行っているものである。

認知機能障害区分では、要支援では、何らかの障害レベル（2レベル以上）に該当するのは13.0%となっている。

図表 7 (3) 認知機能障害区分（複数回答、要支援）



(4) 不安を感じる介護

要支援者の在宅での介護で、主に介護している人が困ったり、負担に感じていることは、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」が20.2%と最も多く、次いで「精神的なストレスがたまっている」(19.7%)、「日中、家を空けるのを負担に感じる」(13.4%)、「先々のことを考える余裕がない」(13.0%)となっている。

認知機能障害区分(CPS)別にみると、サンプル数は少ないが、障害のレベルが高くなるほど「日中、家を空けるのを不安に感じる」や「先々のことを考える余裕がない」等の割合が高くなっている。

図表7(4)-1 介護負担感(複数回答、要支援・問52)

【認知機能障害区分(CPS)別】

	(%)	TOTAL (n=238)	認知機能障害区分(CPS)別(無回答n=3非表示)			
			0レベル (障害なし) (n=135)	1レベル (境界的) (n=62)	2レベル (軽度の障害) (n=29)	3~6レベル (中・重度の障害) (n=9)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	6.3	3.7	8.1	13.8	11.1
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	8.8	5.2	6.5	27.6	22.2
	来客にも気を遣う	10.5	9.6	6.5	20.7	22.2
	本人の言動が理解できないことがある	6.7	3.0	11.3	13.8	11.1
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	2.1	2.2	1.6	0.0	11.1
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	5.9	5.2	4.8	10.3	11.1
	症状への対応がわからない	6.3	5.9	1.6	13.8	22.2
	徘徊するため目が離せない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	他の家族等に介護を協力してもらえない	3.4	2.2	4.8	6.9	0.0
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	2.5	2.2	3.2	3.4	0.0
	日中、家を空けるのを不安に感じる	13.4	8.1	16.1	27.6	33.3
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	3.4	1.5	4.8	6.9	0.0
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	0.8	1.5	0.0	0.0	0.0
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	1.7	1.5	1.6	0.0	0.0
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	9.2	9.6	8.1	13.8	0.0
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	0.8	0.7	0.0	0.0	11.1
	サービス事業者との関係がうまくいかない	0.8	0.0	1.6	3.4	0.0
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.1	2.2	1.6	3.4	0.0
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	11.3	8.1	9.7	24.1	33.3
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	20.2	22.2	16.1	17.2	33.3
	精神的なストレスがたまっている	19.7	17.8	14.5	34.5	33.3
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	5.9	5.2	3.2	10.3	11.1
	自分の自由になる時間が持てない	10.1	10.4	4.8	17.2	22.2
	先々のことを考える余裕がない	13.0	8.9	14.5	20.7	33.3
	経済的につらいと感じるときがある	8.4	8.9	9.7	6.9	0.0
	仕事と介護の両立が困難	4.2	5.2	3.2	3.4	0.0
	育児と介護の両立が困難	0.8	0.7	1.6	0.0	0.0
	家事と介護の両立が困難	3.4	3.7	4.8	0.0	0.0
その他	3.4	2.2	4.8	6.9	0.0	
特に困っていることはない	23.9	31.9	12.9	13.8	22.2	
無回答	26.1	21.5	32.3	27.6	33.3	

要介護者の在宅での介護で、主に介護をしている人が困ったり、負担に感じていることは、「精神的なストレスがたまっている」が 48.5%と最も多く、次いで「日中、家を空けるのを不安に感じる」(44.3%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(34.4%)、「自分の自由になる時間が持てない」(34.3%)、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」(33.7%)となっている。

認知機能の状態別にみると、「本人に現在の状況を理解してもらのが難しい」、「日中、家を空けるのを不安に感じる」、「自分の用事・都合をすませることができない」、「精神的なストレスが溜まっている」、「自分の自由になる時間が持てない」は、常に介護が必要なほど高くなっている。

図表 7 (4)-2 介護負担感(複数回答、要介護・問 30)

【認知機能の状態(問 15)別】

		TOTAL (n=1202)	認知機能の状態(問15)別(無回答n=65非表示)					前掲(1~5)のいずれもあてはまらない (n=210)
			多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している (n=401)	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たばこ・び道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している (n=185)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要 (n=184)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さにあり、常に介護が必要 (n=138)	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要 (n=19)	
		(%)	(n=401)	(n=185)	(n=184)	(n=138)	(n=19)	(n=210)
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	21.5	9.0	24.3	28.8	51.4	52.6	15.7
	本人に現在の状況を理解してもらのが難しい	33.7	12.0	46.5	54.3	73.9	57.9	21.0
	来客にも気を遣う	18.3	12.0	20.0	23.4	33.3	36.8	15.2
	本人の言動が理解できないことがある	29.3	12.2	37.8	42.9	65.2	73.7	18.6
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.1	4.0	8.6	7.6	10.1	10.5	4.3
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	9.2	4.7	10.8	13.0	21.0	15.8	6.2
	症状への対応がわからない	11.4	4.5	14.1	20.1	18.1	31.6	11.0
	徘徊するため目が離せない	3.4	0.0	1.6	4.9	18.8	0.0	1.4
	他の家族等に介護を協力してもらえない	12.1	6.5	15.1	14.1	25.4	10.5	7.6
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	4.8	2.2	10.3	6.0	7.2	5.3	2.9
	日中、家を空けるのを不安に感じる	44.3	29.7	50.3	60.9	59.4	47.4	44.8
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	7.6	5.7	6.5	10.9	18.1	5.3	3.8
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	3.2	1.7	2.2	7.1	5.1	0.0	3.3
	介護することに対して、周囲の理解が得られない	2.8	1.7	2.7	3.8	5.1	5.3	2.4
サービス	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.7	4.2	9.7	9.8	15.2	15.8	5.7
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	3.2	2.0	2.2	3.8	10.1	15.8	1.4
	サービス事業者との関係がうまくいかない	2.1	2.2	2.2	2.7	2.9	0.0	0.5
	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	1.7	1.2	2.7	1.1	2.2	5.3	1.9
介護者ご自身	自分の用事・都合をすませることができない	27.2	15.5	33.0	37.5	49.3	42.1	21.9
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	34.4	27.2	28.6	39.7	55.1	31.6	39.0
	精神的なストレスがたまっている	48.5	36.7	55.1	66.8	67.4	57.9	41.0
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	17.4	8.2	15.7	19.6	42.8	31.6	19.0
	自分の自由になる時間が持てない	34.3	18.7	37.3	48.9	58.0	42.1	35.2
	先々のことを考える余裕がない	23.9	14.2	28.1	29.9	40.6	31.6	24.8
	経済的につらいと感じるときがある	21.1	15.2	22.7	21.7	34.8	31.6	23.8
	仕事と介護の両立が困難	11.9	8.7	11.9	19.0	22.5	15.8	6.2
	育児と介護の両立が困難	0.7	0.5	0.5	1.1	2.2	0.0	0.0
	家事と介護の両立が困難	8.2	5.2	5.9	9.8	19.6	15.8	8.1
	その他	4.7	3.7	5.9	3.8	5.8	0.0	6.2
	特に困っていることはない	9.4	15.5	5.9	2.2	0.7	5.3	13.3
	無回答	10.1	15.5	5.9	2.2	3.6	5.3	8.6

未利用者の在宅での介護で、主に介護をしている人が困ったり、負担に感じていることは、「日中、家を空けるのを不安に感じる」が 25.8%と最も多く、次いで「精神的なストレスがたまっている」(25.4%)、「身体的につらい(腰痛や肩こりなど)」(17.9%)、「本人の言動が理解できないときがある」(15.0%)、「自分の自由になる時間が持てない」(14.8%)、「本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい」、「自分の用事・都合をすませることができない」(ともに 13.5%) となっている。

図表 7 (4)-3 介護負担感 (複数回答、未利用・問 30)

【認知機能の状態 (問 20) 別】

		認知機能の状態(問20)別(無回答n=28非表示)						
		TOTAL (n=520)	多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している (n=308)	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たびたび道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している (n=72)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要 (n=22)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要 (n=17)	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要 (n=6)	前掲(1~5)のいずれもあてはまらない (n=67)
	(%)							
意思疎通	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	10.4	6.8	15.3	40.9	17.6	0.0	9.0
	本人に現在の状況を理解してもらるのが難しい	13.5	8.1	25.0	45.5	35.3	33.3	9.0
	来客にも気を遣う	9.8	7.5	18.1	22.7	11.8	16.7	7.5
	本人の言動が理解できないことがある	15.0	7.8	29.2	54.5	47.1	16.7	13.4
	本人に受診を勧めても同意してもらえない	6.3	3.6	11.1	18.2	5.9	16.7	6.0
介護の仕方	適切な介護方法がわからない	7.5	6.2	11.1	22.7	11.8	0.0	6.0
	症状への対応がわからない	7.7	4.9	15.3	9.1	23.5	0.0	9.0
	徘徊するため目が離せない	1.2	0.3	0.0	13.6	5.9	0.0	0.0
	他の家族等に介護を協力してもらえない	6.7	3.9	12.5	22.7	17.6	0.0	7.5
	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	5.4	4.5	8.3	13.6	11.8	0.0	3.0
	日中、家を空けるのを不安に感じる	25.8	17.2	44.4	54.5	47.1	16.7	29.9
	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	5.4	2.3	15.3	13.6	5.9	0.0	6.0
	介護の方針などについて、家族・親戚との意見が合わない	2.7	2.9	2.8	0.0	11.8	0.0	0.0
サービス	介護することに對して、周囲の理解が得られない	1.5	1.0	2.8	0.0	5.9	16.7	0.0
	サービスを思うように利用できない、サービスが足りない	7.7	5.8	15.3	18.2	5.9	0.0	7.5
	サービスを利用したら本人の状態が悪化した(ことがある)	2.9	1.0	2.8	4.5	11.8	16.7	3.0
	サービス事業者との関係がうまくいかない	1.7	1.9	1.4	0.0	5.9	0.0	0.0
介護者ご自身	ケアマネジャーとの関係がうまくいかない	2.5	3.2	0.0	4.5	5.9	0.0	0.0
	自分の用事・都合をすませることができない	13.5	7.8	22.2	45.5	29.4	16.7	11.9
	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	17.9	15.3	16.7	40.9	29.4	16.7	17.9
	精神的なストレスがたまっている	25.4	17.2	37.5	77.3	41.2	16.7	26.9
	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	6.7	2.9	9.7	27.3	17.6	16.7	9.0
	自分の自由になる時間が持てない	14.8	9.1	20.8	45.5	47.1	16.7	14.9
	先々のことを考える余裕がない	12.3	7.8	15.3	31.8	35.3	16.7	11.9
	経済的につらいと感じるときがある	12.9	8.8	19.4	45.5	29.4	50.0	7.5
	仕事と介護の両立が困難	6.3	4.2	8.3	27.3	23.5	0.0	3.0
	育児と介護の両立が困難	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事と介護の両立が困難	5.0	3.2	5.6	27.3	5.9	0.0	3.0
その他	3.5	2.9	5.6	9.1	5.9	0.0	3.0	
特に困っていることはない	19.0	23.7	8.3	0.0	5.9	16.7	25.4	
無回答	22.5	25.6	15.3	0.0	23.5	16.7	17.9	

(5) 認知症の方の心配事・悩み

認知症の方がかかえる心配事・悩みは、要支援では「自分の健康のこと」が75.6%と最も多く、次いで「親族の健康のこと」(35.2%)となっている。

図表7 (5)-1 心配事・悩み（複数回答）
（要支援・問17）

【認知機能障害区分別】

	TOTAL (n=528)	認知機能障害区分別（無回答n=15非表示）			
		0レベル （障害なし） (n=326)	1レベル （境界的） (n=119)	2レベル （軽度の障害） (n=51)	3～6レベル （中・重度の 障害） (n=17)
自分の健康のこと	75.6	74.8	79.8	74.5	76.5
親族の健康のこと	35.2	33.4	42.9	31.4	47.1
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	17.6	16.0	26.1	11.8	5.9
ひとり暮らしや孤独になること	20.6	18.7	25.2	15.7	29.4
生活費等経済的なこと	21.4	18.1	29.4	21.6	29.4
安心して住める場所がないこと	2.8	1.2	4.2	7.8	0.0
趣味や生きがいがないこと	10.0	6.4	16.0	13.7	29.4
時間的なゆとりがないこと	3.8	3.1	5.0	3.9	5.9
精神的なゆとりがないこと	11.7	7.1	19.3	13.7	35.3
その他	2.5	2.8	1.7	3.9	0.0
心配ごとや悩みはない	5.1	7.1	2.5	2.0	0.0
無回答	6.4	5.5	5.0	5.9	11.8

認知症の方がかかえる心配事・悩みについて、要介護でも「自分の健康のこと」が72.8%と最も多く、次いで「親族の健康のこと」(29.4%)となっている。

図表7(5)-2 心配事・悩み(複数回答、要介護・問13)

【認知機能の状態(問15)別】

	TOTAL (n=1525)	認知機能の状態(問15)別(無回答n=99非表示)					
		多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している (n=574)	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たびたび道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している (n=226)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要 (n=199)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要 (n=149)	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要 (n=19)	前掲(1~5)のいずれもあてはまらない (n=259)
(%)							
自分の健康のこと	72.8	79.4	76.1	71.4	65.8	78.9	68.0
親族の健康のこと	29.4	32.9	31.9	22.1	31.5	26.3	30.1
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	11.3	14.6	13.3	8.5	6.0	0.0	9.3
ひとり暮らしや孤独になること	16.4	17.9	20.4	15.1	20.1	15.8	10.0
生活費等経済的なこと	24.5	24.4	26.5	21.1	30.9	42.1	21.2
安心して住める場所がないこと	2.6	1.4	3.1	1.0	4.7	0.0	5.0
趣味や生きがいがないこと	16.2	13.1	23.0	23.6	24.8	36.8	6.9
時間的なゆとりがないこと	1.8	1.7	3.5	2.5	1.3	0.0	0.8
精神的なゆとりがないこと	12.1	10.3	12.8	16.6	13.4	31.6	11.2
その他	5.0	2.4	4.0	7.0	9.4	0.0	8.5
心配ごとや悩みはない	8.1	5.6	8.8	13.1	6.0	5.3	11.2
無回答	5.9	3.7	2.2	4.5	6.7	5.3	7.3

未利用でも同様に「自分の健康のこと」が72.2%と最も多く、次いで「親族の健康のこと」(32.9%)となっている。

図表7(5)-3 心配事・悩み(複数回答、未利用・問17)

【認知機能の状態(問20)別】

	TOTAL (n=860)	認知機能の状態(問20)別(無回答n=62非表示)					
		多少の物忘れはあるが、日常生活は家庭内及び社会的に自立している (n=546)	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ(たばこ道に迷う、買い物や金銭管理など今までできたことにミスが目立つなど)が多少あっても、ほぼ自立している (n=87)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さがときどきあり、介護が必要 (n=23)	日常生活に支障を来すような症状・行動(徘徊・失禁・火の不始末・不潔行為等)や意思疎通の困難さが頻繁にあり、常に介護が必要 (n=21)	著しい精神症状(妄想・興奮・自傷など)あるいは重篤な身体疾患があり、専門医療が必要 (n=8)	前掲(1~5)のいずれもあてはまらない (n=113)
(%)	(n=860)	(n=546)	(n=87)	(n=23)	(n=21)	(n=8)	(n=113)
自分の健康のこと	72.2	74.0	75.9	56.5	61.9	62.5	69.9
親族の健康のこと	32.9	34.4	34.5	21.7	14.3	25.0	31.9
病気などの時に面倒を見てくれる人がいないこと	13.0	14.1	8.0	8.7	9.5	12.5	11.5
ひとり暮らしや孤独になること	14.5	15.9	10.3	17.4	4.8	62.5	9.7
生活費等経済的なこと	22.1	21.2	25.3	30.4	23.8	62.5	21.2
安心して住める場所がないこと	3.4	3.5	5.7	8.7	0.0	12.5	0.9
趣味や生きがいがないこと	9.7	7.5	14.9	21.7	9.5	12.5	11.5
時間的なゆとりがないこと	3.0	3.3	4.6	4.3	0.0	0.0	2.7
精神的なゆとりがないこと	10.5	10.4	16.1	17.4	23.8	37.5	3.5
その他	3.7	3.3	3.4	4.3	4.8	37.5	5.3
心配ごとや悩みはない	8.1	6.8	9.2	17.4	19.0	0.0	10.6
無回答	6.2	5.9	4.6	8.7	4.8	12.5	5.3

(6) 権利擁護（成年後見制度）について

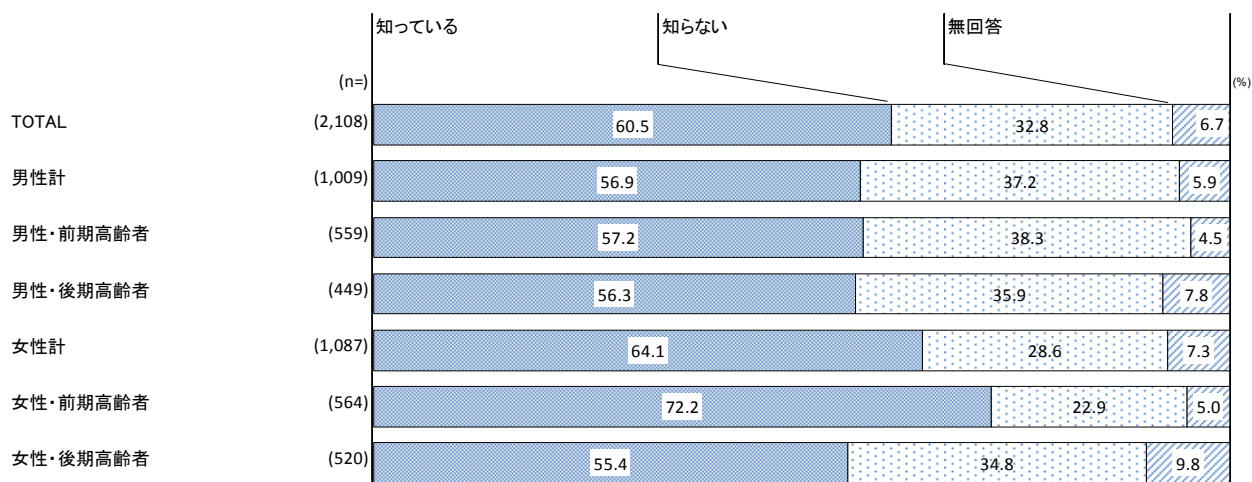
成年後見制度の認知度について、高齢者一般で「知っている」は60.5%、「知らない」は32.8%となっている。

性別・年齢別では、女性は前期高齢者では「知っている」が72.2%を占める。

また、介護状況別では、現在介護をしている人のほうが、制度を認知している割合が66.1%と高くなっている。

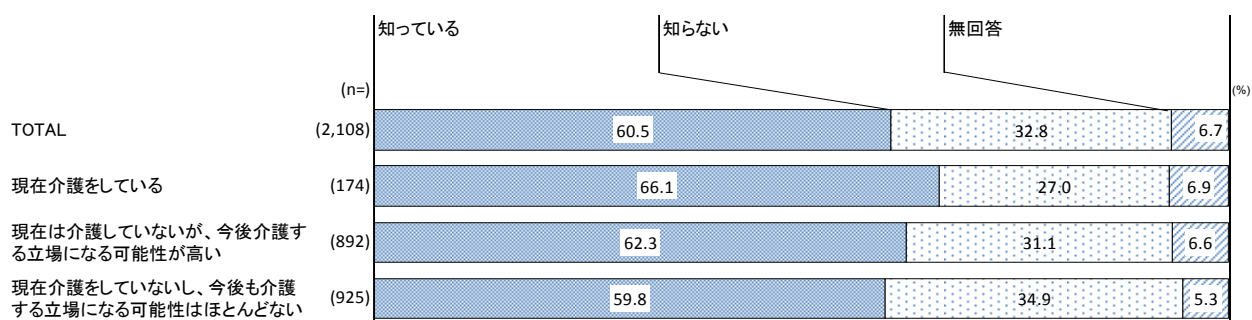
図表 7 (6)-1 成年後見制度の認知度（高齢者一般・問 24）

【性別・年齢別】



(性別無回答 n=12、男性年齢無回答 n=1、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

【介護状況別】



(無回答 n=117 は非表示)

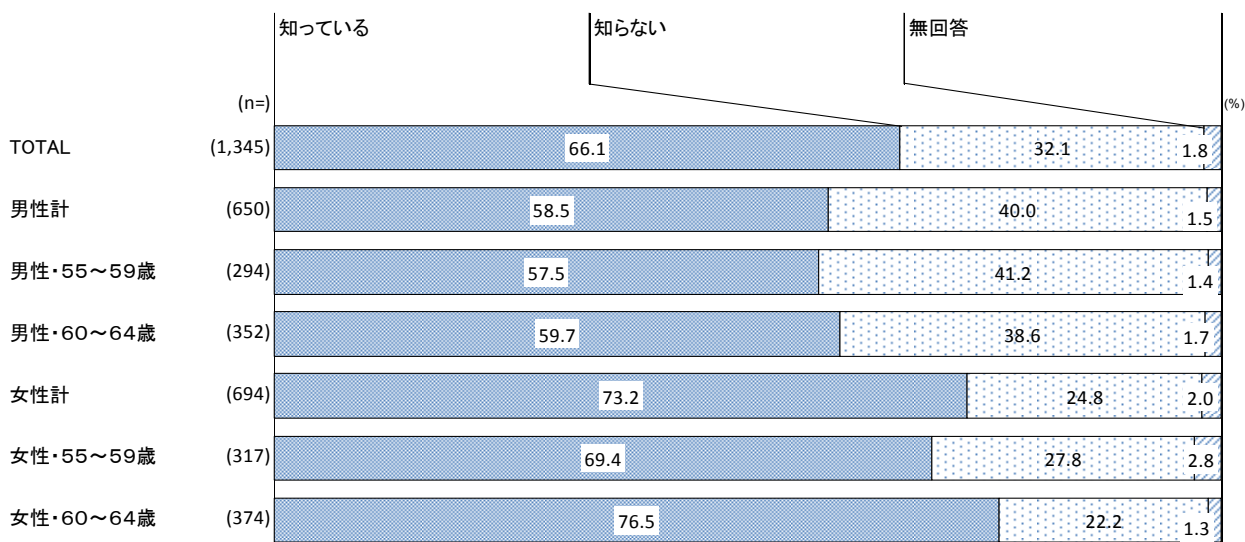
成年後見制度の認知度について、一般 55～64 歳で「知っている」は 66.1%、「知らない」は 32.1% となっている。

男性よりも女性が「知っている」人が多く（男性 58.5%、女性 73.2%）、特に、60～64 歳でその割合は高くなっている。

また、現在介護をしている人のほうが、認知している割合が高く、7割（73.3%）となっている。

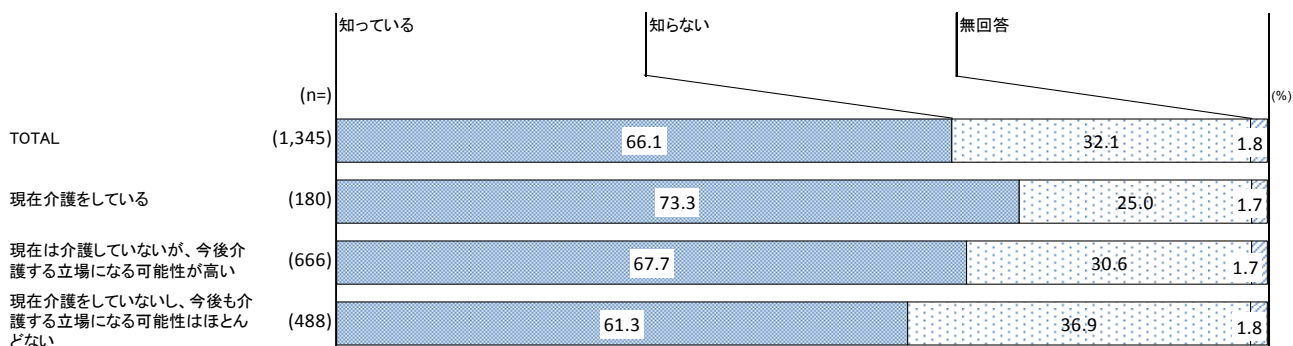
図表 7 (6)-2 成年後見制度の認知度（一般 55～64 歳・問 24）

【性別・年齢別】



(性別無回答 n=1、男性年齢無回答 n=4、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

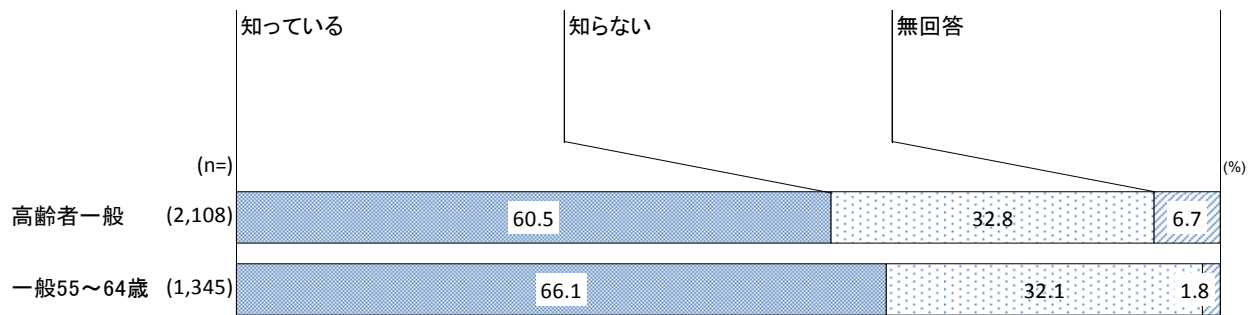
【介護状況別】



(無回答 n=11 は非表示)

高齢者一般と一般 55～64 歳を比較すると、「知っている」は高齢者一般が 60.5%、一般 55～64 歳が 66.1%となっており、一般 55～64 歳で高くなっている。

図表 7 (6) -3 成年後見制度の認知度（高齢者一般・一般 55～64 歳）



成年後見制度の利用意向は、高齢者一般で「利用してみたい」は 16.0%、「利用するつもりはない」は 81.5%となっている。

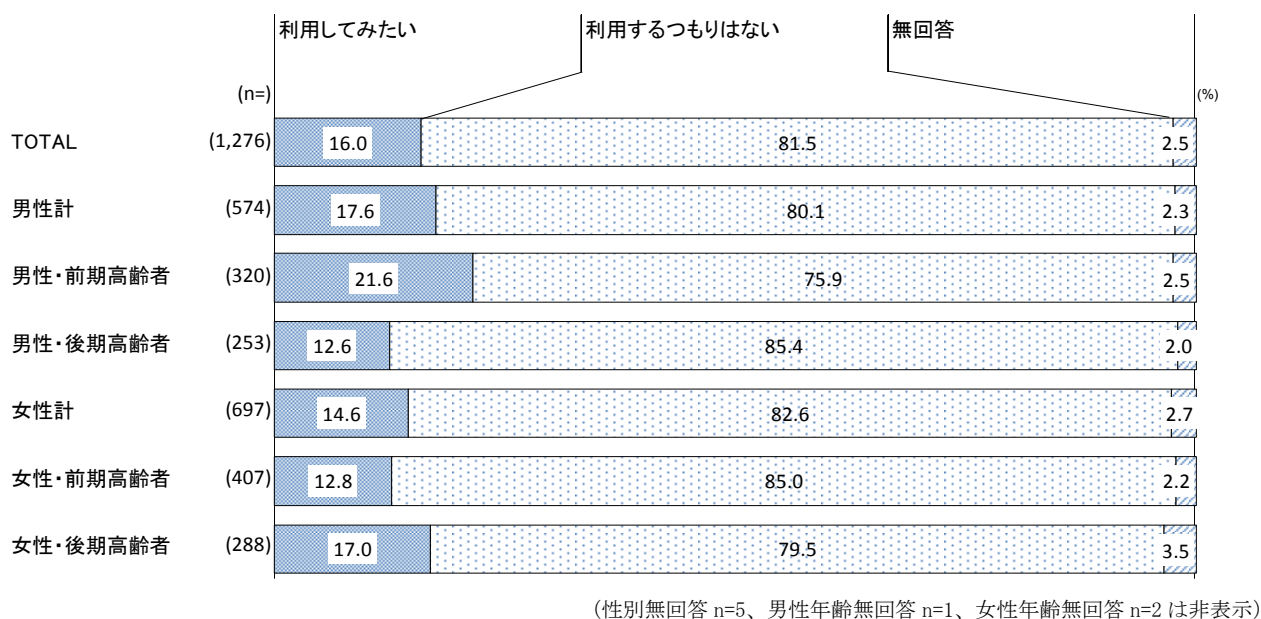
男性・前期高齢者で、「利用してみたい」の割合がやや高くなっている (21.6%)。

一般 55~64 歳で「利用してみたい」は 27.1%、「利用するつもりはない」は 70.9%となっており、高齢者一般より利用意向が高い。

女性より男性で、「利用してみたい」の割合が高くなっている (男性 30.8%、女性 24.4%)。

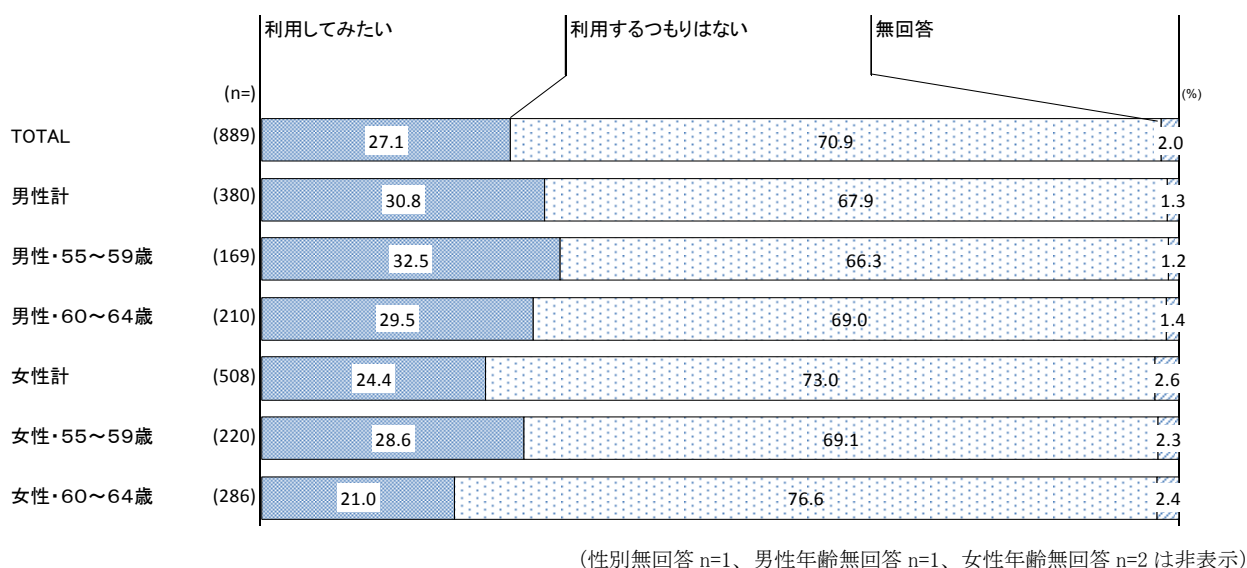
図表 7 (6)-4 成年後見制度の利用意向
(高齢者一般・問 24-1)

【性別・年齢別】



(一般 55~64 歳・問 24-1)

【性別・年齢別】



8. 高齢者の社会参加

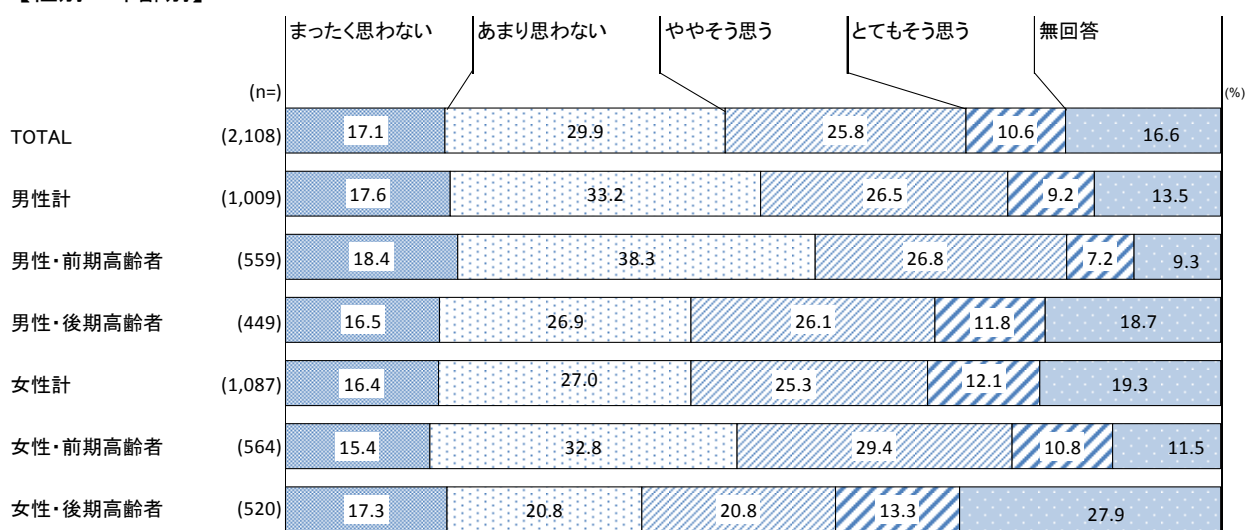
(1) 地域活動への参加

① 近所や町内会における行動

高齢者一般において、「町内会・自治会・老人クラブの活動、奉仕活動などに参加する」ことについては「あまり思わない」が29.9%と最も多く、次いで「ややそう思う」が25.8%となっている。男性・前期高齢者で「あまり思わない」と答えた割合が38.3%と他よりも高くなっている。

図表8 (1)①-1 近所や町内会における行動（高齢者一般・問31-2）
〔町内会・自治会・老人クラブの活動、奉仕活動などに参加する〕

【性別・年齢別】

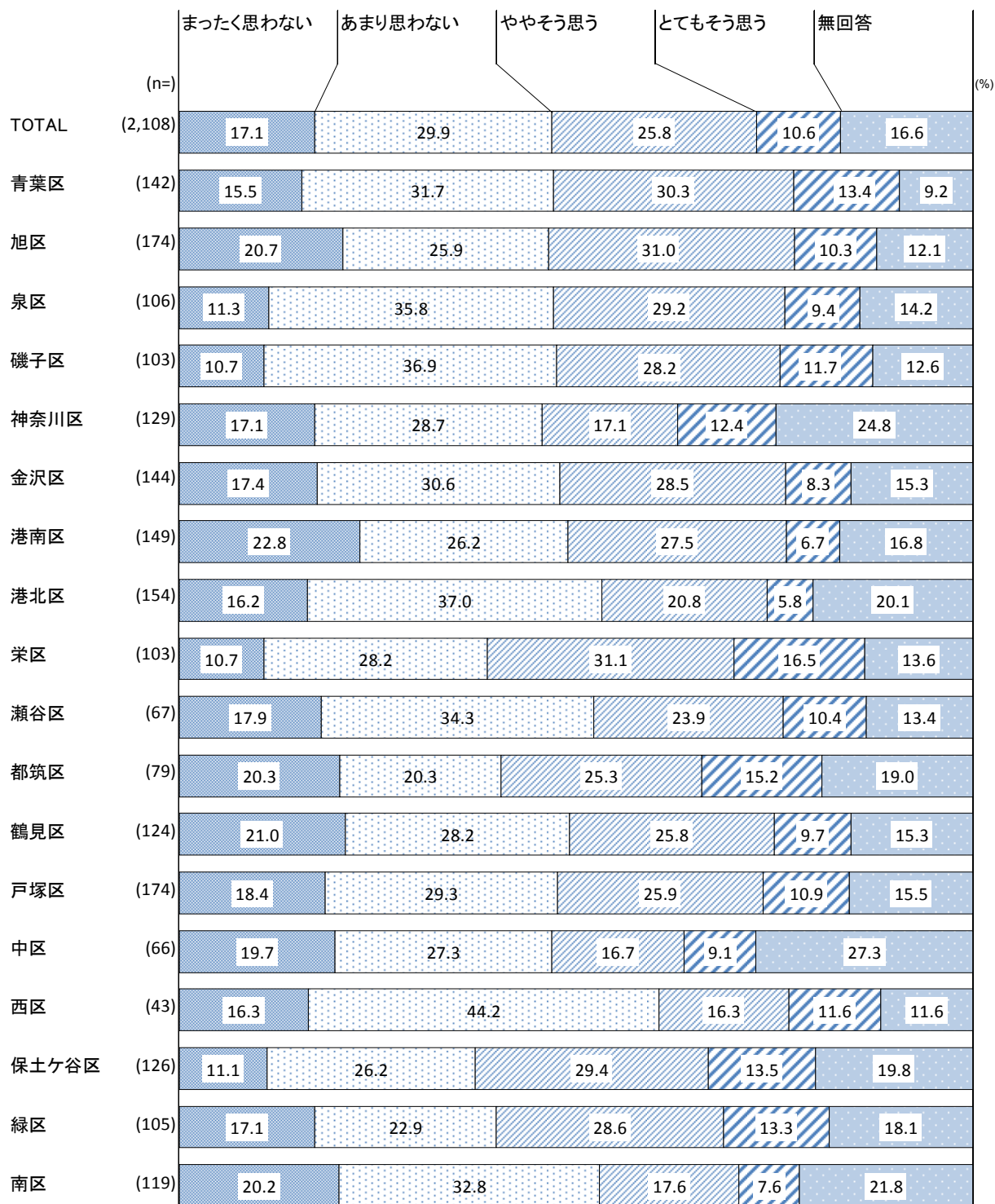


(性別無回答 n=12、男性年齢無回答 n=1、女性年齢無回答 n=3 は非表示)

居住区別にみると、『思わない（「まったく思わない」及び「あまり思わない」の合計）』と答えた割合は西区で60.5%、港北区で53.2%、南区で53.0%と他よりやや高くなっている。

図表8 (1)①-2 近所や町内会における行動（高齢者一般・問31-2）
〔町内会・自治会・老人クラブの活動、奉仕活動などに参加する〕

【居住区別】



(無回答 n=1 は非表示)

② 地域活動への参加状況

高齢者一般の性別・年齢別の参加状況については、「全く参加していない(したいものはない)」及び「無回答」以外の何らかの活動に参加している割合は、男性・前期高齢者で38.8%、男性・後期高齢者で45.0%、女性前期高齢者で48.8%、女性後期高齢者で45.8%と前期、後期とも女性の参加割合が男性を上回っている。男女共に、「体操、歩こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」が最も多く、男性では前期高齢者が17.5%、後期高齢者が21.2%、女性では前期高齢者が27.0%、後期高齢者が26.7%となっている。また、男性・前期高齢者以外は、「サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動」が15%前後である。

図表8(1)②-1 この1年間の個人・団体での地域活動参加状況(複数回答、高齢者一般・問28)
【性別・年齢別】

	TOTAL (n=2108)	性別・年齢別(性別無回答n=12、男性年齢無回答n=1、女性年齢無回答n=3非表示)					
		男性計 (n=1009)	男性・ 前期高齢者 (n=559)	男性・ 後期高齢者 (n=449)	女性計 (n=1087)	女性・ 前期高齢者 (n=564)	女性・ 後期高齢者 (n=520)
(%)							
俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動	10.6	10.0	7.2	13.6	11.3	11.3	11.2
体操、歩こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動	23.1	19.1	17.5	21.2	27.0	27.0	26.7
学習会、子ども会の活動、郷土芸能の伝承等の活動	4.3	4.4	4.1	4.7	4.2	3.7	4.6
環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	10.2	11.5	10.9	12.2	9.1	9.9	8.3
交通安全、防犯・防災等の活動	9.3	10.7	11.3	10.0	8.2	9.8	6.3
家事援助、移送等の高齢者の支援活動	2.6	2.9	2.7	3.1	2.4	2.1	2.7
サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動	12.9	9.3	5.2	14.5	16.3	14.5	18.3
保育の手伝い等の子育て支援活動	1.8	1.0	0.5	1.6	2.6	3.4	1.7
祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	12.6	12.8	13.6	11.8	12.4	15.4	9.0
その他	4.6	4.8	4.3	5.3	4.3	4.3	4.4
全く参加していない(したいものはない)	42.8	46.7	50.8	41.4	39.6	39.9	39.4
無回答	12.7	11.8	10.4	13.6	13.0	11.3	14.8

地区別では、栄区で「体操、步こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」が31.1%、「サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動」が23.3%と、どちらも他の区より高い参加割合となっている。

図表 8 (1)②-2 この1年間の個人・団体での地域活動参加状況（複数回答、高齢者一般・問28）
【居住区別】

活動内容	TOTAL (n=2108)	居住区別(無回答n=1非表示)					
		青葉区 (n=142)	旭区 (n=174)	泉区 (n=106)	磯子区 (n=103)	神奈川区 (n=129)	金沢区 (n=144)
俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動	10.6	12.0	13.2	10.4	13.6	7.0	11.8
体操、步こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動	23.1	22.5	26.4	25.5	23.3	16.3	27.1
学習会、子ども会の活動、郷土芸能の伝承等の活動	4.3	4.2	5.7	6.6	3.9	3.1	2.8
環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	10.2	12.7	13.2	13.2	9.7	6.2	11.1
交通安全、防犯・防災等の活動	9.3	8.5	8.0	14.2	6.8	7.8	9.0
家事援助、移送等の高齢者の支援活動	2.6	2.1	2.9	0.9	1.0	2.3	0.7
サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動	12.9	14.1	11.5	16.0	15.5	14.7	11.1
保育の手伝い等の子育て支援活動	1.8	1.4	1.7	0.9	0.0	1.6	4.2
祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	12.6	12.0	13.2	16.0	14.6	10.9	11.8
その他	4.6	7.0	4.6	5.7	3.9	7.0	4.9
全く参加していない(したいものはない)	42.8	41.5	47.1	36.8	38.8	41.9	37.5
無回答	12.7	12.0	11.5	11.3	18.4	19.4	12.5

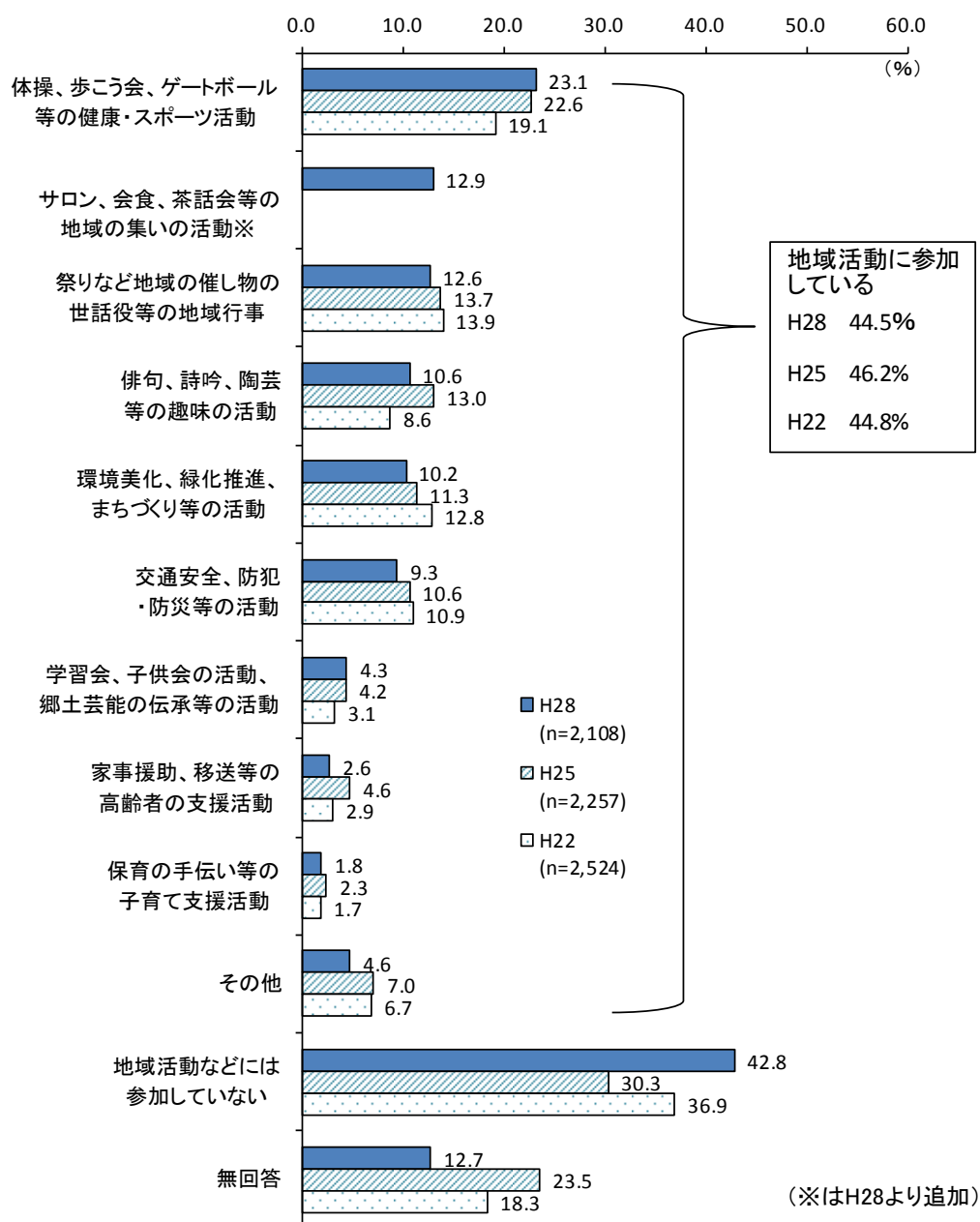
活動内容	TOTAL (n=2108)	居住区別(無回答n=1非表示)					
		港南区 (n=149)	港北区 (n=154)	栄区 (n=103)	瀬谷区 (n=67)	都筑区 (n=79)	鶴見区 (n=124)
俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動	10.6	11.4	12.3	12.6	6.0	10.1	6.5
体操、步こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動	23.1	20.8	18.8	31.1	25.4	21.5	18.5
学習会、子ども会の活動、郷土芸能の伝承等の活動	4.3	5.4	3.9	5.8	0.0	2.5	5.6
環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	10.2	10.7	5.8	18.4	6.0	11.4	8.9
交通安全、防犯・防災等の活動	9.3	8.7	5.2	16.5	11.9	8.9	12.1
家事援助、移送等の高齢者の支援活動	2.6	2.7	1.3	7.8	0.0	2.5	5.6
サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動	12.9	11.4	5.2	23.3	16.4	16.5	14.5
保育の手伝い等の子育て支援活動	1.8	4.0	1.9	0.0	1.5	1.3	2.4
祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	12.6	14.1	5.2	15.5	16.4	12.7	12.9
その他	4.6	3.4	2.6	5.8	3.0	2.5	5.6
全く参加していない(したいものはない)	42.8	41.6	52.6	36.9	38.8	49.4	46.8
無回答	12.7	10.7	14.3	5.8	11.9	7.6	13.7

活動内容	TOTAL (n=2108)	居住区別(無回答n=1非表示)					
		戸塚区 (n=174)	中区 (n=66)	西区 (n=43)	保土ヶ谷区 (n=126)	緑区 (n=105)	南区 (n=119)
俳句、詩吟、陶芸等の趣味の活動	10.6	8.0	9.1	2.3	12.7	13.3	10.9
体操、步こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動	23.1	27.0	19.7	27.9	23.8	28.6	14.3
学習会、子ども会の活動、郷土芸能の伝承等の活動	4.3	5.2	6.1	0.0	6.3	1.9	2.5
環境美化、緑化推進、まちづくり等の活動	10.2	6.9	10.6	7.0	12.7	12.4	5.9
交通安全、防犯・防災等の活動	9.3	6.9	15.2	2.3	8.7	9.5	11.8
家事援助、移送等の高齢者の支援活動	2.6	1.7	4.5	2.3	1.6	3.8	4.2
サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動	12.9	8.0	10.6	16.3	16.7	13.3	8.4
保育の手伝い等の子育て支援活動	1.8	1.1	1.5	0.0	1.6	2.9	1.7
祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事	12.6	10.9	10.6	16.3	18.3	11.4	10.9
その他	4.6	7.5	3.0	0.0	6.3	2.9	0.8
全く参加していない(したいものはない)	42.8	42.5	43.9	48.8	38.9	39.0	47.9
無回答	12.7	12.1	13.6	11.6	12.7	10.5	15.1

高齢者一般の地域活動への参加状況については、高齢者では44.5%が何らかの活動に「参加している」となっており、前々回（平成22年）、前回（平成25年）に比べて「体操、歩こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」の参加割合が23.1%と微増となっている。なお、今回（平成28年）では「サロン、会食、茶話会等の地域の集いの活動」を新規項目でたずねたところ、12.9%と「体操、歩こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」の参加割合に次いで2番目に高い結果となっている。

一方、「地域活動などには参加していない」は42.8%と、前回（平成25年、30.3%）、前々回（平成22年、36.9%）から増加している。

図表8(1)②-3 この1年間の個人・団体での地域活動参加状況（複数回答、時系列）
（高齢者一般・問28）

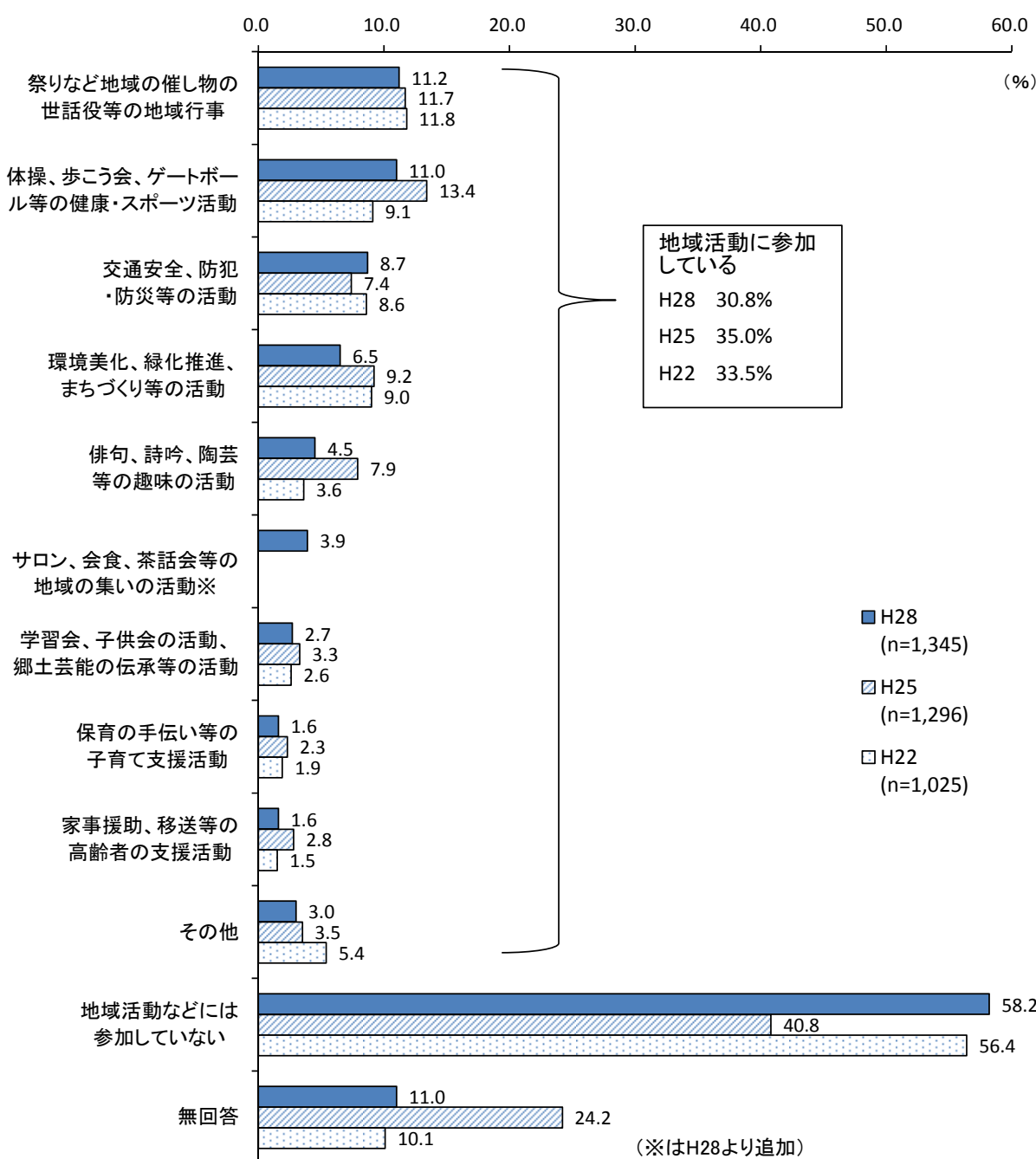


一般 55～64 歳の地域活動への参加状況については、30.8%が何らかの活動に「参加している」となっており、「祭りなど地域の催し物の世話役等の地域行事」（11.2%）、「体操、歩こう会、ゲートボール等の健康・スポーツ活動」（11.0%）がそれぞれ1割となっている。

一方、「地域活動などには参加していない」は58.2%と前回（平成25年、40.8%）、前々回（平成22年、56.4%）から増加している。

また、高齢者一般、一般55～64歳の地域活動への参加割合を比較すると、高齢者一般が44.5%、一般55～64歳が30.8%と高齢者一般の参加割合が14ポイントほど上回っている。

図表8(1)②-4 この1年間の個人・団体での地域活動参加状況（複数回答、時系列）
（一般55～64歳・問28）



③ 地域にあるとよい活動・機会

高齢者一般において、地域にあるとよい活動・機会については、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が36.6%と最も多く、次いで「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」(25.7%)となっている。「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」では、前期高齢者が41.3%と高くなっている。

高齢者一般の世帯年収別では、300万円未満、300万円～500万円未満、500万円以上の各層で、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が特に高く、37.0%、42.3%、38.3%となっており、300万円～500万円未満の前期高齢者では45.8%となっている。

図表8(1)③-1 地域の中にあると良いと思う活動の場・参加の機会（複数回答）
（高齢者一般・問29）

【年齢別】

	TOTAL (n=2108)	年齢別(無回答n=4非表示)	
		前期高齢者 (65～74歳) (n=1127)	後期高齢者 (75歳以上) (n=977)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	11.9	14.1	9.4
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	11.9	13.7	9.8
障害者との交流の場	7.3	8.6	5.7
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	12.7	14.8	10.1
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	15.7	18.4	12.7
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	5.8	7.5	3.9
農作業を中心とした仲間との活動	9.3	11.8	6.3
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	18.0	25.8	9.0
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	25.7	26.5	24.7
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	5.1	6.4	3.6
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	36.6	41.3	31.2
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	19.5	21.0	17.9
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	19.3	22.6	15.6
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	9.7	12.9	6.0
その他	3.9	3.7	4.1
無回答	28.1	19.4	38.1

【年齢別：世帯年収300万円未満】

世帯年収300万円未満	TOTAL (n=756)	年齢別(無回答n=3非表示)	
		前期高齢者 (65～74歳) (n=402)	後期高齢者 (75歳以上) (n=351)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	11.0	13.2	8.5
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	10.8	10.9	10.8
障害者との交流の場	8.3	9.2	7.4
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	13.0	14.2	11.1
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	16.7	18.7	14.2
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	4.6	6.0	3.1
農作業を中心とした仲間との活動	9.7	11.2	7.7
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	20.1	27.6	11.4
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	26.2	25.6	26.8
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	5.7	7.2	4.0
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	37.0	40.3	33.3
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	15.7	17.7	13.7
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	20.0	23.1	16.5
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	9.5	12.4	6.3
その他	4.1	3.7	4.6
無回答	27.1	20.1	35.3

【年齢別：世帯年収300～500万円未満】

世帯年収300～500万円未満 (%)	TOTAL (n=646)	年齢別	
		前期高齢者 (65～74歳) (n=347)	後期高齢者 (75歳以上) (n=299)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	13.0	15.0	10.7
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	11.6	15.0	7.7
障害者との交流の場	6.2	8.4	3.7
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	12.2	15.3	8.7
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	16.7	20.7	12.0
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	7.0	9.8	3.7
農作業を中心とした仲間との活動	9.4	13.0	5.4
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	19.7	27.4	10.7
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	28.3	29.4	27.1
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	5.3	7.2	3.0
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	42.3	45.8	38.1
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	23.7	25.4	21.7
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	22.8	26.2	18.7
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	10.1	14.1	5.4
その他	4.2	4.6	3.7
無回答	23.5	15.6	32.8

【年齢別：世帯年収500万円以上】

世帯年収500万円以上 (%)	TOTAL (n=412)	年齢別	
		前期高齢者 (65～74歳) (n=274)	後期高齢者 (75歳以上) (n=138)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	16.3	17.5	13.8
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	18.0	17.9	18.1
障害者との交流の場	7.5	7.7	7.2
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	15.0	16.4	12.3
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	17.5	19.0	14.5
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	8.7	9.5	7.2
農作業を中心とした仲間との活動	11.7	13.9	7.2
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	18.4	24.8	5.8
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	26.7	26.3	27.5
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	5.1	5.5	4.3
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	38.3	43.1	29.0
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	25.7	25.5	26.1
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	19.7	21.5	15.9
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	11.7	14.2	6.5
その他	2.9	2.6	3.6
無回答	19.4	13.9	30.4

過去1年間の地域活動やボランティア等の活動参加者が考える、地域にあると良いと思う活動の場や参加の機会は、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が47.4%と最も多く、次いで「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」が36.7%となっている。また、「文化（書道、俳句等）、芸術（絵画、美術鑑賞等）を中心とした仲間と集まる場」が29.3%となっている。

活動非参加者では、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が25.6%で最も多く、次いで「パソコンやインターネットなどの学習ができる場」（16.3%）、「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」（15.9%）の順となっている。

図表8 (1)③-2 地域にあると良いと思う活動の場や参加の機会（複数回答）
（高齢者一般・問29）

【活動参加状況別】

活動の場	TOTAL (n=2108)	活動参加状況別（無回答n=267非表示）	
		活動参加者 (n=938)	活動非参加者 (n=903)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	11.9	16.7	8.1
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	11.9	17.8	7.0
障害者との交流の場	7.3	10.9	4.4
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	12.7	19.5	7.3
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	15.7	22.3	11.0
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	5.8	9.1	2.8
農作業を中心とした仲間との活動	9.3	11.3	6.8
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	18.0	20.8	15.9
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	25.7	36.7	15.2
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	5.1	8.3	2.1
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	36.6	47.4	25.6
文化（書道、俳句等）、芸術（絵画、美術鑑賞等）を中心とした仲間と集まる場	19.5	29.3	10.4
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	19.3	23.7	16.3
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	9.7	11.9	8.1
その他	3.9	2.5	6.2
無回答	28.1	15.2	37.4

一般 55～64 歳において、地域にあると良いと思う活動の場や参加の機会については、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が 39.6%と最も多く、60～64 歳で 41.7%となっている。次いで「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」が 39.1%となっており、55～59 歳では 42.4%と最も多い。

世帯年収別では、年収 300 万円未満の層で「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」が 42.1%と最も多い。次いで、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が 32.0%となっている。また、年収 300 万円～500 万円未満及び年収 500 万円以上では、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」が 43.8%、41.5%、「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」が 41.0%、38.2%となっている。

図表 8 (1)③-3 地域の中にあると良いと思う活動の場・参加の機会（複数回答）
（一般 55～64 歳・問 29）

【年齢別】

(%)	TOTAL (n=1345)	年齢別(無回答n=7非表示)	
		55～59歳 (n=611)	60～64歳 (n=727)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	18.5	21.1	16.4
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	18.4	18.2	18.7
障害者との交流の場	11.9	13.4	10.7
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	18.2	19.5	17.1
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	24.5	26.7	22.8
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	12.2	13.6	11.1
農作業を中心とした仲間との活動	13.4	15.4	11.7
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	39.1	42.4	36.3
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	24.2	21.9	26.0
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	9.4	10.1	8.9
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	39.6	37.0	41.7
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	21.6	20.0	22.8
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	23.2	24.9	21.7
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	25.5	30.4	21.5
その他	2.1	2.0	2.2
無回答	13.5	13.3	13.6

【年齢別：世帯年収 300 万円未満】

(%)	TOTAL (n=278)	年齢別(無回答n=3非表示)	
		55～59歳 (n=84)	60～64歳 (n=191)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	11.9	15.5	9.9
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	11.9	8.3	13.6
障害者との交流の場	11.2	13.1	10.5
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	15.1	14.3	14.7
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	25.2	25.0	25.1
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	10.8	13.1	9.9
農作業を中心とした仲間との活動	11.5	14.3	9.9
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	42.1	44.0	41.9
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	23.0	14.3	27.2
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	7.9	6.0	8.9
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	32.0	22.6	36.1
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	19.8	16.7	20.9
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	23.0	25.0	22.5
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	24.5	27.4	23.6
その他	1.4	2.4	1.0
無回答	16.5	16.7	16.8

【年齢別：世帯年収300～500万円未満】

世帯年収300～500万円未満 (%)	TOTAL (n=317)	年齢別(無回答n=1非表示)	
		55～59歳 (n=92)	60～64歳 (n=224)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	20.2	20.7	20.1
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	19.2	18.5	19.6
障害者との交流の場	11.0	16.3	8.9
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	20.2	21.7	19.6
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	24.6	21.7	25.9
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	9.8	8.7	10.3
農作業を中心とした仲間との活動	12.6	16.3	11.2
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	41.0	47.8	37.9
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	22.7	20.7	23.2
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	9.5	9.8	9.4
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	43.8	41.3	44.6
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	18.3	16.3	18.8
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	23.0	25.0	21.9
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	26.2	35.9	22.3
その他	3.2	2.2	3.6
無回答	12.9	16.3	11.6

【年齢別：世帯年収500万円以上】

世帯年収500万円以上 (%)	TOTAL (n=686)	年齢別(無回答n=2非表示)	
		55～59歳 (n=408)	60～64歳 (n=276)
学校で子ども達の活動をサポートする機会	21.9	23.5	19.6
子ども達に勉強や自分の趣味・特技を教える機会	21.9	21.3	22.8
障害者との交流の場	13.0	13.0	13.0
高齢、障害者施設などでのボランティア活動	19.4	20.3	18.1
買い物支援や、庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動	25.1	28.7	19.9
地域に住んでいる外国人の方の支援活動	14.4	15.2	13.4
農作業を中心とした仲間との活動	14.4	15.7	12.7
ちょっとした収入を得ることができる就労活動	38.2	41.7	33.0
仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場	24.9	23.3	27.2
子育て中の母親と交流を持ち、子育てのサポートをするサロン等の場	10.3	11.0	9.4
ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場	41.5	39.7	44.2
文化(書道、俳句等)、芸術(絵画、美術鑑賞等)を中心とした仲間と集まる場	23.9	21.6	27.5
パソコンやインターネットなどの学習ができる場	23.6	25.2	21.0
就労や社会参加など、セカンドライフの充実に向けた高齢者のための相談窓口	26.4	30.4	20.3
その他	1.5	1.5	1.4
無回答	11.5	11.3	11.6

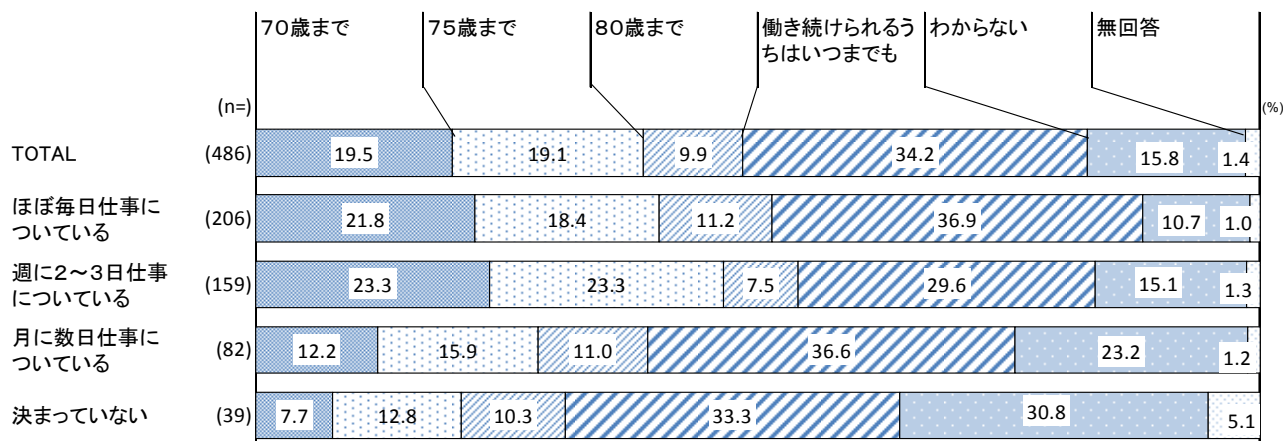
(2) 就労について

① 就労の希望

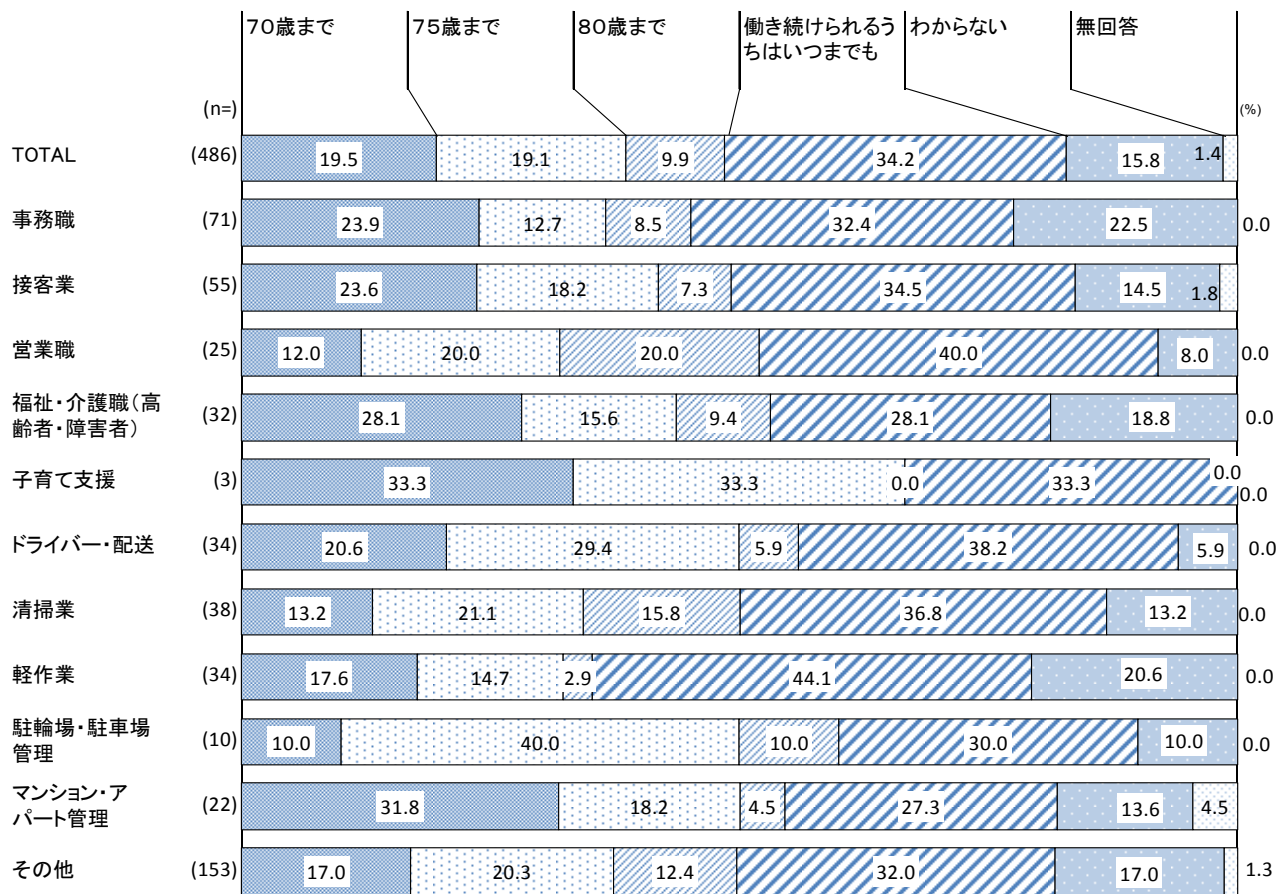
高齢者一般の就労希望(何歳まで働きたいか)については、「働き続けられるうちはいつまでも」が最も多く、34.2%となっている。次いで「70歳まで」(19.5%)、「75歳まで」(19.1%)となっている。

図表8(2)①-1 就労希望(高齢者一般・問12-3)

【就労有無別】



【現在の職種別】

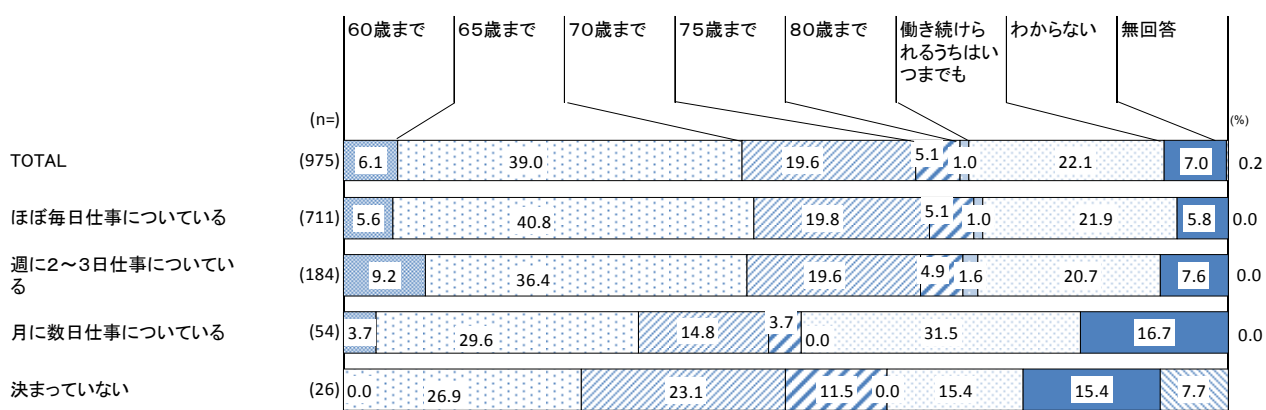


(無回答 n=9 は非表示)

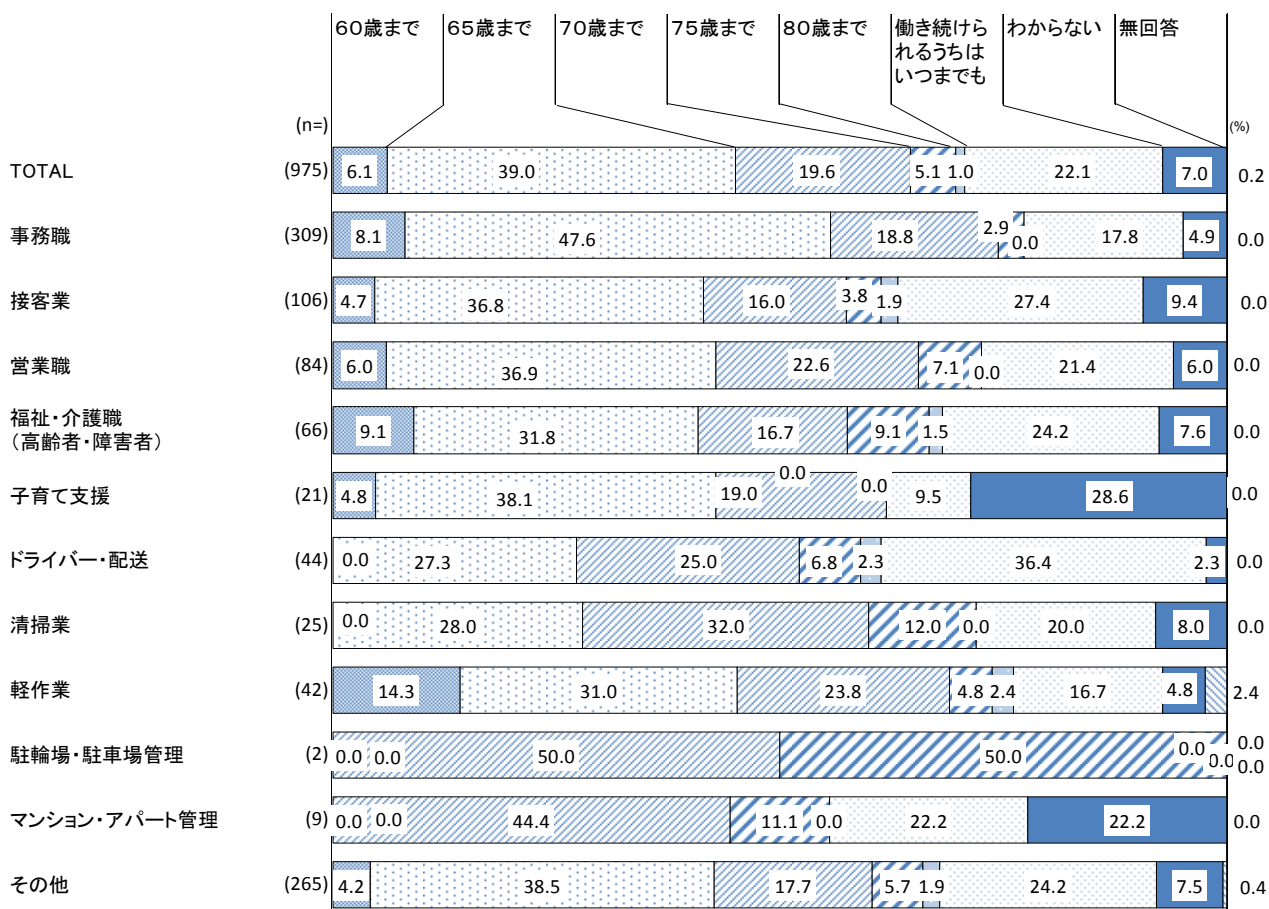
一般 55～64 歳の就労希望（何歳まで働きたいか）については、「65 歳まで」が最も多く、39.0% となっている。次いで「働き続けられるうちはいつまでも」（22.1%）、「70 歳まで」（19.6%）となっている。

図表 8 (2) ①-2 就労希望（一般 55～64 歳・問 12-3）

【就労有無別】



【現在の職種別】



(無回答 n=2 は非表示)

② 働く上で重視すること

高齢者一般が働く上で重視していることは、「体力的に無理なく続けられる仕事であること」(59.9%)が最も多く、次いで「自分のペースで進められる仕事であること」(41.4%)、「自分の能力を発揮できること」(37.9%)となっている。

年齢別では、後期高齢者(75歳以上)で「自分のペースで進められる仕事であること」の割合が高い(45.6%)。

図表8(2)②-1 働く上で重視していること(複数回答、高齢者一般・問12-5)

【年齢別】

(%)	TOTAL (n=486)	年齢別(無回答n=1非表示)	
		前期高齢者 (65~74歳) (n=382)	後期高齢者 (75歳以上) (n=103)
体力的に無理なく続けられる仕事であること	59.9	60.5	57.3
自分のペースで進められる仕事であること	41.4	40.3	45.6
自分の能力を発揮できること	37.9	39.3	33.0
勤務日や勤務時間を選べること	26.1	28.3	18.4
経験したことのある職種であること	30.9	31.2	30.1
気心の知れた仲間がいる職場であること	14.0	15.4	7.8
以前と同じ勤務先であること	10.5	11.0	8.7
経験したことのある業界であること	18.1	19.9	11.7
勤務先の事業目的・経営ビジョン	4.5	3.7	7.8
給料が良いこと	4.9	5.8	1.9
自宅が近いこと	15.2	16.0	11.7
通勤が楽なこと	20.4	22.3	13.6
特にない	4.1	4.2	3.9
その他	2.9	2.1	5.8
無回答	1.9	1.0	4.9

【就労意向年齢別】

(%)	TOTAL (n=486)	就労意向年齢別(無回答n=7非表示)				
		70歳まで (n=95)	75歳まで (n=93)	80歳まで (n=48)	働き続けられるう ちはいつまでも (n=166)	わからない (n=77)
体力的に無理なく続けられる仕事であること	59.9	67.4	61.3	54.2	60.8	54.5
自分のペースで進められる仕事であること	41.4	34.7	40.9	52.1	49.4	29.9
自分の能力を発揮できること	37.9	36.8	40.9	41.7	39.8	29.9
勤務日や勤務時間を選べること	26.1	36.8	21.5	20.8	27.1	19.5
経験したことのある職種であること	30.9	26.3	34.4	35.4	33.1	23.4
気心の知れた仲間がいる職場であること	14.0	12.6	15.1	12.5	11.4	19.5
以前と同じ勤務先であること	10.5	14.7	7.5	10.4	8.4	14.3
経験したことのある業界であること	18.1	20.0	20.4	22.9	13.9	18.2
勤務先の事業目的・経営ビジョン	4.5	5.3	3.2	8.3	4.8	1.3
給料が良いこと	4.9	10.5	3.2	2.1	3.6	5.2
自宅が近いこと	15.2	17.9	15.1	12.5	16.3	13.0
通勤が楽なこと	20.4	26.3	23.7	16.7	18.7	15.6
特にない	4.1	4.2	4.3	6.3	1.8	7.8
その他	2.9	1.1	1.1	0.0	6.6	1.3
無回答	1.9	0.0	0.0	2.1	1.8	2.6

世帯年収別では、300～500万円未満で「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が67.8%と高くなっている。また、世帯年収が高くなるほど「自分のペースで進められる仕事であること」や「自分の能力を發揮できること」が高くなっている。

図表 8 (2) ②-2 働く上で重視していること（複数回答、高齢者一般・問 12-5）

【世帯年収別】

	TOTAL (n=486)	世帯年収別（無回答n=61非表示）		
		300万円未満 (n=137)	300～500万円 未満 (n=118)	500万円以上 (n=170)
体力的に無理なく続けられる仕事であること	59.9	58.4	67.8	57.6
自分のペースで進められる仕事であること	41.4	34.3	43.2	46.5
自分の能力を發揮できること	37.9	28.5	36.4	50.0
勤務日や勤務時間を選べること	26.1	27.7	27.1	24.7
経験したことのある職種であること	30.9	29.9	31.4	29.4
気心の知れた仲間がいる職場であること	14.0	12.4	11.0	18.2
以前と同じ勤務先であること	10.5	8.0	12.7	11.8
経験したことのある業界であること	18.1	19.7	16.1	20.0
勤務先の事業目的・経営ビジョン	4.5	1.5	4.2	8.8
給料が良いこと	4.9	3.6	3.4	8.2
自宅が近いこと	15.2	13.9	16.1	15.9
通勤が楽なこと	20.4	19.0	21.2	21.8
特にない	4.1	5.1	5.1	2.9
その他	2.9	0.0	5.1	1.8
無回答	1.9	2.2	0.8	1.2

一般 55～64 歳が働く上で重視していることは、「体力的に無理なく続けられる仕事であること」(57.6%) や「自分の能力を發揮できること」(52.2%) となっている。

世帯年収別では、300～500 万円未満で「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が 61.2% と高くなっている。また、世帯年収が高くなるほど「自分の能力を發揮できること」が高くなっている。

図表 8 (2)②-3 働く上で重視していること (複数回答、一般 55～64 歳・問 12-5)

【就労意向年齢別】

	TOTAL (n=975)	就労意向年齢別(無回答n=2非表示)						
		60歳まで (n=59)	65歳まで (n=380)	70歳まで (n=191)	75歳まで (n=50)	80歳まで (n=10)	働き続けられる うちはいつ までも (n=215)	わからない (n=68)
体力的に無理なく続けられる仕事であること	57.6	66.1	56.3	62.8	56.0	70.0	55.8	50.0
自分のペースで進められる仕事であること	32.4	18.6	26.6	40.8	52.0	50.0	34.9	27.9
自分の能力を發揮できること	52.2	57.6	52.4	53.9	54.0	70.0	50.7	44.1
勤務日や勤務時間を選べること	24.1	37.3	20.3	28.8	14.0	30.0	26.0	22.1
経験したことのある職種であること	27.8	20.3	30.5	31.4	34.0	10.0	22.8	23.5
気心の知れた仲間がいる職場であること	13.1	6.8	15.0	16.8	8.0	0.0	9.8	14.7
以前と同じ勤務先であること	9.3	5.1	13.9	8.4	2.0	0.0	7.0	4.4
経験したことのある業界であること	17.8	10.2	18.2	20.4	18.0	30.0	16.3	19.1
勤務先の事業目的・経営ビジョン	8.0	6.8	9.2	5.2	6.0	0.0	9.8	7.4
給料が良いこと	20.7	23.7	23.2	20.4	16.0	10.0	18.1	19.1
自宅が近いこと	24.5	28.8	22.9	23.6	24.0	30.0	25.6	29.4
通勤が楽なこと	31.8	42.4	32.1	29.8	34.0	40.0	30.2	29.4
特にない	2.2	1.7	1.8	2.1	2.0	0.0	2.3	4.4
その他	1.2	1.7	0.8	0.5	4.0	0.0	2.3	0.0
無回答	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0

【世帯年収別】

	TOTAL (n=975)	世帯年収別(無回答n=35非表示)		
		300万円未満 (n=149)	300～500万円 未満 (n=237)	500万円以上 未満 (n=554)
体力的に無理なく続けられる仕事であること	57.6	57.0	61.2	55.2
自分のペースで進められる仕事であること	32.4	35.6	32.9	30.9
自分の能力を發揮できること	52.2	33.6	43.0	61.2
勤務日や勤務時間を選べること	24.1	30.9	26.6	21.5
経験したことのある職種であること	27.8	20.8	33.3	27.6
気心の知れた仲間がいる職場であること	13.1	11.4	19.4	10.8
以前と同じ勤務先であること	9.3	6.7	12.7	8.8
経験したことのある業界であること	17.8	18.1	19.4	17.3
勤務先の事業目的・経営ビジョン	8.0	3.4	3.4	11.0
給料が良いこと	20.7	10.7	13.1	26.0
自宅が近いこと	24.5	26.8	28.7	21.3
通勤が楽なこと	31.8	33.6	41.8	26.9
特にない	2.2	2.7	3.0	1.8
その他	1.2	1.3	1.3	1.3
無回答	0.2	0.0	0.0	0.4



横浜市高齢者実態調査

報告書

平成 29 年 3 月

〒231-0017 横浜市中区港町 1 - 1
横浜市健康福祉局高齢健康福祉部高齢健康福祉課
電話 045(671)3412 / Fax 045(681)7789